岩手県文化財調査報告書　第156集

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成29年度）

平成31年３月

岩　手　県　教　育　委　員　会

岩手県内遺跡発掘調査報告書

（平成29年度）

岩　手　県　教　育　委　員　会

序

埋蔵文化財は、先人の残した貴重な歴史的財産であり、国民共有の財産です。文化財保護法の理念にもとづき、埋蔵文化財を保護し後世に伝えていくことは、現代に生きる私たちの責務です。

当委員会では、昭和52年から国庫補助金の交付を受けて遺跡の分布調査等を継続して実施し、現在、岩手県内には約12,700箇所の遺跡が確認されています。

また、これらの遺跡を広く周知するとともに、開発事業と埋蔵文化財保護の調整を図るために行った、遺跡の範囲や内容確認を目的とした試掘調査、小規模な記録保存目的の発掘調査などについて、その成果を報告書として刊行しています。

本県では、国・県関連の開発事業に係る埋蔵文化財の調査に加え、平成23年３月11日に発災した東日本大震災からの復興に係る埋蔵文化財の調査についても鋭意取り組んでまいりました。

本報告書は、平成29年度に実施した県内遺跡調査事業による発掘調査及び試掘調査、工事立会、分布調査の成果をまとめたものです。本書が広く活用され、埋蔵文化財保護の一助になれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導と御協力をいただきました関係機関ならびに関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

平成31年３月

岩手県教育委員会

教育長　高 橋 嘉 行

例　　言

1　本書は岩手県教育委員会が平成29年度に実施した県内遺跡調査事業に係る調査成果の報告である。

2　本事業は岩手県教育委員会が調査主体となり、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下、県埋蔵文化財センターと略記）及び関係市町村教育委員会の協力を得て行った。

3　遺跡位置図の作図は岩手県遺跡情報検索システム（平成29年度版）（国土地理院長の承認を得て、同院発行の25000分の１地形図（承認番号平28情使、第307-GISMAP36978号）を編集）を使用した。

4　発掘調査及び試掘調査、工事立会の調査位置図の作図は各事業者から提供された工事計画図、及び国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）、数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地名情報）及び数値地図（国土基本情報）基盤地図情報（数値標高モデル）を使用した。（承認番号平28情使、第169号）

5　発掘調査及び試掘調査、工事立会、分布調査の遺物実測図・遺物観察表は遺跡ごとに掲載した。

6　遺構名称は必要に応じて略号を付した。主な略号は以下のとおりである。

　竪穴建物跡：SI、カマド：SL、炉跡：FP、土坑：SK、陥し穴状遺構：SKT、溝跡：SD

　柱穴：SP、性格不明遺構：SX

7　遺構・遺物実測図の縮尺は以下のとおりで、それぞれにスケールを付した。実測図の表現は凡例のとおりである。

　遺構：1/40、1/50、1/60

　遺物：土器・須恵器・陶磁器・土製品・礫石器1/3、剥片石器2/3

8　写真図版は、主な遺構・遺物を選択して掲載した。掲載縮尺は遺構については任意、遺物については、実測図と同寸である。

9　平成29年度の調査体制は次のとおりである。

〈埋蔵文化財担当総括〉文化財専門員　佐藤　淳一

〈予算・経理〉主事　須川　翼

〈事 業 担 当〉文化財専門員　鳥居　達人・佐々木　務・半澤　武彦・吉田　充

　　文化財調査員　長屋敷　淳史・久保　賢治・高橋　祐

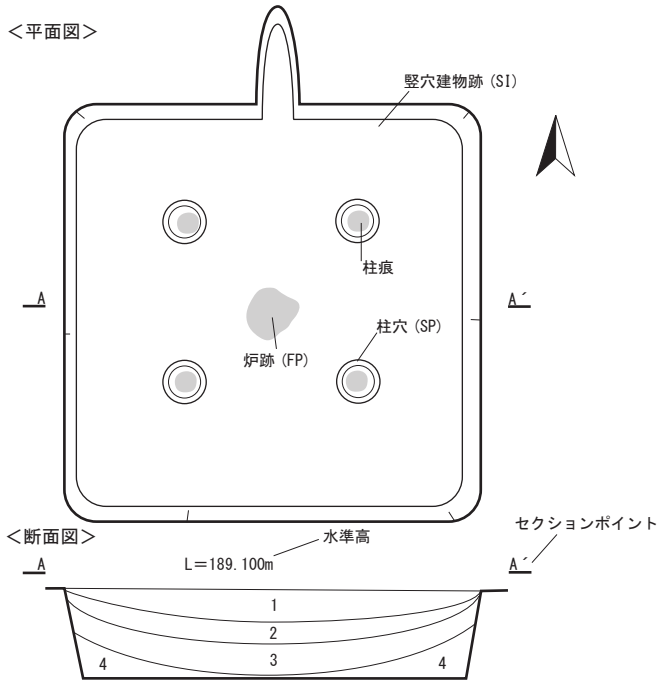
10　野外調査・室内整理及び報告書の作成・編集は生涯学習文化財課が行った。

11　本事業の調査記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課が保管している。

凡例

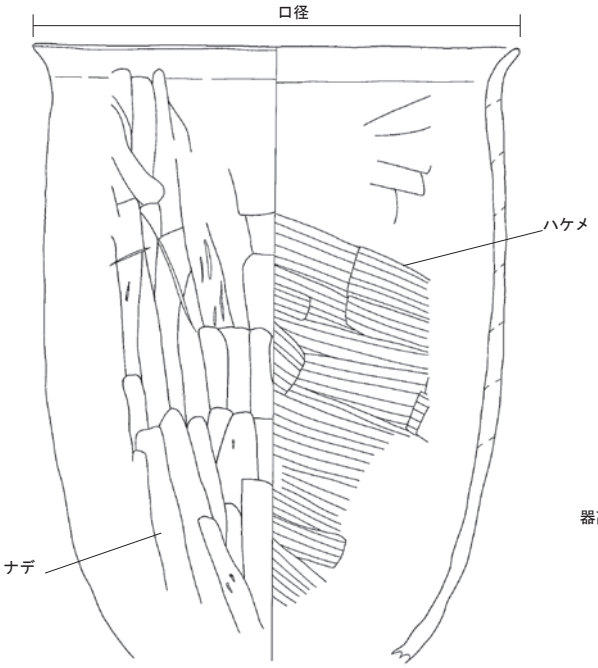
遺構図の表現

＜平面図＞

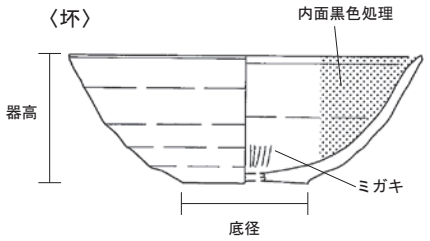


遺物実測図の表現

〈甕〉



〈坏〉



目　　次

序
例言
凡例

Ⅰ　発掘調査

1　経営体育成基盤整備事業（花曽根上遺跡）…… 2
2　経営体育成基盤整備事業（上須々孫遺跡）…… 27

Ⅱ　試掘調査

1　北上川中流部緊急治水対策事業
（北条館跡及び隣接地・北日詰城内Ⅰ遺跡及び隣接地・南日詰大銀Ⅱ遺跡）…… 36
2　北日詰交差点改良事業（南日詰地区）（北日詰東ノ坊Ⅱ・Ⅲ遺跡）…… 38
3　東北横断自動車道釜石秋田線（遠野道路）（平野原Ⅱ遺跡）…… 39
4　三陸沿岸道路（洋野階上道路）（鹿糠浜Ⅰ遺跡隣接地）…… 40
5　三陸沿岸道路（洋野階上道路）（板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14））…… 41
6　三陸沿岸道路（洋野階上道路）（伝吉Ⅰ遺跡）…… 42
7　三陸沿岸道路（野田久慈道路）（芦ケ沢Ⅱ遺跡及び隣接地）…… 43
8　三陸沿岸道路（田野畑道路）（浜岩泉Ⅵ遺跡及び隣接地）…… 44
9　三陸沿岸道路（宮古田老道路）（千徳城遺跡群）…… 45
10　一般国道45号復興（大槌町吉里吉里地区）（新館跡）…… 46
11　三陸沿岸道路（釜石山田道路）（辺地沢Ⅰ遺跡）…… 47
12　三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）釜石市道平林線切替工事（荒川砂子渡遺跡）…… 48
13　防災安全（交通安全）事業大川目地区（外里遺跡及び隣接地）…… 49
14　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）（佐々木館跡）…… 50
15　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）（上平Ⅲ遺跡）…… 51
16　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）（火行塚遺跡）…… 52
17　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）（段ノ越遺跡及び隣接地）…… 53
18　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）（椛ノ木Ⅲ遺跡及び隣接地）…… 54
19　産業廃棄物処理施設整備事業（椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり））…… 55
20　警察施設整備事業（盛岡西警察署滝沢交番新築工事）（葉の木沢Ⅰ遺跡）…… 57
21　中山間地域総合整備事業（はたふく遺跡・大谷地遺跡及び隣接地）…… 58
22　農地整備事業（経営体育成型）（八幡館遺跡及び隣接地）…… 60
23　北上翔南高等学校草地復旧工事（高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地）…… 62
24　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）（花曽根上遺跡）…… 63
25　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）（新田遺跡）…… 64
26　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）
（梅ノ木台地Ⅱ遺跡及び隣接地・兵庫館跡及び隣接地）…… 65

27　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区)(望野Ⅱ遺跡及び隣接地）…… 66
28　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区)(法量野Ⅰ・Ⅱ遺跡及び隣接地）…… 67
29　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区)(煤孫遺跡・下須々孫館跡）…… 68
30　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区)(旭ケ丘遺跡及び隣接地）…… 69
31　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区)(上反町遺跡及び隣接地）…… 70
32　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区)(上須々孫遺跡）…… 71
33　経営体育成基盤整備事業（万丁目地区)(万丁目遺跡及び隣接地）…… 72
34　経営体育成基盤整備事業（万丁目地区)(種市遺跡・南万丁目Ⅱ遺跡及び隣接地）…… 73
35　農地耕作条件改善事業（愛宕地区)(赤剥東遺跡・土橋遺跡及び隣接地）…… 75
36　農地耕作条件改善事業（愛宕地区)(赤剥遺跡）…… 77
37　経営体育成基盤整備事業（若柳中部地区)(山田城跡及び隣接地・明神下遺跡隣接地）… 78
38　経営体育成基盤整備事業（愛宕地区)(宮沢原Ⅱ遺跡・萱刈窪Ⅱ遺跡）…… 79
39　経営体育成基盤整備事業（森下遺跡・見分森遺跡及び隣接地・片子沢遺跡）…… 80
40　経営体育成基盤整備事業（糀谷田遺跡）…… 82
41　経営体育成基盤整備事業（北赤堰遺跡及び隣接地）…… 83
42　県単急傾斜地崩壊対策事業（千厩城跡）…… 84
43　経営体育成基盤整備事業（長平遺跡・古館遺跡及び隣接地）…… 85
44　経営体育成基盤整備事業（中島遺跡及び隣接地）…… 86
45　中山間地域総合整備事業（栃倉館跡）…… 87
46　中山間地域総合整備事業（霞沢地区)(和田沢遺跡及び隣接地）…… 88
47　県単独凍雪害対策事業（可能性あり１）…… 89
48　河川等災害関連事業、河川災害復旧等関連緊急事業（松林Ⅰ遺跡）…… 90
49　東北自動車道（仮称）平泉スマートインターチェンジ事業（祇園Ⅰ遺跡・祇園Ⅱ遺跡・
片岡Ⅱ遺跡）…… 91
50　農地耕作条件改善事業　湯沢（２）地区（間渡Ⅰ遺跡及び隣接地・小田Ⅰ遺跡・
小田Ⅱ遺跡及び隣接地・新井田Ⅱ遺跡・新田遺跡及び隣接地）…… 93

Ⅲ　工事立会

1　一般国道４号水沢東バイパス（町屋敷遺跡）…… 96
2　三陸沿岸道路（洋野階上道路)(板橋遺跡(旧可能性あり)）…… 97
3　農地耕作条件改善事業愛宕地区第２号工事（赤剥遺跡）…… 98

Ⅳ　調査一覧

1　発掘調査 …… 101
2　試掘調査 …… 101
3　工事立会 …… 110
4　分布調査 …… 117
報告書抄録

挿図目次

第１図　発掘調査位置図……1
第２図　花曽根上遺跡位置図……2
第３図　花曽根上遺跡調査位置図……3
第４図　花曽根上遺跡遺構配置図　……8
第５図　花曽根上遺跡検出遺構図（１）……9
第６図　花曽根上遺跡検出遺構図（２）……10
第７図　花曽根上遺跡検出遺構図（３）……11
第８図　花曽根上遺跡検出遺構図（４）……12
第９図　花曽根上遺跡検出遺構図（５）……13
第10図　花曽根上遺跡検出遺構図（６）……14
第11図　花曽根上遺跡検出遺構図（７）……15
第12図　花曽根上遺跡出土遺物図（１）……16
第13図　花曽根上遺跡出土遺物図（２）……17
第14図　上須々孫遺跡位置図……27
第15図　上須々孫遺跡遺構配置図……29
第16図　上須々孫遺跡検出遺構図……29
第17図　上須々孫遺跡出土遺物図（１）……30
第18図　上須々孫遺跡出土遺物図（２）……31
第19図　試掘調査位置図……35
第20図　北条館跡ほか位置図……36
第21図　北条館跡及び隣接地調査位置図……37
第22図　北日詰城内Ⅰ遺跡及び隣接地調査位置図…37
第23図　南日詰大銀Ⅱ遺跡調査位置図……37
第24図　北条館跡及び隣接地出土遺物図……37
第25図　北日詰東ノ坊Ⅱ・Ⅲ遺跡位置図……38
第26図　北日詰東ノ坊Ⅱ・Ⅲ遺跡調査位置図……38
第27図　平野原Ⅱ遺跡位置図……39
第28図　平野原Ⅱ遺跡調査位置図……39
第29図　鹿糠浜Ⅰ遺跡位置図……40
第30図　鹿糠浜Ⅰ遺跡隣接地調査位置図……40
第31図　板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14）位置図……41
第32図　板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14）調査位置図…41
第33図　板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14）出土遺物図…41
第34図　伝吉Ⅰ遺跡位置図……42
第35図　伝吉Ⅰ遺跡調査位置図……42
第36図　芦ケ沢Ⅱ遺跡位置図……43
第37図　芦ケ沢Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図……43
第38図　浜岩泉Ⅵ遺跡位置図……44
第39図　浜岩泉Ⅵ遺跡及び隣接地調査位置図……44
第40図　千徳城遺跡群位置図……45
第41図　千徳城遺跡群調査位置図……45
第42図　新館跡位置図……46
第43図　新館跡調査位置図……46
第44図　新館跡出土遺物図……46
第45図　辺地沢Ⅰ遺跡位置図……47
第46図　辺地沢Ⅰ遺跡調査位置図……47
第47図　荒川砂子渡遺跡位置図……48
第48図　荒川砂子渡遺跡調査位置図……48
第49図　外里遺跡位置図……49
第50図　外里遺跡及び隣接地調査位置図……49
第51図　佐々木館跡位置図……50
第52図　佐々木館跡調査位置図……50
第53図　上平Ⅲ遺跡位置図……51
第54図　上平Ⅲ遺跡調査位置図……51
第55図　火行塚遺跡位置図……52
第56図　火行塚遺跡調査位置図……52
第57図　段ノ越遺跡位置図……53
第58図　段ノ越遺跡及び隣接地調査位置図……53
第59図　椛ノ木Ⅲ遺跡位置図……54
第60図　椛ノ木Ⅲ遺跡及び隣接地調査位置図……54
第61図　椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり）位置図……55
第62図　椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり）調査位置図……55
第63図　椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり）出土遺物図……56
第64図　葉の木沢Ⅰ遺跡位置図……57
第65図　葉の木沢Ⅰ遺跡調査位置図……57
第66図　葉の木沢Ⅰ遺跡出土遺物図……57
第67図　はたふく遺跡・大谷地遺跡位置図……58
第68図　はたふく遺跡及び隣接地調査位置図……59
第69図　大谷地遺跡及び隣接地調査位置図……59
第70図　八幡館遺跡位置図……60
第71図　八幡館遺跡及び隣接地調査位置図……60
第72図　八幡館遺跡及び隣接地出土遺物図……61
第73図　高前壇Ⅱ遺跡位置図……62
第74図　高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図……62
第75図　高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地出土遺物図……62
第76図　花曽根上遺跡位置図……63
第77図　花曽根上遺跡調査位置図……63
第78図　新田遺跡位置図……64
第79図　新田遺跡調査位置図……64
第80図　梅ノ木台地Ⅱ遺跡ほか位置図……65

第81図　梅ノ木台地Ⅱ遺跡・兵庫館跡及び隣接地調査位置図……65
第82図　望野Ⅱ遺跡位置図……66
第83図　望野Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図……66
第84図　法量野Ⅰ・Ⅱ遺跡位置図……67
第85図　法量野Ⅰ・Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図…67
第86図　煤孫遺跡・下須々孫館跡位置図……68
第87図　煤孫遺跡・下須々孫館跡調査位置図……68
第88図　旭ケ丘遺跡位置図……69
第89図　旭ケ丘遺跡及び隣接地調査位置図……69
第90図　上反町遺跡位置図……70
第91図　上反町遺跡及び隣接地調査位置図……70
第92図　上須々孫遺跡位置図……71
第93図　上須々孫遺跡調査位置図……71
第94図　万丁目遺跡位置図……72
第95図　万丁目遺跡及び隣接地調査位置図……72
第96図　種市遺跡・南万丁目Ⅱ遺跡位置図……73
第97図　種市遺跡及び隣接地調査位置図……74
第98図　南万丁目Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図……74
第99図　赤剥東遺跡・土橋遺跡位置図……75
第100図　赤剥東遺跡及び隣接地調査位置図 ……75
第101図　土橋遺跡及び隣接地調査位置図 ……76
第102図　赤剥遺跡位置図 ……77
第103図　赤剥遺跡調査位置図 ……77
第104図　山田城跡・明神下遺跡位置図 ……78
第105図　山田城跡及び隣接地・明神下遺跡隣接地調査位置図 ……78
第106図　宮沢原Ⅱ遺跡・萱刈窪Ⅱ遺跡位置図 ……79
第107図　宮沢原Ⅱ遺跡・萱刈窪Ⅱ遺跡調査位置図 79
第108図　森下遺跡ほか位置図 ……80
第109図　森下遺跡及び隣接地調査位置図 ……81
第110図　見分森遺跡及び隣接地調査位置図 ……81
第111図　片子沢遺跡調査位置図 ……81
第112図　糀谷田遺跡位置図 ……82
第113図　糀谷田遺跡調査位置図……82
第114図　糀谷田遺跡出土遺物図……82
第115図　北赤堰遺跡位置図……83
第116図　北赤堰遺跡及び隣接地調査位置図……83
第117図　千厩城跡位置図……84
第118図　千厩城跡調査位置図……84
第119図　長平遺跡・古館遺跡位置図……85
第120図　長平遺跡及び隣接地調査位置図……85
第121図　古館遺跡及び隣接地調査位置図……85
第122図　中島遺跡位置図 ……86
第123図　中島遺跡及び隣接地調査位置図 ……86
第124図　栃倉館跡位置図 ……87
第125図　栃倉館跡調査位置図 ……87
第126図　和田沢遺跡位置図 ……88
第127図　和田沢遺跡及び隣接地調査位置図 ……88
第128図　可能性あり１位置図 ……89
第129図　可能性あり１調査位置図 ……89
第130図　松林Ⅰ遺跡位置図 ……90
第131図　松林Ⅰ遺跡調査位置図 ……90
第132図　祇園Ⅰ遺跡ほか位置図 ……91
第133図　祇園Ⅰ遺跡・祇園Ⅱ遺跡・片岡Ⅱ遺跡調査位置図 ……92
第134図　祇園Ⅰ遺跡出土遺物図 ……92
第135図　間渡Ⅰ遺跡ほか位置図 ……93
第136図　間渡Ⅰ遺跡及び隣接地調査位置図 ……93
第137図　小田Ⅰ遺跡・小田Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図 ……94
第138図　新井田Ⅱ遺跡・新田遺跡及び隣接地調査位置図 ……94
第139図　工事立会位置図 ……95
第140図　町屋敷遺跡位置図 ……96
第141図　町屋敷遺跡調査位置図 ……96
第142図　町屋敷遺跡出土遺物図 ……96
第143図　板橋遺跡（旧可能性あり）位置図 ……97
第144図　板橋遺跡（旧可能性あり）調査位置図 ……97
第145図　赤剥遺跡位置図 ……98
第146図　赤剥遺跡出土遺物図 ……98
第147図　赤剥遺跡調査位置図 ……99
第148図　試掘調査位置図一覧（１）…… 105
第149図　試掘調査位置図一覧（２）…… 106
第150図　試掘調査位置図一覧（３）…… 107
第151図　試掘調査位置図一覧（４）…… 108
第152図　試掘調査位置図一覧（５）…… 109
第153図　工事立会位置図一覧（１）…… 112
第154図　工事立会位置図一覧（２）…… 113
第155図　工事立会位置図一覧（３）…… 114
第156図　工事立会位置図一覧（４）…… 115
第157図　工事立会位置図一覧（５）…… 116
第158図　分布調査採集遺物図 …… 122

挿 表 目 次

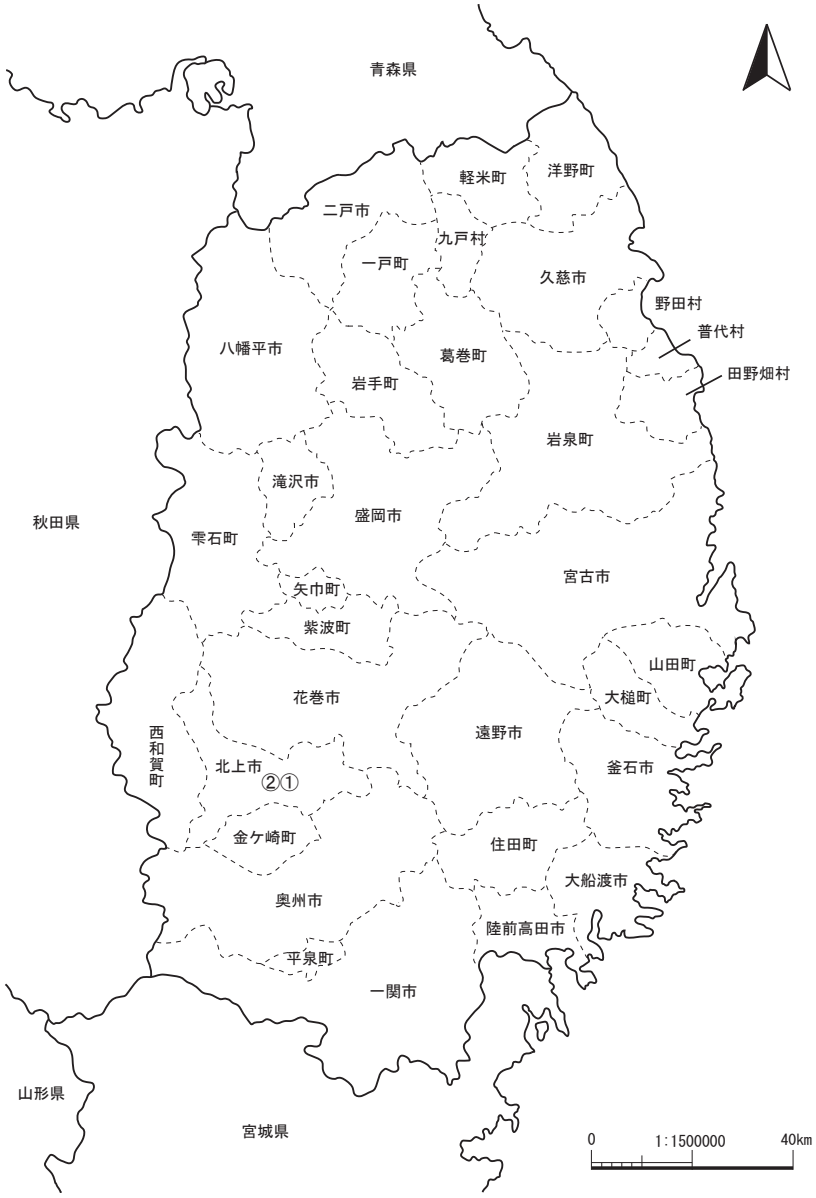
第１表　花曽根上遺跡遺構属性表（１）……３
第２表　花曽根上遺跡遺構属性表（２）……４
第３表　花曽根上遺跡出土遺物観察表（１）……18
第４表　花曽根上遺跡出土遺物観察表（２）……19
第５表　上須々孫遺跡出土遺物観察表……31
第６表　北条館跡及び隣接地出土遺物観察表……37
第７表　板橋Ⅱ遺跡(旧可能性あり14)出土遺物観察表……41
第８表　新館跡出土遺物観察表……46
第９表　椛沢Ⅱ遺跡(旧可能性あり)出土遺物観察表……56
第10表　葉の木沢Ⅰ遺跡出土遺物観察表……57
第11表　八幡館遺跡及び隣接地出土遺物観察表……61
第12表　高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地出土遺物観察表…62
第13表　糀谷田遺跡出土遺物観察表……82
第14表　祇園Ⅰ遺跡出土遺物観察表……92
第15表　町屋敷遺跡出土遺物観察表……96
第16表　赤剥遺跡出土遺物観察表……98
第17表　発掘調査一覧表…… 101
第18表　試掘調査一覧表（１）…… 101
第19表　試掘調査一覧表（２）…… 102
第20表　試掘調査一覧表（３）…… 103
第21表　試掘調査一覧表（４）…… 104
第22表　工事立会一覧表（１）…… 110
第23表　工事立会一覧表（２）…… 111
第24表　分布調査一覧表（１）…… 117
第25表　分布調査一覧表（２）…… 118
第26表　分布調査一覧表（３）…… 119
第27表　分布調査一覧表（４）…… 120
第28表　分布調査一覧表（５）…… 121
第29表　分布調査一覧表（６）…… 122
第30表　分布調査採集遺物観察表…… 122

写真図版目次

写真図版１　花曽根上遺跡検出遺構（１）……20
写真図版２　花曽根上遺跡検出遺構（２）……21
写真図版３　花曽根上遺跡検出遺構（３）……22
写真図版４　花曽根上遺跡検出遺構（４）……23
写真図版５　花曽根上遺跡検出遺構（５）……24
写真図版６　花曽根上遺跡出土遺物（１）……25
写真図版７　花曽根上遺跡出土遺物（２）……26
写真図版８　上須々孫遺跡検出遺構……32
写真図版９　上須々孫遺跡出土遺物（１）……33
写真図版10　上須々孫遺跡出土遺物（２）……34
写真図版11　北条館跡及び隣接地出土遺物……37
写真図版12　板橋Ⅱ遺跡(旧可能性あり14)出土遺物41
写真図版13　新館跡出土遺物……46
写真図版14　椛沢Ⅱ遺跡(旧可能性あり)出土遺物…56
写真図版15　葉の木沢Ⅰ遺跡出土遺物……57
写真図版16　八幡館遺跡及び隣接地出土遺物……61
写真図版17　高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地出土遺物……62
写真図版18　糀谷田遺跡出土遺物……82
写真図版19　祇園Ⅰ遺跡出土遺物……92
写真図版20　町屋敷遺跡出土遺物……96
写真図版21　赤剥遺跡出土遺物……99
写真図版22　分布調査採集遺物…… 122

Ⅰ　発掘調査

① 花曽根上遺跡（北上市）
② 上須々孫遺跡（北上市）

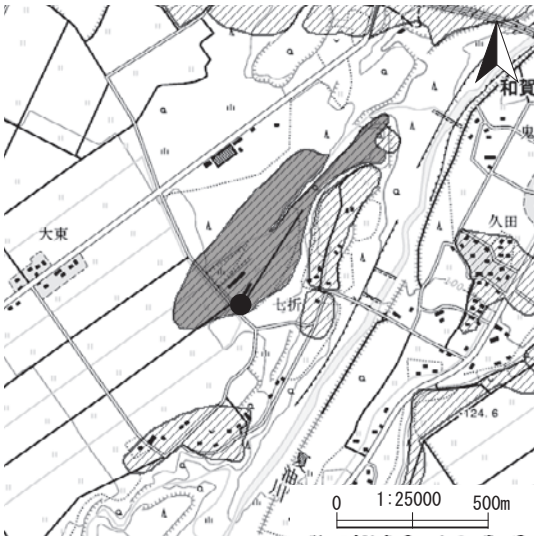


第１図　発掘調査位置図

1　経営体育成基盤整備事業

花曽根上遺跡（ME74-0114）

所 在 地：北上市和賀町岩崎新田地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年11月27日（月）
　　～12月15日（金）



第２図　花曽根上遺跡位置図

花曽根上遺跡（ME74-0114）は、北上市役所から西北西に約７kmの北上市和賀町岩崎新田地区に所在する。

遺跡は奥羽山脈から流れる夏油川と和賀川との合流地点付近の扇状地に立地し、標高は124～132mを測る。北東－南西方向に約1km、北西－南東方向約0.3mの大きさの平安時代の散布地である。周辺には岩崎城跡をはじめ、秋田自動車道建設工事によって調査された遺跡が隣立する。現況は大部分が水田で一部鶏舎が所在する。

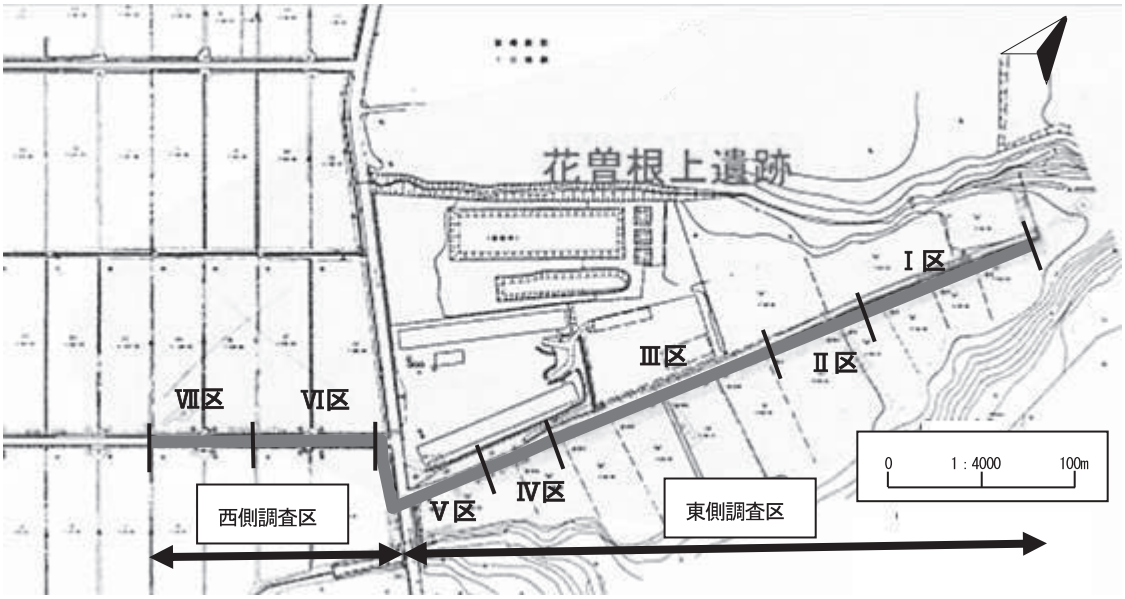
今回の発掘調査は、北上市和賀町岩崎新田地区の経営体育成基盤事業に伴うもので、平成29年９月に当課で実施した試掘調査の結果を踏まえた埋蔵文化財の記録保存を目的とした発掘調査である。調査区内のパイプライン全長は約250m、対象面積は700㎡である。

今回の調査区における基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層：表土・盛土　　層厚50～100cm　調査区東西端の農道路盤が厚い。
Ⅱ層：黒色土　　層厚10～20cm　旧表土　２層に細分可能　下位に炭化物あり。
Ⅲ層：黒褐色土　　層厚10～10cm　古代か。
Ⅳ層：褐色土　　層厚10～20cm　古代遺物包含層　竪穴建物跡の埋土。
Ⅴ層：暗褐色土　　層厚10～10cm　縄文時代の遺物包含層　調査区西側に限定される。
Ⅵ層：黄褐色土　　層厚不明0～㎝　粘土質　検出面。

調査区が細長いためⅠ区～Ⅶ区に区切り、約２m幅で実施した。検出面までの深さは、最大で120cmと深く、また全体的に撹乱が多く検出が困難であったことや、冬季の調査であったため断続的な降雪など天候が不順であったことから調査は難航した。遺構の検出はおおむねⅥ層黄褐色土上面で行った。検出した遺構は、時代不詳の竪穴建物跡（SI）１棟と縄文時代と想定される陥し穴状遺構（SKT）２基、古代の竪穴建物跡（SI）５棟、カマド跡（SL）１基、土坑（SK）２基、古代と想定される柱穴状土坑（SP）33基、古代以降の溝跡（SD）８条、時期・詳細不明の遺構（SX）１基である。

出土遺物は、少量の縄文土器片や石器、古代の土師器･須恵器の甕や坏、鉄滓である。総量は中コンテナ２箱分である。



第３図　花曽根上遺跡調査位置図

第１表　花曽根上遺跡遺構属性表（１）

竪穴建物跡

遺跡名	区	平面形	規模(m)※検出分	深さ(m)	備　　考
SI 1	Ⅲ	隅丸方形 または楕円形	1.7以上×３以上	0.08	周囲から縄文土器（繊維）、壁柱穴、主柱穴
SI 2	Ⅲ	方形	1.3以上×2.5以上	0.40	平安、撹乱によって壁が破壊されている
SI 3	Ⅲ	方形	1.9以上×5.5以上	0.32	平安
SI 4	Ⅲ	方形	1.9以上×5.5以上	0.20	平安、床面中央部に焼土（Ｌ字）
SI 5	Ⅲ	方形	1.7以上×３以上	0.10	平安、東壁にカマドを持つ住居
SI 6	Ⅱ	方形	1.9以上×3.6以上	0.40	平安、大型のカマド　土師器など遺物多い

カマド

遺跡名	区	平面形	規模(m)※検出分	深さ(m)	備　　考
SL 1	Ⅲ	不明	1	0.60	平安、断面のみ

土坑・陥し穴状遺構

遺跡名	区	平面形	規模(m)※検出分	深さ(m)	備　　考
SK 1	Ⅲ	不整円形	1.2×1.2以上	0.90	平安、埋土上位に須恵器　下位黒色土
SK 2	Ⅲ	不整円形	１×0.9	－	SD7を切る
SKT 1	Ⅴ	長楕円形	1.7以上×0.3	1.10	ほぼ完掘
SKT 2	Ⅵ	溝状	－	－	検出面が深いため、位置確認のみ

第２表　花曽根上遺跡遺構属性表（２）

溝跡

遺跡名	区	方向	規模（m）※検出分	深さ（m）	断面形	備　　考
SD 1	Ⅲ	西北西	1.8以上×１	0.40	V字形	
SD 2	Ⅲ	西北西	２以上×0.6	0.20	V字形	
SD 3	Ⅲ	西北西	1.8以上×0.7	0.20	不整形	SI４を切る
SD 4	Ⅲ	北西	2.4以上×0.3	0.20	逆台形	SI５を切る
SD 5	Ⅲ	北西		0.18	逆台形	断面のみ
SD 6	Ⅲ	北西	２以上×0.3	0.18	長方形	
SD 7	Ⅲ	西	1.6以上×0.3	0.28	逆台形	
SD 8	Ⅱ	北西	1.6以上×0.6	0.20	逆台形	

性格不明遺構

遺跡名	区	平面形	規模（m）※検出分	深さ（m）	備　　考
SX 1	Ⅱ	不明	1.5以上×３以上	0.25	焼土が広がる

柱穴状土坑

遺構名	区	平面形	規模（m）	深さ（m）	遺構名	区	平面形	規模（m）	深さ（m）
SP１	Ⅲ	楕円	0.3×0.1	0.12	SP18	Ⅱ	円	0.1	0.10
SP２	Ⅲ	楕円	0.2×0.1	0.12	SP19	Ⅱ	楕円	0.4×0.2	0.22
SP３	Ⅲ	円	0.3	0.15	SP20	Ⅱ	楕円	0.2×0.1	0.12
SP４	Ⅲ	楕円	0.4×0.2	0.18	SP21	Ⅱ	楕円	0.3×0.1	0.21
SP５	Ⅱ	楕円	0.2×0.1	0.18	SP22	Ⅱ	楕円	0.3×0.2	0.15
SP６	Ⅱ	円	0.1	0.09	SP23	Ⅱ	楕円	0.4×0.3	0.10
SP７	Ⅱ	円	0.1	0.14	SP24	Ⅱ	円	0.2	0.12
SP８	Ⅱ	楕円	0.2×0.1	0.18	SP25	Ⅱ	楕円	0.4×0.3	0.26
SP９	Ⅱ	楕円	0.3×0.1	0.12	SP26	Ⅱ	楕円	0.3×0.2	0.26
SP10	Ⅱ	円	0.2	0.10	SP27	Ⅱ	円	0.2	0.10
SP11	Ⅱ	楕円	0.3×0.2	0.20	SP28	Ⅱ	楕円	0.2×0.1	0.10
SP12	Ⅱ	楕円	0.4×0.2	0.39	SP29	Ⅱ	楕円	0.2×0.1	0.10
SP13	Ⅱ	楕円	0.3×0.2	0.16	SP30	Ⅱ	円	0.1	0.10
SP14	Ⅱ	円	0.2	0.12	SP31	Ⅱ	円	0.1	0.10
SP15	Ⅱ	楕円	0.4×0.2	0.19	SP32	Ⅱ	円	0.1	0.10
SP16	Ⅱ	円	0.1	0.10	SP33	Ⅱ	円	0.3	0.15
SP17	Ⅱ	円	0.1	0.10					

竪穴建物跡1（SI1）

検出状況　東側調査区Ⅲ区の南西側にあたる。竪穴建物跡の北西部と南東部は調査区外であり、概ね竪穴建物跡の中央部を検出している。**平面形**　隅丸方形または楕円形を呈すると推定される。**規模**　直径3.5m前後と推定される。上部は撹乱が激しく壁は0.08m程度が残存しているに過ぎない。**付属施設**　主柱穴２基、壁柱穴16基検出している。いずれも深さは約0.1mである。ほぼ楕円形を呈する。炉は見つかっていない。**出土遺物**　なし。**遺構の時期**　遺物が出土していないため時期不明である。なお、建物跡周辺から繊維混入の土器片が出土している。

竪穴建物跡2（SI2）

検出状況　東側調査区Ⅲ区の中央部にあたる。竪穴建物跡の西側一部の検出にとどまる。**平面形**　方形を基調とする不整形を呈すると推定される。**規模**　南東壁で2.5mを測る。北側は撹乱によって破壊されている。壁高は約0.4mである。**付属施設**　柱穴１基を検出している。深さは約0.23mである。炉・カマドは見つかっていない。**出土遺物**　土師器甕が出土している。**遺構の時期**　出土遺物から平安時代と推定される。

竪穴建物跡3（SI3）

検出状況　東側調査区Ⅲ区の中央部にあたる。建物跡の北西部と南東部は調査区外であり、概ね建物跡の中央部を検出している。**平面形**　方形を基調とする不整形を呈すると推定される。**規模**　北西壁で4.6m、南東壁で5.7mを測る。壁高は約0.3mである。**付属施設**　直径約0.2～0.5mの柱穴を４基検出している。深さは約0.1mである。炉・カマドは見つかっていない。**出土遺物**　土師器坏が出土している。**遺構の時期**　出土遺物から平安時代と推定される。

竪穴建物跡4（SI4）

検出状況　東側調査区Ⅲ区の中央部にあたる。建物跡の北西部と南東部は調査区外であり、概ね建物跡の中央部を検出している。建物跡南西壁でSD４によって僅かに切られる。**平面形**　方形を基調とする不整形を呈すると推定される。**規模**　北西壁で4.9m、南東壁で５mを測る。壁高は約0.3mである。**付属施設**　建物跡中央と推定される箇所にL字形の焼土が広がっている。その他、柱穴を３基検出している。**出土遺物**　土師器甕が出土している。**遺構の時期**　出土遺物から平安時代と推定される。

竪穴建物跡5（SI5）

検出状況　東側調査区Ⅲ区の中央部にあたる。カマドの存在と北西壁に僅かに残る立ち上がりから竪穴建物跡とした。詳細は不明である。SD５に切られる。**平面形**　方形を呈すると推定される。**規模**　北西壁で1.9mを測る。壁高は約0.1mである。**付属施設**　カマドは燃焼部径0.2×0.2m、煙道が続くと推定される部分は撹乱を受けており明確に判断できなかった。その他、柱穴１基を検出した。**出土遺物**　焼土から土師器甕が出土している。**遺構の時期**　出土遺物から平安時代と推定される。

竪穴建物跡6（SI6）

検出状況　東側調査区Ⅱ区の中央部にあたる。建物跡の北西部と南東部は調査区外であり、概ね建物跡の中央部～東側を検出している。**平面形**　方形を基調とする不整形を呈すると推定される。**規模**　北西壁で3.8m、南東壁で１mを測る。壁高は約0.4mである。**付属施設**　南壁側に径1.3×0.9m大の焼土が広がっており、カマド燃焼部と推定される。煙道や煙出口は検出されない。鉄滓が出土している。**出土遺物**　多量の土師器坏及び鉄滓が出土している。**遺構の時期**　出土遺物から平安時代と推定され、性格として製鉄関連遺構の可能性もある。

カマド1（SL1）

検出状況　東側調査区Ⅲ区の中央部にあたる。建物跡は検出されず、南東壁側での検出となったため、可能な限り平面の様相を確認するため南東に調査区を僅かに延長した。**規模**　南東壁断面で１m、検出した焼土は1.3m×0.8mを測る。**カマドの構造**　支脚と思われる伏せられた土師器坏や礫が複数確認できる。カマド使用時の構造かどうかは不明である。支脚の南西方向に燃焼部が細長く伸びていることからも、カマドの長軸は北西－南東方向と考えられる。全体的に攪乱が大きく、建物の壁面や煙道は確認できなかった。**出土遺物**　多量の土師器坏、土師器甕が出土している。**遺構の時期**　出土遺物から平安時代と推定される。

土坑1（SK1）

検出状況　東側調査区Ⅲ区の北東側にあたる。**平面形**　不整円形を呈する。**規模**　開口部径おおよそ1.2m×1.2m以上、底部径おおよそ0.6m×0.7m以上、深さ0.9mを測る。**断面形**　鉢状　**埋土**　大部分が暗褐色シルト・黒褐色シルト混合土で炭化物等は含まない。**出土遺物**　須恵器甕が出土している。**遺構の時期**　出土遺物から平安時代と推定される。

土坑2（SK2）

検出状況　東側調査区Ⅲ区の北東側にあたる。溝跡７と重複している。**平面形**　不整円形を呈する。**規模**　開口部径おおよそ１m×0.9mである。**断面形**　鉢状　**出土遺物**　なし。**遺構の時期**　遺物等が出土していないため不明である。

陥し穴状土坑1（SKT1）

検出状況　東側調査区Ⅳ区の南西側にあたる。概ね全体が調査区内で検出されている。後世の攪乱によって開口部は大きく削平されている。平面形　北西～南東方向に長軸をもつ。溝状である。**規模**　開口部径1.7m以上×0.3m、底部径おおよそ1.6以上m×0.1m、深さ1.1mを測る。**断面形**　漏斗状　**出土遺物**　なし。**遺構の時期**　遺物は出土していないが、平面形態から縄文時代と推定される。

陥し穴状土坑2（SKT2）

検出状況　西側調査区中央部にあたる。深度の関係で検出のみに留めた。

溝跡1（SD1）

断面形はV字形を呈し、方向は西北西～東南東方向で両端は調査区外に延びる。埋土は暗褐色シルトと黄褐色シルトの２層で、時期等は不明である。

溝跡2（SD2）

断面形はV字形を呈し方向は北西～南東方向で両端は調査区外に延びる。時期等は不明である。

溝跡3（SD3）

断面形は植根によって凹凸が見られ、方向は西北西～東南東方向で両端は調査区外に延びる。時期等は不明である。

溝跡4（SD4）

断面形は逆台形を呈する。竪穴建物跡４（SI４）を切る。時期等は不明である。縄文土器片が出土している。

溝跡5（SD5）

断面形は逆台形を呈し、竪穴建物跡５（SI５）を切る。時期等は不明である。SI５精査時には確認できなかったため、断面のみの記録である。

溝跡6（SD6）、溝跡7（SD7）

溝跡６は、断面形は浅皿状を呈し、方向は北東～南西方向で両端は調査区外に延びる。時期等は不

明である。溝跡７は、断面形は浅皿状で方向はほぼ東西方向で両端は調査区外に延びる。中央部で土坑２（SK２）によって切られる。

溝跡8（SD8）

断面形は逆台形を呈し、方向は東～西方向で両端は調査区外に延びる。遺構集中区域から離れている。時期等は不明である。

性格不明遺構（SX1）

検出状況　東側調査区Ⅱ区の中央部にあたる。遺構の西側一部の検出にとどまり、東側は撹乱によって破壊されている。**規模**　検出分の最大径で約３mを測る。**付属施設**　焼土が遺構全体に広がっている。**出土遺物**　土師器片が出土している。**遺構の時期等**　出土遺物から平安時代と推定されるが、遺構の性格を判断する資料が乏しく特定できなかった。

柱穴（SP1～SP33）

調査区全体で33基を検出しそのほとんどがⅡ区に集中している。径は約0.1m～0.4mで深さは約0.1m～0.4mである。埋土は暗褐色シルトの１層であり柱痕はなく掘立柱建物を構成するような規則性も見られない。遺物が出土していないため時期等は不明である。

遺物

本報告書では出土遺物を遺構ごとに取り上げず、器種毎に実測図を配置している。出土遺物は縄文土器、土師器、須恵器、鉄滓である。SI １周辺で繊維混入の土器片が出土し、それ以外では主に土師器が多く見られる。竪穴建物跡やカマド跡から小皿、坏、甕が出土し、基本的にロクロを使用している。鉄滓が出土したSI ６は多量の土師器、須恵器も見られる。

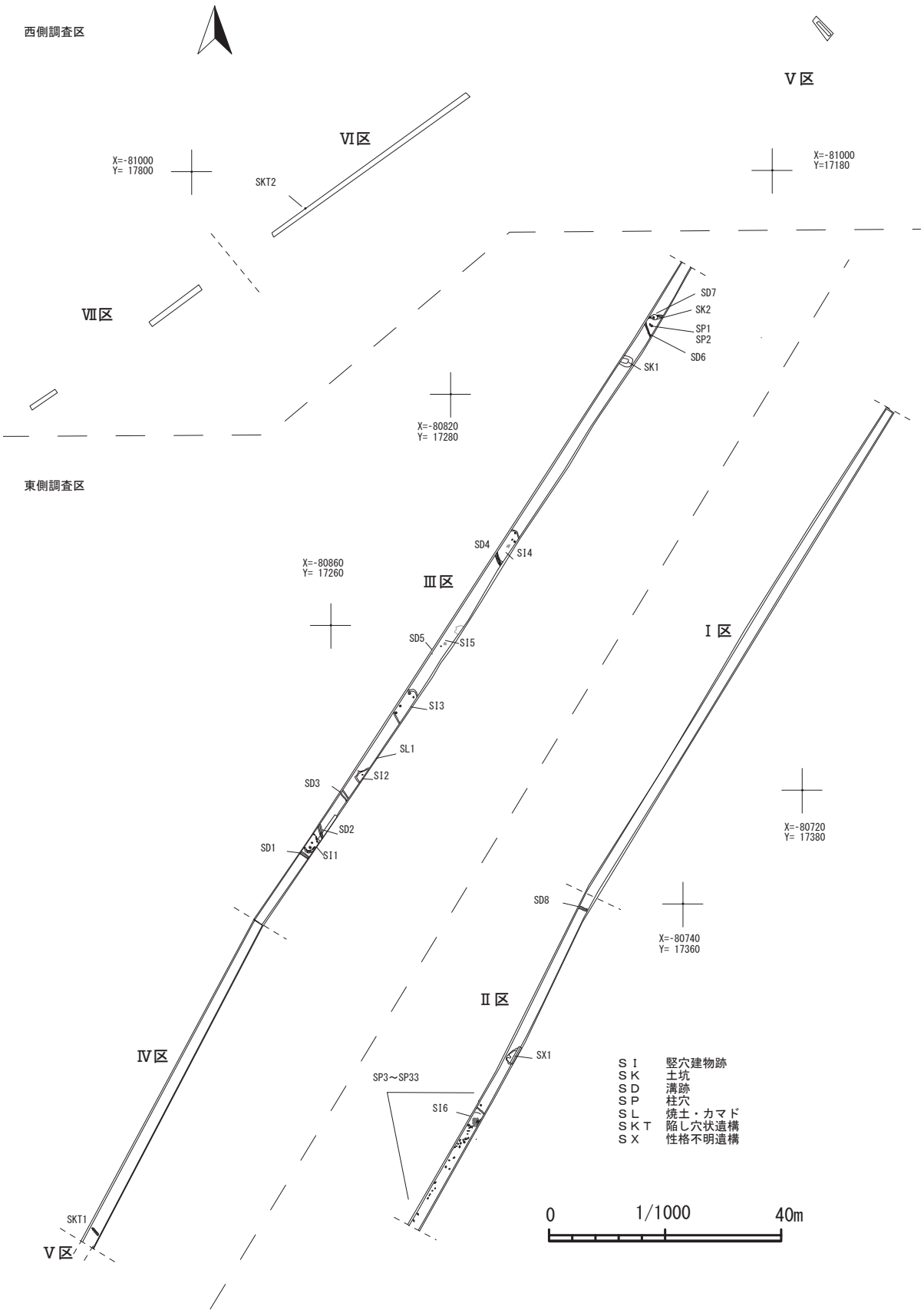
まとめ

花曽根上遺跡は、遺跡台帳では平安時代の遺跡となっているが、今回の発掘調査により、縄文時代の遺跡でもあることが判明した。陥し穴状遺構は、平面形や埋土の状況から、縄文時代以降の遺構である可能性が高く、その時期は狩猟場としても利用されていたことが想定される。

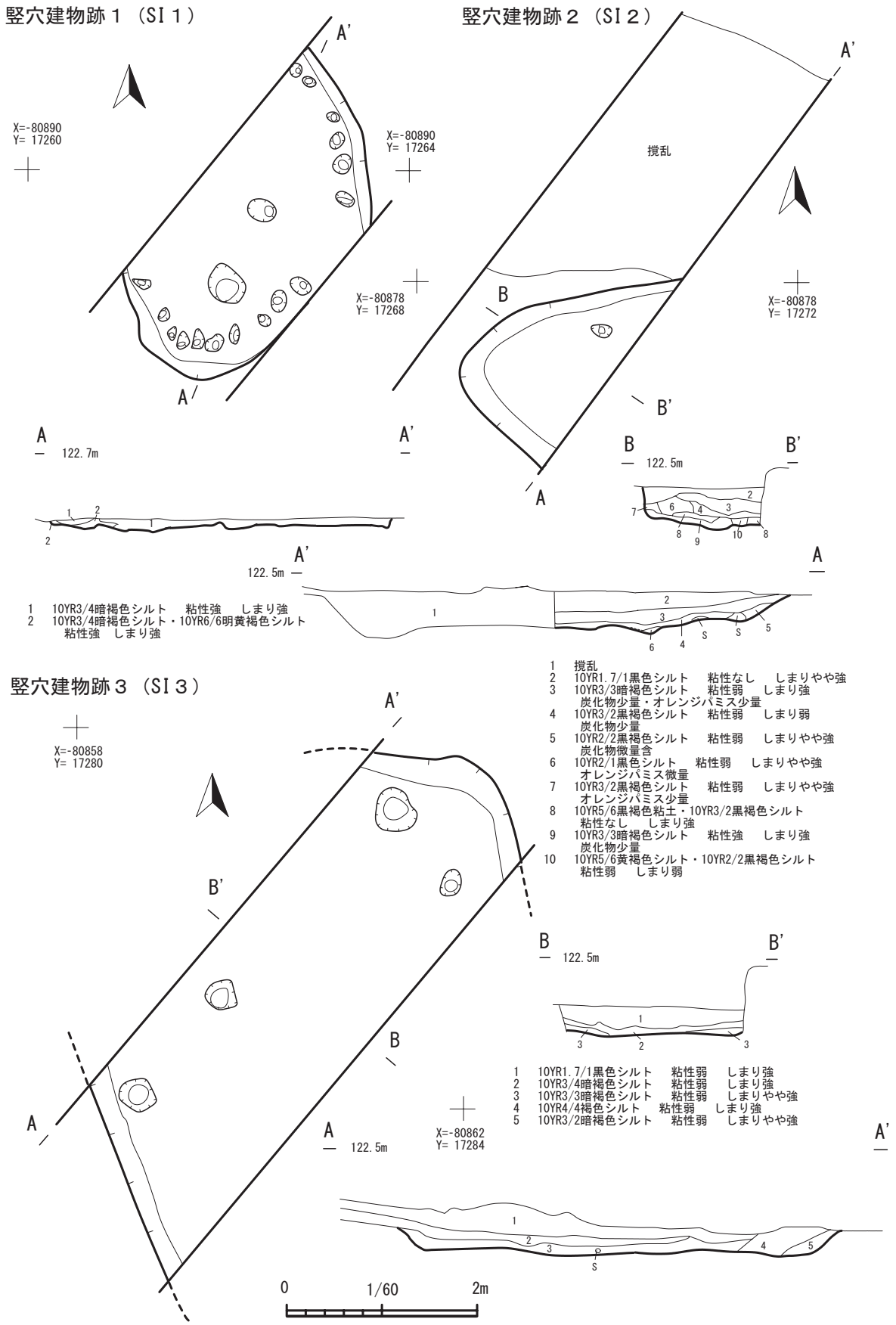
古代の遺構として、竪穴建物跡やカマド跡などが検出されている。調査範囲が狭い上に撹乱が多いことから精査は難航したが、出土遺物から10世紀前半の集落跡であることが判明した。基本土層Ⅲ（黒褐色土）を埋土とするSL１・SI６と、基本土層Ⅳ（褐色土）を埋土とするSI３・SI５に若干の時期幅があることも考えられる。また、SI６は鉄滓が出土していることから製鉄関連遺構の可能性もある。

今回の発掘調査は花曽根上遺跡の南東端の調査となったが、段丘縁に当たる区域（Ⅰ区）には遺構は検出されず、Ⅱ～Ⅲ区に集中し、Ⅳ～Ⅶ区は遺構が希薄になる傾向が判明した。このことから、平安時代の集落はⅡ区からⅢ区を中心とした北西から南東に広がる丘陵地に広がっている可能性が高い。また、縄文時代について不明な部分も多いが、南西側（Ⅴ区・Ⅵ区）で陥とし穴が検出されていることから、縄文時代の狩猟場が南側に広がると考えられる。

遺構配置図

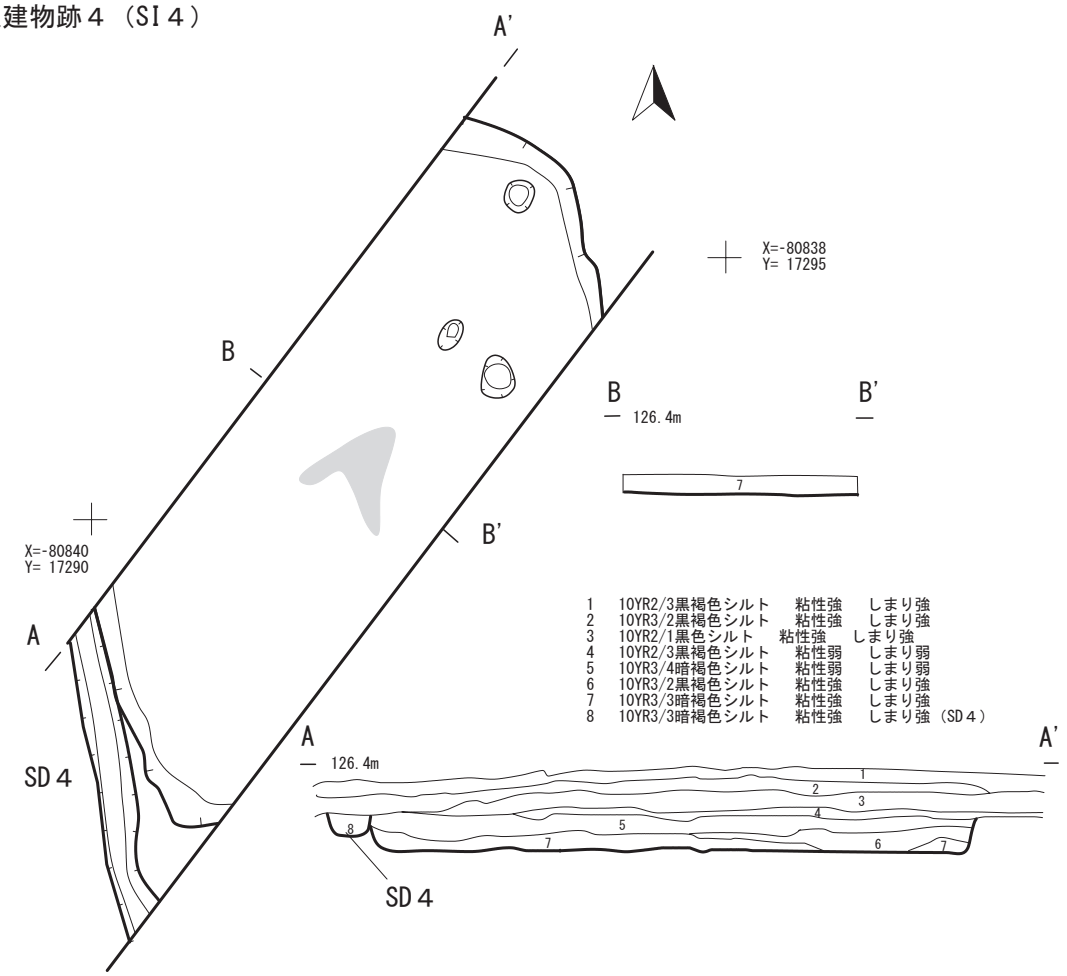


第４図　花曽根上遺跡遺構配置図



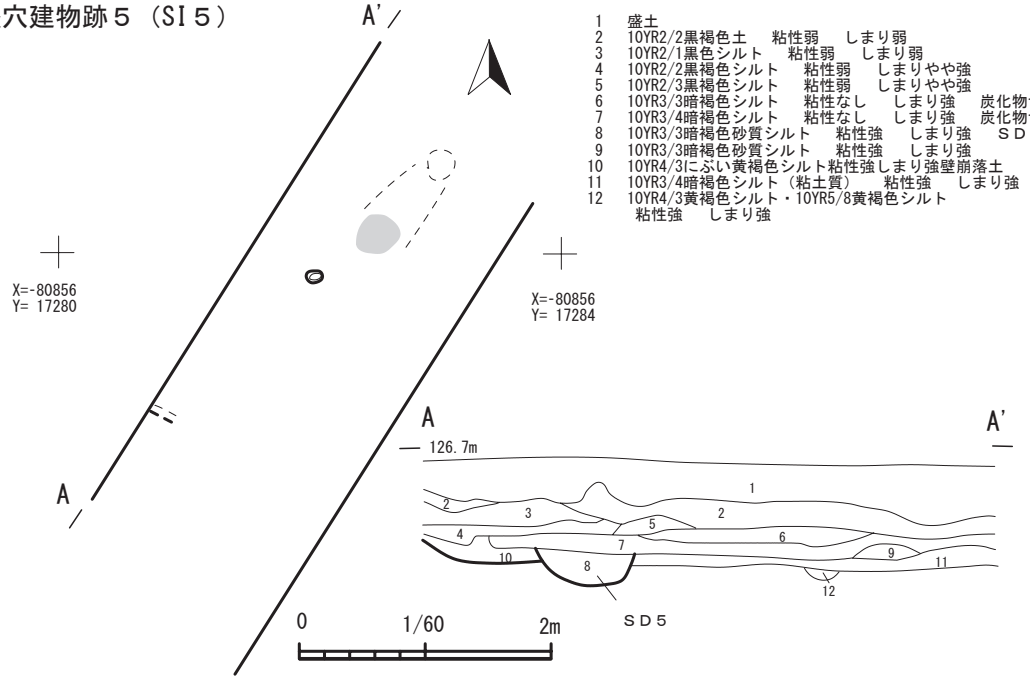
第５図　花曽根上遺跡検出遺構図（１）

竪穴建物跡４（SI４）



1　10YR2/3黒褐色シルト　粘性強　しまり強
2　10YR3/2黒褐色シルト　粘性強　しまり強
3　10YR2/1黒色シルト　粘性強　しまり強
4　10YR2/3黒褐色シルト　粘性弱　しまり弱
5　10YR3/4暗褐色シルト　粘性弱　しまり弱
6　10YR3/2黒褐色シルト　粘性強　しまり強
7　10YR3/3暗褐色シルト　粘性強　しまり強
8　10YR3/3暗褐色シルト　粘性強　しまり強（SD４）

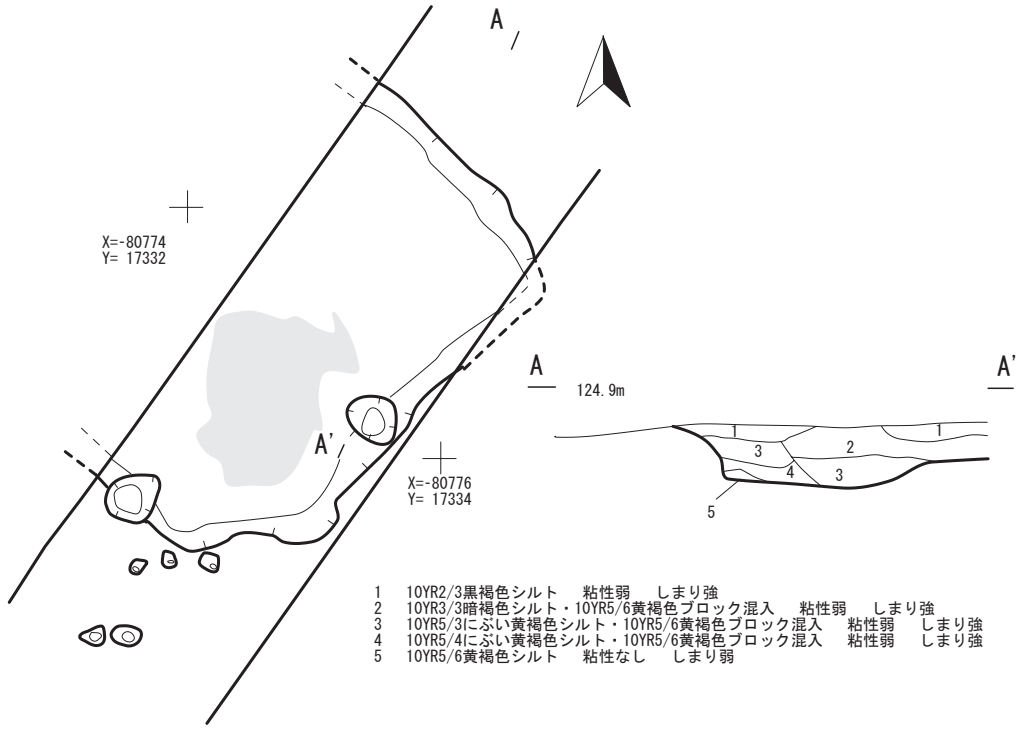
竪穴建物跡５（SI５）



1　盛土
2　10YR2/2黒褐色土　粘性弱　しまり弱
3　10YR2/1黒色シルト　粘性弱　しまり弱
4　10YR2/2黒褐色シルト　粘性弱　しまりやや強
5　10YR2/3黒褐色シルト　粘性弱　しまりやや強
6　10YR3/3暗褐色シルト　粘性なし　しまり強　炭化物含む
7　10YR3/4暗褐色シルト　粘性なし　しまり強　炭化物含む
8　10YR3/3暗褐色砂質シルト　粘性強　しまり強　ＳＤ５
9　10YR3/3暗褐色砂質シルト　粘性強　しまり強
10　10YR4/3にぶい黄褐色シルト粘性強しまり強壁崩落土
11　10YR3/4暗褐色シルト（粘土質）　粘性強　しまり強
12　10YR4/3黄褐色シルト・10YR5/8黄褐色シルト
粘性強　しまり強

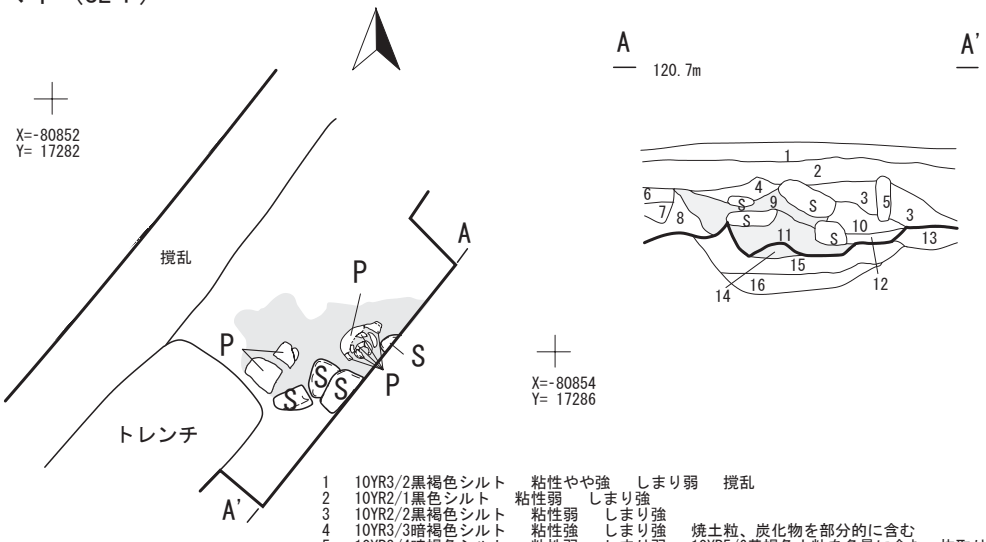
第６図　花曽根上遺跡検出遺構図（２）

竪穴建物跡６（SI６）



1　10YR2/3黒褐色シルト　粘性弱　しまり強
2　10YR3/3暗褐色シルト・10YR5/6黄褐色ブロック混入　粘性弱　しまり強
3　10YR5/3にぶい黄褐色シルト・10YR5/6黄褐色ブロック混入　粘性弱　しまり強
4　10YR5/4にぶい黄褐色シルト・10YR5/6黄褐色ブロック混入　粘性弱　しまり強
5　10YR5/6黄褐色シルト　粘性なし　しまり弱

カマド（SL１）

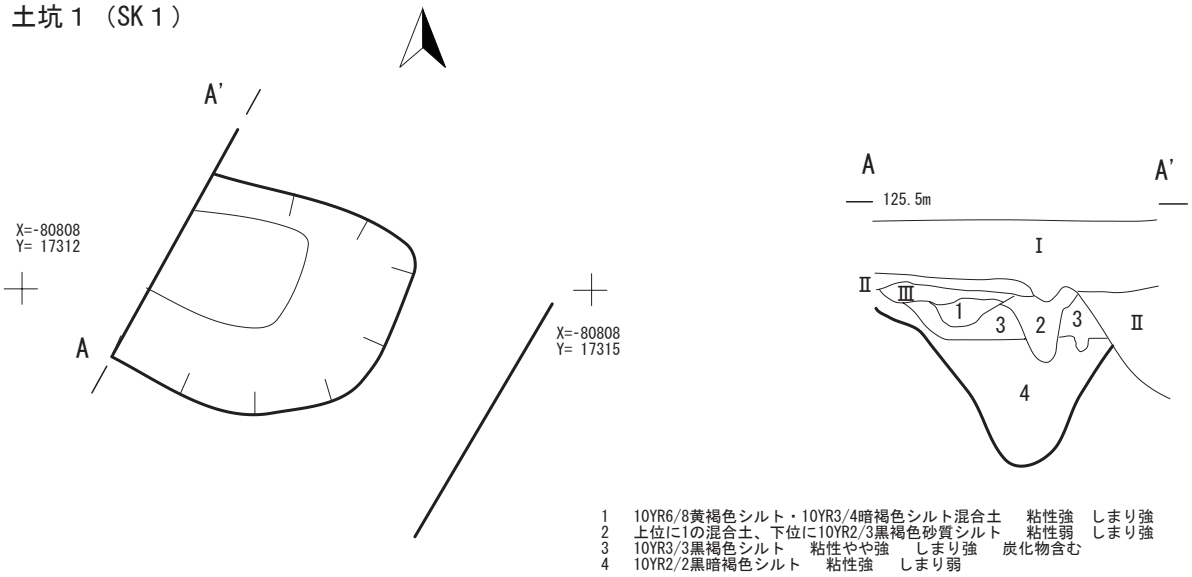


1　10YR3/2黒褐色シルト　粘性やや強　しまり弱　撹乱
2　10YR2/1黒色シルト　粘性弱　しまり強
3　10YR2/2黒褐色シルト　粘性弱　しまり強
4　10YR3/3暗褐色シルト　粘性強　しまり強　焼土粒、炭化物を部分的に含む
5　10YR3/4暗褐色シルト　粘性弱　しまり弱　10YR5/6黄褐色土粒を多量に含む　抜取り痕か
6　10YR5/3にぶい黄褐色シルト　粘性やや強　しまり弱　10YR5/6黄褐色土粒を含む
7　10YR4/4褐色シルト　粘性弱　しまり弱
8　10YR3/4暗褐色シルト　粘性弱　しまり弱　10YR5/6黄褐色土粒を多量に含む　袖か
9　5YR4/8赤褐色シルト（焼土）　粘性やや強　しまり弱　10YR5/6黄褐色土粒を微量に含む
10　10YR3/4暗褐色シルト　粘性強　しまり強　5YR4/8赤褐色焼土を多量に含む
11　5YR4/8赤褐色シルト（焼土）　粘性強　しまり弱　硬化　床面か
12　10YR3/4暗褐色シルト　粘性強　しまり強　5YR4/8赤褐色　焼土を微量に含む
13　5YR3/4暗赤褐色シルト　粘性やや強　しまり弱　10YR3/4暗褐色シルトとの混合土
14　5YR4/8赤褐色シルト（焼土）　粘性やや強　しまり弱　10YR2/3黒褐色シルトが部分的に混入
15　10YR7/8黄橙色粘土　粘性やや強　しまり強　5YR4/8赤褐色焼土を微量に含む
16　10YR7/6明黄褐粘土　粘性強　しまり強　貼床底面か

0　1/60　2m

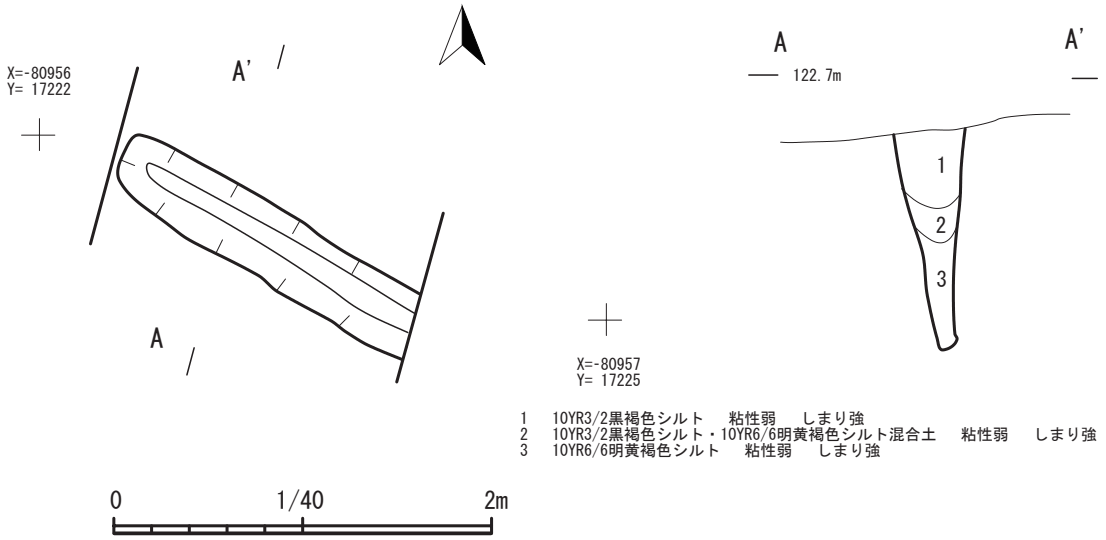
第７図　花曽根上遺跡検出遺構図（３）

土坑１（SK１）

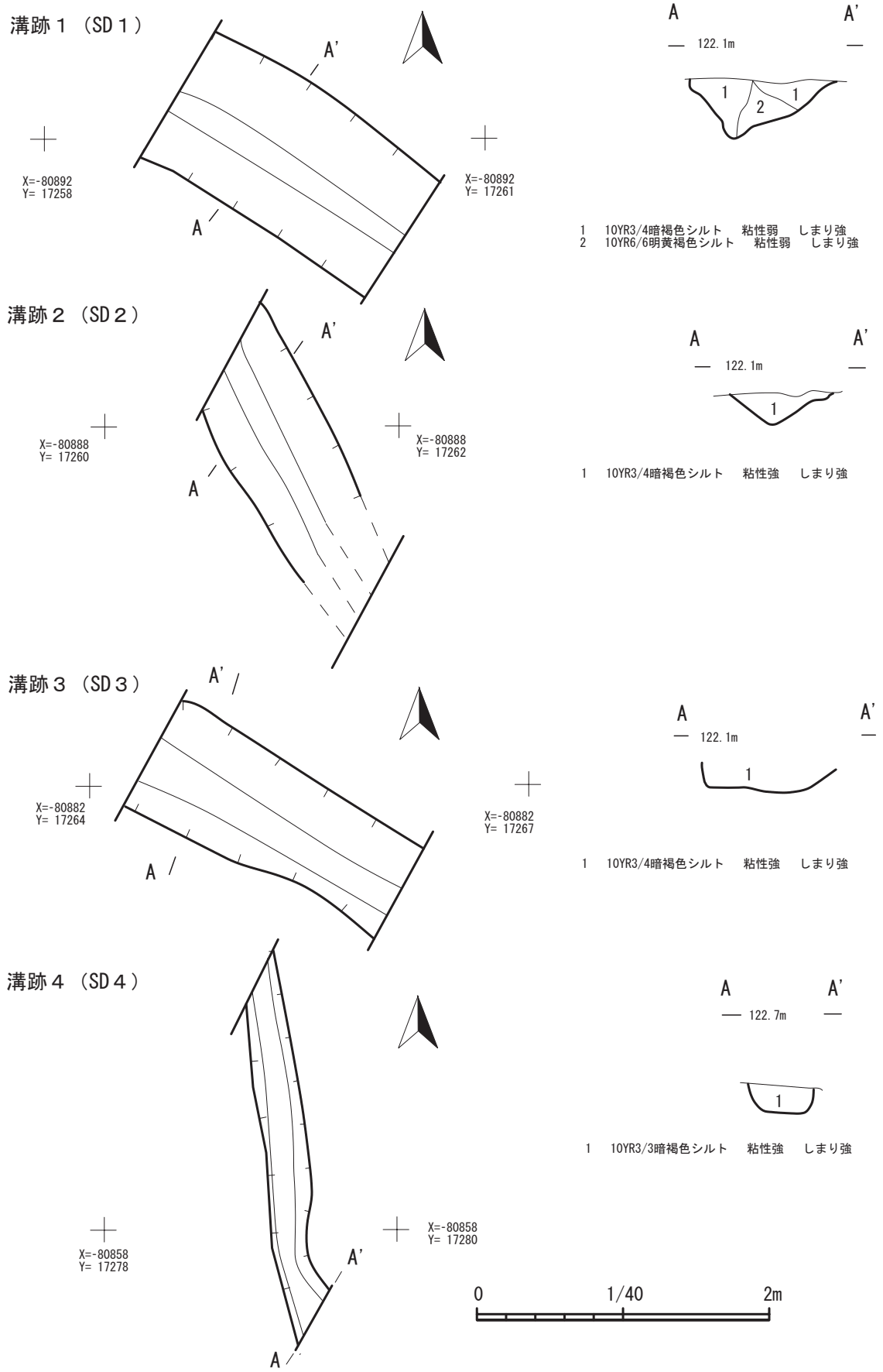


※　土坑２は平面のみ実測。溝跡７参照

陥し穴状遺構１（SKT１）



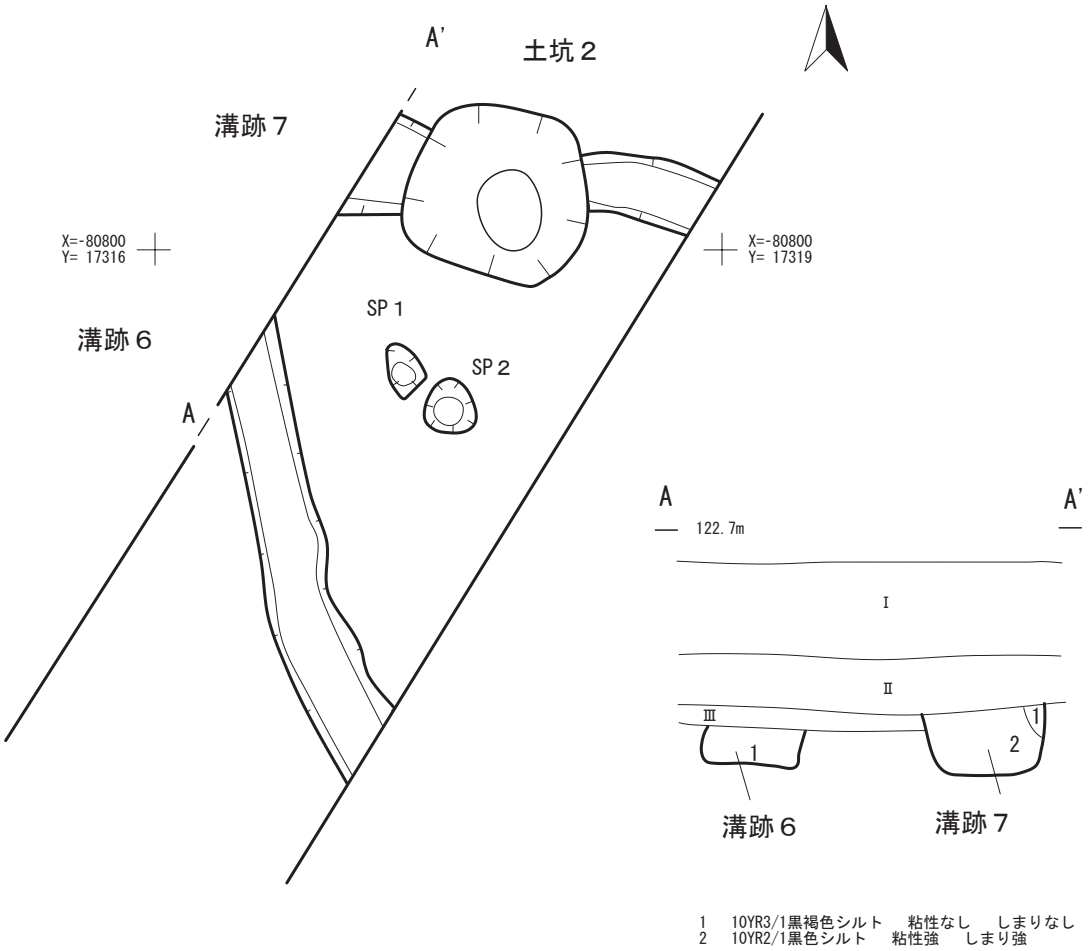
第８図　花曽根上遺跡検出遺構図（４）



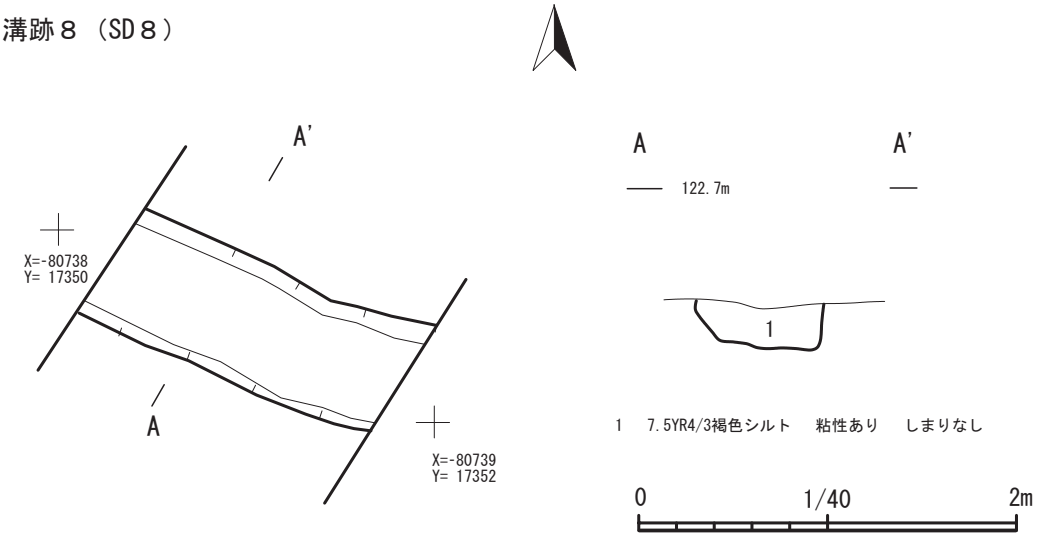
第９図　花曽根上遺跡検出遺構図（５）

※　溝跡５（ＳＤ５）は竪穴建物跡５を参照

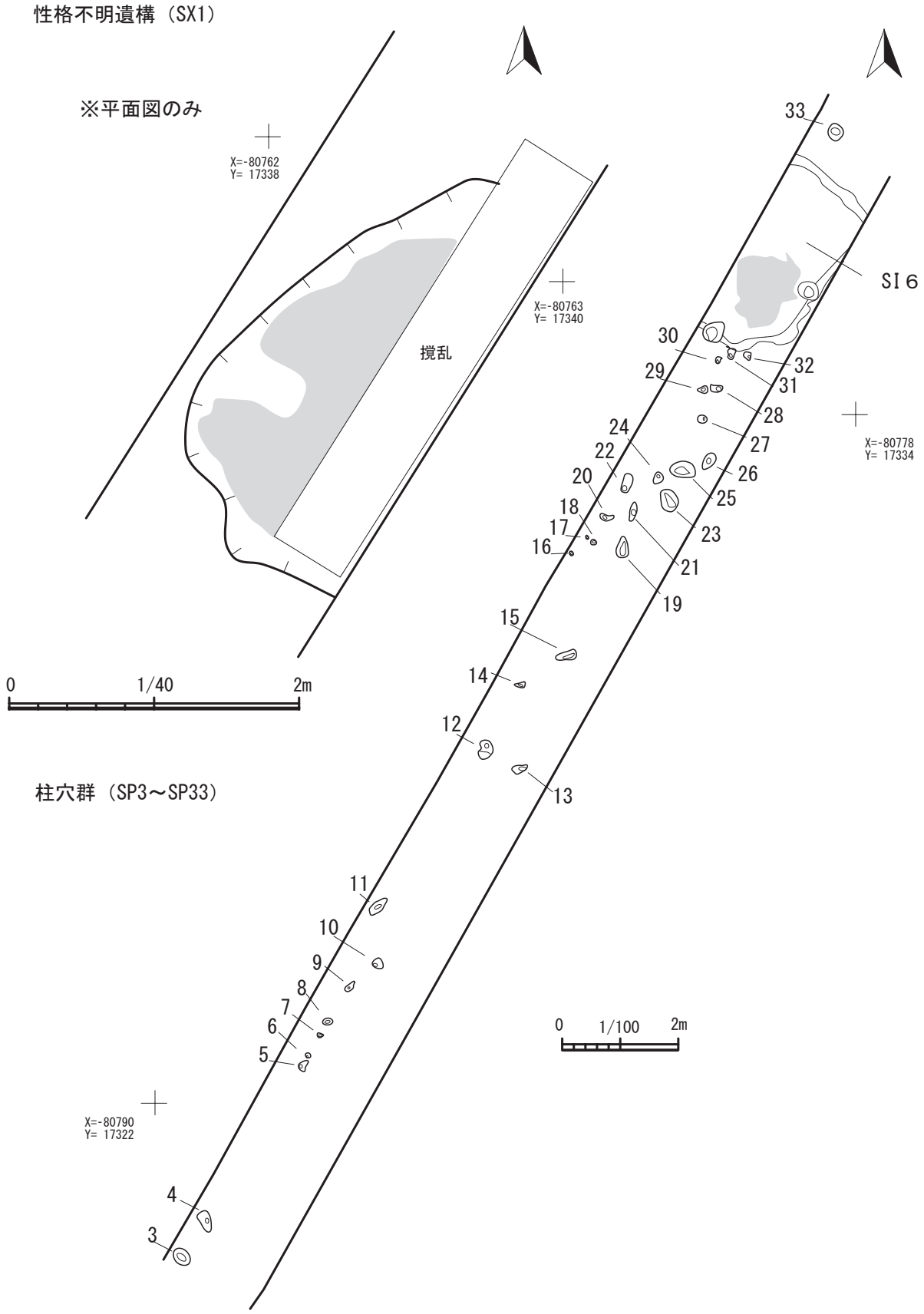
溝跡６（SD６）・溝跡７（SD７）



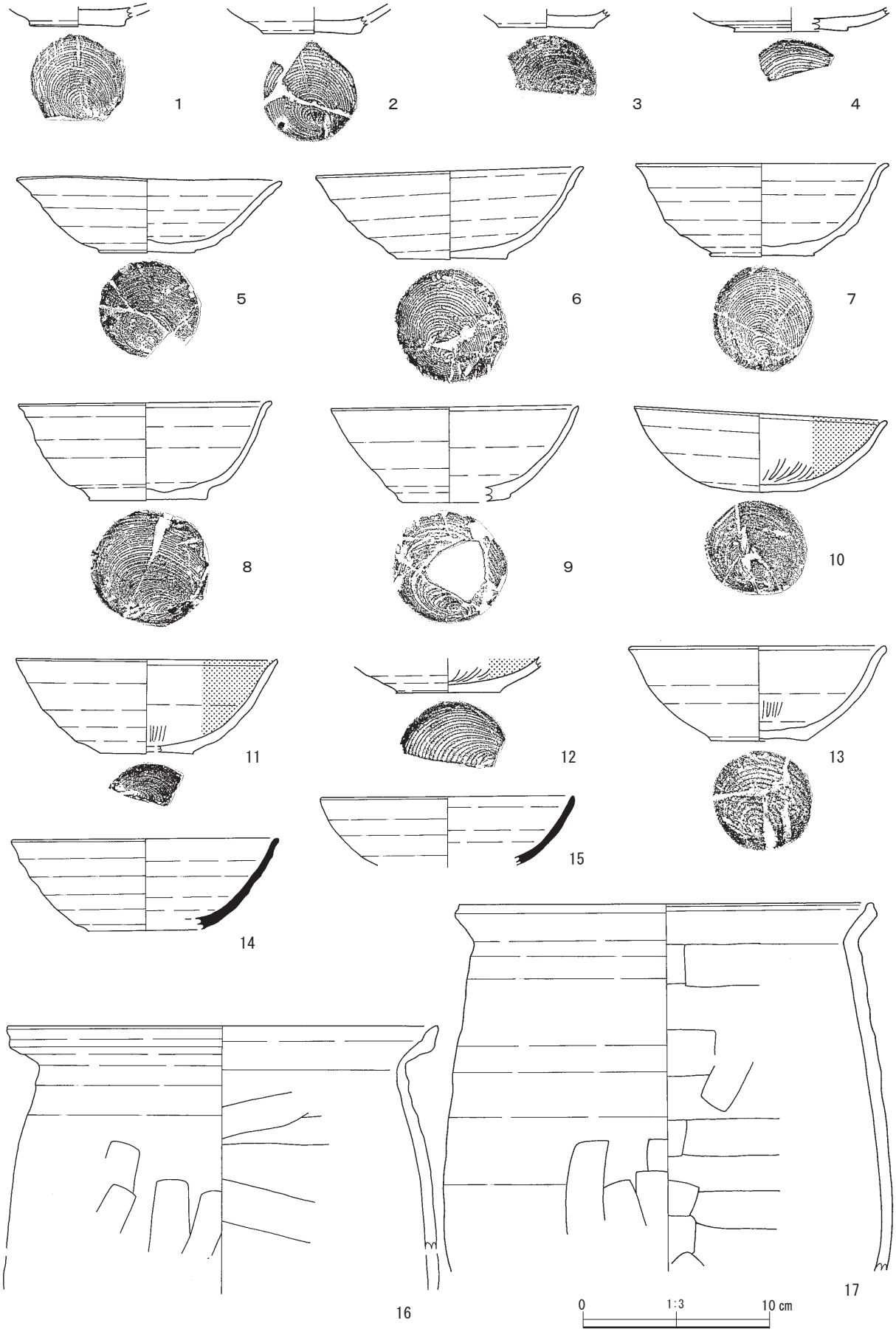
溝跡８（SD８）



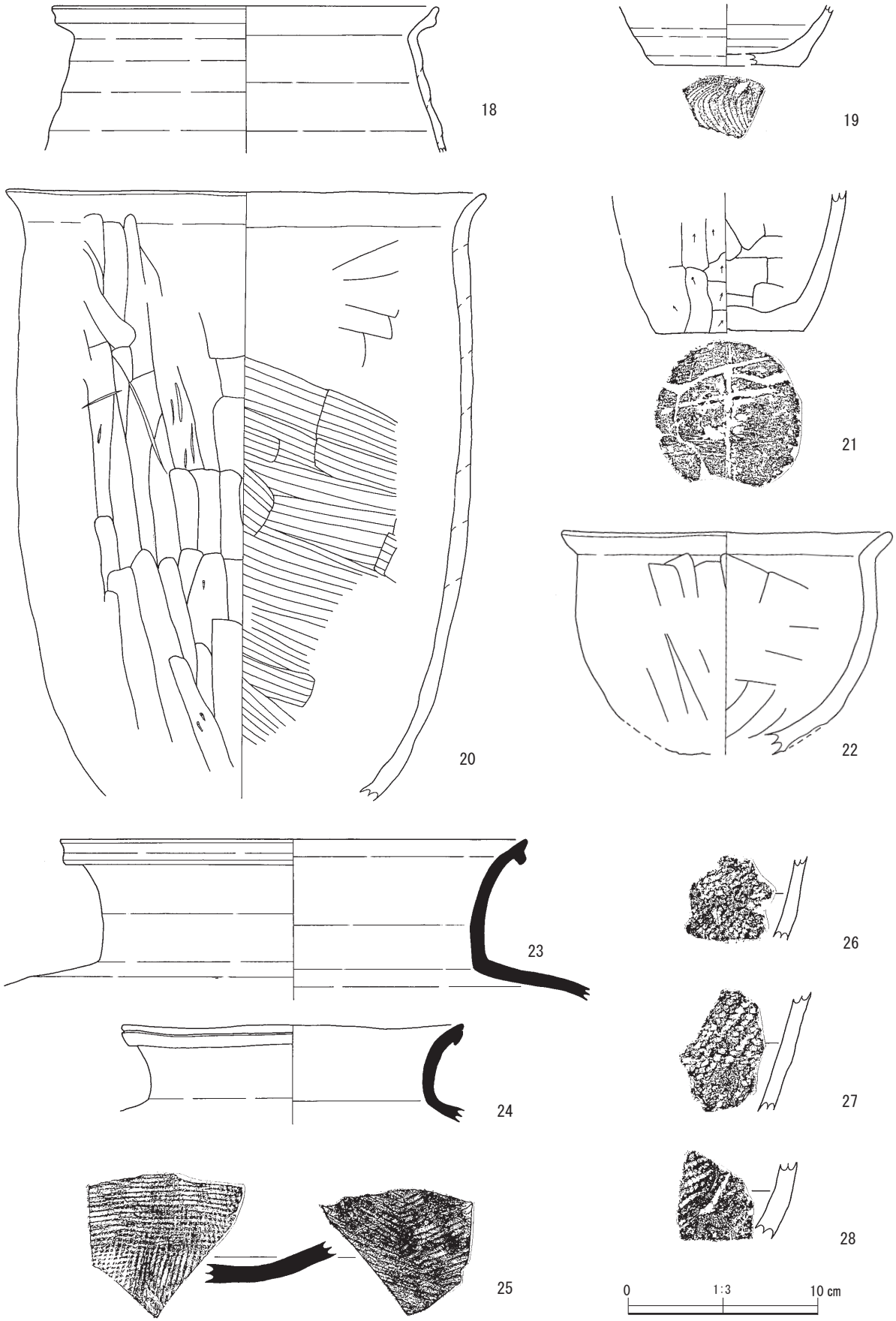
第10図　花曽根上遺跡検出遺構図（６）



第11図　花曽根上遺跡検出遺構図（７）



第12図　花曽根上遺跡遺物図（１）



第 13 図　花曽根上遺跡遺物図（２）

第３表　花曽根上遺跡出土遺物観察表（１）

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	ＳＩ６		土師器	坏	底部	－	(0.9)	5.1	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
2	ＳＩ６	焼土	土師器	坏	胴部～底部	－	(1.3)	5.2	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
3	ＳＩ６	カマド西	土師器	坏(小皿)	底部	－	(0.7)	[5.2]	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
4	ＳＩ３	埋土	土師器	坏	下半～底部	－	(1.2)	[6.0]	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
5	ＳＩ６	カマド北	土師器	坏	略完形	14.0	5.0	4.0	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
6	ＳＩ６		土師器	坏	略完形	14.2	5.9	4.9	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
7	ＳＩ６	カマド南	土師器	坏	口縁～底部	(13.4)	5.6	4.9	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕、赤焼
8	ＳＩ６		土師器	坏	口縁～底部	[16.4]	6.4	5.2	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
9	ＳＬ１	カマド	土師器	坏		13.2	5.2	6.0	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
10	ＳＩ３	ベルト	土師器	坏	口縁～底部	[13.4]	4.5	5.0	－	ロクロナデ、内面ミガキ、内黒、底部回転糸きり後ナデ？
11	ＳＩ６	カマド南	土師器	坏	口縁～底部	[13.8]	5.0	[5.0]	－	ロクロナデ、内面ミガキ、内黒、底部回転糸きり痕
12	ＳＩ３	検出面	土師器	坏	下半～底部	－	(1.2)	[5.4]	－	ロクロナデ、内面ミガキ、内黒、底部回転糸きり痕
13	ＳＬ１	焼土	土師器	坏	口縁～底部	[13.2]	5.2	6.0	－	ロクロナデ、内面ミガキ、底部回転糸きり痕
14	ＳＫ１	埋土	須恵器	坏	口縁～底部	[14.2]	4.8	[6.2]	－	ロクロナデ
15	ＳＤ４	埋土下位	須恵器	坏	口縁～下半	[14.2]	(4.8)	－	－	ロクロナデ
16	ＳＬ１	焼土	土師器	甕	口縁～上半	[23.0]	(14.0)	－	－	ロクロナデ、ナデ
17	ＳＩ６	検出面	土師器	甕	口縁～下半	[22.0]	(19.4)	－	－	ロクロナデ、ナデ
18	ＳＩ５	カマド	土師器	甕	口縁～上半	[20.4]	(7.6)	－	－	ロクロナデ、９世紀？
19	ＳＩ２	埋土下位	土師器	甕	下半～底部	－	(3.2)	[7.6]	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕、９世紀？
20	ＳＬ１	カマド	土師器	甕	口縁～底部付近	[25.4]	(32.0)	－	－	内面ナデ・ハケメ、外面ナデ・キズ・ケズリ
21	ＳＩ６	カマド内	土師器	甕	底部～胴下半	－	(7.8)	8.8	－	内面ナデ、外面ケズリ、底面に線刻（記号？）籾殻痕
22	ＳＩ６	カマド内	土師器	甕	口縁～胴下半	[17.4]	(11.8)	－	－	内面ナデ、ナデ、丸底
23	ＳＫ１	検出面	須恵器	甕	口縁～肩	[24.4]	(8.4)	－	－	ロクロナデ
24	ＳＫ１	検出面	須恵器	甕	口縁～頚部	[17.8]	(5.1)	－	－	ロクロナデ
25	ＳＫ１	埋土	須恵器	甕	胴部	－	－	－	－	外面タタキ、内面あて具痕
26	ＳＤ４	埋土上位	縄文	鉢	胴部	－	－	－	－	破片、LR横、早期～前期
27	Ⅲ区		縄文	鉢	胴部	－	－	－	－	破片、LR縦、中期？

計測値の［　］は測定値、（　）が残存値を表す。

第４表　花曽根上遺跡出土遺物観察表（２）

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
28	Ⅲ区		縄文	鉢	胴部	－	－	－	－	破片、LR縦、繊維含む、早期～前期
29	ＳＩ３	ベルト	土師器	坏	口縁	－	－	－	－	ロクロナデ
30	ＳＩ３	埋土	土師器	坏	下半～底部	－	－	－	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
31	ＳＩ６		土師器	坏	底部	－	－	－	－	ロクロナデ、底部回転糸きり痕
32	ＳＬ１	カマド	土師器	甕		－	－	－	－	内外面ロクロナデ、外面ナデ
33	ＳＩ５	焼土	土師器	甕	下半～底部	－	－	－	－	底面ミガキ？、内外面ナデ
34	ＳＩ４	埋土	土師器	甕	下半～底部	－	－	－	－	外面ケズリ、ナデ、内面ナデ
35	ＳＩ６	焼土	土師器	甕		－	－	－	－	外面ミガキ、内面ハケメ、底面ミガキ
36	ＳＫ１	埋土	須恵器	甕	胴部	－	－	－	－	外面タタキメ、内面あて具痕
37	ＳＩ６	カマド内	須恵器	瓶	肩	－	－	－	－	ロクロナデ
38	ＳＫ１	検出面	須恵器	甕	胴下半～底部	－	－	－	－	内面ハケメ・ナデ、外面ケズリ、ナデ
39	ＳＩ６	カマド	鉄製品	不明		－	－	－	54.35	

遺跡全景　南西から

東側調査区　南西から

写真図版１　花曽根上遺跡検出遺構（１）

ＳＩ１　完堀　南から

ＳＩ１　断面　北西から

ＳＩ２　完堀　北西から

ＳＩ２　断面　北東から

ＳＩ３　完堀　南から

ＳＩ３　断面　南西から

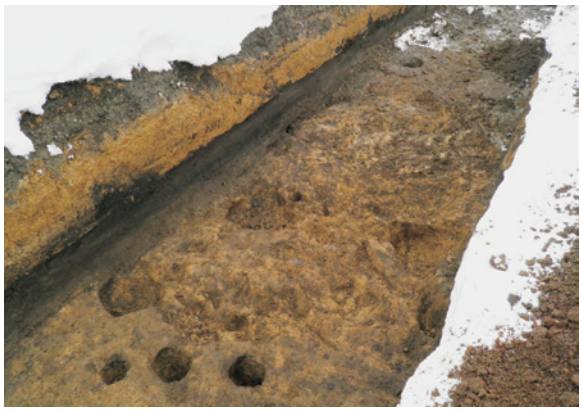
ＳＩ４　平面　南から

ＳＩ４　カマド断面　南から

写真図版２　花曽根上遺跡検出遺構（２）

ＳＩ５　完堀　南から

ＳＩ５　断面　南西から



ＳＩ６　完堀　南から

ＳＩ６　焼土（カマド燃焼部？）北東から

ＳＬ１　断面　北西から

写真図版３　花曽根上遺跡検出遺構（３）

ＳＫＴ１　平面　南東から

ＳＫＴ１　断面　南東から

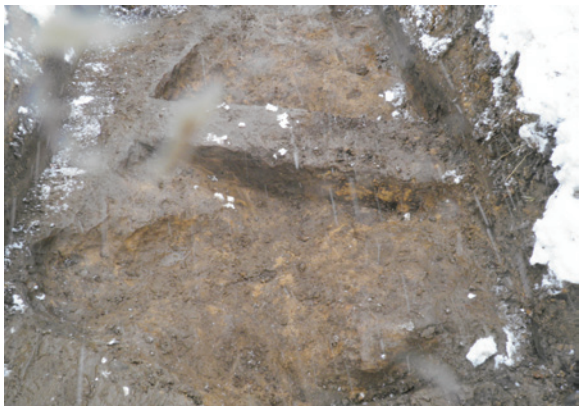
ＳＫＴ２　検出　南東から

ＳＫ１　断面　南西から

ＳＤ６・ＳＤ７　南から

写真図版４　花曽根上遺跡検出遺構（４）

柱穴群　南西から

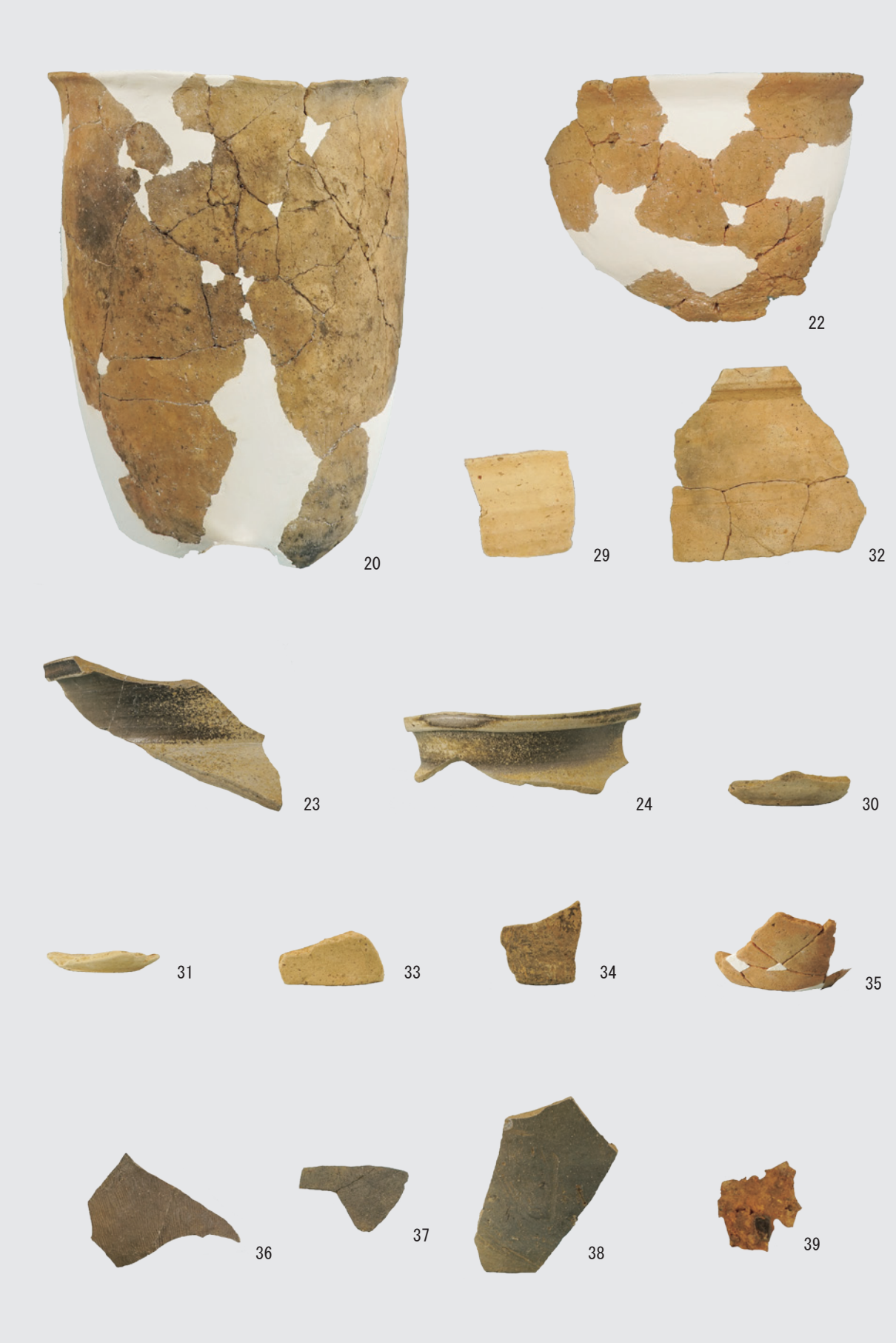


ＳＸ１　北東から

遺物出土状況　ＳＩ６

写真図版５　花曽根上遺跡検出遺構（５）

写真図版６　花曽根上遺跡出土遺物（１）

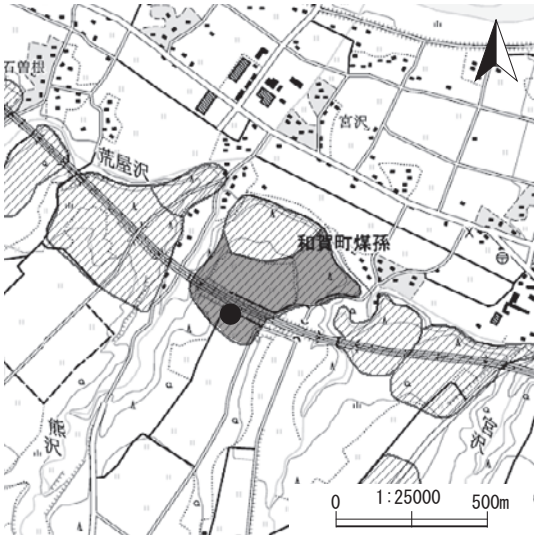


写真図版７　花曽根上遺跡出土遺物（２）

２　経営体育成基盤整備事業

上須々孫遺跡（ME63-1286）

所 在 地：北上市和賀町煤孫第３地割地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年12月19日（火）～21日（木）



第14図　上須々孫遺跡位置図

１　調査の概要

本遺跡は、北上市役所から西に約9.6kmの和賀川南岸の河岸段丘末端に立地する。過去に、秋田自動車道建設事業に伴う発掘調査（1992『林崎館遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第163集、以下「過去調査」）が行われ、縄文時代中期を中心とした集落遺跡であることが判明している。現況は水田及び道路で、現地標高は129～132mである。

事業は圃場整備に係るパイプライン整備によるもので、平成29年９月に当課で実施した試掘調査によって土坑状遺構２基を検出した。来年度の作付けに影響を及ぼすなど急を要するため、止むを得ず記録保存のための発掘調査を実施した。調査範囲は約29㎡である。

基本層序は以下のとおりである。

Ⅰ層　褐灰色土　　層厚　15cm　シルト層　表土・造成土（農道用敷砂利等）
Ⅱ層　褐色土　　層厚　30cm　シルト層　造成土（礫多量）
Ⅲ層　灰オリーブ色土　層厚　30cm　シルト層　造成土（砂礫含）
Ⅳ層　黒褐色土　　層厚　10cm　シルト層　自然堆積層　粘性：やや強　しまり：疎
※北側の一部分のみ。
Ⅴ層　褐色土　　層厚　不明　シルト層　遺構検出面　粘性：弱　しまり：密

Ⅰ～Ⅲ層までが現代の道路等に伴う造成土であり、調査区北側の一部（SK01付近）にわずかに旧表土と思われるⅣ層が確認できた。しかし、大部分は、Ⅲ層直下にⅤ層が堆積している状況から、Ⅴ層の上面まで削平を受けているものと思われる。なお、遺構外には遺物が全く見られなかった。

調査の結果、試掘調査で確認したとおり、土坑２基（SK01、SK02）をⅤ層上面で検出した。

２　検出遺構（土坑）について

【SK01】

〔規模・形状〕上端が最大径89.8㎝、下端が最大径119.1㎝、深さが102.7㎝の、平面が円形で、 断面形状がいわゆるフラスコ状である。床面は、開口部に比べるとやや楕円形である。埋土第６層直下の村崎野軽石堆積層まで掘り込み形成されている。

〔埋土〕６層からなり、各層ともレンズ状に堆積しており自然堆積層と思われる。

〔遺物〕縄文土器片（総重量：約9.33kg）及び石器（総重量：約2.01kg）である。土器・石器とも第６層からの出土がほとんどである。

〔用途〕形状から、貯蔵穴として利用されたと考えられる。

〔時代〕出土遺物から、縄文時代中期中葉（大木８ｂ式期）と考えられる。

【SK02】

〔規模・形状〕上端が最大径131.0㎝、下端が最大径173.6㎝、深さが76.1㎝の、平面が円形で、断面形状がいわゆるフラスコ状である。埋土第５層直下の村崎野軽石堆積層まで掘り込み形成されている。

〔埋土〕上面が削平されているため詳細は不明である。１・２層はレンズ状に堆積しているため、自然堆積と思われるが、遺物が大量に混入している。４層・５層は人為的な堆積と考えられる。４層は固く締まっており、雑物の混入もわずかであるため使用時の底面とも考えられる。５層についても、４層ほどではないが固く締まっており、人為的な堆積と考えられる。

〔遺物〕縄文土器片（総重量：約3.61kg）及び石器（総重量：約3.16kg）である。土器・石器とも第１層からの出土がほとんどである。

〔用途〕形状から、貯蔵穴として利用されたと考えられる。

〔時代〕出土遺物から、縄文時代中期中葉（大木８ｂ式期）と考えられる。

〔その他〕過去に岩手県文化振興事業団岩手県埋蔵文化財センターが調査した土坑（1992『林崎館遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第163集、P83・86・87、ⅣG－1号ピット）と同じ遺構である。前回、調査区外のため未発掘であった部分を追加調査した形となる。埋土を見ると前回調査時に確認できた１・２層にあたる土層は確認できなかった。また、深さが前回調査時と比べ約36cm程度浅いことから、上面が大きく削平されているものと思われる。遺物は、前回調査時と同時期の土器が出土している。

３　まとめ

過去調査によると、本遺構の周辺に竪穴建物跡や同形状の土坑が検出されており、今回調査で検出した土坑も、これらに付随するものであり、貯蔵穴としての使用後、土器等が廃棄されたものと考えられる。形成時期については、出土した土器型式から判断すると、いずれも縄文時代中期中葉（大木８b式期）が想定される。過去調査でも、出土遺物の大部分が当該時期のものであり、今回調査で改めてそのことが確認された。完形の土器が皆無であり、断片的な情報での推察となるが、文様構成等から判断すると、大木８b式の中でも、古い段階に相当するものがほとんどであり、比較的限定された時期を中心とした集落跡であることがうかがえる。

＜主要引用参考文献＞

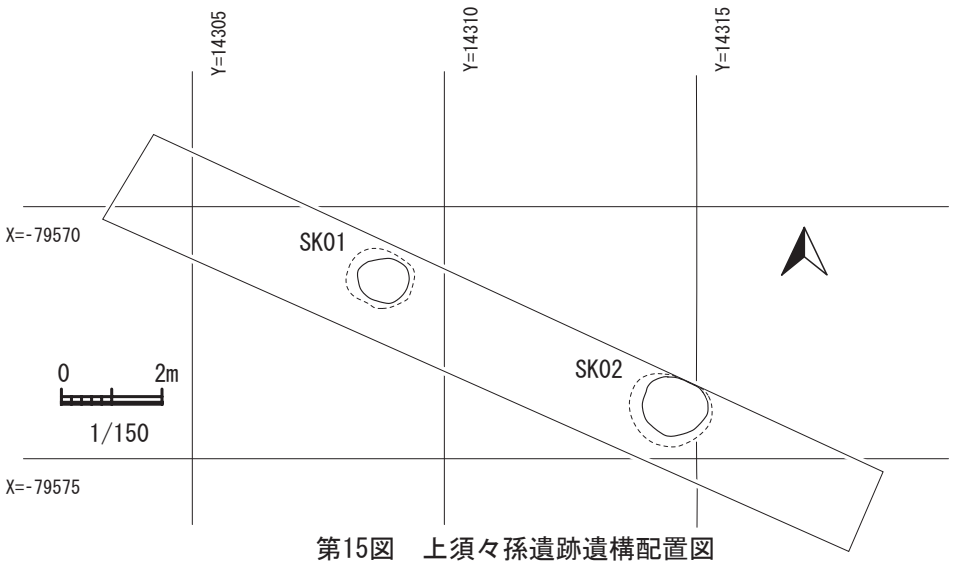
(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1992 『林崎館遺跡発掘調査報告書』(岩埋文第163集)

(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　2018 『浜川目沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』Ⅰ～Ⅲ (岩埋文第689集)

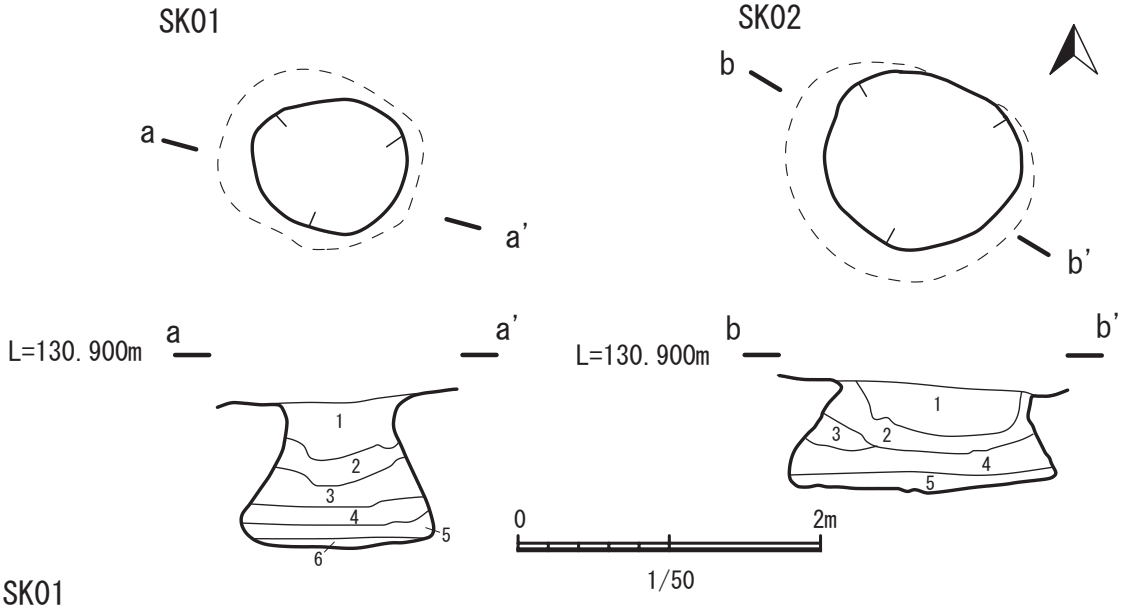
高橋憲太郎　1982 『柿ノ木平遺跡』(盛岡市文化財調査報告書第23集)

盛岡市教育委員会　2004 『縄文の彩華－中期の技と美－』(盛岡市遺跡の学び館)

岩田　貴之　2004 「大木８式土器小考－鳩岡崎上の台遺跡出土資料の分析から－」『岩手考古学』　第16号　17－24頁



第15図　上須々孫遺跡遺構配置図



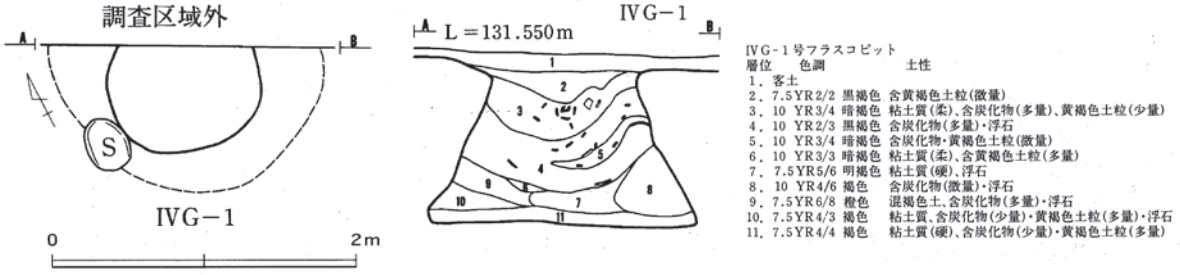
SK01

1.10YR3/6 暗褐色シルト　粘性:強　締り:密　遺物あり、浮石、炭化物（微）
2.10YR4/6 にぶい黄褐色シルト　粘性:強　締り:密　遺物なし
3.10YR3/6 暗褐色シルト　粘性:強　締り:密　遺物あり
4.10YR3/1 黒褐色砂質シルト　粘性:弱　締り:疎　遺物あり
5.10YR3/3 暗褐色砂質シルト　粘性:弱　締り:疎　遺物なし
6.10YR4/6 褐色砂質シルト　粘性:弱　締り:疎　遺物あり（多）、礫（多）

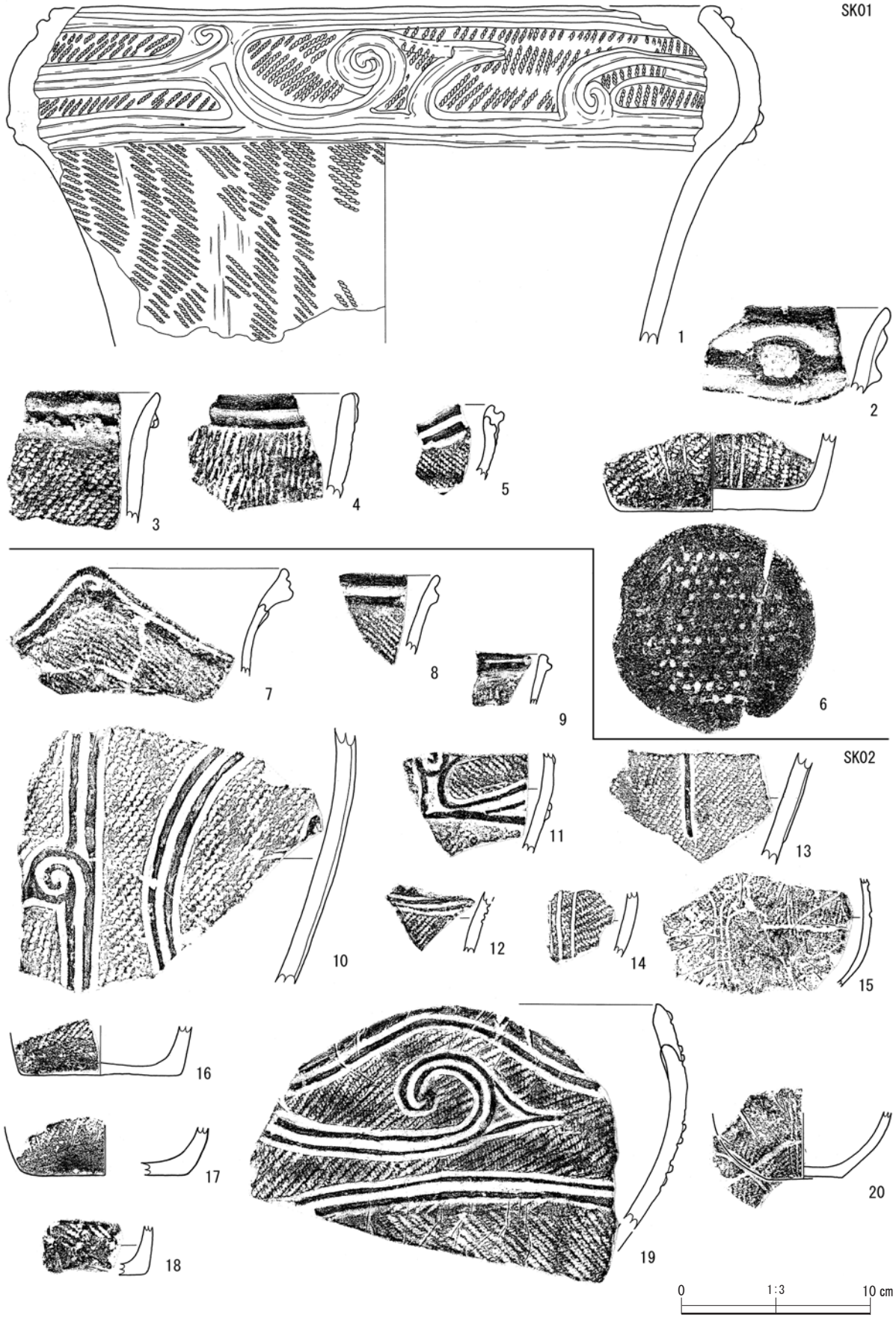
SK02

1.10YR3/4　暗褐色粘土質シルト　粘性:やや強　締り:密　含炭化物（多）、含黄褐色土粒（少）、浮石、遺物あり
2.10YR3/2　黒褐色シルト　粘性:弱　締り:疎　含炭化物（多）、含黄褐色土粒（多）、浮石、遺物あり
3.10YR3/4　暗褐色粘土質シルト　粘性:やや強　締り:密　含炭化物（多）、浮石
4.7.5YR5/6 明褐色粘土質シルト　粘性:強　締り:密　浮石、硬化面、遺物なし、底面か
5.7.5YR4/4 褐色粘土質シルト　粘性:やや強　締り:密　含黄褐色土粒（多）、遺物なし

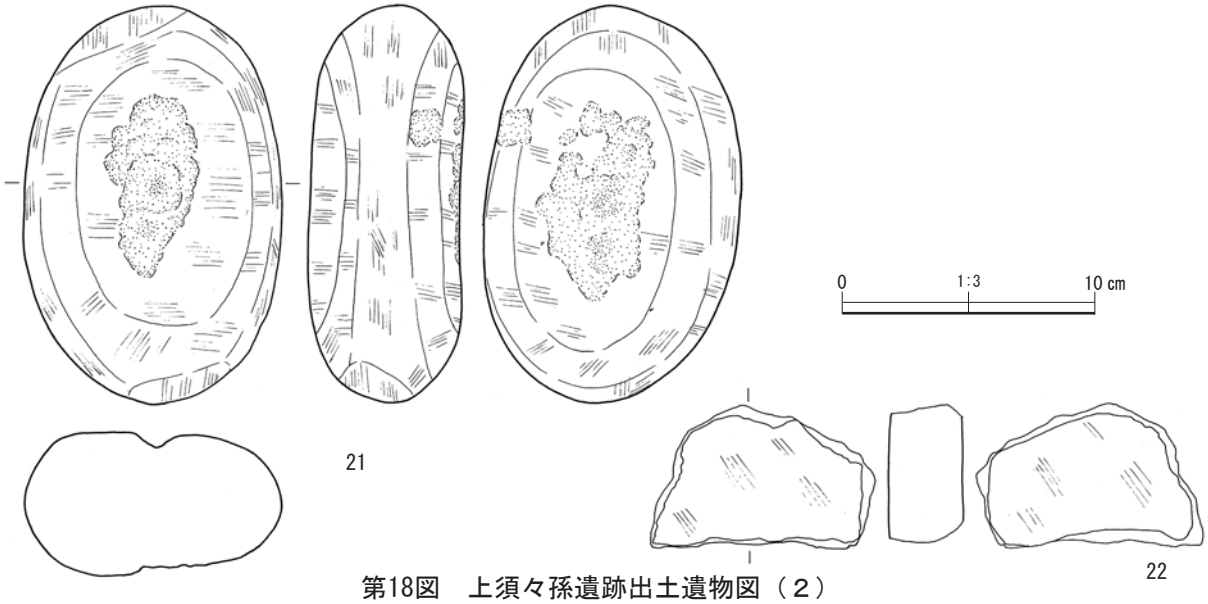
［参考］　過去調査土坑IVG-1（SK02と同遺構）平面図・断面図（過去調査報告書掲載図版を一部加工）



第16図　上須々孫遺跡検出遺構図



第17図　上須々孫遺跡出土遺物図（１）



第18図　上須々孫遺跡出土遺物図（２）

第５表　上須々孫遺跡出土遺物観察表

土器

番号	器種	出土地点	出土層位	残存部位	外面文様・調整 ※番号は施文の順番	内面文様・調整	色調 上段：外面 下段：内面	混入物	時期・型式	付着物	焼成	その他特徴・備考
1	深鉢	SK01	埋土６層	口縁部～胴部	〔口縁部〕①LR横（０段３条） ②隆沈線で横位に展開する有棘渦巻文 ※部分的に横位に縄文を擦消 〔胴部〕①LR縦（０段３条） ②口縁部に平行する複数条の隆沈線で口縁部と胴部を区画 ※部分的に縦位に縄文を擦消か	ナデ	にぶい橙 にぶい橙	長、英	大木８ｂ式期（旧段階）	〔内面〕コゲ	やや不良	・平縁 ・部分的に隆線が剥落している箇所あり ・〔口径〕34.0cm（推定値） ・〔器高〕17.8cm（残存値）
2	深鉢	SK01	埋土１層	口縁部	・粘土紐貼付による円文 ・口唇部ナデ	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	長、英	中期	－	やや不良	－
3	深鉢	SK01	埋土６層	口縁部	①LRL縦か ②口縁部に横位の粘土紐貼、粘土紐に縄文圧痕による斜位の刻み ・口唇部ナデ	ナデ	灰黄褐 にぶい黄橙	長、英	中期	－	良	－
4	深鉢	SK01	埋土６層	口縁部	①単軸絡条体1類（Ｒ） ②口縁部に隆帯貼り付け	ナデ	明黄褐橙	長、英	中期	－	不良	－
5	深鉢	SK01	埋土６層	口縁部	①RLR横 ②口唇部直下に口縁形状に沿って粘土紐貼付、口唇部ナデ ・口唇部に凹状沈線	ミガキ	黄橙黄橙	英	中期	－	良	・波状口縁
6	深鉢	SK01	埋土６層	底部～胴部	〔胴部〕①地文（LR縦か） ②縦位の沈線 〔底部〕編物痕（ゴザ目か）あり	不明	橙全面コゲ	長、英	中期	〔内面〕コゲ	やや不良	・全体的に摩滅 ・〔底径〕10.3cm ・〔器高〕3.9cm（残存値）
7	深鉢	SK02	埋土１層	口縁部	①LR縦縄文 ②口唇部隆帯張付、口唇部に１条の沈線、波頂部に渦巻文	ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	長、英	大木８ｂ式期	－	やや不良	・頂部が山形の波状口縁 ・21の直上に重なって出土
8	深鉢	SK02	埋土１層	口縁部	①LR縦 ②口縁部隆帯張付 ③口唇部沈線、ナデ	ナデ	灰黄褐 にぶい黄橙	長、英	中期	〔口縁部〕コゲ	やや不良	－
9	深鉢	SK02	埋土１層	口縁部	①地文 ②口唇部隆帯張付、口唇部に１条の沈線	不明	にぶい黄橙 にぶい黄橙	長、英	中期	－	良	－
10	深鉢	SK02	埋土１層	胴部片	①RLR縦縄文 ②２条隆沈線による縦位の有棘渦巻文 ※隆沈線の頂部が平坦に整形	ミガキ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	長、英	大木８ｂ式期 ※新段階の可能性あり	－	不良	・輪積痕あり
11	深鉢	SK02	埋土１層	口縁部片	①LR縦 ②隆沈線による渦巻文	ナデ	にぶい黄褐 明黄褐	長、英	大木８ｂ式期（旧段階）	－	良	－
12	深鉢	SK02	埋土１層	胴部	①RL縦 ②横位の２～３条の沈線	不明	にぶい黄橙 明黄褐	長、英	中期	〔外面〕コゲ	不良	－
13	深鉢	SK02	埋土１層	胴部	①RL縦 ②粘土紐による懸垂文	ナデ	にぶい橙 にぶい黄橙	長、英	大木８ｂ式期（旧段階）	－	やや不良	－
14	深鉢か	SK02	埋土１層	胴部	①RL縦 ②２条の縦位平行沈線	ナデ	灰黄褐 黒褐	長、英、雲	中期	－	良	－
15	深鉢	SK02	埋土１層	胴部	①RL縦か ②２条の沈線による渦巻文	不明	橙 にぶい褐	長、英	大木８ｂ式期（旧段階）	〔内面〕コゲ	不良	・全体的に摩滅
16	深鉢	SK02	埋土１層	底部～胴部	〔胴部〕RL縦	不明	にぶい黄褐 褐	長、英	中期	－	やや不良	・全体的に摩滅 ・〔底径〕8.6cm（推定値） ・〔器高〕2.6cm（残存値）
17	深鉢	SK02	埋土１層	底部～胴部	〔胴部〕地文（不鮮明）	不明	にぶい黄橙 浅黄橙	長、英	中期	－	やや不良	・全体的に摩滅 ・〔底径〕9.0cm（推定値） ・〔器高〕2.5cm（残存値）
18	深鉢	SK02	埋土１層	底部～胴部	〔胴部〕RL縦	不明	にぶい橙 褐灰	長、英	中期	〔内面〕コゲ	やや不良	・全体的に摩滅
19	深鉢	SK02	埋土２層	口縁部	〔口縁部〕①LR横（０段多条か） ②隆沈線で横位に展開する有棘渦巻文 〔胴部〕①LR縦（０段多条か） ②２条隆沈線で口縁部と胴部を区画	ナデ	にぶい黄橙 にぶい黄橙	長、英	大木８ｂ式期（旧段階）	－	やや不良	・頂部弧状の波状口縁
20	深鉢か	SK02	埋土２層	底部～胴部	①地文（不鮮明） ②２条または３条の縦位の平行沈線	不明	明黄褐褐	長、英	中期	－	不良	・全体的に摩滅 ・上げ底 ・〔底径〕4.0cm（推定値） ・〔器高〕3.5cm（残存値）

石器

番号	器種	出土地点	出土層位	残存状況	石材	色調	重さ（g）	付着物	備考
21	凹石	SK02	埋土１層	完形	凝灰岩	明緑灰	1016.0	－	・〔縦〕15.7×〔横〕10.2×〔高〕6.1cm
22	敲磨器類	SK02	埋土１層	全周欠損	輝石安山岩	灰黄	260.4	－	・〔縦〕5.7×〔横〕8.9×〔高〕2.9cm（残存値）

調査区全景　調査前（南東から）

調査区全景　遺構検出状況（北西から）

SK01検出状況（南東から）

SK02検出状況（北西から）

SK02断面（南西から）

SK01完掘状況（南東から）

SK02完掘状況（南東から）

調査区全景完掘状況（南東から）

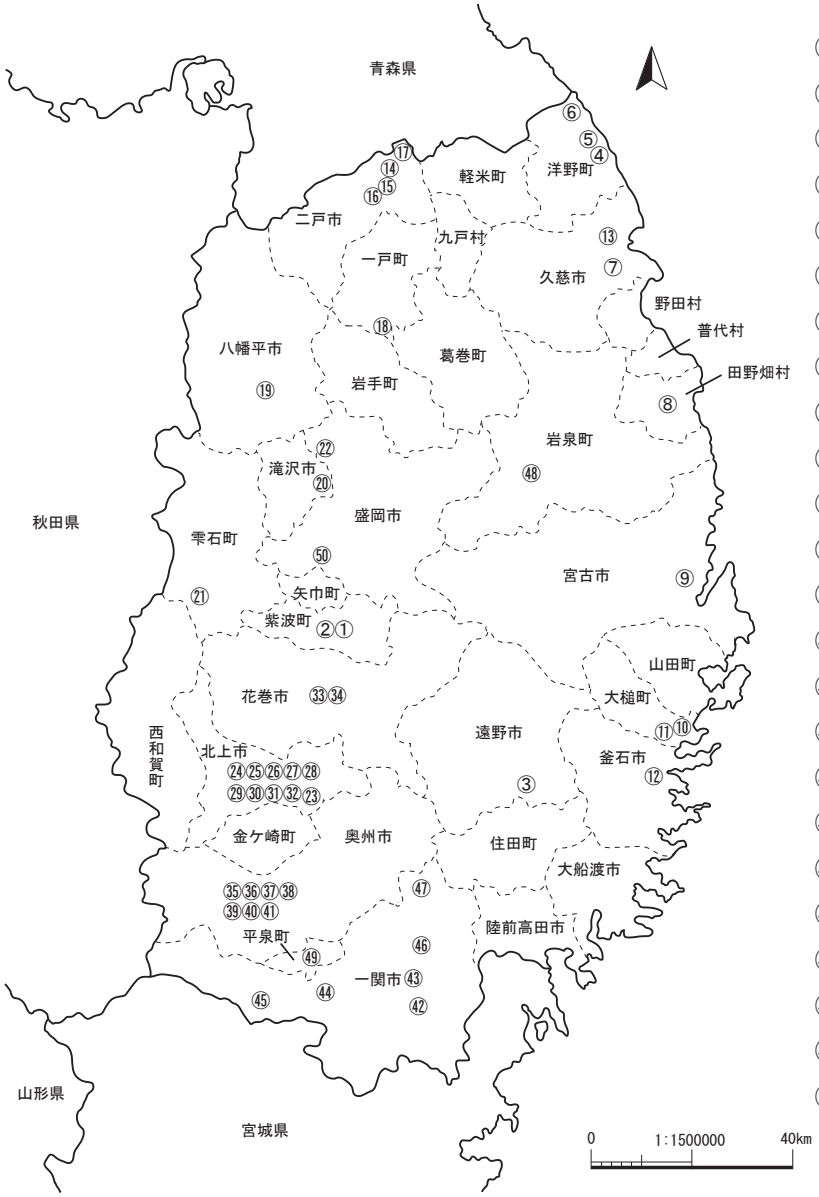
写真図版８　上須々孫遺跡検出遺構

写真図版９　上須々孫遺跡出土遺物（１）

写真図版10　上須々孫遺跡出土遺物（２）

Ⅱ　試掘調査

① 北条館跡ほか（紫波町）
② 北日詰東ノ坊Ⅱ・Ⅲ遺跡（紫波町）
③ 平野原Ⅱ遺跡（遠野市）
④ 鹿糠浜Ⅰ遺跡（洋野町）
⑤ 板橋Ⅱ遺跡（洋野町）
⑥ 伝吉Ⅰ遺跡（洋野町）
⑦ 芦ケ沢Ⅱ遺跡（久慈市）
⑧ 浜岩泉Ⅵ遺跡（田野畑村）
⑨ 千徳城遺跡群（宮古市）
⑩ 新館跡（大槌町）
⑪ 辺地沢Ⅰ遺跡（大槌町）
⑫ 荒川砂子渡遺跡（釜石市）
⑬ 外里遺跡（久慈市）
⑭ 佐々木館跡（二戸市）
⑮ 上平Ⅲ遺跡（二戸市）
⑯ 火行塚遺跡（二戸市）
⑰ 段ノ越遺跡（二戸市）
⑱ 椛ノ木Ⅲ遺跡（一戸町）
⑲ 椛沢Ⅱ遺跡（八幡平市）
⑳ 葉の木沢Ⅰ遺跡（滝沢市）
㉑ はたふく遺跡ほか(雫石町)
㉒ 八幡館遺跡（盛岡市）
㉓ 高前壇Ⅱ遺跡（北上市）
㉔ 花曽根上遺跡（北上市）
㉕ 新田遺跡（北上市）
㉖ 梅ノ木台地Ⅱ遺跡ほか（北上市）
㉗ 望野Ⅱ遺跡（北上市）
㉘ 法量野Ⅰ・Ⅱ遺跡(北上市)
㉙ 煤孫遺跡ほか（北上市）
㉚ 旭ケ丘遺跡（北上市）
㉛ 上反町遺跡（北上市）
㉜ 上須々孫遺跡（北上市）
㉝ 万丁目遺跡（花巻市）
㉞ 種市遺跡ほか（花巻市）
㉟ 赤剥東遺跡ほか（奥州市）
㊱ 赤剥遺跡（奥州市）
㊲ 山田城跡ほか（奥州市）
㊳ 宮沢原Ⅱ遺跡ほか(奥州市)
㊴ 森下遺跡ほか（奥州市）
㊵ 糀谷田遺跡（奥州市）
㊶ 北赤堰遺跡（奥州市）
㊷ 千厩城跡（一関市）
㊸ 長平遺跡ほか（一関市）
㊹ 中島遺跡（一関市）
㊺ 栃倉館跡（一関市）
㊻ 和田沢遺跡（一関市）
㊼ 可能性あり１（一関市）
㊽ 松林Ⅰ遺跡（岩泉町）
㊾ 祇園Ⅰ遺跡ほか（平泉町）
㊿ 間渡Ⅰ遺跡ほか（盛岡市）



第19図　試掘調査位置図

1　北上川中流部緊急治水対策事業

北条館跡（LE77-0164）及び隣接地
北日詰城内Ⅰ遺跡（LE77-0194）及び隣接地
南日詰大銀Ⅱ遺跡（LE77-1104）

所 在 地：紫波郡紫波町北日詰字城内地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所

調査期日：平成29年４月10日（月）～13日（木）

今回の事業は緊急治水対策事業の一環で建設される築堤工事に伴う調査である。事業予定地は紫波町役場から南南東へ約2.1㎞、標高約90ｍを測る北上川右岸の低位段丘に立地している。事業に係り以下の周知の埋蔵文化財包蔵地の調査を行った。

第20図　北条館跡ほか位置図

【北条館跡及び隣接地】

調査区域は館跡の東側で、現況は水田及び畑地である。館跡の南辺には堀の痕跡と思われる水路が見られ、西側の現道はかつて堀だったようである。調査区に試掘トレンチを15箇所設定した。調査の結果、調査区の東縁辺に設定した試掘トレンチの中で、Ｔ８では段丘礫層の上部に人工的に整地されたと思われるテラス状の地形を確認した。また、調査区の平坦部に設定したＴ９～13、Ｔ15で柱穴26基、住居跡と考えられる性格不明遺構５基、北上川への水路または道と考えられる溝状遺構を４条確認した。Ｔ14では土師器片や炭化物が出土し、建物跡が存在すると考えられる。

今回の試掘調査での出土遺物は少ないが、北条館跡東境から事業地西境までの範囲について、古代の集落跡及び中世の館跡が所在する可能性が高い。

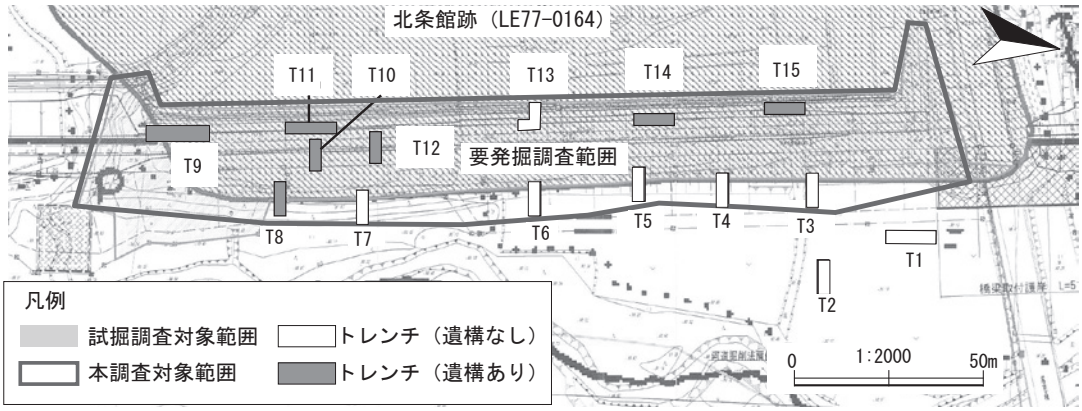
【北日詰城内Ⅰ遺跡及び隣接地】

調査区域は遺跡の中央部で、現況は水田及び畑地である。調査区に試掘トレンチを６箇所設定した。調査の結果、調査区北側の隣接地に設定したＴ１・２では田床の下部層が中礫層及び砂層となっていることを確認し旧河道であると考えられる。調査区中央の平坦部は、耕作による改変が見られるが、Ｔ３で焼土遺構１基、土坑２基、竪穴建物跡状遺構を３棟確認した。Ｔ４においても竪穴建物跡１棟、溝状遺構１条を確認した。竪穴建物跡は重複しているものもあり、ある程度時期差を持つ集落跡である可能性が高い。以上のことから、北日詰城内Ⅰ遺跡内に計画されている事業地範囲について、遺構・遺物が所在する可能性が高い。

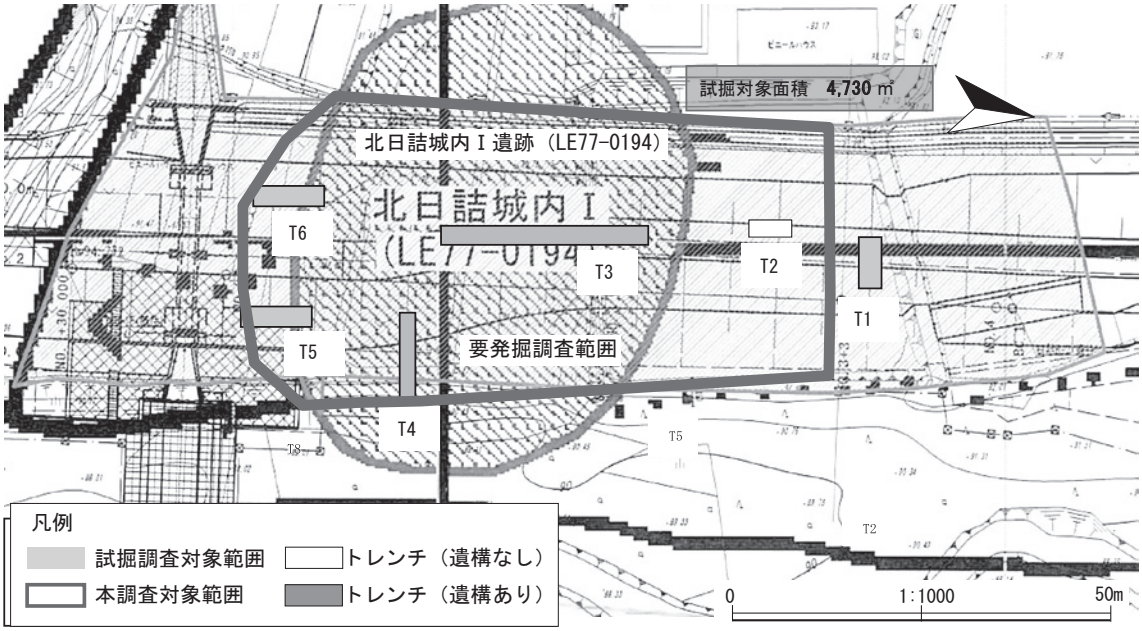
【南日詰大銀Ⅱ遺跡】

遺跡の北側には東西方向に旧河道が見られ、遺跡の範囲を区切っている。調査区域は、遺跡の北東部縁辺で、南境に衛生処理場が所在しており、現況は畑地である。調査区に試掘トレンチを３箇所設定した。調査の結果、調査区は耕作によって改変されており、地山（検出面）までの深さは0.3ｍ程度であることが判明した。表土にはその際に掘り起こされたと思われる土師器片が多く散布している。また、設定したトレンチＴ１で柱穴を６基、Ｔ２で３基、Ｔ３で３基検出した。以上のことから、南日詰大銀Ⅱ遺跡内に計画されている事業地範囲について、遺構・遺物が所在する可能性が高い。

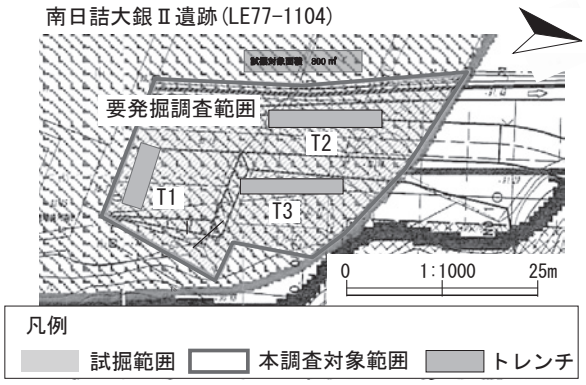
（いずれも平成30・31年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施）



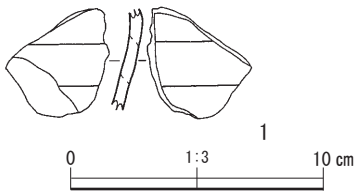
第21図　北条館跡及び隣接地調査位置図



第22図　北日詰城内Ⅰ遺跡及び隣接地調査位置図



第23図　南日詰大銀Ⅱ遺跡調査位置図



第24図　北条館跡及び隣接地出土遺物図

写真図版11　北条館跡及び隣接地出土遺物

第６表　北条館跡及び隣接地出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1			土師器	甕	胴部	－	－	－	－	内外面ヨコナデ

２　北日詰交差点改良事業（南日詰地区）

北日詰東ノ坊Ⅱ遺跡（LE77-0069）
（きたひづめとうのぼうにいせき）

北日詰東ノ坊Ⅲ遺跡（LE77-0078）
（きたひづめとうのぼうさんいせき）

所 在 地：紫波郡紫波町北日詰地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所

調査期日：平成30年３月15日（木）

紫波町役場から南南東2.2kmの位置にあり、標高は85m前後を測る。調査は国道４号沿いに歩道を設置することによるものである。

第25図　北日詰東ノ坊Ⅱ・Ⅲ遺跡位置図

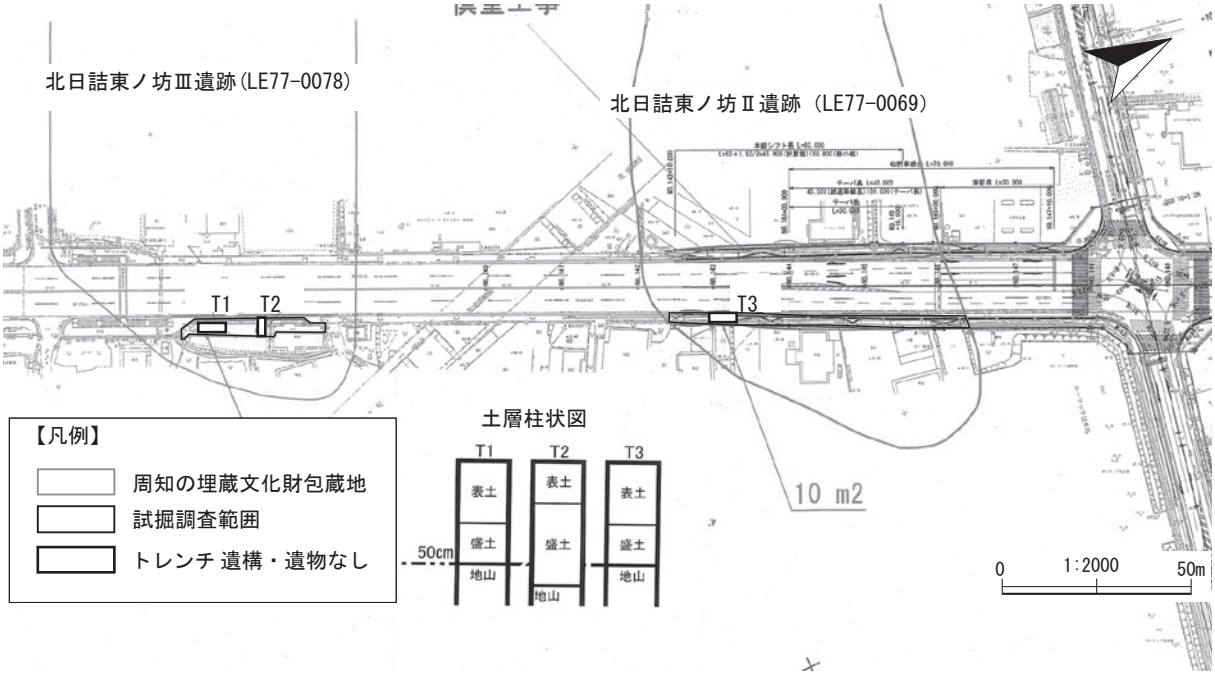
【北日詰東ノ坊Ⅱ遺跡】

南側には北日詰東ノ坊Ⅲ遺跡がある。現在、宅地や駐車場になっている区域については、分布調査の結果、すでに破壊されている可能性が高いことから、慎重工事としている。今回の試掘調査は草地となっている区域（約10㎡）を対象としている。調査の結果、人為的堆積層のみが確認され、遺構や遺物は発見できなかった。周囲と同様に、すでに削平されていることが判明した。

【北日詰東ノ坊Ⅲ遺跡】

南側で比爪館遺跡と隣接し、南東側には12世紀のかわらけが出土している南日詰小路口Ⅱ遺跡があり、古代から中世の遺跡が多い区域である。トレンチを２箇所設定して手掘りによる掘削を実施したのち、精査を行った。いずれのトレンチでも表土（畑地）の下は盛土（水田層）で、自然堆積層は確認できず、遺構や遺物も発見できなかった。地山は、すでに削平されていることが伺え、北側の住宅のコンクリート基盤が残っている区域も同様の状況と判断した。

（共に慎重工事）

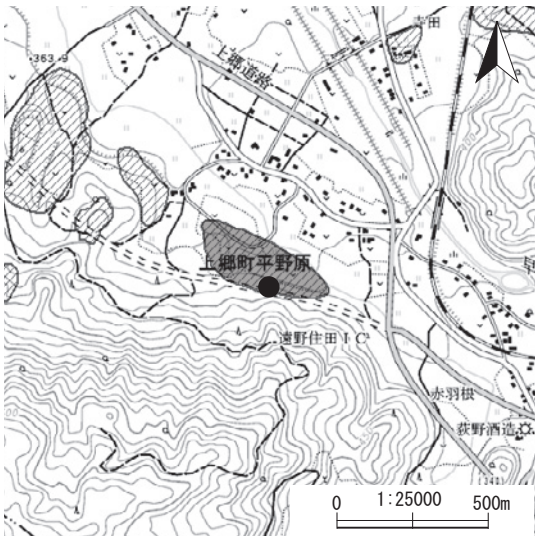


第26図　北日詰東ノ坊Ⅱ・Ⅲ遺跡調査位置図

３　東北横断自動車道釜石秋田線（遠野道路）

平野原（ひらのはら）Ⅱ（にせき）遺跡（MF76-0028）

所 在 地：遠野市上郷町平野原第２地割地内
事 業 者：国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所
調査期日：平成29年12月22日（金）

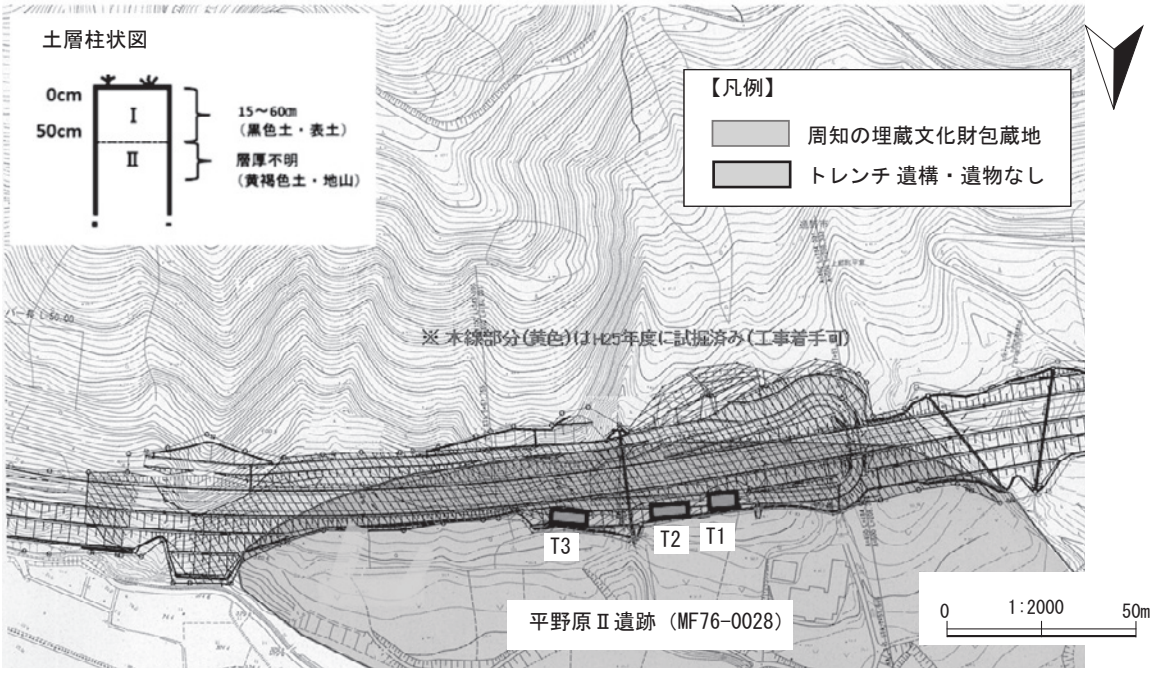


第27図　平野原Ⅱ遺跡位置図

調査対象地はＪＲ東日本釜石線平倉駅から西北西へ約1.5㎞、南側山稜から続く河岸段丘面上に立地し、標高は380～390mである。調査は除雪車転回施設の新規設置による設計変更に伴うもので、本線部分については平成25年６月に先行して試掘調査を実施しており、遺構は見つかっていない。今回の追加買収地については、より遺跡の中心に近く、後背山地からの土石流の影響も地表観察では見られなかったことから、比較的原地形が残っているものと推測される範囲を中心に、トレンチを３箇所設定し、試掘調査を行った。

その結果、西側のＴ１～２については、後背山地からの土石流の影響によるものと思われる大径の礫がⅡ層から多く検出された。また、沢を挟んだ東側のＴ３については、Ⅱ層（黄褐色土）中に厚く砂質土が分布していた。いずれのトレンチにおいても遺構や遺物は確認することはできなかった。

（慎重工事）



第28図　平野原Ⅱ遺跡調査位置図

4　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

鹿糠浜（かぬかはまいちいせき）Ⅰ遺跡（IF58-1399）隣接地

所 在 地：九戸郡洋野町種市第15地割地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

調査期日：平成29年７月６日(木)～７日(金)

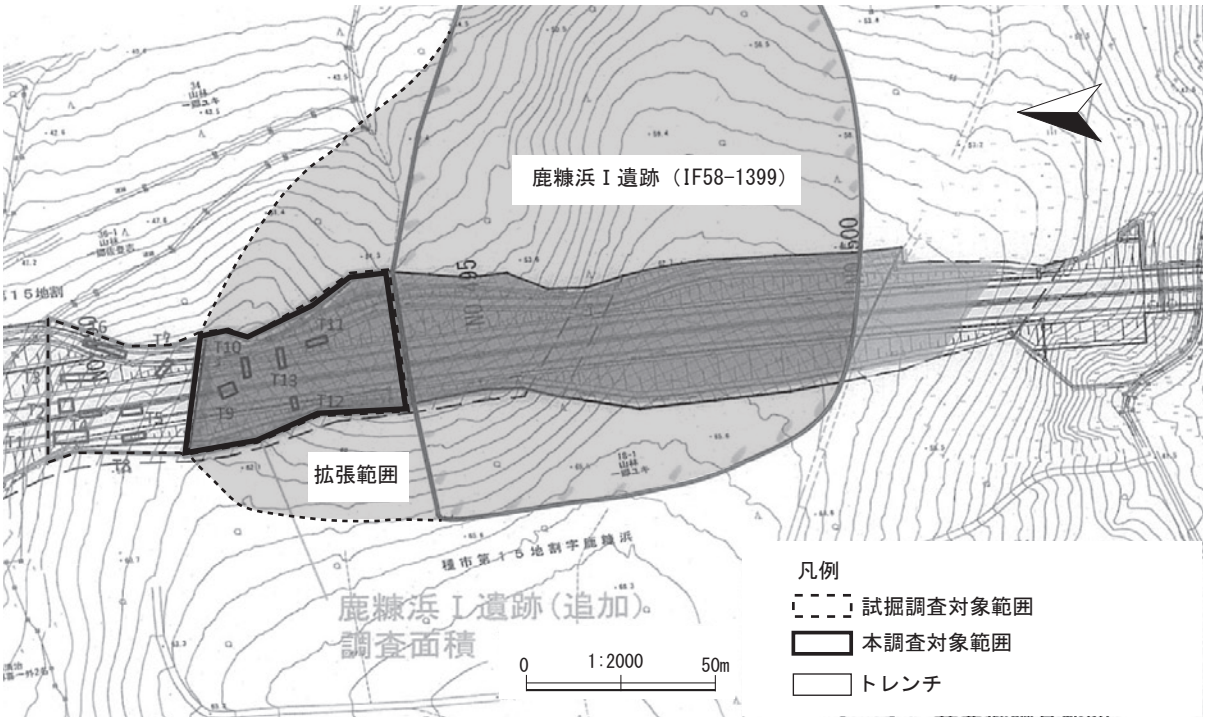
事業予定地は洋野町種市庁舎から南南東へ約2.4㎞に位置する。1.46～１億年前にできた花崗岩を基盤として、78.1～12.6万年前に形成された海岸段丘面上にある。標高は51～61ｍである。当該地南側では、平成29年度当初から県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施していたが、遺構がさらに北側へ続く可能性がでてきたことから、追加の試掘調査を委託者了解のもと実施したものである。

第29図　鹿糠浜Ⅰ遺跡位置図

基本土層は４層に区分した。Ⅱ層（黒色土）は斜面下側ほど厚くなるが、尾根部では削平を受けて薄い場所がある。Ⅲ層はⅡ層とⅣ層（鈍い褐色土）の漸移部で、場所と深さにより厚さが増減する。Ⅲ層とⅣ層には黄橙色の細粒軽石を混入することがあり、南側谷部で顕著である。

トレンチは13本設定した。Ｔ９ではⅡ層が厚く、約１ｍ下で地山を確認した。Ｔ12では琥珀１点と石製品片１点が出土した。琥珀は５㎜前後サイズに砕けており、残存状況から拳大サイズと推測される。石製品片は緑色の石材（凝灰岩か）を素材とする小型の石斧状破片である。基部が破損した長さ約２㎝、巾約２㎝、厚さ約0.5㎝で、先端部が石斧状に研磨されている。今回の調査では、すべてのトレンチで遺構は検出されなかったが、出土した遺物から鹿糠浜Ⅰ遺跡が本調査区まで広がる可能性がある。後日、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更手続きを行った。

（平成30年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施）



第30図　鹿糠浜Ⅰ遺跡隣接地調査位置図

５　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

板橋（いたばしにいせき）Ⅱ遺跡（IF58-0234）（旧可能性あり14）

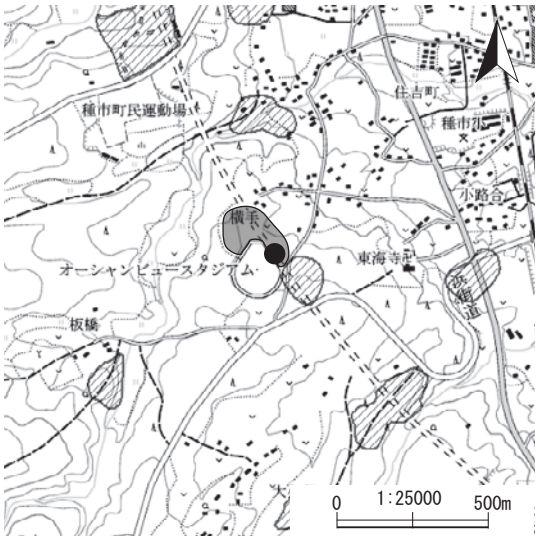
所 在 地：九戸郡洋野町種市第21地割 地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

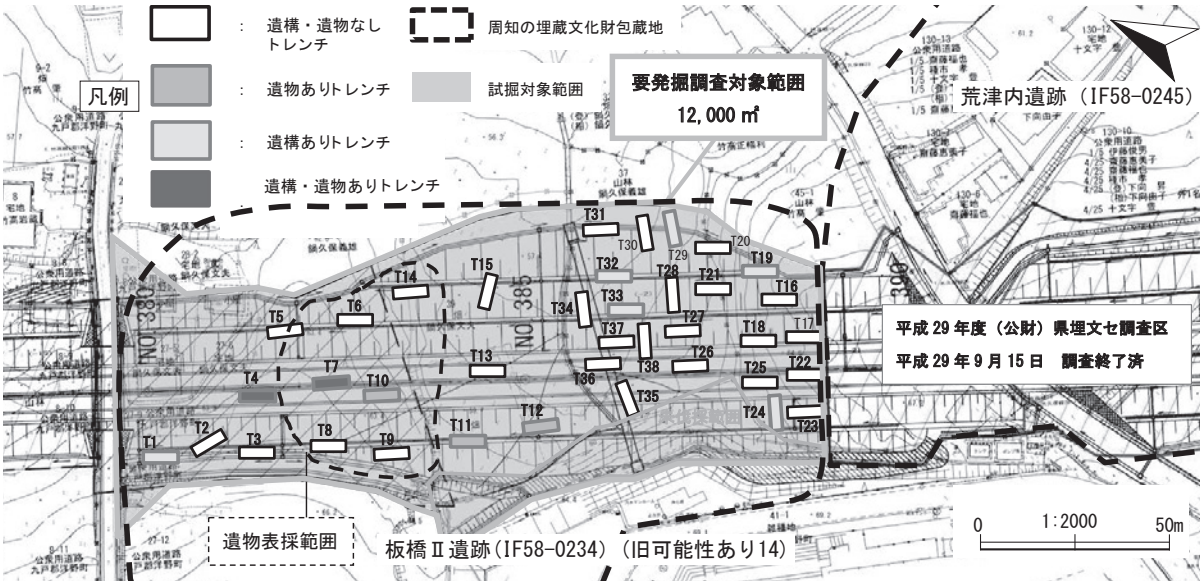
調査期日：平成30年２月14日（水）

調査対象地は洋野町役場から南西へ約1.2km、オーシャンビュースタジアム東側隣接地にあたり、標高は約57～66mを測る。調査区は荒津内遺跡（IF58-0245）の北側隣接地に位置する。調査ではトレンチを38箇所設定した。その結果、調査範囲全体にかけて遺構及び遺物が検出され、遺跡が広範囲に広がっていることが確認された。Ｔ１・24では長楕円形の陥し穴状遺構、Ｔ４では土坑、Ｔ７・32では焼土、Ｔ33では竪穴建物跡と考えられるプランを確認した。またＴ19・29では柱穴、Ｔ10～12では少量ではあるが土器や礫石器が出土した。また、調査区北寄り1/3付近（南向き斜面）に約１m～1.5m前後の東西にはしる小規模な段差があり、その下部に礫石器等の遺物が少量確認された。

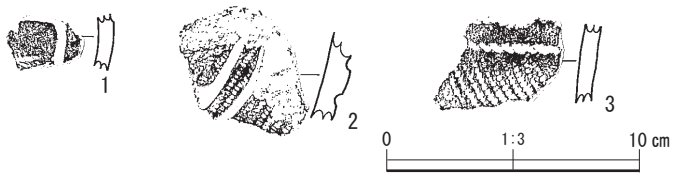
（平成30年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施）



第31図　板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14）位置図



第32図　板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14）調査位置図



第33図　板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14）出土遺物図

写真図版12　板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14）出土遺物

第７表　板橋Ⅱ遺跡（旧可能性あり14）出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	T7	表採	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	沈線
2	T7	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	LR縦、沈線
3	T10	Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	LR原体圧痕、LR縦

６　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

伝吉Ⅰ遺跡（IF37-2396）

所 在 地：九戸郡洋野町種市第44地割地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

調査期日：平成30年１月16日（火）

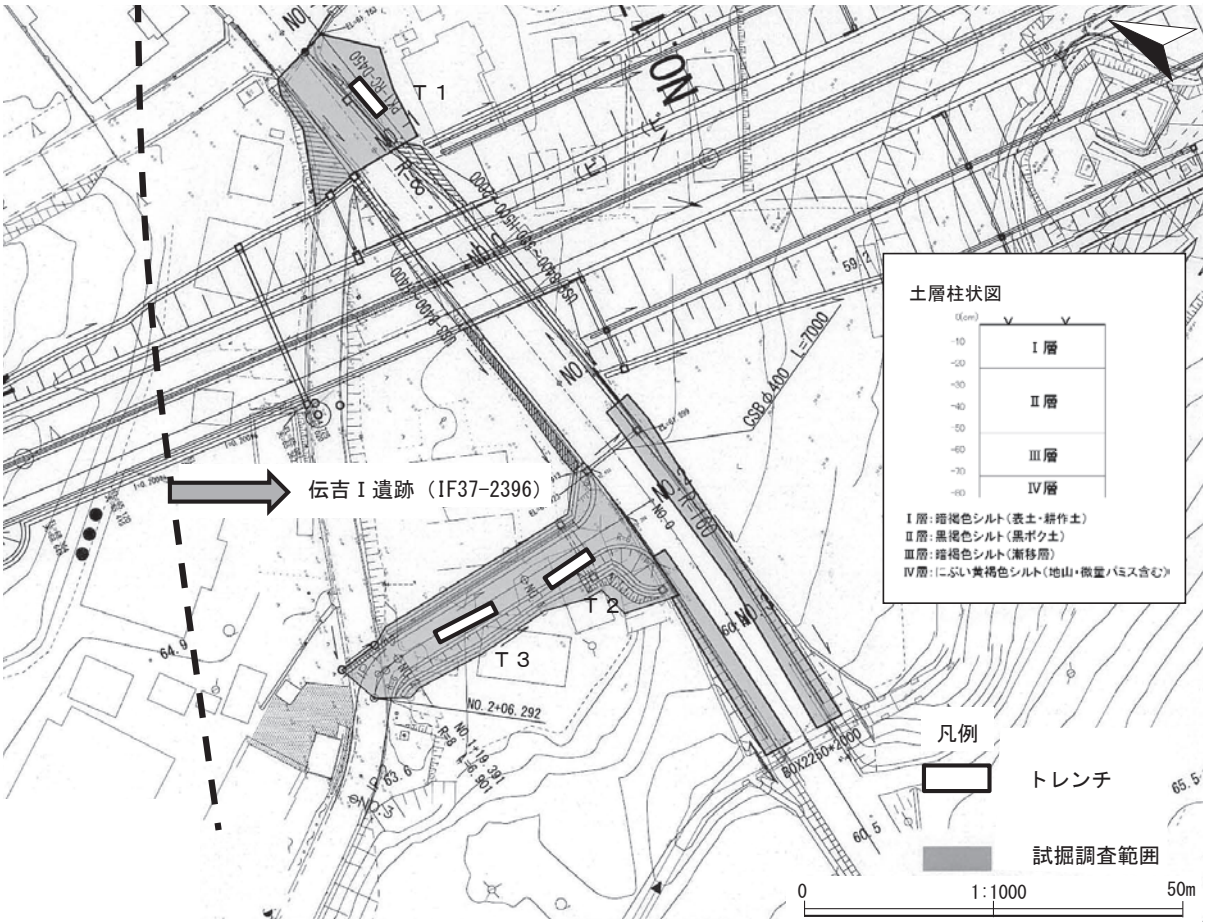
調査対象地は洋野町役場から西北西へ約4.4km、国道45号線西側の海岸段丘上に位置し、標高は約70mを測る。当該地は、平成28年度に県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った北ノ沢Ⅰ遺跡（IF47-0345）とは沢を挟んだ北東側にあたる。

第34図　伝吉Ⅰ遺跡位置図

当該試掘調査については、本線工事に先立つ町道の切替工事に伴うもので、交差点付近の狭小な調査区に１箇所（Ｔ１）、畑地・牛舎として使用されていた調査区に２箇所（Ｔ２～３）の合計３箇所設定し、遺構及び遺物等の有無、土層の確認を行った。

その結果、Ｔ２～３では黒褐色～暗褐色土までの自然堆積層が良好な状態で残存していたものの、いずれのトレンチからも遺構や遺物等は確認することはできなかった。

（慎重工事）



第35図　伝吉Ⅰ遺跡調査位置図

7　三陸沿岸道路（野田久慈道路）

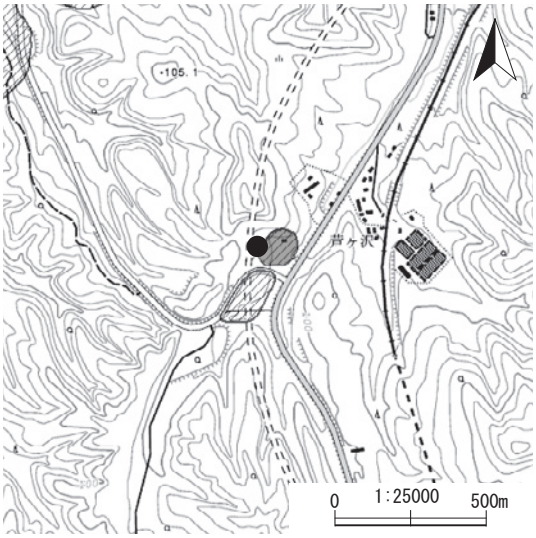
芦ケ沢Ⅱ遺跡（JF49-1304）及び隣接地

所 在 地：久慈市長内町第17地割地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

調査期日：平成29年６月８日(木)

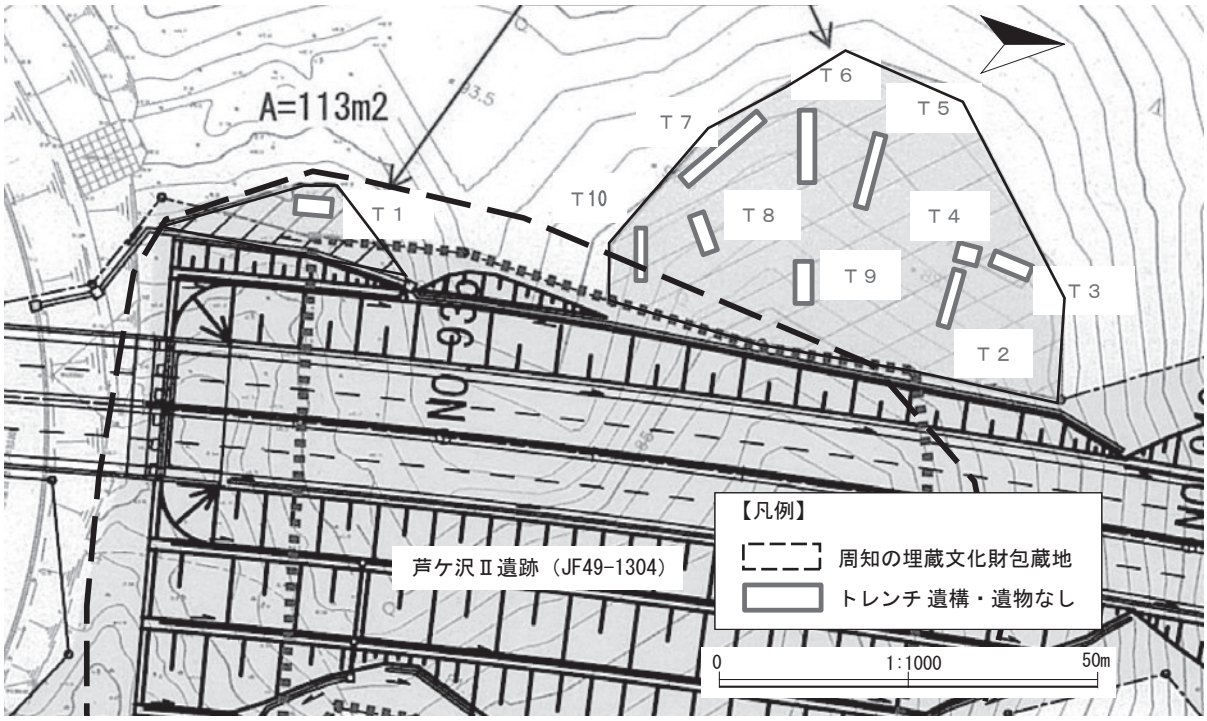
調査対象地は久慈市役所から南南西へ約4.5km、国道45号線西側の山地の中腹に位置し、標高は約90mを測る。当該地は、平成28年度に県埋蔵文化財センターが発掘調査を行った本線調査区の西側隣接地にあたり、追加のレベルバンク設置箇所が当該遺跡及び隣接地にあたることから、追加の試掘調査を実施することとなったものである。



第36図　芦ケ沢Ⅱ遺跡位置図

調査ではトレンチを10箇所（Ｔ１～10）設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。その結果、いずれのトレンチからも遺構及び遺物等は確認されなかった。調査区外西側には廃絶されて長時間経過した林道と原地形を改変した様子がみられ、その当時、発生した土砂がＴ６～９一帯に堆積したものと考えられる。

（慎重工事）

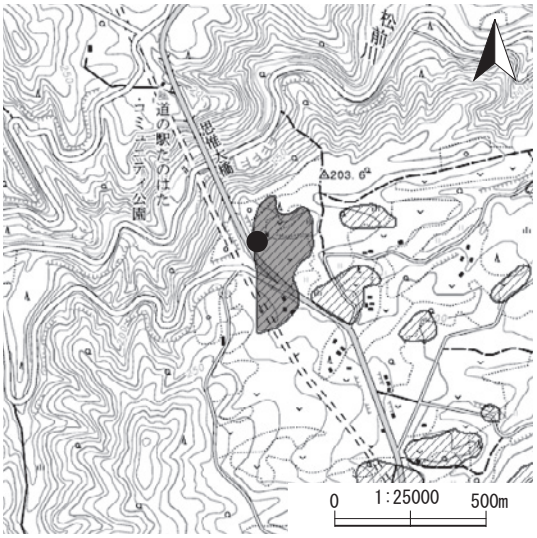


第37図　芦ケ沢Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図

８　三陸沿岸道路（田野畑道路）

浜岩泉Ⅵ遺跡（KG33-1030）及び隣接地

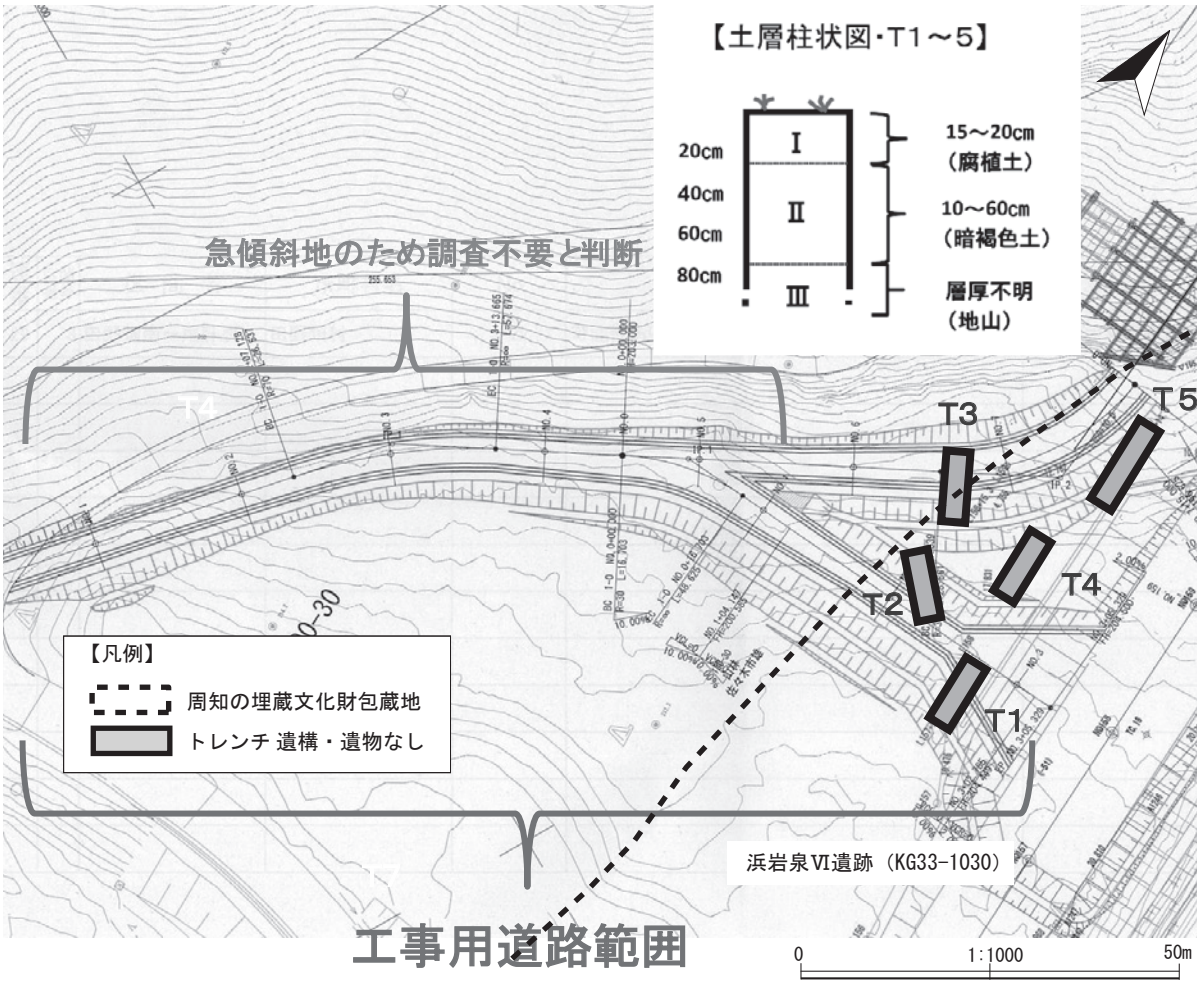
所 在 地：下閉伊郡田野畑村浜岩泉地内
事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
調査期日：平成29年７月25日（火）



第38図　浜岩泉Ⅵ遺跡位置図

調査対象地は、道の駅たのはたから南へ約0.4km、北側を東流する松前川によって画された標高200m前後を測る海岸段丘面の縁に立地する。当該地については、新思惟大橋の建設に伴う工事用道路の開削によるもので、本線部分については過去の試掘調査により工事着手可と判断されているものの、今回の対象地については、当該遺跡の西端部にあたり、遺跡外にも日当りのよい緩斜面地が続いていることから、追加の試掘調査を実施したものである。試掘にあたっては、遺構等が確認される可能性が高い緩斜面地を中心に、トレンチを５箇所（Ｔ１～５）設定し調査を行った。

その結果、いずれのトレンチにおいても攪乱等は見られず、ほぼ基本層序と同様な堆積状況を呈していたものの、遺構や遺物等は確認することができなかった。（慎重工事）



第39図　浜岩泉Ⅵ遺跡及び隣接地調査位置図

９　三陸沿岸道路（宮古田老道路）

千徳城遺跡群（LG33-0197）

所 在 地：宮古市千徳地内
事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
調査期日：平成29年８月１日(火)、
　　平成30年２月６日(火)

第40図　千徳城遺跡群位置図

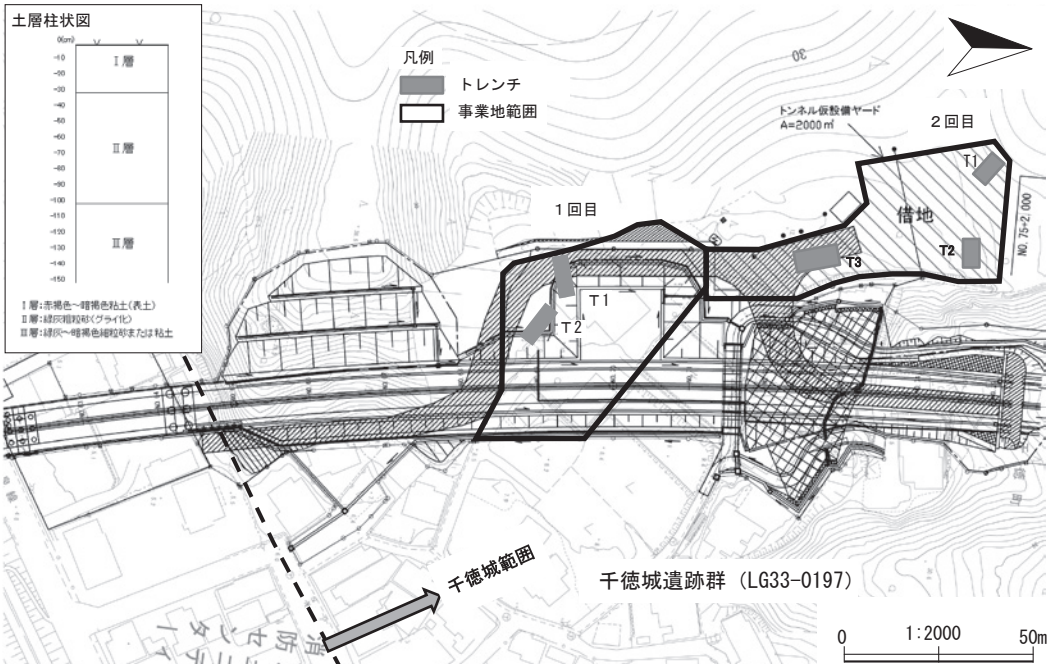
【１回目】

調査対象地は宮古市役所から西へ約３㎞、緩やかな北側山稜と閉伊川によって形成された沖積地との境界付近に位置し、標高は15m前後である。当該地の隣接地については、平成26年12月に道路予定地の試掘調査を実施しており、当該地を挟んだ北側山稜の緩斜面地と南側は遺構が確認されたことから、要本調査対象地となっている。試掘にあたっては、残存するコンクリート製の強固な住宅基礎部分を除き、造成の影響が及んでいない山稜縁を中心に、トレンチを２箇所設定し調査を行った。その結果、いずれのトレンチにおいても、隣接する沢の氾濫によるものと思われる砂質土が厚く堆積しており、地山と思われる層位からは湧水も見られ、遺構や遺物は確認することができなかった。

【２回目】

トレンチを３箇所設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。その結果、粗粒砂～細粒砂（粘土層含む）を主とする堆積物が厚く、層中には遺跡に関する遺構や遺物等は確認されなかった。谷地形で水はけが悪く、トレンチ底部からも湧水が見られた。厚く堆積していた砂層は風化花崗岩由来のもので、長年にわたり周辺地一帯から流入したものと推測される。

（慎重工事）



第41図　千徳城遺跡群調査位置図

10　一般国道45号復興（大槌町吉里吉里地区）

新館跡（しんだてあと）（MG33-0348）

所 在 地：上閉伊郡大槌町吉里吉里地内
事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
調査期日：平成29年５月31日（水）、９月20日（水）

調査対象地は大槌町役場から西北西へ約４km、吉里吉里海岸西側の海岸平坦地に張り出した尾根の突端部及び崖下で、標高は約10m～20mを測る。調査は一般国道45号の改良事業に伴うものである。

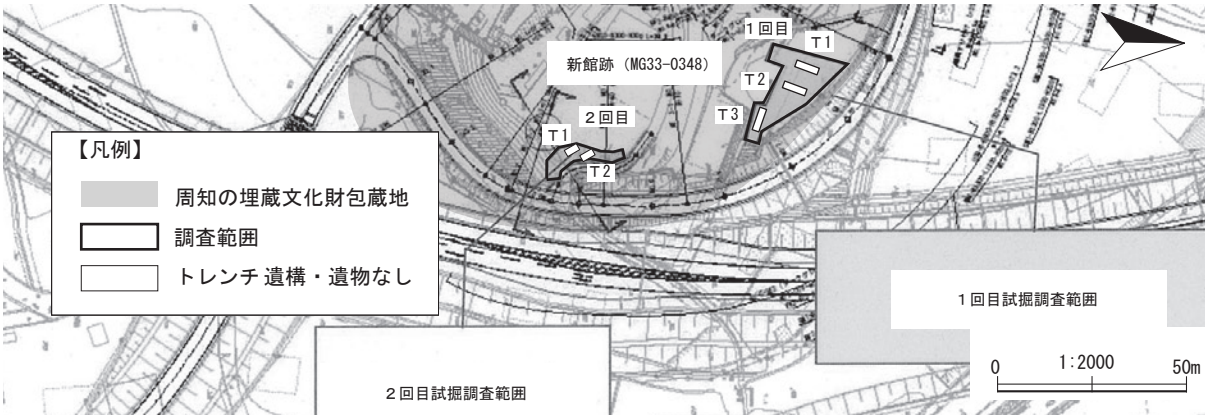
第42図　新館跡位置図

【１回目】

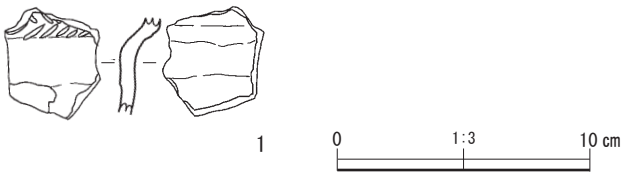
トレンチを３箇所設定した。その結果、いずれのトレンチにおいても廃棄物混じりの表土を除去すると極浅い面から黄褐色土の地山が露出し、遺構及び遺物等は確認されなかった。おそらく付近の擁壁施工時に原地形を削平改変したため、自然堆積層が失われてしまったものと考えられる。Ｔ１は地表から1.5mまでが撹乱土であった。

【２回目】

調査は個人住宅への導入路の設計が変更されたことに伴うもので、トレンチを２箇所設定した。その結果、Ｔ１の表土中から焜炉の一部が出土したものの、より下層の地山付近からは現代の陶磁器片等も確認され、庭土の客土か流れ込みによってもたらされたものと判断した。遺構についても確認することはできず、広く削平を受けていると考えられる。（共に慎重工事）



第43図　新館跡調査位置図



第44図　新館跡出土遺物図

写真図版13　新館跡出土遺物

第８表　新館跡出土遺物観察表

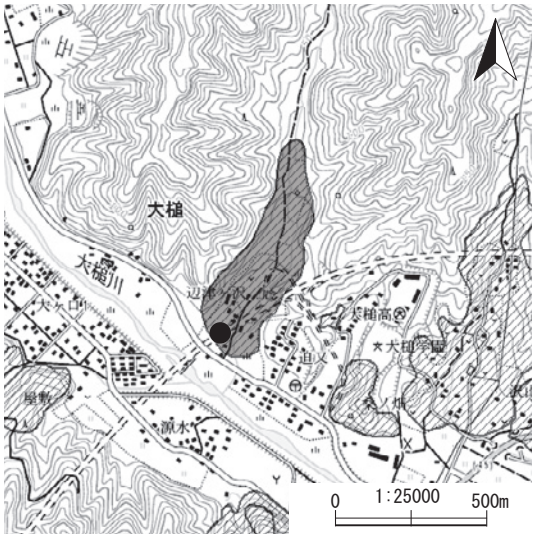
掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	T1	撹乱	土器	七厘・焜炉類	体部	－	－	－	－	縄目文様押型、近世～近代

11　三陸沿岸道路（釜石山田道路）

辺地沢（へんちがさわ）Ⅰ遺跡（いせき）（MG32-0359）

所 在 地：上閉伊郡大槌町大槌地内
事 業 者：国土交通省東北地方整備局
　　南三陸国道事務所
調査期日：平成29年５月10日(水)、11月７日(火)

調査対象地は、大槌町役場から北へ約1.5km、北側山稜から南流する辺津ヶ沢の堆積により形成されたものと思われる平坦地に立地し、標高は８ｍ前後である。当該調査については、三陸沿岸道路（釜石山田道路）の大槌ＩＣの建設工事に伴うものである。



第45図　辺地沢Ⅰ遺跡位置図

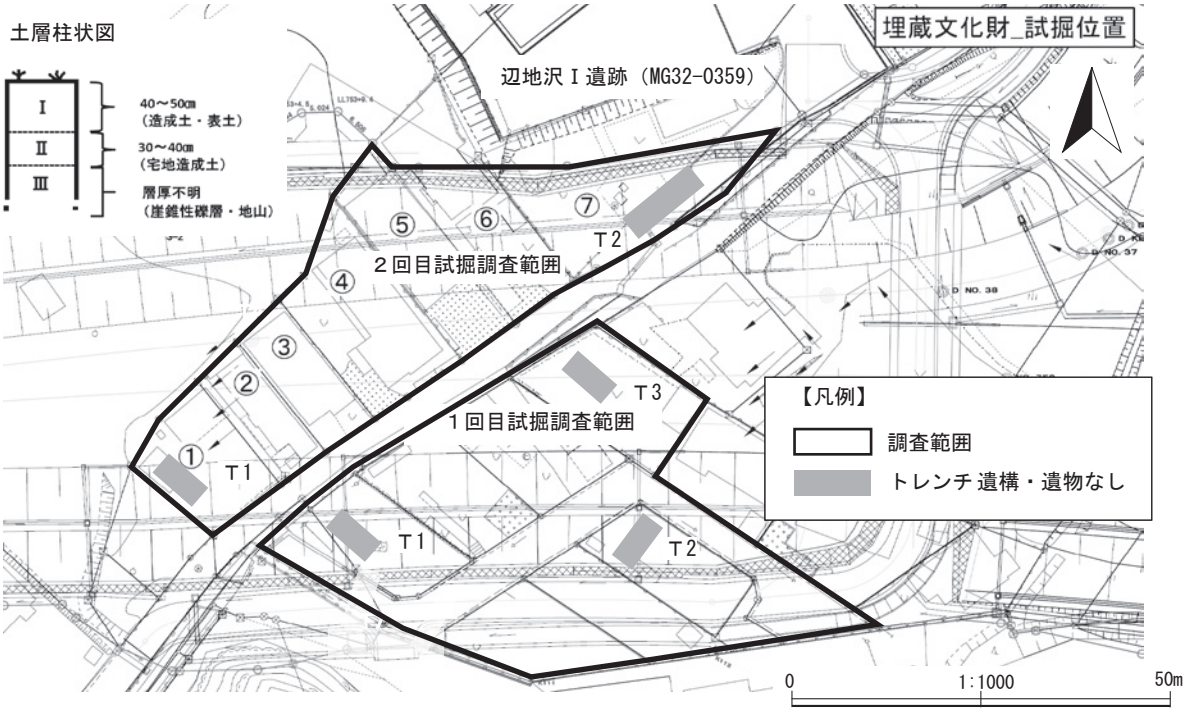
【１回目】

調査対象地には家屋の基礎等が随所に残存していることから、比較的造成の影響を受けにくい庭地や畑地部分を中心にトレンチを３箇所設定し調査を行った。その結果、いずれのトレンチにおいても深層まで及ぶ二度の造成痕が確認され、最下層では周辺地における過去の試掘結果と同様に、崖錐性の砂礫による地山層が見られた。遺構・遺物についても確認することはできなかった。

【２回目 】

トレンチを２箇所設定し調査を行った。その結果、いずれのトレンチにおいても深層まで及ぶ造成痕が確認された。遺構・遺物も確認することはできなかった。

（共に慎重工事）

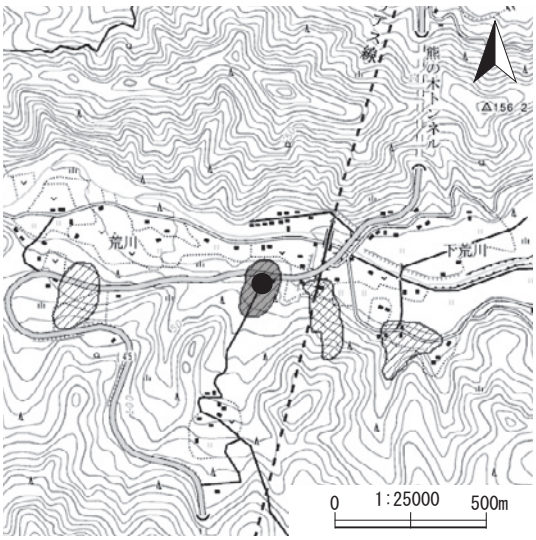


第46図　辺地沢Ⅰ遺跡調査位置図

12　三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）
釜石市道平林線切替工事

荒川砂子渡遺跡（MG92-2055）

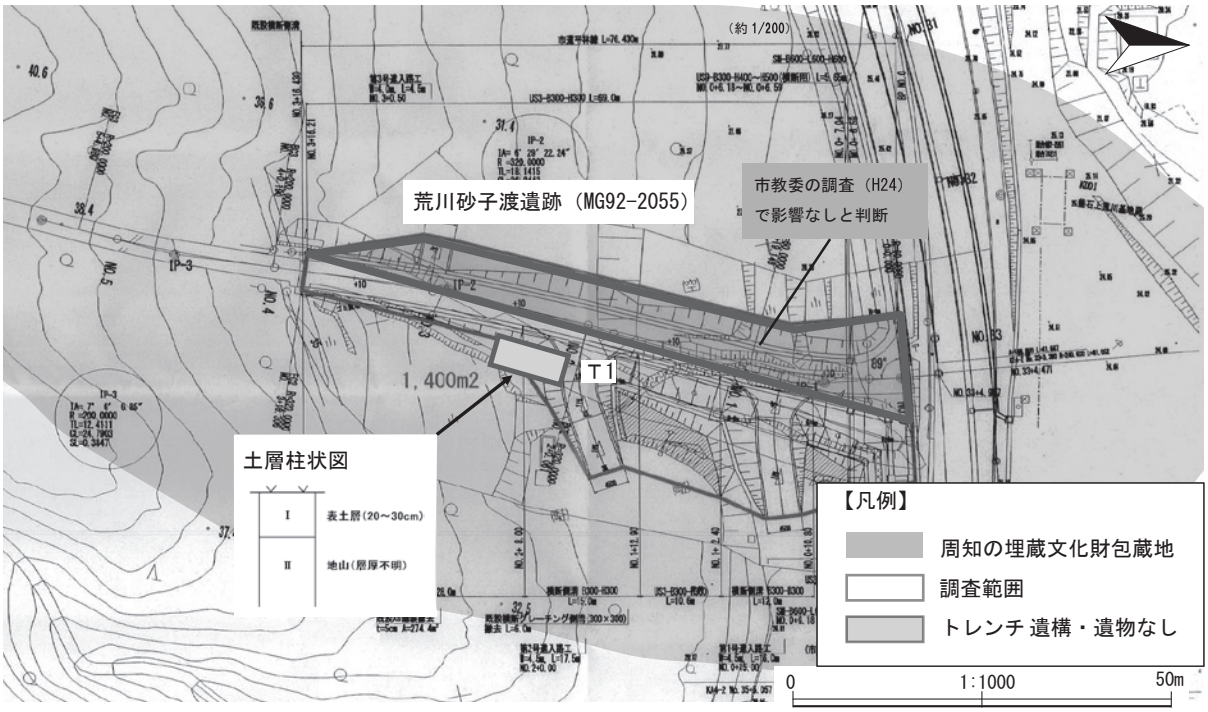
所 在 地：釜石市唐丹町上荒川地内
事 業 者：国土交通省東北地方整備局
　　南三陸国道事務所
調査期日：平成29年５月24日（水）



第47図　荒川砂子渡遺跡位置図

事業地は釜石市役所から南南西へ約10㎞、南側後背地の山稜から続く北向きの緩斜面地に位置する。調査箇所は荒川砂子渡遺跡の中央部にあたり、標高は約30ｍを測る。調査は三陸沿岸道路の建設に伴う釜石市道平林線の改良工事で、現道と国道45号線との接続部において掘削工事が行われることから、埋蔵文化財への影響についてトレンチ１本を設定し試掘調査を行った。調査の結果、自然堆積層が良好な状態で残存していることが認められたが、遺構や遺物は確認することはできなかった。

（慎重工事）



第48図　荒川砂子渡遺跡調査位置図

13　防災安全（交通安全）事業大川目地区

外里遺跡（とざといせき）（JF38-0255）及び隣接地

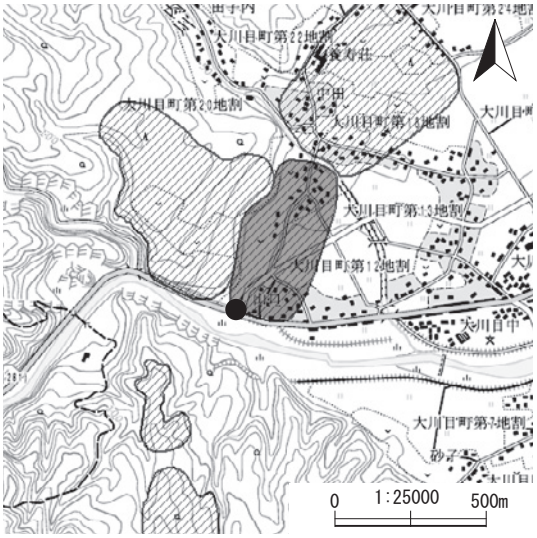
所 在 地：久慈市大川目町地内

事 業 者：県北広域振興局土木部

調査期日：平成29年８月３日(木)

外里遺跡は久慈市役所から西に約６kmの久慈川左岸の氾濫平野に立地する。現況は宅地及び水田が多く見受けられる。現地標高は約21～25mである。

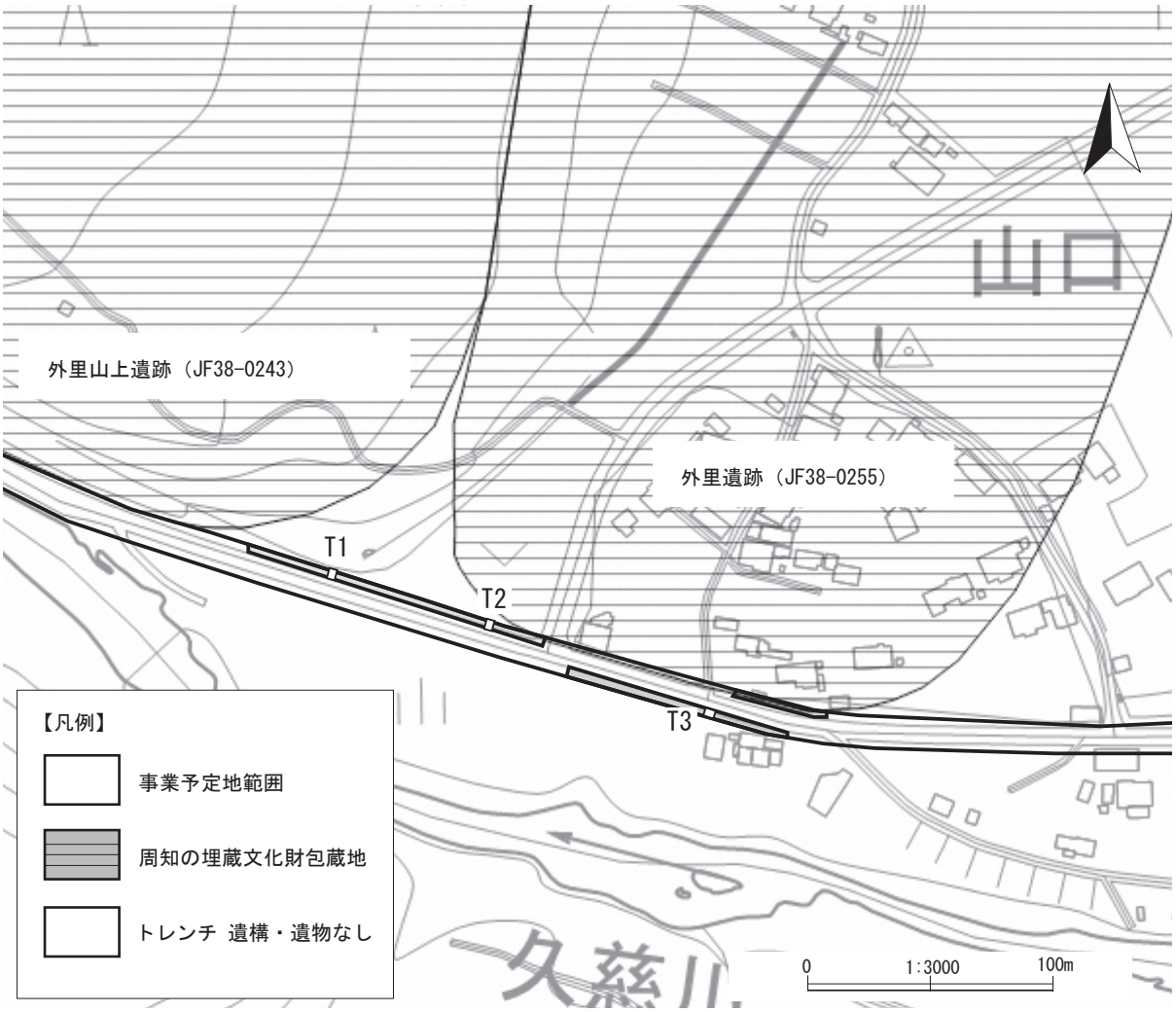
事業は道路整備事業に係るもので、遺跡及び隣接地に試掘トレンチを３箇所設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。



第49図　外里遺跡位置図

調査区の堆積はおおよそ以下のとおりである。表土（Ⅰ層）下に現道の盛土（Ⅱ層）が厚く堆積しており、盛土が薄い。トレンチ２では黒褐色土（Ⅲ層）・暗褐色土（Ⅳ層）の堆積を確認した。遺構の検出は褐色土（Ⅴ層）上面で行ったものの、いずれのトレンチからも遺構・遺物は発見していない。トレンチ２ではⅤ層の確認には至らなかった。

（慎重工事）



第50図　外里遺跡及び隣接地調査位置図

14　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

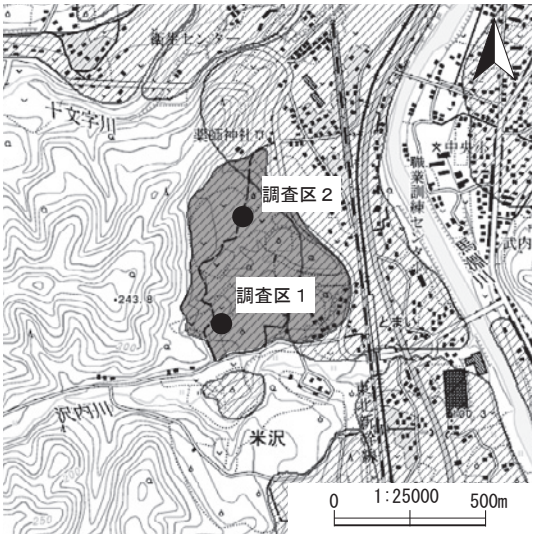
佐々木館（稲荷館）跡（IE99-1237）

所 在 地：二戸市米沢字家ノ上地内

事 業 者：県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

調査期日：平成29年４月25日(火)、12月７日(木)

調査地はＩＧＲいわて銀河鉄道斗米駅から西へ約0.5㎞、標高130ｍ前後の西側山稜から続く緩斜面地に位置し現況は畑地となっている。試掘調査は既設農地へ給水するパイプラインの敷設に係るものである。



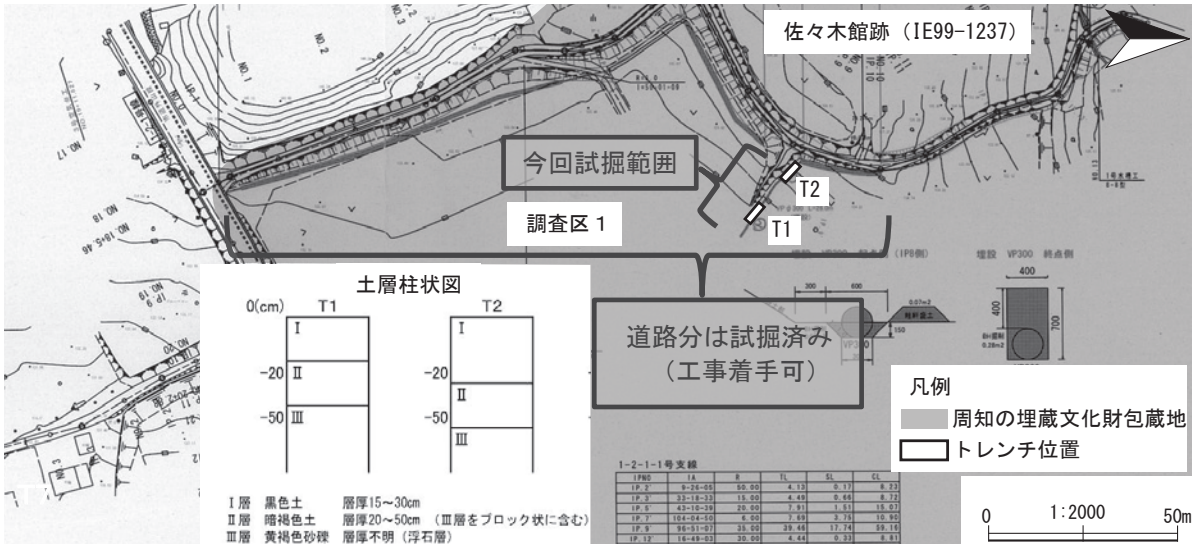
第51図　佐々木館跡位置図

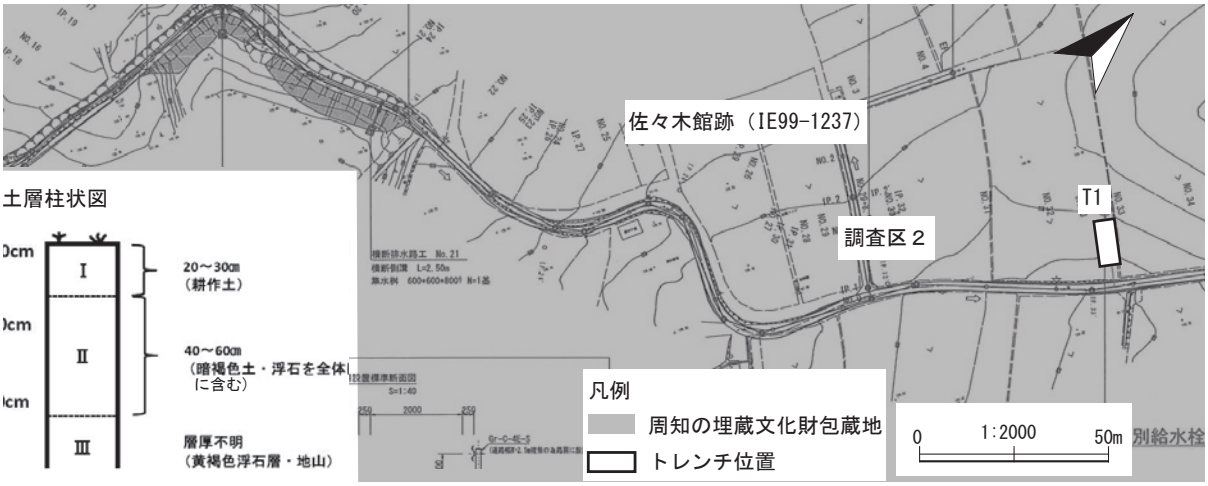
【調査区１】

２箇所のトレンチを設定し調査を行ったが、掘削が及ぶ深度（約70㎝）内に遺構・遺物ともに確認することはできなかった。

【調査区２】

トレンチを１箇所設定し調査を行った。その結果、層序に乱れはなく造成等による削平の影響は見られなかったものの、遺構や遺物は確認することができなかった。　（慎重工事）





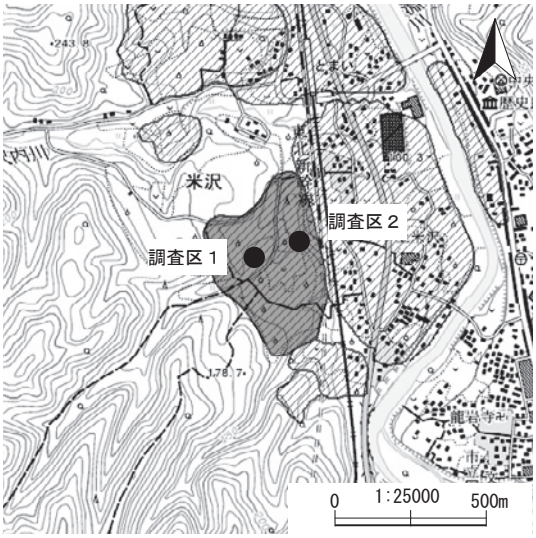
第52図　佐々木館跡調査位置図

15　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

上平Ⅲ遺跡（IE99-2218）

所 在 地：二戸市米沢字上平地内
事 業 者：県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室
調査期日：平成29年12月７日(木)

調査対象地はＩＧＲいわて銀河鉄道斗米駅から南南西へ約0.7～１㎞、西側から続く山稜の河岸段丘縁に立地し、標高は135m前後である。当該試掘調査は、既設農地へ給水するパイプラインの敷設に係るものである。

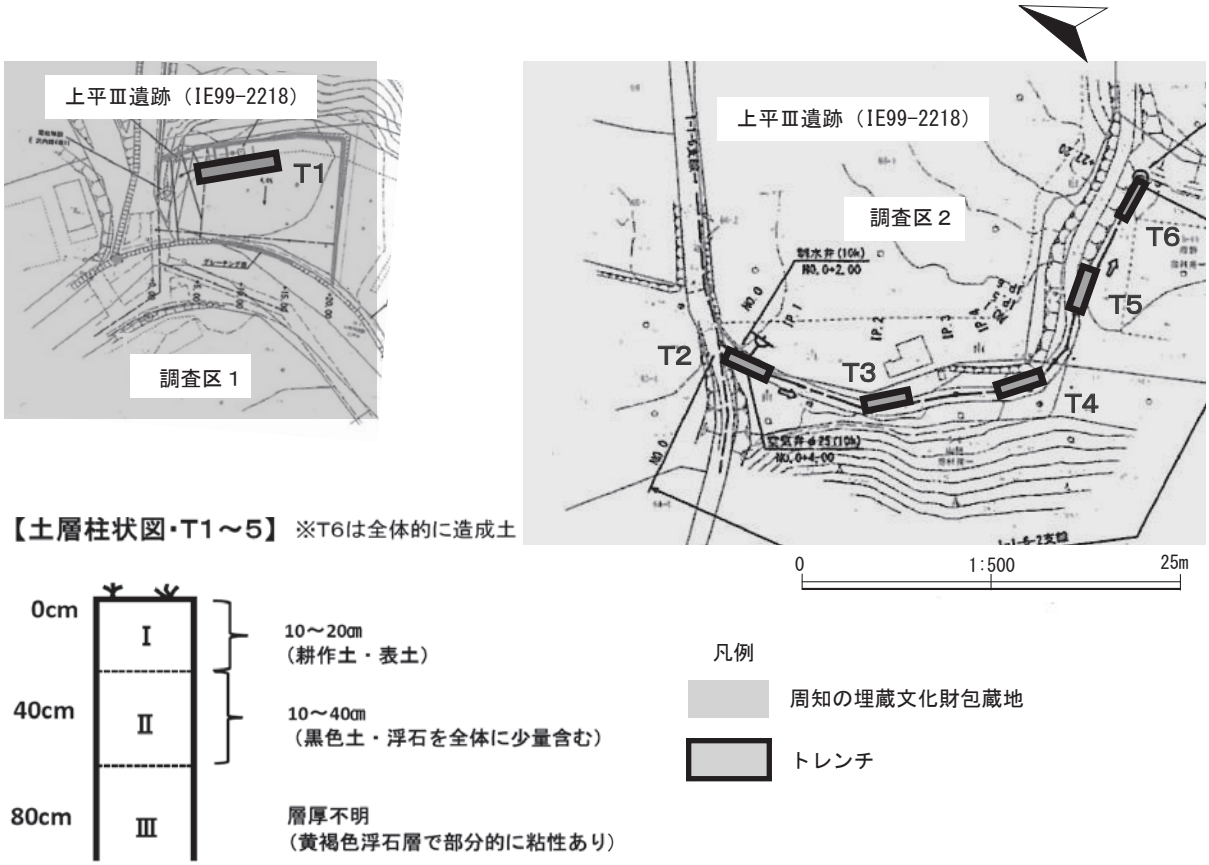


第53図　上平Ⅲ遺跡位置図

今回の工事は小径のパイプと給水栓の設置に限定されることから、比較的原地形が残っているものと思われる箇所を中心に、調査区１ではトレンチを１箇所、調査区２ではトレンチを５箇所設定し、それぞれ調査を行った。

その結果、農地造成の影響が見られた調査区２のＴ６を除き、いずれのトレンチにおいても層序に大きな乱れはなく、削平の影響は見られなかったものの、遺構や遺物は確認することができなかった。

（慎重工事）



第54図　上平Ⅲ遺跡調査位置図

16　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

火行塚遺跡（JE09-1212）

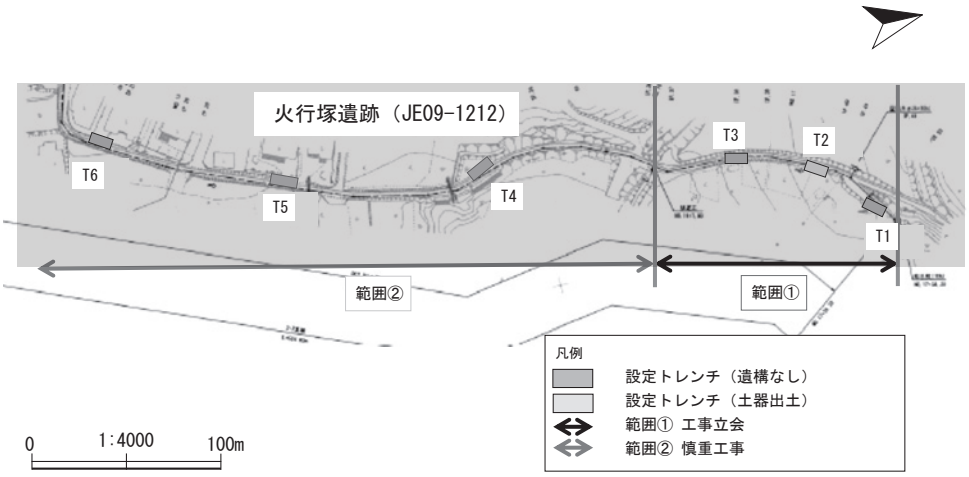
所 在 地：二戸市石切所字火行塚地内
事 業 者：県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室
調査期日：平成29年11月16日（木）

第55図　火行塚遺跡位置図

火行塚遺跡は二戸市役所より西に約３㎞、馬渕川左岸から続く低位段丘に位置する。標高は約150ｍである。現況は宅地、山林、果樹園である。この遺跡は縄文から古代までの長い期間にわたって持続した集落跡である。事業は給水のためのパイプラインを埋設するもので、調査地に該当する農道に試掘トレンチを６箇所設定し、重機で掘り下げたのち、遺構の有無の確認を行った。

調査の結果、調査区南側のＴ５・６では、施工者不明の大小２本の塩化ビニル管が既設されていることが判明した。また、Ｔ４では、礫層が広がっており、遺構や遺物を確認することができなかった。調査区北側のＴ２では、Ⅱ－２層の黒色シルトが30cmほど堆積しており、縄文土器が３片出土した。調査区が狭小のため判然としないが、遺物包含層であると考えられる。今回の調査範囲では、明確な遺構は確認されなかったが、Ｔ１～３付近は、概ね自然地形を保っており、分布調査時においても土器片が表採されていることから、遺構・遺物が残存している可能性が高い。

（工事立会）



第56図　火行塚遺跡調査位置図

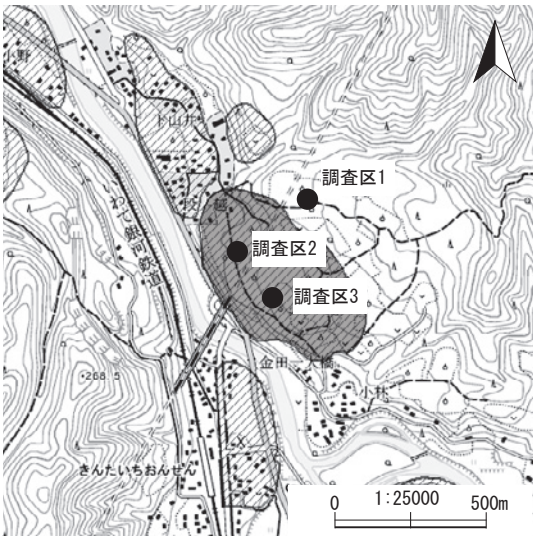
17　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

段ノ越遺跡（IF70-2074）及び隣接地

所 在 地：二戸市金田一字段ノ越地内
事 業 者：県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室
調査期日：平成30年１月24日(水)

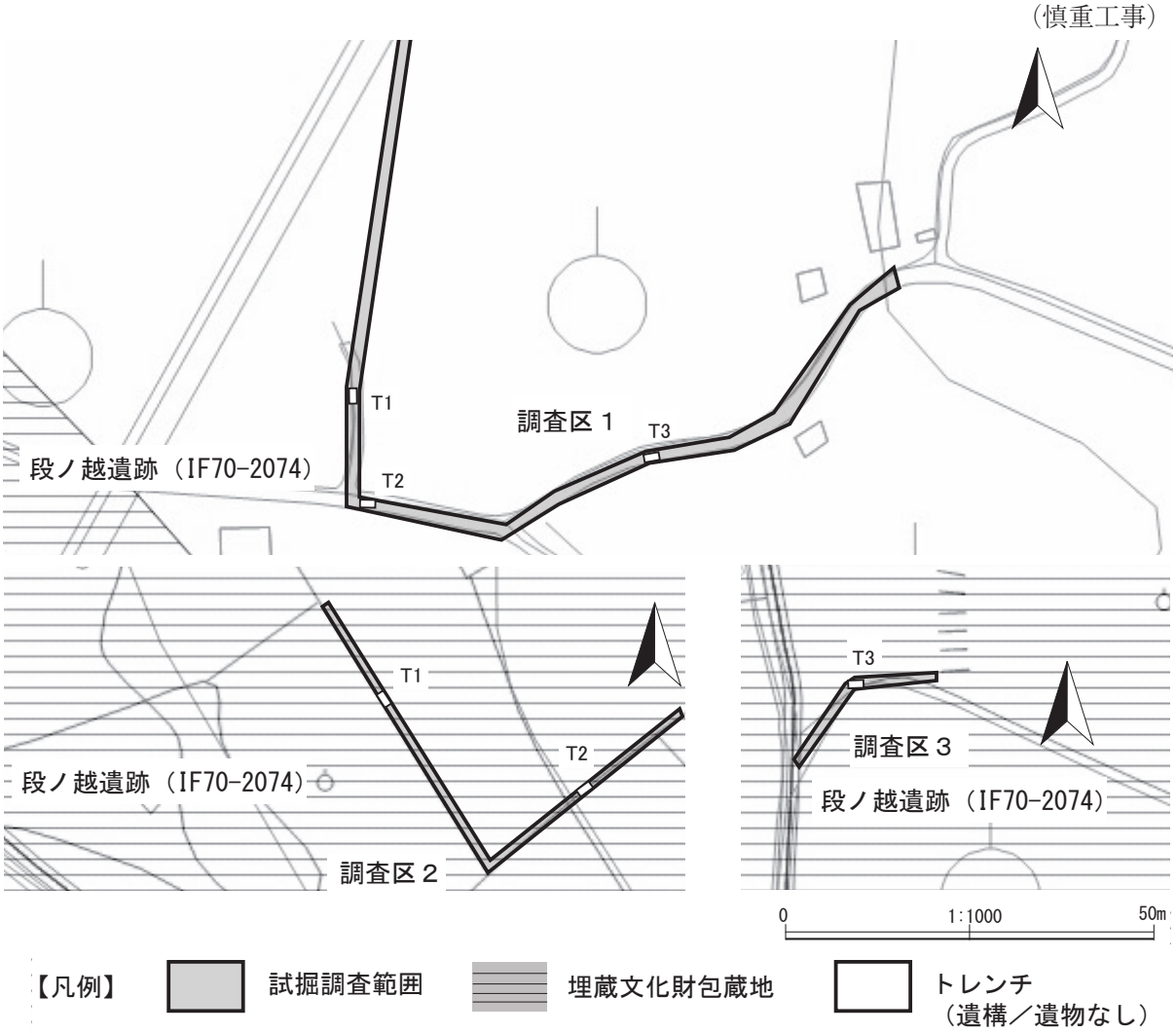
段ノ越遺跡は二戸市役所から北に約6.4km離れた馬淵川右岸の丘陵面に位置する縄文時代の遺跡で、事業地周辺の丘陵部一帯が遺跡範囲となっている。現地標高は約100～150mと高低差がある。

事業は畑地帯総合整備に係るもので、遺跡内及び隣接地の３地点（調査区１～３）を対象に埋蔵文化財の試掘調査を行った。試掘トレンチを調査区全体で６箇所設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。



第57図　段ノ越遺跡位置図

調査の結果、いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認されなかった。事業予定地の多くで土地の改変が確認され事業予定地の旧地形の多くは失われたと考えられる。



第58図　段ノ越遺跡及び隣接地調査位置図

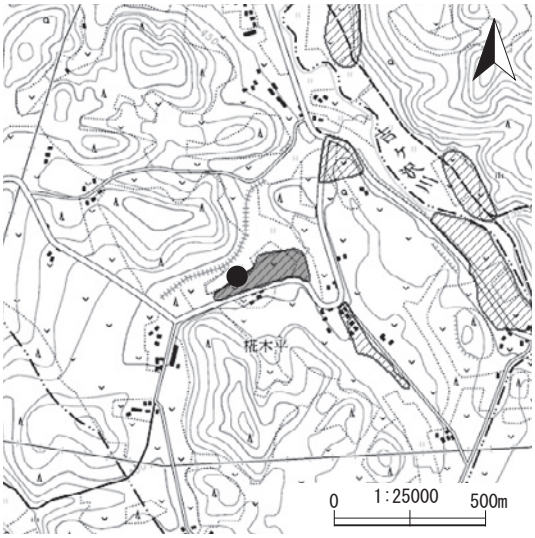
18　畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

椛ノ木Ⅲ遺跡（JE89-1340）及び隣接地

所 在 地：二戸郡一戸町宇別字椛ノ木地内

事 業 者：県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室

調査期日：平成29年12月５日(火)



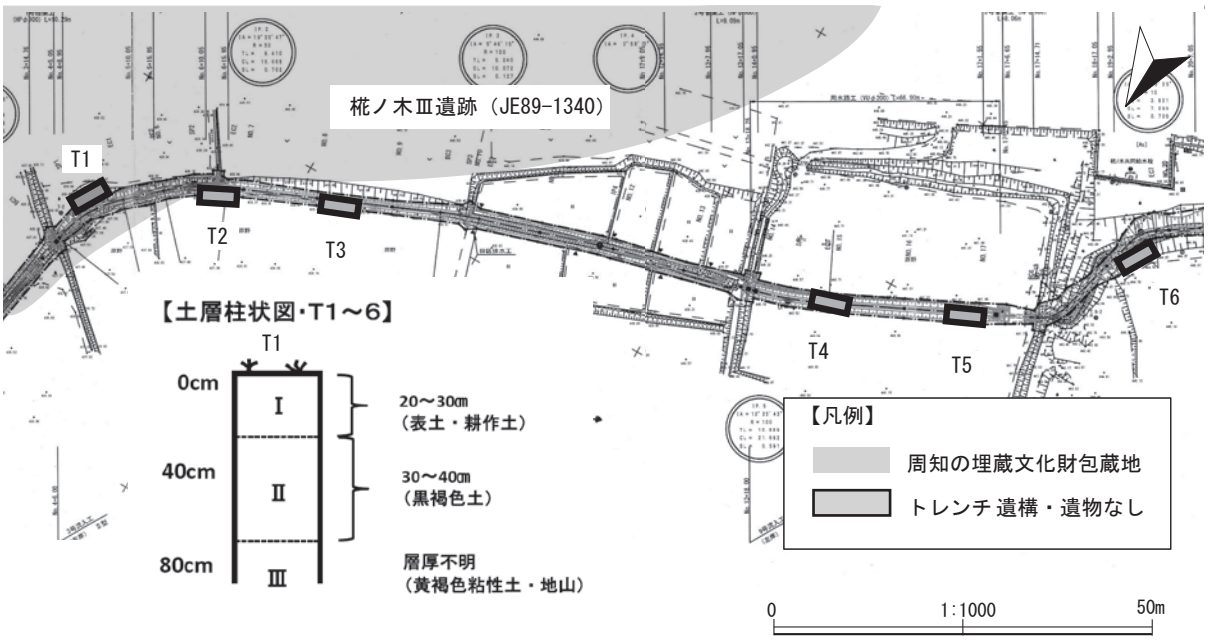
第59図　椛ノ木Ⅲ遺跡位置図

調査対象地はＩＧＲいわて銀河鉄道奥中山高原駅から南東へ約5.5㎞、極緩やかな起伏をもつ丘陵上に立地し、標高は440m前後である。当該試掘調査は、ほ場整備に付随する水路の改修工事に係るものである。

今回の工事は水路の改修に限定されることから、比較的原地形が残っているものと思われる箇所を中心に、トレンチを６箇所設定し調査を行った。

その結果、いずれのトレンチにおいても造成等による削平の影響は見られなかったものの、遺構や遺物は確認することができなかった。

（慎重工事）



第60図　椛ノ木Ⅲ遺跡及び隣接地調査位置図

19　産業廃棄物処理施設整備事業

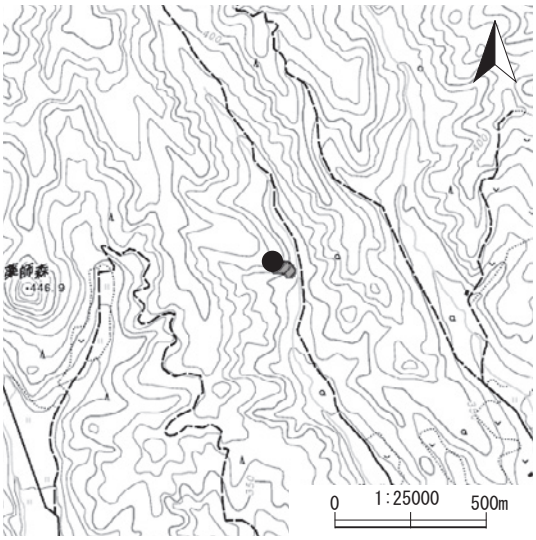
椛沢Ⅱ遺跡（KE04-2323）（旧可能性あり）

所 在 地：八幡平市平舘地区

事 業 者：環境生活部廃棄物特別対策室

調査期日：平成29年８月28日(月)～９月１日(金)

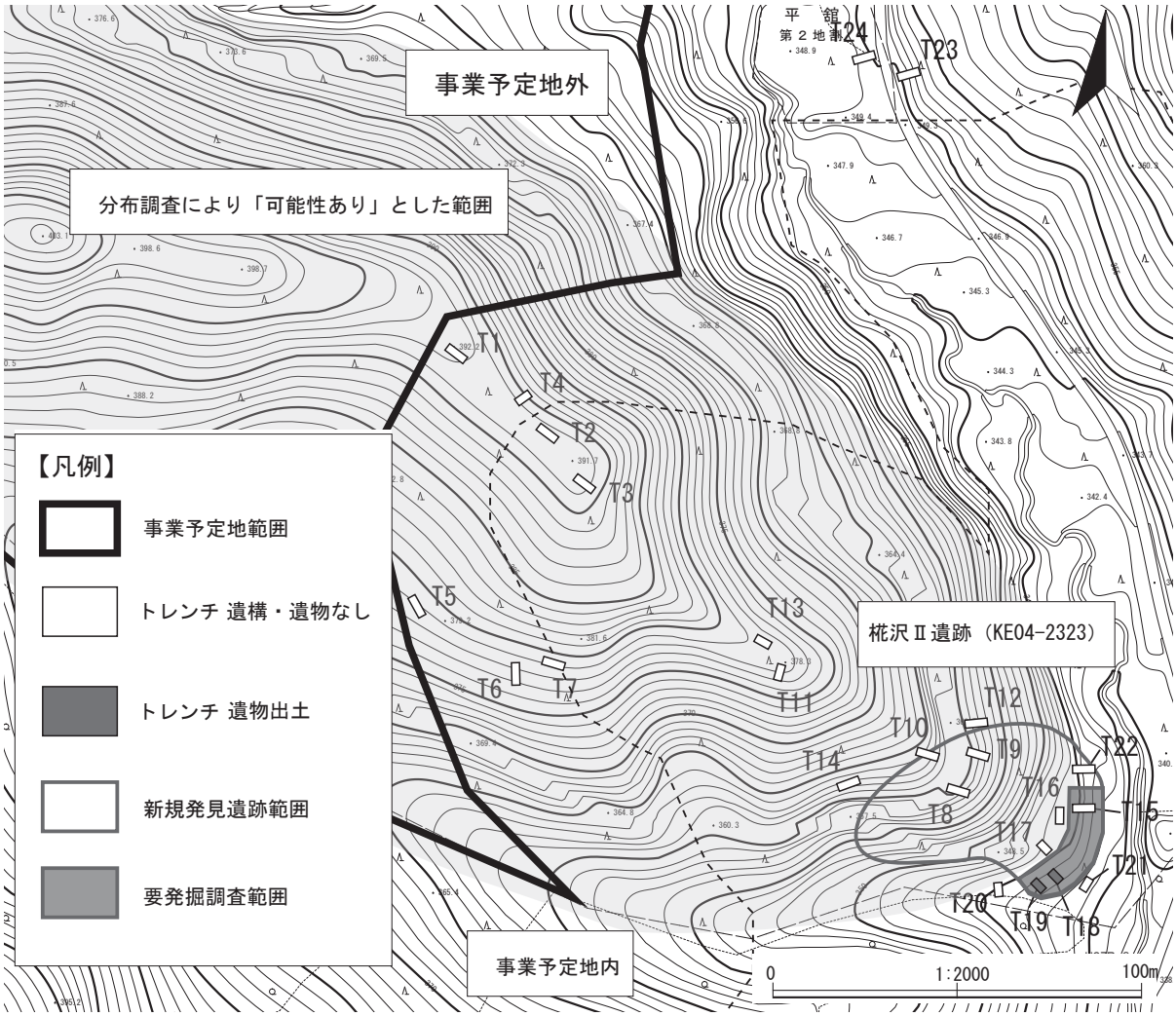
試掘対象地は八幡平市役所から北西に約3.1㎞の中起伏山地域で、沢により開析され南へ舌状地形をなす連続した細尾根の南東向き斜面地に位置する。現地標高は約345m～390mである。事業予定地周辺に周知の埋蔵文化財包蔵地は所在しない。



第61図　椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり）位置図

事業は産業廃棄物処理施設整備に係るもので、試掘トレンチを調査区全体で24箇所設定し、重機及び人力により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。調査の結果、T18・19で黒色土中から遺物が出土した。いずれのトレンチからも遺構は検出していない。林道敷設時に遺跡の大部分は削平を受けたと考えられるものの、沢に近い緩斜面地では遺物包含層が残存していると考えられる。

（発掘調査）



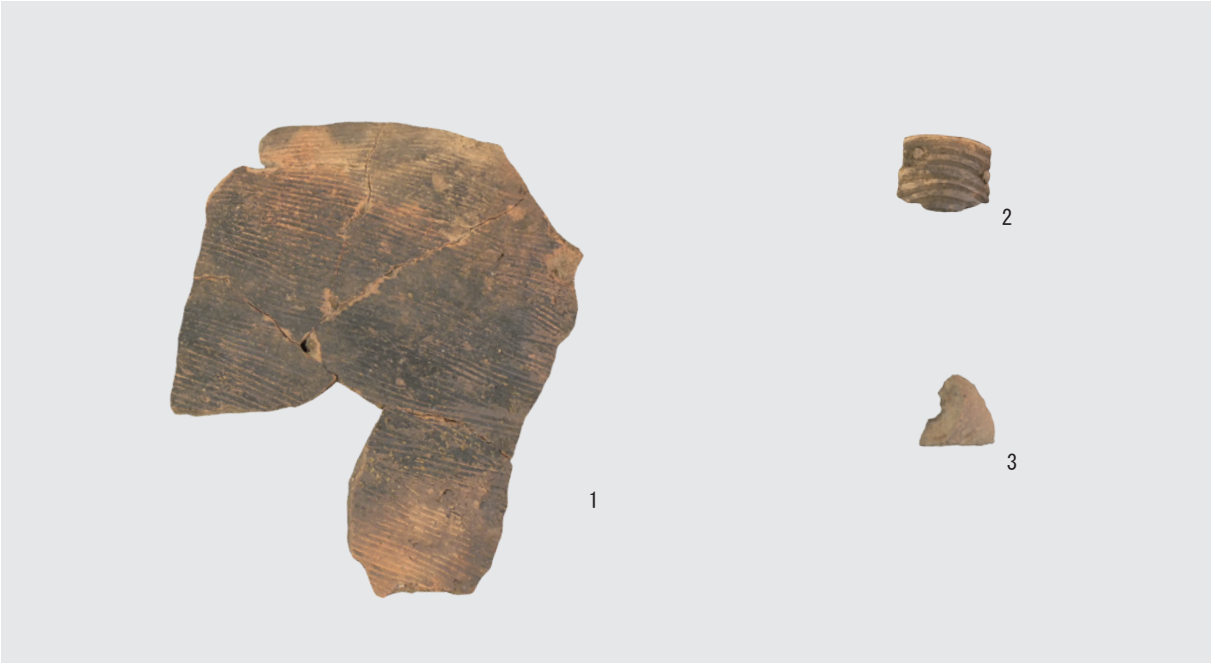
第62図　椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり）調査位置図

第63図　椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり）出土遺物図

第９表　椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり）出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	T18	黒色土	縄文土器	鉢	口縁部～胴部	［33.6］	（17.5）	－	－	条痕文、内ナデ　晩期～弥生か
2	T19	黒色土	縄文土器	壷	口縁部	－	－	－	－	横走沈線、粘土粒（２個１対）（大洞式）
3	表採		縄文土器	注口土器	注口部	－	－	－	－	RL、沈線文

計測値の［　］は推定値、（　）が残存値を表す。



写真図版14　椛沢Ⅱ遺跡（旧可能性あり）出土遺物

20　警察施設整備事業
（盛岡西警察署滝沢交番新築工事）
葉の木沢Ⅰ遺跡（KE86-0278）

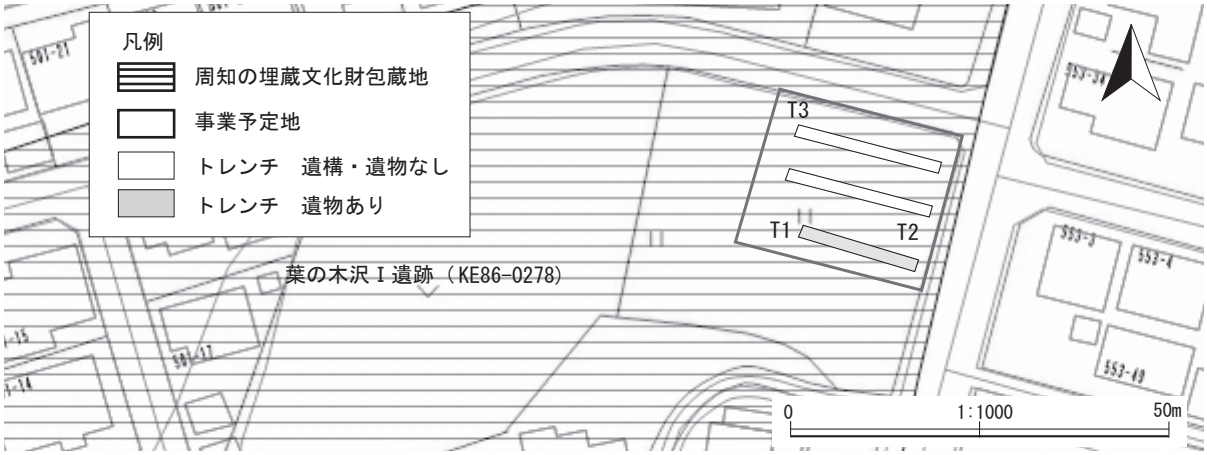
所 在 地：滝沢市葉の木沢山505-1
事 業 者：県警察本部警務部会計課
調査期日：平成30年２月28日（水）

葉の木沢Ⅰ遺跡はＩＧＲいわて銀河鉄道線巣子駅の南西約0.6kmに位置し、北上川支流の巣子川流域の平坦面に立地している。標高は200～210mで、現況は主に宅地である。事業予定地は遺跡の北東側に位置し、現況は水田で、現地標高190～200mである。事業は交番新築工事に係るもので、試掘トレンチを事業予定地に３箇所設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。

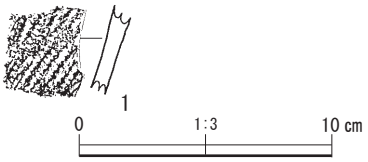
第64図　葉の木沢Ⅰ遺跡位置図

調査の結果、全体的に基本層序どおりの堆積が見られ、Ⅱ層（黒色土）の堆積状況から、当該地は、本来南西側から北東側に向けて緩やかな傾斜のある地形であったと推察される。本来起伏がある地形であったところを、水田造成時にⅢ層（黒褐色土）上面まで削平されたものと考えられる。なお、Ｔ１のⅠ～Ⅱ層から縄文土器片1点を採取したが、遺構は確認されなかった。

（慎重工事）



第65図　葉の木沢Ⅰ遺跡調査位置図



第66図　葉の木沢Ⅰ遺跡出土遺物図

写真図版15　葉の木沢Ⅰ遺跡出土遺物

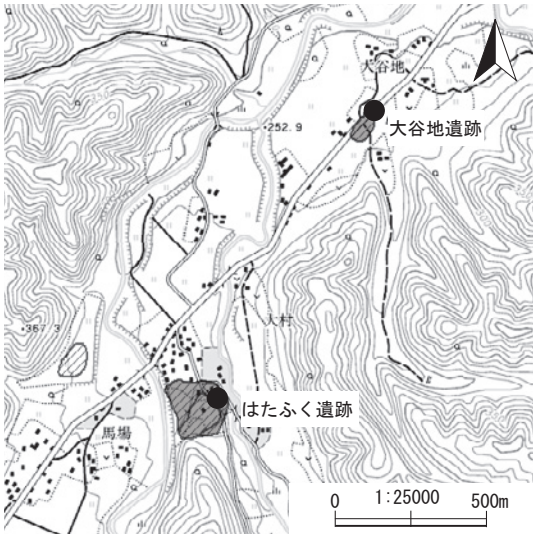
第10表　葉の木沢Ⅰ遺跡出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	T1	Ⅰ～Ⅱ	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	LR横

21　中山間地域総合整備事業

はたふく遺跡（いせき）（LE51-0358）及び隣接地
大谷地遺跡（おおやちいせき）（LE42-2063）及び隣接地

所 在 地：岩手郡雫石町大村地内
事 業 者：盛岡広域振興局農政部
　　農村整備室
調査期日：平成29年７月31日（月）



第67図　はたふく遺跡・大谷地遺跡位置図

【はたふく遺跡及び隣接地】

試掘調査対象地は、雫石町役場から南南西へ約12.5km、標高は約270mを測る南畑川支流の尻合川沿いの丘陵地である。試掘調査は上水道整備事業に伴い、既存の県道及び町道下に水道管を敷設するものであるが、周知の埋蔵文化財包蔵地内での工事であるため、実施されたものである。

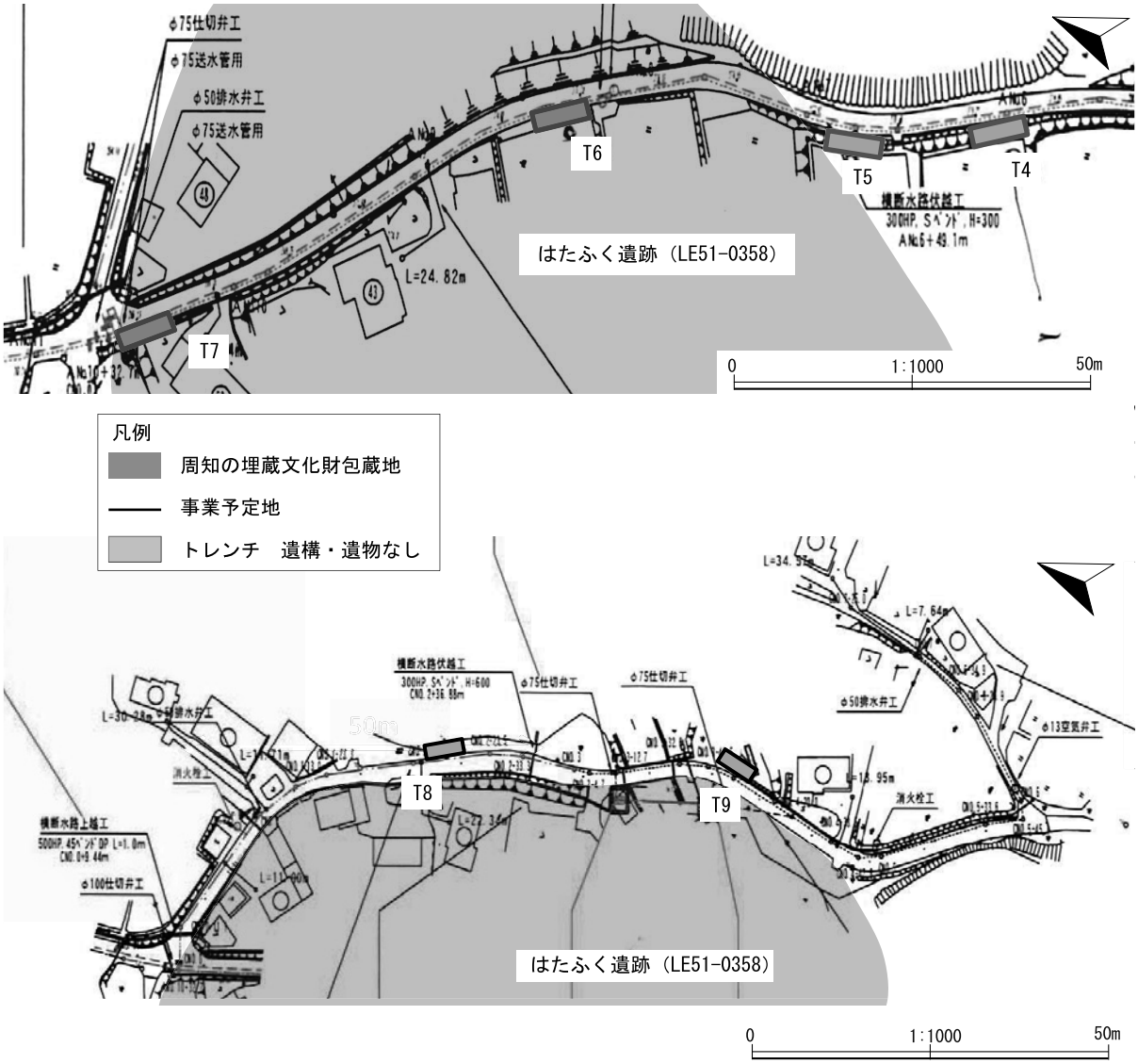
試掘調査では対象地内にトレンチ（Ｔ４～９）を設定し、土層及び遺構・遺物の有無の確認を行った。調査の結果、いずれのトレンチにおいても過去の道路工事によって旧表土が完全に失われ、路床材である砕石及び造成土で埋められており、遺構や遺物は確認することはできなかった。

【大谷地遺跡及び隣接地】

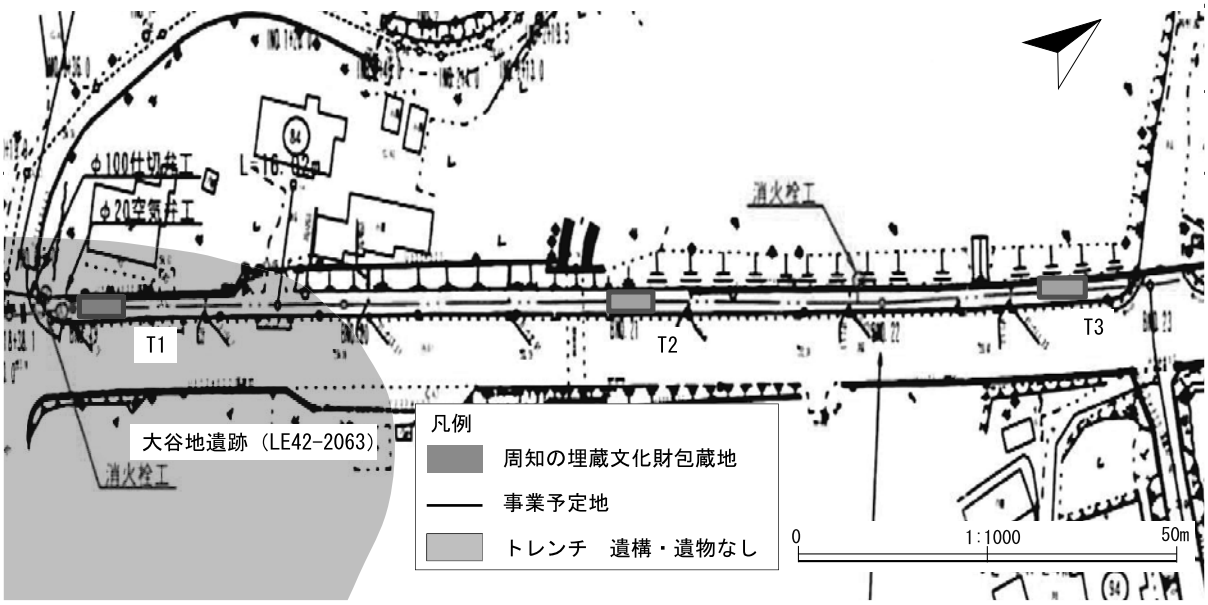
試掘調査対象地は、雫石町役場から南南西へ約11.4km、県道１号線沿線の旧大村小学校北側の大谷地遺跡である。標高は約250mを測り、周辺山地から続く緩斜面地の末端に位置している。今回の試掘調査は、上水道整備事業に伴い、既存の県道及び町道下に水道管を敷設するものであるが、周知の埋蔵文化財包蔵地内での工事であるため、実施されたものである。

試掘調査では対象地内にトレンチ（Ｔ１～３）を設定し、土層及び遺構・遺物の有無の確認を行った。調査の結果、いずれのトレンチにおいても過去の道路工事によって旧表土が完全に失われ、路床材である砕石や造成土で埋められており、遺構や遺物は確認することはできなかった

（慎重工事）



第68図　はたふく遺跡及び隣接地調査位置図



第69図　大谷地遺跡及び隣接地調査位置図

22　農地整備事業（経営体育成型）

八幡館遺跡（はちまんだていせき）（KE57-1101）及び隣接地

所 在 地：盛岡市玉山武道地内

事 業 者：盛岡広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成29年11月27日（月）～28日（水）

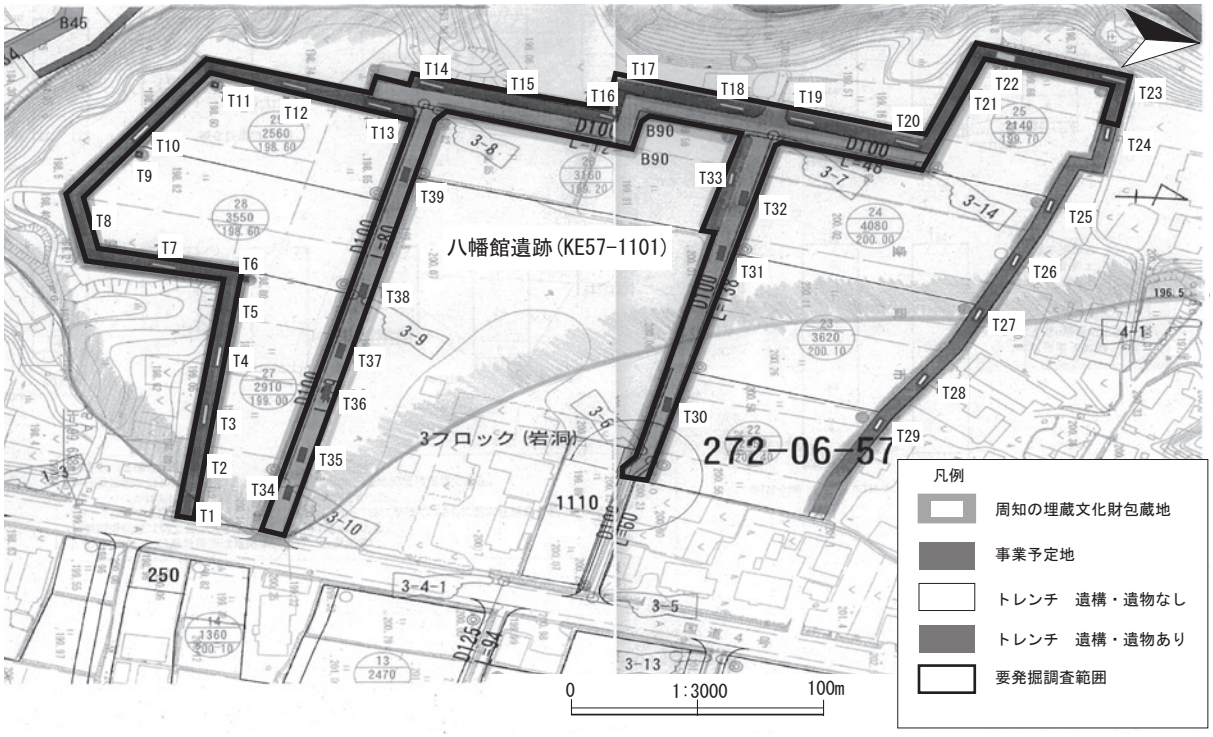
本遺跡は盛岡市役所玉山総合事務所の北西方向約7.2㎞に位置する。新生代第四紀更新世の堆積岩を基盤とする、北上川左岸の段丘面にあり、河岸低地より約14m高い。事業地周辺の標高は199～200mである。

第70図　八幡館遺跡位置図

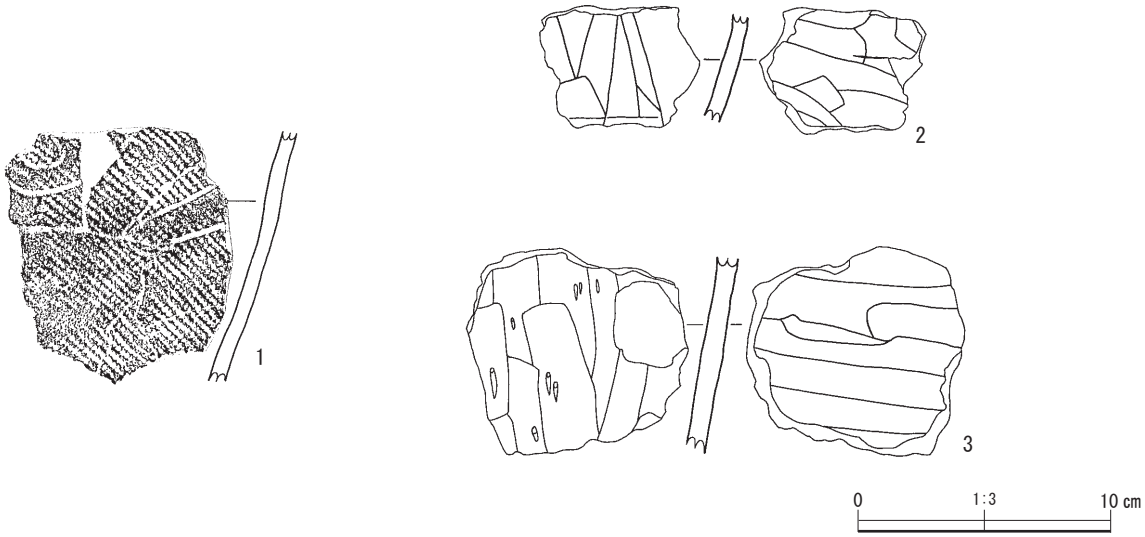
基本土層は４層に区分した。Ⅰ層表土、Ⅱ層黒褐色土、Ⅲ層漸移層、Ⅳ層地山で、Ⅱ層はa～dの４層に細分される。Ⅱb層は南側調査区でよく観察され、この範囲でa層、c層が細分できる。d層はＴ５の小谷頭部分でのみ観察される。地形が高かった部分は切土が大きく、この部分はⅠ層が薄く、その直下は地山である。Ⅱ層下部付近には小ブロック状に灰白色の十和田a火山灰？が堆積する場所がある。Ｔ17の竪穴建物跡埋土の一部で確認される。

トレンチは39本設定した。Ｔ１、Ｔ２、Ｔ５、Ｔ６、Ｔ８、T15、T17、T21、T30～32、T34～39では竪穴建物跡、土坑、柱穴状遺構を検出した。T5及びT15では自然の谷地形を利用した竪堀？を検出した。竪穴建物跡はおよそ北にカマドがあり、１辺が約３ｍである。Ⅱ層内を掘り込んでいると考えられる。柱穴状遺構の規模が直径15～35㎝で円形状である。遺物はＴ2のⅢ層付近から縄文時代後晩期の土器片と、Ｔ17の竪穴建物跡から土師器片が出土した。これらの遺構は検出状況から主に縄文、古代～近世の時代に属するものと推測される。

（平成30年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施）



第71図　八幡館遺跡及び隣接地調査位置図



第72図　八幡館遺跡及び隣接地出土遺物図

第11表　八幡館遺跡及び隣接地出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	T2	4	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	RL横、沈線
2	SI	2	土師器	甕	胴部	－	－	－	－	外面ナデ、内面ヨコナデ
3	SI	2	土師器	甕	胴部	－	－	－	－	外面ケズリ、内面ヨコナデ

写真図版16　八幡館遺跡及び隣接地出土遺物

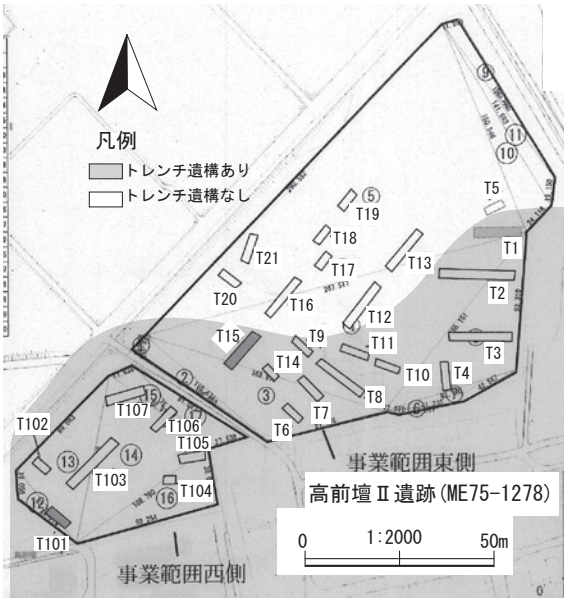
23　北上翔南高等学校草地復旧工事

高前壇（たかまえだん）Ⅱ遺跡（にいせき）（ME75-1278）及び隣接地

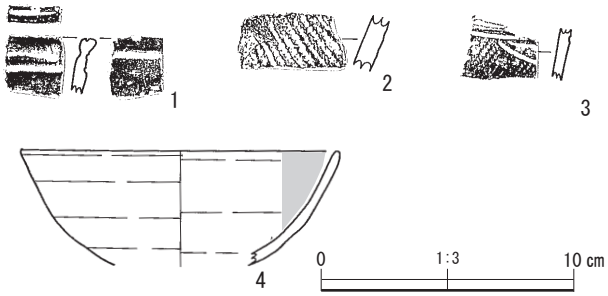
所 在 地：北上市相去町高前壇地内
事 業 者：県教育委員会事務局教育企画室
調査期日：平成29年５月１日（月）～２日（火）、
　　８日（月）

第73図　高前壇Ⅱ遺跡位置図

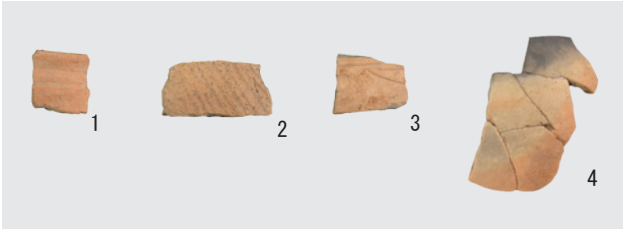
高前壇Ⅱ遺跡は北上市役所から南南西に3.6km、面積0.65㎢の広い範囲を持つ遺跡で、現況は陸上競技場や高等学校などの公共施設が所在する。地形では中位段丘面の東端に立地し、周囲には相去遺跡や滝ノ沢遺跡など、縄文時代から古代かけての集落跡が点在している。調査は草地復旧のために表土を最大20cm程度撹拌することにより実施したものである。試掘トレンチを東側で21箇所、西側で７箇所設定した。Ｔ１では表土から深さ40cmで古代の竪穴建物跡が確認され、土師器が出土した。また中央部のやや標高のあるＴ15で、長楕円形の平面形と考えられる土坑1基、西側隅に設定したＴ101で、楕円形の土坑1基を検出したが、その他のトレンチでは遺構や遺物は検出されなかった。遺構は調査区の東隅、中央部、西隅に限られ、旧地形は凹凸の激しい地形であったと考えられる。調査区全体が地形改変されていることが判明したが、その結果、どの区域でも20～30cmの盛土層が確保されており、本事業については、既工事による損壊の範囲内で行われることを確認した。（慎重工事）



第74図　高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図



第75図　高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地出土遺物図



写真図版17　高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地出土遺物

第12表　高前壇Ⅱ遺跡及び隣接地出土遺物観察表

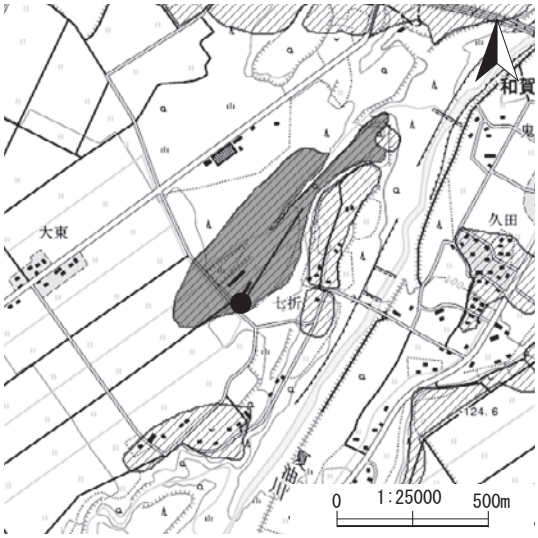
掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g） 口径 縦	器高 横	底部径 厚さ	重量	特　　徴
1	表採		縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	－	－	口唇・口縁部：横走沈線
2	表採	－	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	LR縦、内ナデ
3	T1	2	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	沈線文（変形工字文か）内外面ナデ
4	T1	2	土師器	坏	口縁部～体部	［12.6］	（4.5）	－	－	内面黒色処理、内外面ロクロナデ

計測値の［　］は推定値、（　）が残存値を表す。

24　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

花曽根上遺跡（ME74-0114）

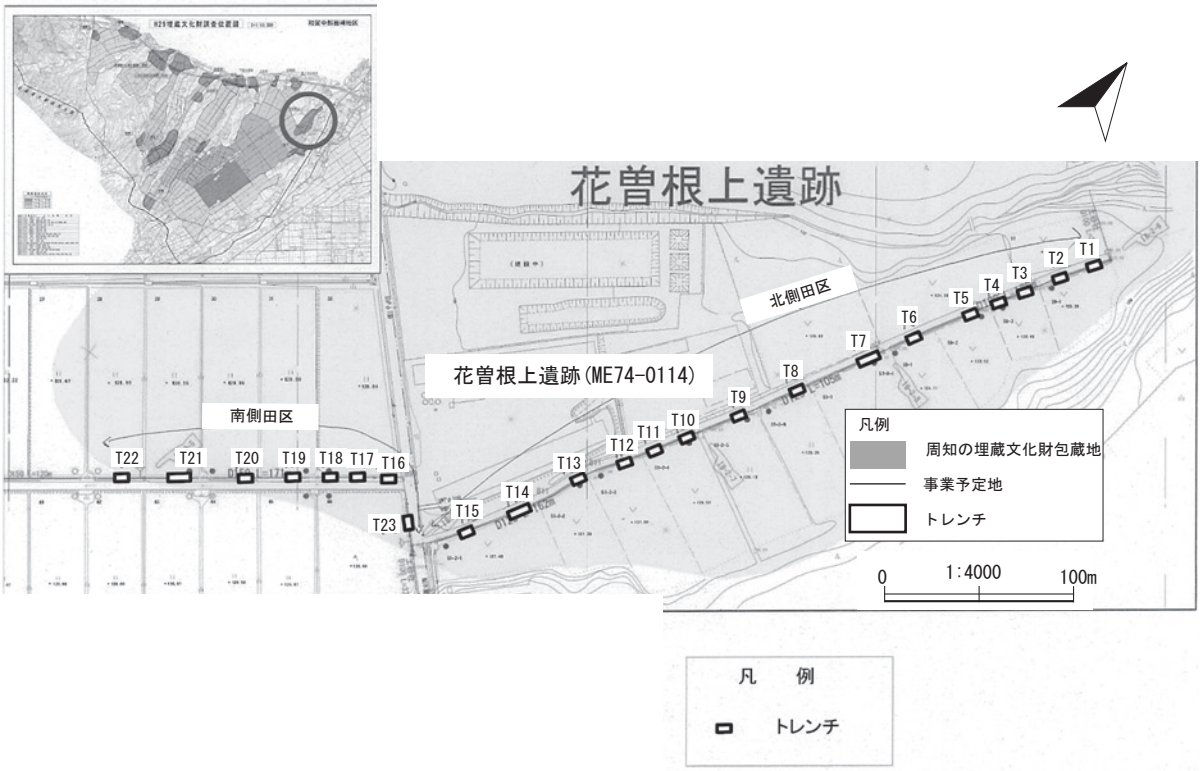
所 在 地：北上市和賀町岩崎新田10地割地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月７日(木)～８日(金)



第76図　花曽根上遺跡位置図

事業予定地は北上市役所の西南西方向約7.2kmに位置する。調査区域は夏油川により形成された扇状地末端付近の台地上にある。本地域は砂礫層上に降下火山灰起源の黄褐色火山灰質粘土が堆積している。現河床とは約30mの比高で、標高は124～132mである。基本土層は６層に区分した。Ⅰ層表土下に、過去の土地改良によるⅡa層盛土、Ⅱb層旧水田表土、Ⅲ層旧表土、Ⅳ層攪乱土、Ⅴ層漸移層、Ⅵ層地山の順に堆積する。Ⅲ層は養鶏場南側の水田でのみで確認される。トレンチは23本設定し、本事業予定地の中央部分付近で竪穴建物跡と竪穴状遺構あわせて６棟（T5で１棟、T7で１棟、T8で１棟、T9で２棟、T10で１棟）を、Ｔ４で径約50cmの土坑を、T17、T20で30cm前後の柱穴状遺構を３基、T23で溝状遺構を１基検出した。このうちＴ４の土坑では周辺で土師器片が出土していることから、古代の竪穴建物跡の付属施設の可能性がある。全般的に過去の水田造成時の攪乱を受けて残りはあまりよくない。Ⅱ層、Ⅲb層や遺構検出面付近から古代の土師器片や縄文時代の土器片が出土した。今回の調査結果からは事業予定地に古代及び縄文時代の集落跡が分布していることが判明した。

（平成29年度当課により発掘調査実施）



第77図　花曽根上遺跡調査位置図

25　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

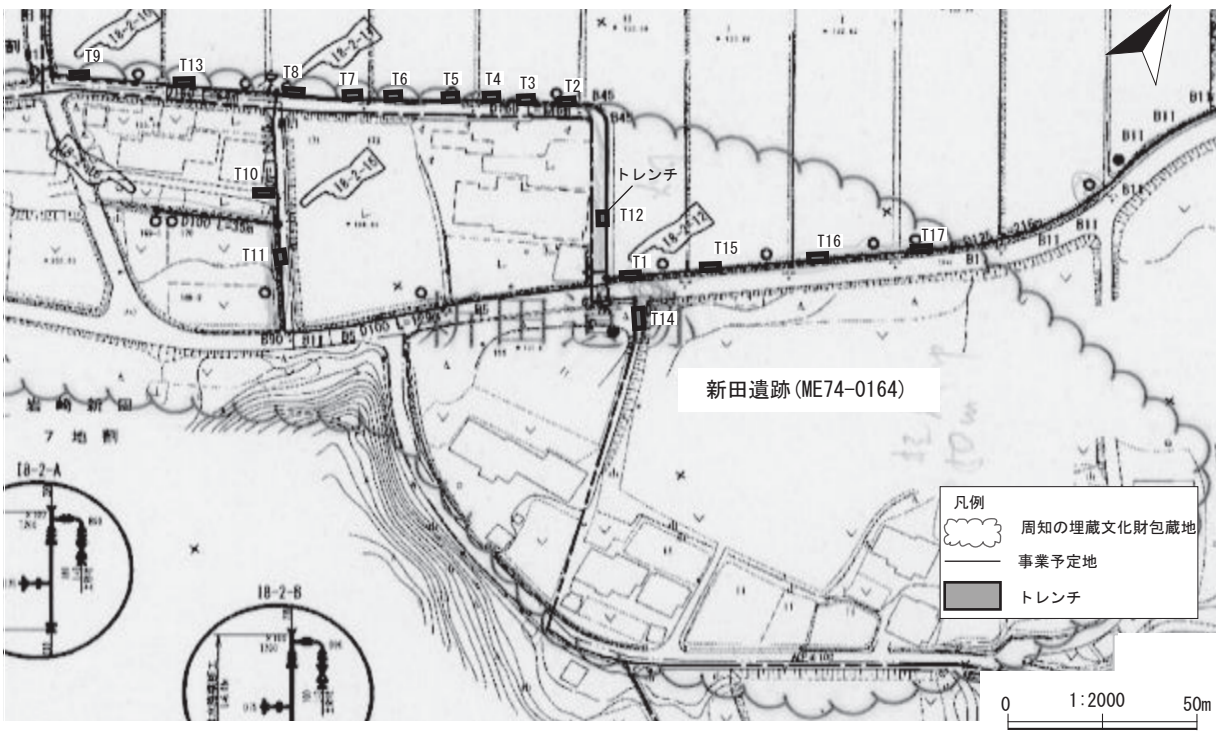
新田遺跡（ME74-0164）

所 在 地：北上市和賀町岩崎新田７地割地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月８日(金)

第78図　新田遺跡位置図

事業予定地は北上市役所の南西方向約7.4kmに位置する。調査区域は夏油川により形成された扇状地末端付近の台地上にある。本地域は砂礫層上に降下火山灰起源の黄褐色火山灰質粘土が堆積している。現河床とは約30mの比高で、標高は134～137mである。本調査は経営体育成基盤整備事業に係り実施したものである。基本土層は５層に区分した。全体的に地形改変により大きく攪乱を受けて自然堆積層の残りがよくない。昭和42年頃の大規模な水田造成による区画整理以前から耕作が行われ、現区画以前の水田土Ⅱb層や自然堆積層の旧表土Ⅲ層、漸移層Ⅳ層が部分的に残る。地山Ⅴ層は微高地部分では黄褐色・黄橙色土、湿地的な部分ではオリーブ色土・黄灰色土である。いずれのトレンチからも遺構は検出されず遺物も出土していない。

（慎重工事）



第79図　新田遺跡調査位置図

26　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

梅ノ木台地Ⅱ遺跡（ME64-2112）及び隣接地
兵庫館（一六花館・二日市城）跡（ME64-2101）及び隣接地

所 在 地：北上市和賀町煤孫地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月11日（月）

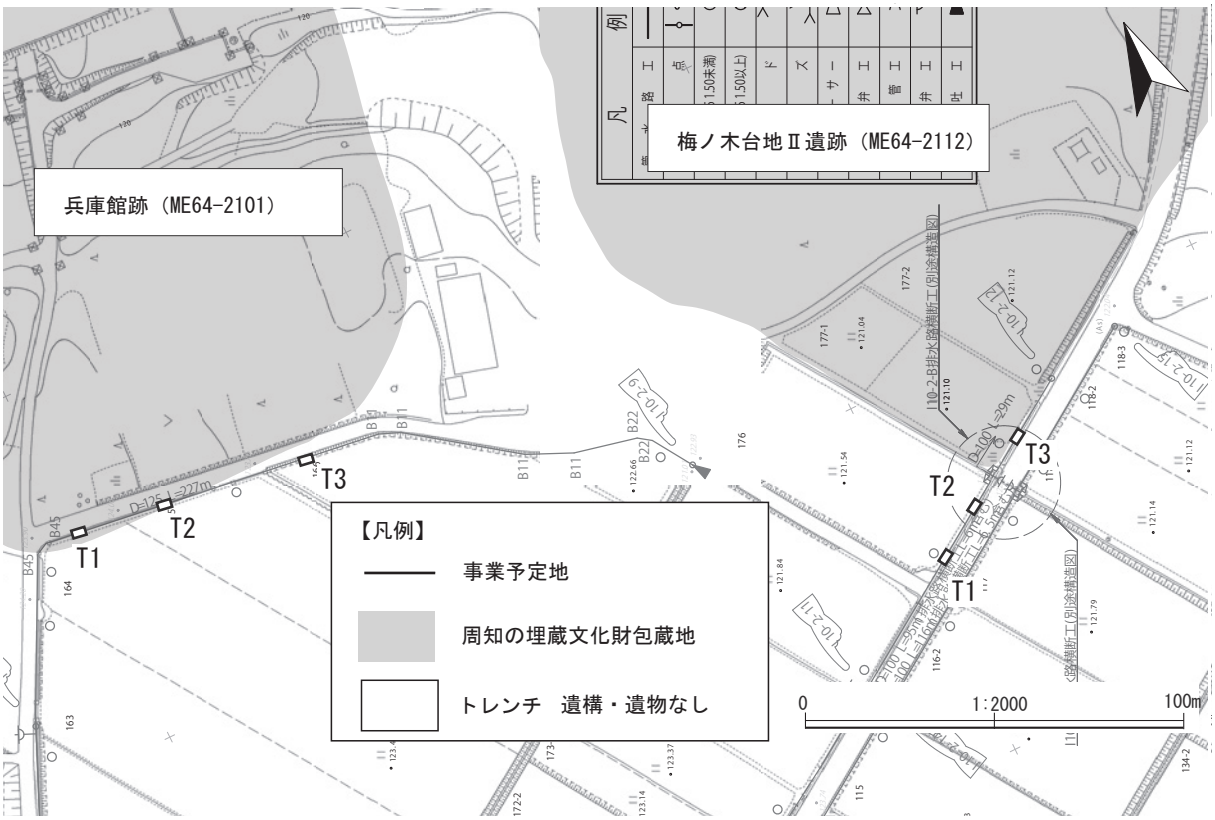
第80図　梅ノ木台地Ⅱ遺跡ほか位置図

北上市役所から西に約7.1kmの扇状地形をなす金ケ崎段丘末端の平坦面に位置する。過去に秋田自動車道整備に係り発掘調査が行われ、梅ノ木台地Ⅱ遺跡は平安時代の集落遺跡及び弥生時代の墓域、兵庫館跡は平安時代の集落跡、中世の館跡及び弥生時代の墓域として知られている（(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1993『兵庫館跡・梅ノ木台地Ⅱ遺跡林発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第180集）。現況は水田及び道路で現地標高は121～122m前後である。

事業はほ場整備に係るパイプライン整備によるもので、遺跡及び隣接地に試掘トレンチを設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。

調査の結果、両遺跡とも、盛土下の褐色土上面で遺構検出を試みたものの、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。調査地周辺の旧地形は削平を受け失われていると考えられる。

（慎重工事）



第81図　梅ノ木台地Ⅱ遺跡・兵庫館跡及び隣接地調査位置図

27　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

望野（のぞみのにいせき）Ⅱ遺跡（ME73-0236）及び隣接地

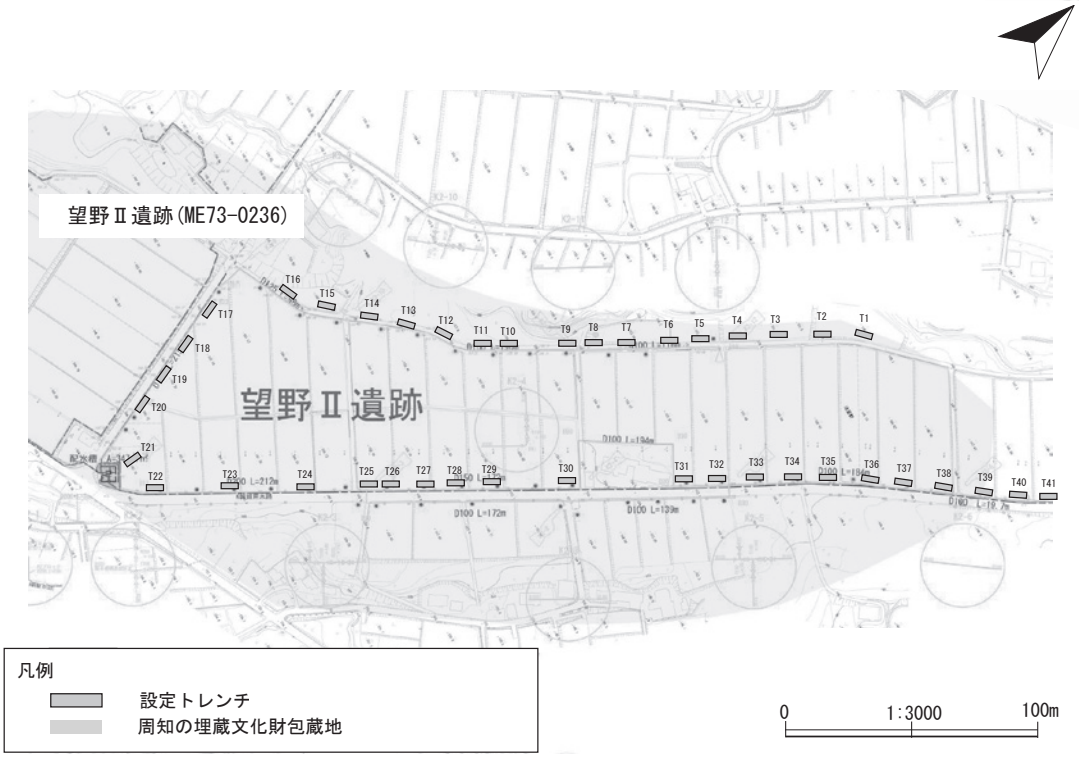
所 在 地：北上市和賀町煤孫地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月11日(月)～13日(水)

望野Ⅱ遺跡はＪＲ東日本北上線藤根駅から南西に約5.7㎞、和賀川と夏油川に挟まれた丘陵地と平野の接する場所に立地する旧石器時代・縄文時代の遺跡で、種別は散布地となっている。現地標高は約163～165mで現況は水田・畑地として利用されている。

第82図　望野Ⅱ遺跡位置図

事業は水田の農道部分に給水のためのパイプラインを埋設する経営体育成基盤事業で、調査区に現存するＵ字溝隣接部に試掘トレンチを41箇所設定し、重機で掘り下げたのち、遺構の有無の確認を行った。調査の結果、調査区は過去のほ場整備によって切土及び盛土造成されていることを確認した。調査区中央部で、地山の上に旧耕作土と思われる黒褐色土が残存しているが、遺構や遺物は確認できなかった。

（慎重工事）

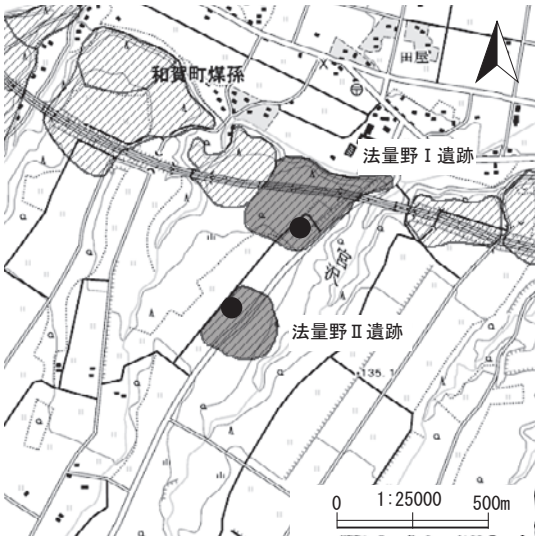


第83図　望野Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図

28　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

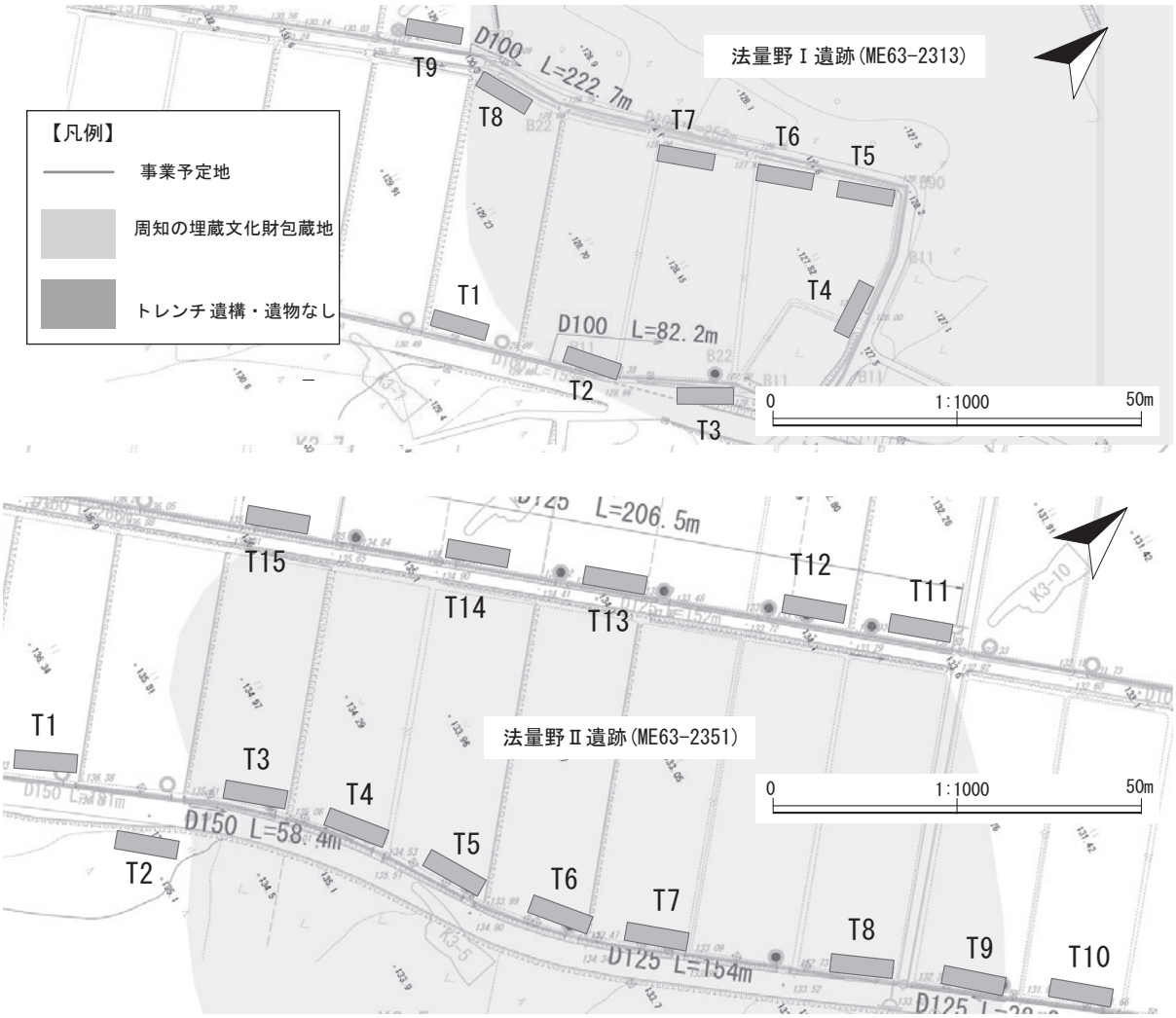
法量野（ほうりょう）Ⅰ遺跡（いせき）（ME63-2313）及び隣接地
法量野（ほうりょう）Ⅱ遺跡（にいせき）（ME63-2351）及び隣接地

所 在 地：北上市和賀町煤孫地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月13日（水）～14日（木）



第84図　法量野Ⅰ・Ⅱ遺跡位置図

調査対象区はＪＲ東日本北上線藤根駅から南西に約3.5～4.0km、和賀川と夏油川に挟まれた丘陵地上に立地する。ともに縄文時代の遺跡で法量野Ⅱ遺跡は中世の遺跡としても登録されている。現地標高は約160mで現況は水田・畑地である。事業は水田の農道部分に給水のためのパイプラインを埋設する経営体育成基盤事業で、調査区に試掘トレンチをそれぞれ設定し、重機で掘り下げたのち、遺構の有無の確認を行った。調査の結果、調査区の大部分は、過去のほ場整備によって切土及び盛土造成されていることが確認された。法量野Ⅰ遺跡調査区南側農道では、下層がグライ化し、湧水が見られた。また、両調査区北側農道は、地山の上に旧耕作土と思われる黒褐色土が残っていたが、遺構や遺物は確認できなかった。　（慎重工事）

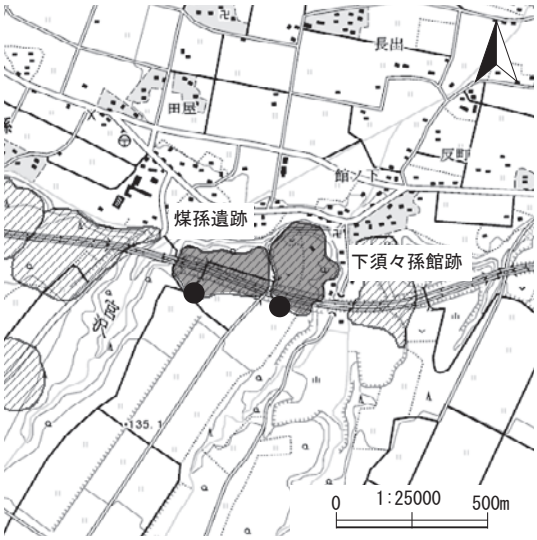


第85図　法量野Ⅰ・Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図

29　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

煤孫遺跡（ME63-2318）
下須々孫館跡（ME64-2001）

所 在 地：北上市和賀町煤孫地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月12日(火)～13日(水)

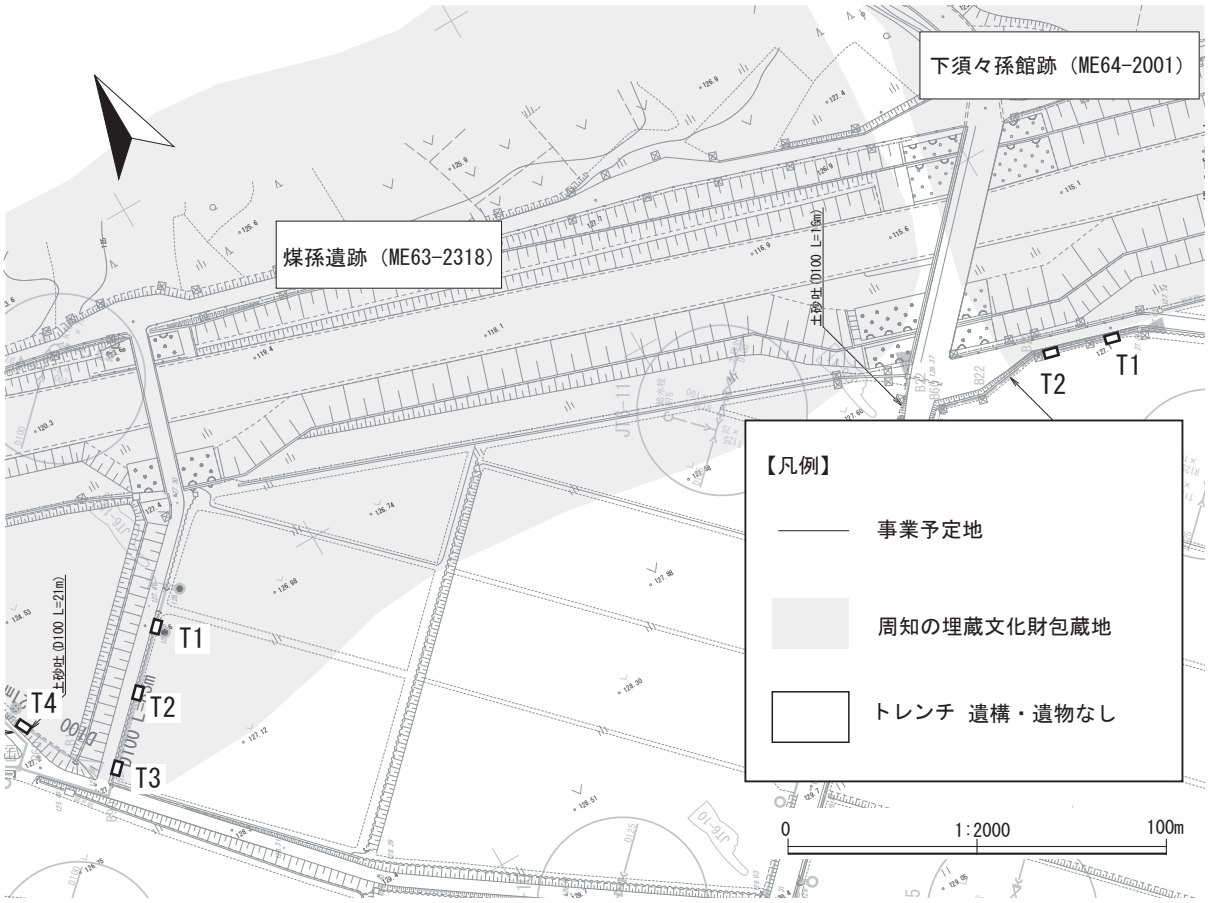


第86図　煤孫遺跡・下須々孫館跡位置図

北上市役所から西に約８kmの扇状地形をなす金ケ崎段丘末端の平坦面に位置する。ともに秋田自動車道整備に係り発掘調査が行われ、煤孫遺跡では縄文時代前期末～中期及び平安時代の集落跡が、下須々孫館跡では陥し穴状遺構や掘立柱建物跡が見つかっている（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第180・197集）。現況は水田及び道路で現地標高は約124～127mである。事業はほ場整備に係るパイプライン整備によるもので、試掘トレンチを調査区全体で６箇所設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。

調査の結果、煤孫遺跡ではＴ１～３で盛土下に黒褐色の自然堆積層が確認された。遺構検出は褐色上面で試みたものの、遺構や遺物は確認されなかった。Ｔ４周辺の旧地形は削平を受けていると考えられる。下須々孫館跡では湧水が確認されたため調査地周辺は低地帯であったと考えられる。

（慎重工事）



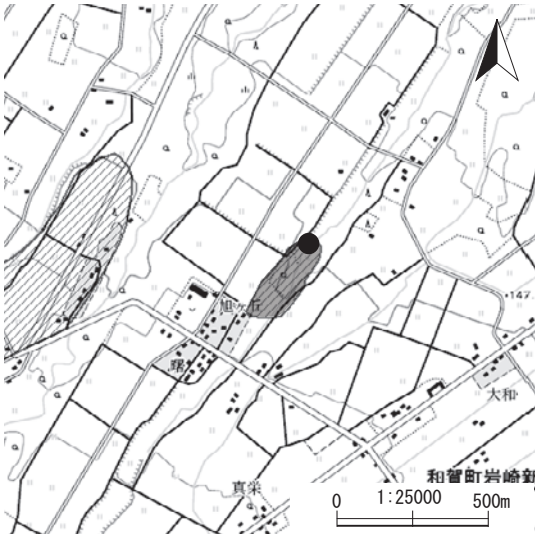
第87図　煤孫遺跡・下須々孫館跡調査位置図

30　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

旭ケ丘遺跡（ME73-0352）及び隣接地

所 在 地：北上市和賀町岩崎新田旭ケ丘地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月12日(火)

旭ケ丘遺跡は北上市役所から南西に約9.5㎞の和賀川右岸の砂礫段丘上に所在する縄文時代の遺跡である。事業予定地は当該遺跡の北西部斜面地に位置する。現地標高は約147～151ｍである。

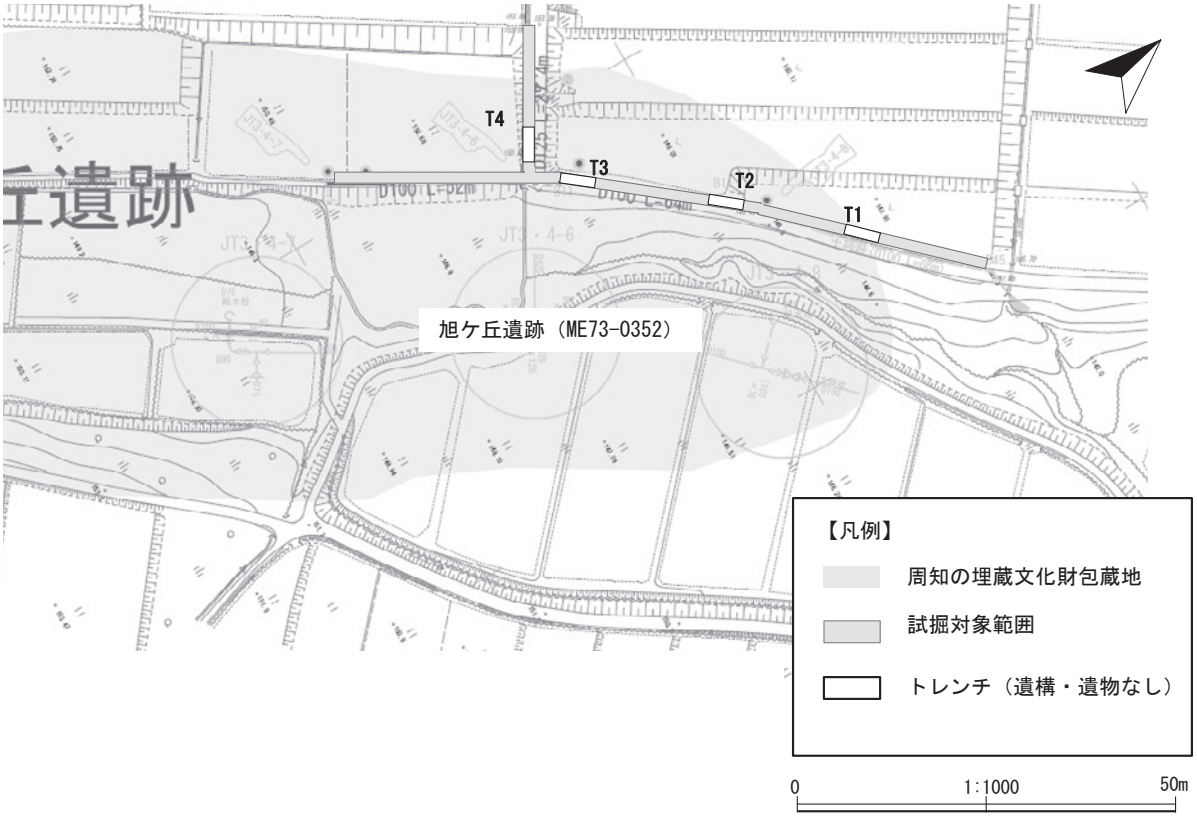


第88図　旭ケ丘遺跡位置図

事業はほ場整備事業の配管設置に係るもので、試掘トレンチを遺跡及びその周辺に調査区全体で４箇所設定し、重機及び人力により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。

調査の結果、Ｔ１～３において、厚く堆積した造成土（Ⅱ層）の下部に、黒色の粘土質シルト層（Ⅲ層）を確認した。Ⅲ層は全体的に水がにじみ一部グライ化している箇所もあり、旧耕作土もしくは沢状の地形における自然堆積層と考えられる。Ｔ２・３においては、その下部に黄褐色土層（Ⅳ層）を確認した。Ｔ４については、造成土下部に黒色土をまだらに含む黄褐色土層が見られ、Ⅲ・Ⅳ層の攪乱層と考えられる。いずれのトレンチにおいても、遺構・遺物等は確認できなかった。

（慎重工事）



第89図　旭ケ丘遺跡及び隣接地調査位置図

31　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

上反町遺跡（ME64-2014）及び隣接地

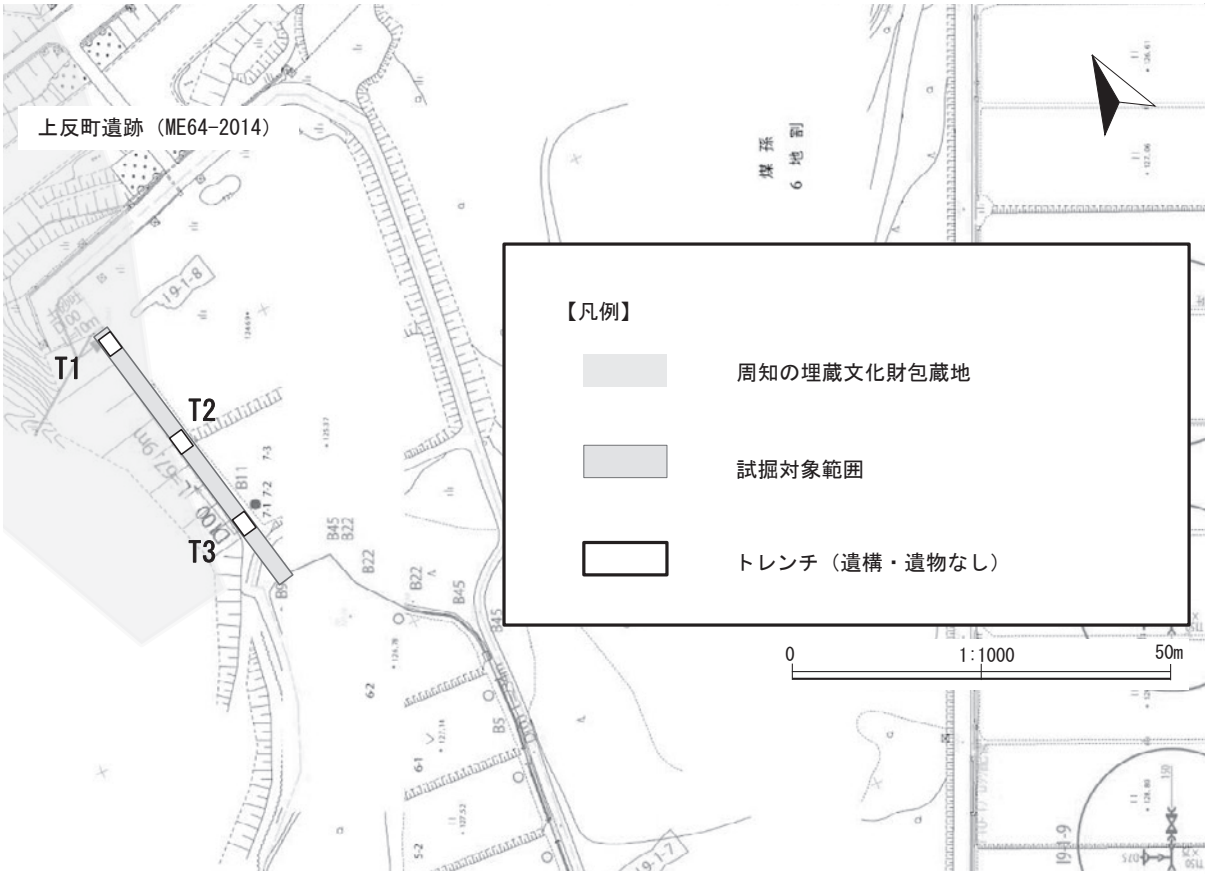
所 在 地：北上市和賀町煤孫地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月12日(火)

上反町遺跡は北上市役所から約８kmの和賀川右岸の河岸段丘上に所在する縄文時代及び中世城館の遺跡である。事業予定地は当該遺跡の南東縁に位置する。現地標高は約124～127mである。

第90図　上反町遺跡位置図

事業はほ場整備事業の配管設置に係るもので、試掘トレンチを遺跡及びその周辺に調査区全体で３箇所設定し、重機及び人力により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。調査の結果、全てのトレンチにおいて、造成土が厚く堆積していることを確認した。Ｔ２においては、造成土下に水のにじむ黒色土層が見られ、東側から西側へ傾斜していることから、本来は西側の急斜面地と連続する地形で、現代の盛土によって平坦面を形成したものと考えられる。いずれのトレンチにおいても、遺構や遺物等は確認できなかった。

（慎重工事）



第91図　上反町遺跡及び隣接地調査位置図

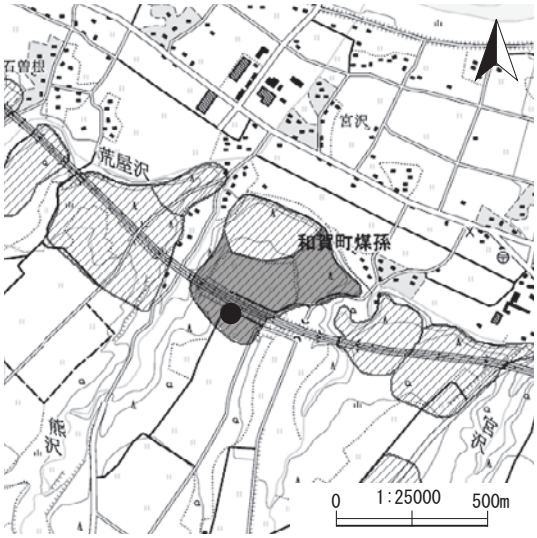
32　経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）

上須々孫遺跡（ME63-1286）

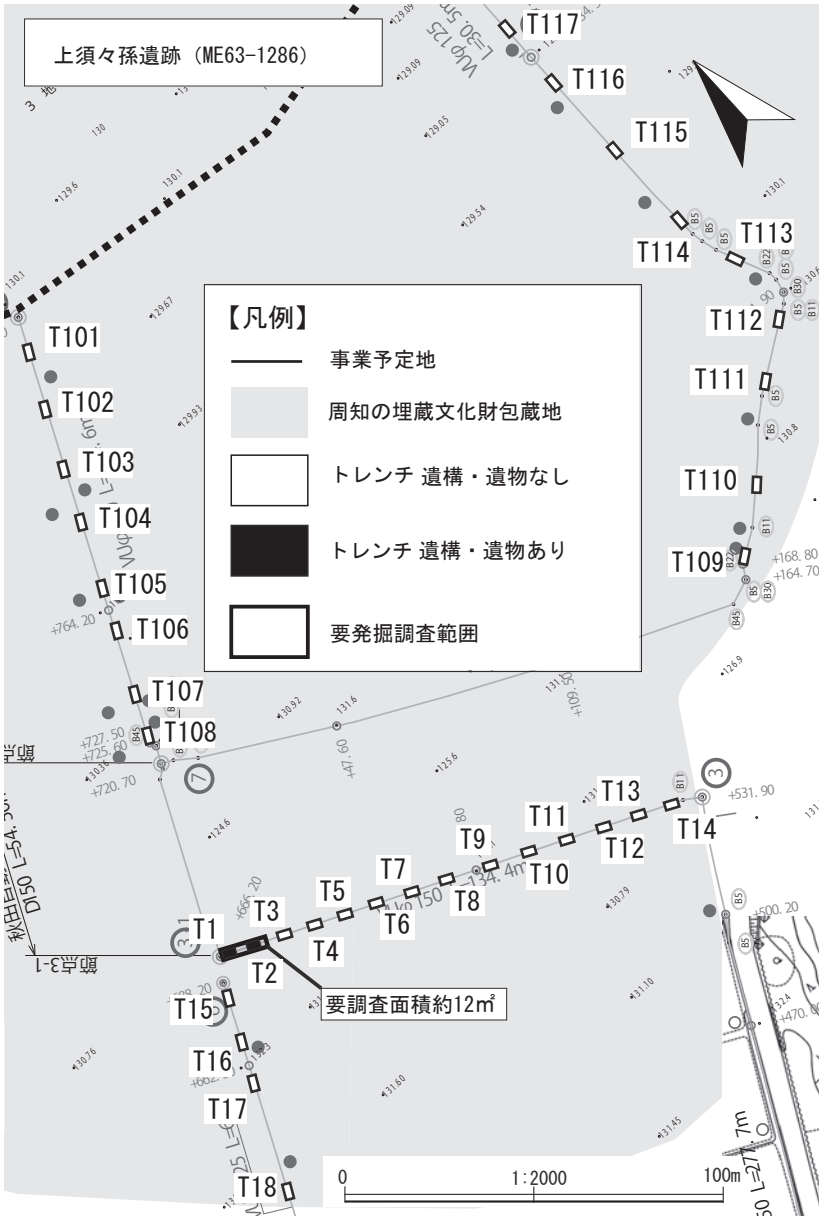
所 在 地：北上市和賀町煤孫地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年９月14日(木)～15日（金）

上須々孫遺跡は北上市役所から西に約9.6㎞の扇状地形をなす金ケ崎段丘末端の平坦面に位置する。過去に、秋田自動車道整備に係り発掘調査が行われ、縄文時代中期の集落遺跡であることが知られている（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第163集）。現況は水田及び道路で現地標高は約129～131ｍである。事業はほ場整備に係るパイプライン整備によるもので、Ｔ１・２から褐色土上面で円形の黒褐色土の落ち込みを検出した。Ｔ１で検出した同落ち込み中に縄文土器が包含されていたため、同時代の遺構と推定する。他のトレンチから遺構は検出されなかった。事業予定地の多くは削平を受けていることが想定されるものの、Ｔ１・２周辺のみ遺構が残存していると考える。

（平成29年度当課により発掘調査実施）



第92図　上須々孫遺跡位置図



第93図　上須々孫遺跡調査位置図

33　経営体育成基盤整備事業（万丁目地区）

万丁目遺跡（ME25-2242）及び隣接地

所 在 地：花巻市南万丁目地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年11月６日(月)～８日(水)

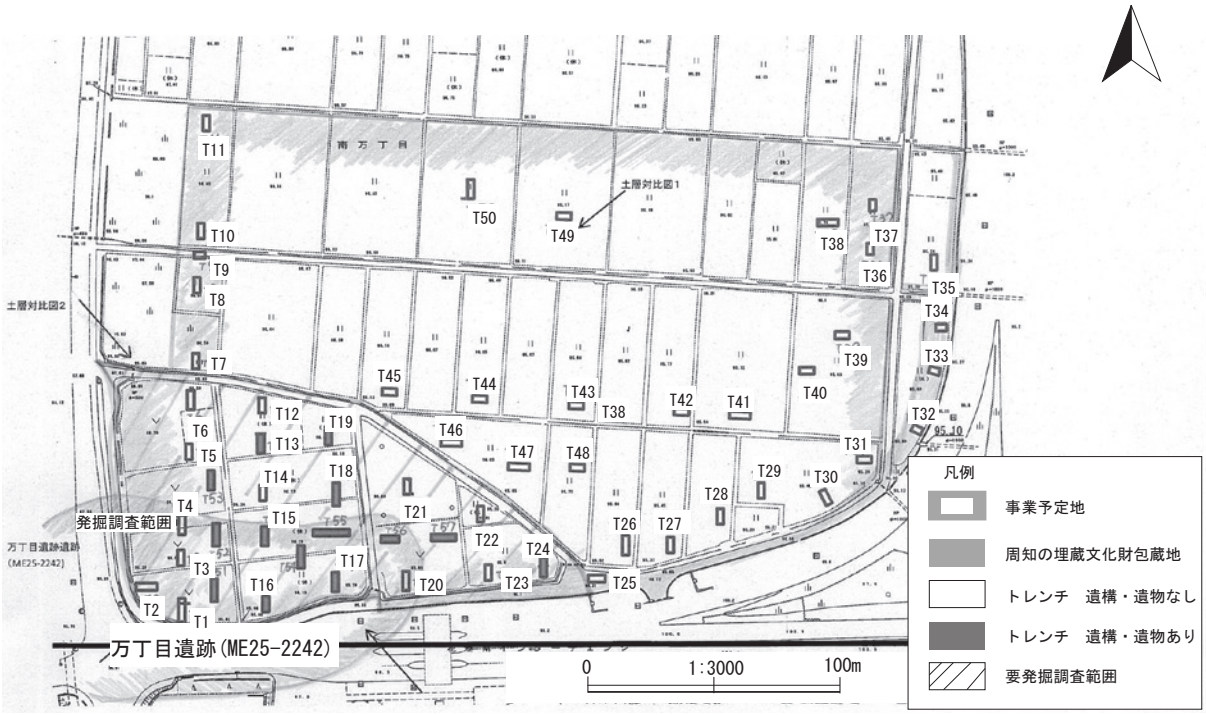
第94図　万丁目遺跡位置図

本遺跡は花巻市役所の西方向約2.5kmに位置する。豊沢川北側に広がる中位段丘面にあり、万丁目遺跡と近隣遺跡は東西方向に細長く伸びる微高地上に立地する。事業地周辺は新生代第三紀層を基盤とする段丘堆積物（砂礫、シルト、粘土）が分布する。事業地周辺の標高は96m前後である。本調査は経営体育成基盤整備事業に係り調査を実施したものである。

基本土層は５層に区分した。微高地北側には低湿地堆積物が確認できるところがある。全般的には過去のほ場整備による地形改変で本来の土層が失われているところが多い。Ⅱ層盛土はＴ7やＴ25で厚く堆積する。トレンチは57本設定した。Ｔ13、Ｔ15～19、Ｔ24、Ｔ51～57では主に柱穴状遺構が検出された。直径約15～50cm、形状は方形・円形、黒褐色土・暗褐色土を埋土とする。Ｔ51では円形の井戸状遺構？が検出され、黒褐色の埋土から土師器長胴甕片が出土した。Ｔ24では長軸が120～160cmの切り合った土坑を２基と長さ190cm以上幅30cmの陥し穴状遺構を検出した。

これらの遺構は検出状況から主に縄文、古代～近世の時代に属するものと推測され、万丁目遺跡の集落跡北端部付近にあたると考えられる。

（平成30年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施）



第95図　万丁目遺跡及び隣接地調査位置図

34　経営体育成基盤整備事業（万丁目地区）

種市遺跡（ME25-2257）及び隣接地
南万丁目Ⅱ遺跡（ME25-2207）及び隣接地

所 在 地：花巻市南万丁目地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　北上農村整備センター
調査期日：平成29年11月７日(火)～８日(水)

事業予定地は花巻市役所の西方向約２㎞に位置し、豊沢川北側に広がる中位段丘面にある。事業地周辺は新生代新第三紀～第四紀層を基盤とする段丘堆積物（砂礫、シルト、粘土）が分布する。事業地周辺の標高は約94～95ｍである。本調査は経営体育成基盤整備事業に係り調査を実施したものである。

第96図　種市遺跡・南万丁目Ⅱ遺跡位置図

【種市遺跡及び隣接地】

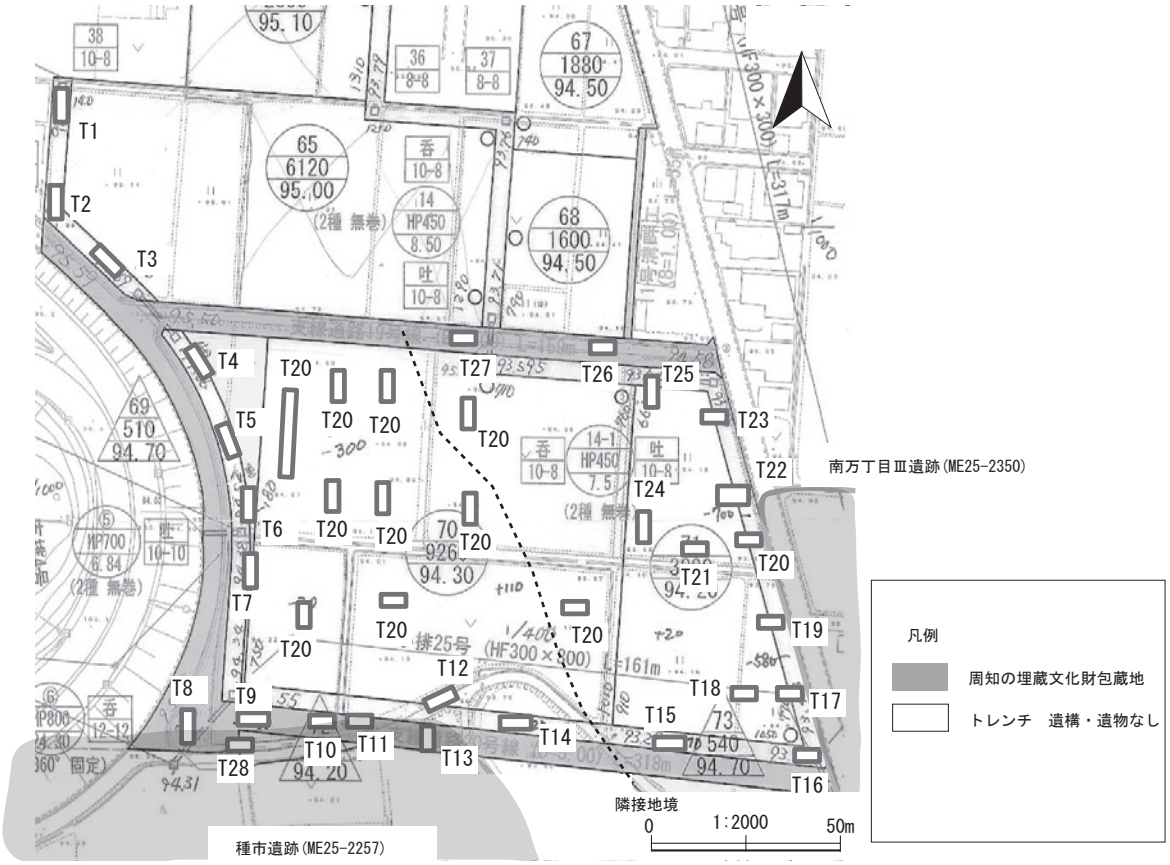
調査範囲は種市遺跡北端と隣接する水田面である。基本土層は４層に区分した。Ⅲ層地山はにぶい黄橙色土～にぶい黄褐色土が多く、南万丁目Ⅱ遺跡周辺に比べて微高地的な場所で、場所により砂礫質土が分布する。土層の締りからはⅠa層水田表土下位にⅠb層下層土の黒褐色土が堆積し、場所により５～10㎝の礫を含む。農道ではⅡ層盛土が厚く堆積する。トレンチは23本設定した。Ｔ９では風倒木痕を検出した。Ｔ13ではⅠa層直下にⅢ層砂礫層が堆積する。Ｔ５、Ｔ12ではⅠ層下位にⅡ層礫混黒褐色土が厚く(約60㎝)堆積し、Ⅲ層地山は砂礫層である。これらの場所では湧水が確認される。全般的に過去のほ場整備で地形改変が行われ、本来の土壌が失われている。本試掘調査ではいずれのトレンチでも遺構は検出されず、遺物も採取できなかった。

（慎重工事）

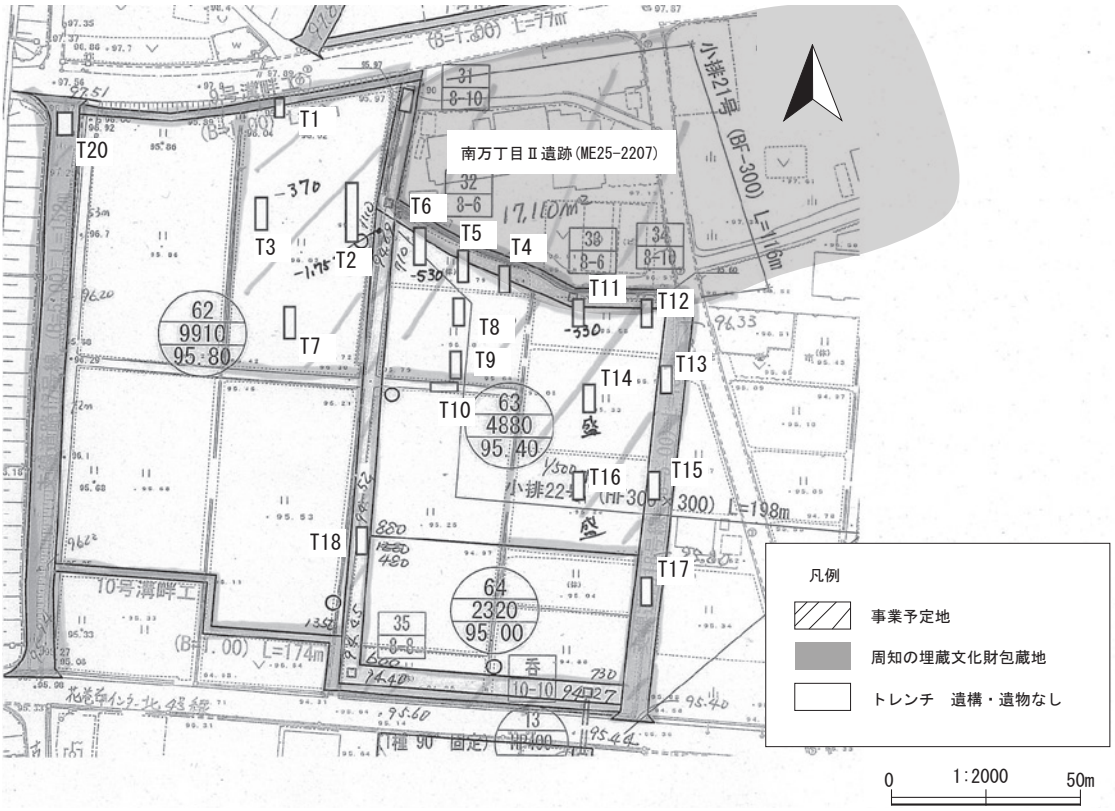
【南万丁目Ⅱ遺跡及び隣接地】

調査範囲は宅地が所在する南万丁目Ⅱ遺跡の西端と、その南側に隣接する水田面である。事業地周辺の標高は96ｍ前後である。基本土層は４層に区分した。全般的に過去のほ場整備による地形改変で本来の土層が失われているところが多い。南万丁目Ⅱ遺跡に南隣する部分と花巻南インター北４号線側の部分はⅣ層地山がにぶい黄橙色土または浅黄色土を呈し、微高地であったと推測される。それらの中間地には湿地的な黒色土が堆積している。トレンチは20本設定した。南万丁目Ⅱ遺跡に隣接するＴ４・５では黒褐色土を埋土にもつ幅15㎝の近現代の溝状遺構と長さ約２ｍ幅約80㎝の風倒木痕を検出した。Ｔ19は市道につながる農道で、本遺跡西端部分にあたる。Ⅲ層旧表土とみられる黒褐色土が残存しているが、遺構は検出されなかった。本試掘調査ではいずれのトレンチでも遺構は検出されず、遺物も採取できなかった。

（慎重工事）



第97図　種市遺跡及び隣接地調査位置図



第98図　南万丁目Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図

35　農地耕作条件改善事業（愛宕地区）

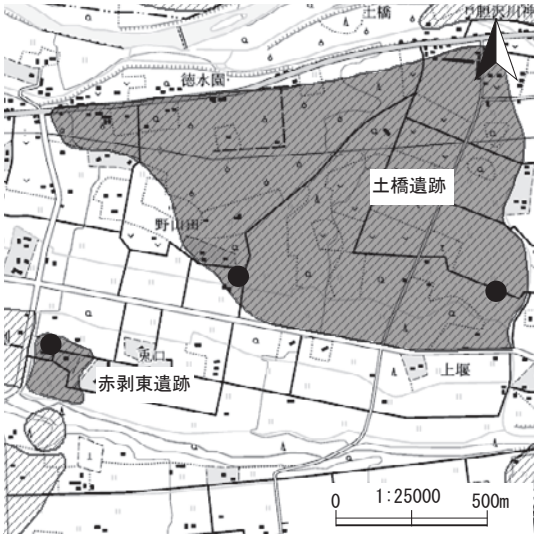
赤剥東遺跡（NE24-1090）及び隣接地
土橋遺跡（NE24-1140）及び隣接地

所 在 地：奥州市胆沢愛宕地内
事 業 者：県南広域振興局農政部農村整備室
調査期日：平成29年10月16日（月）～18日（水）

奥州市役所から西南西へ約10～11km、胆沢扇状地の低位段丘面に位置し、標高は約130～160mを測る。

【赤剥東遺跡及び隣接地】

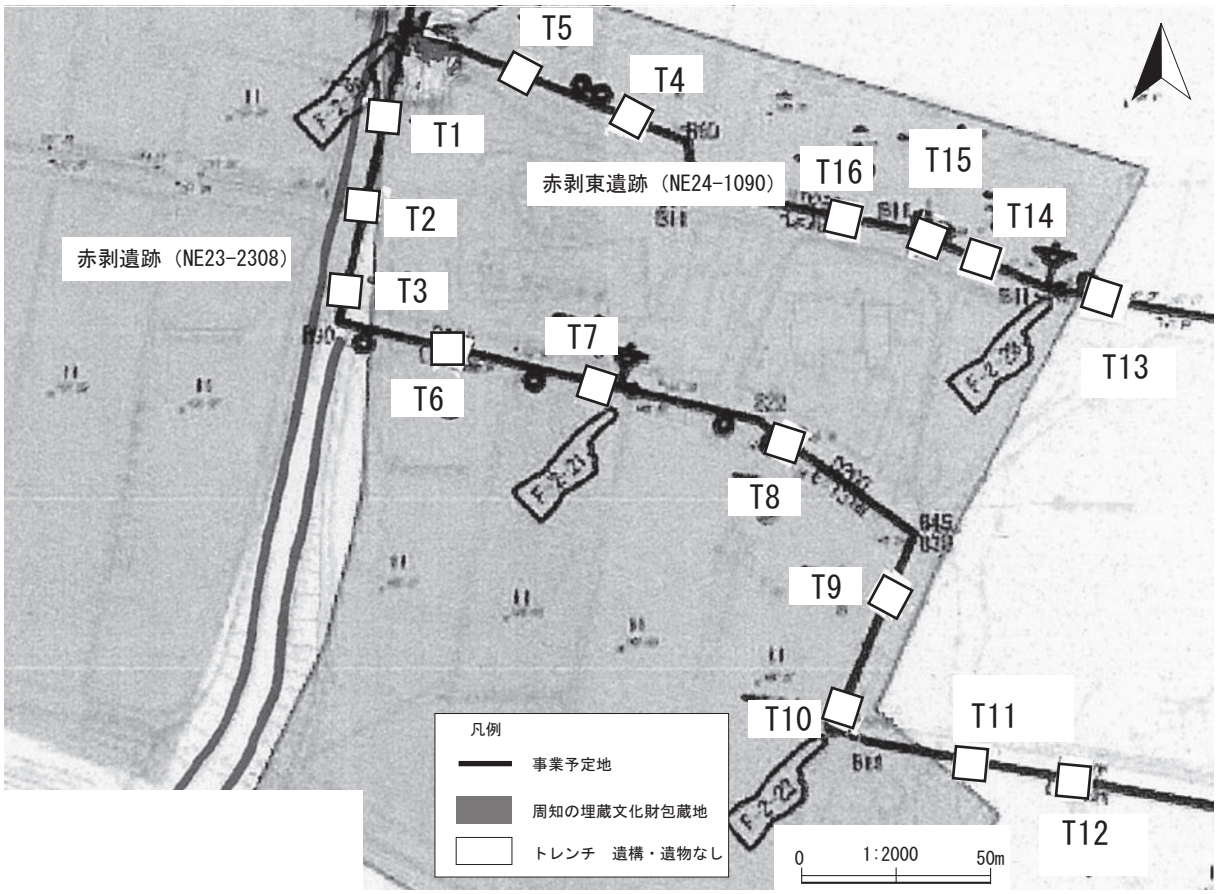
現況は水田や山林で、水田は過去のほ場整備により、宅地や山林に比べて標高が低い状況にある。トレンチを16箇所したが、いずれのトレンチからも遺構及び遺物等は確認されなかった。かつてのほ場整備等により自然堆積層が失われている箇所が多い。北東部には山林が広がり、T13で自然堆積層と思われる黒褐色土を確認しているが、遺物は出土していない。



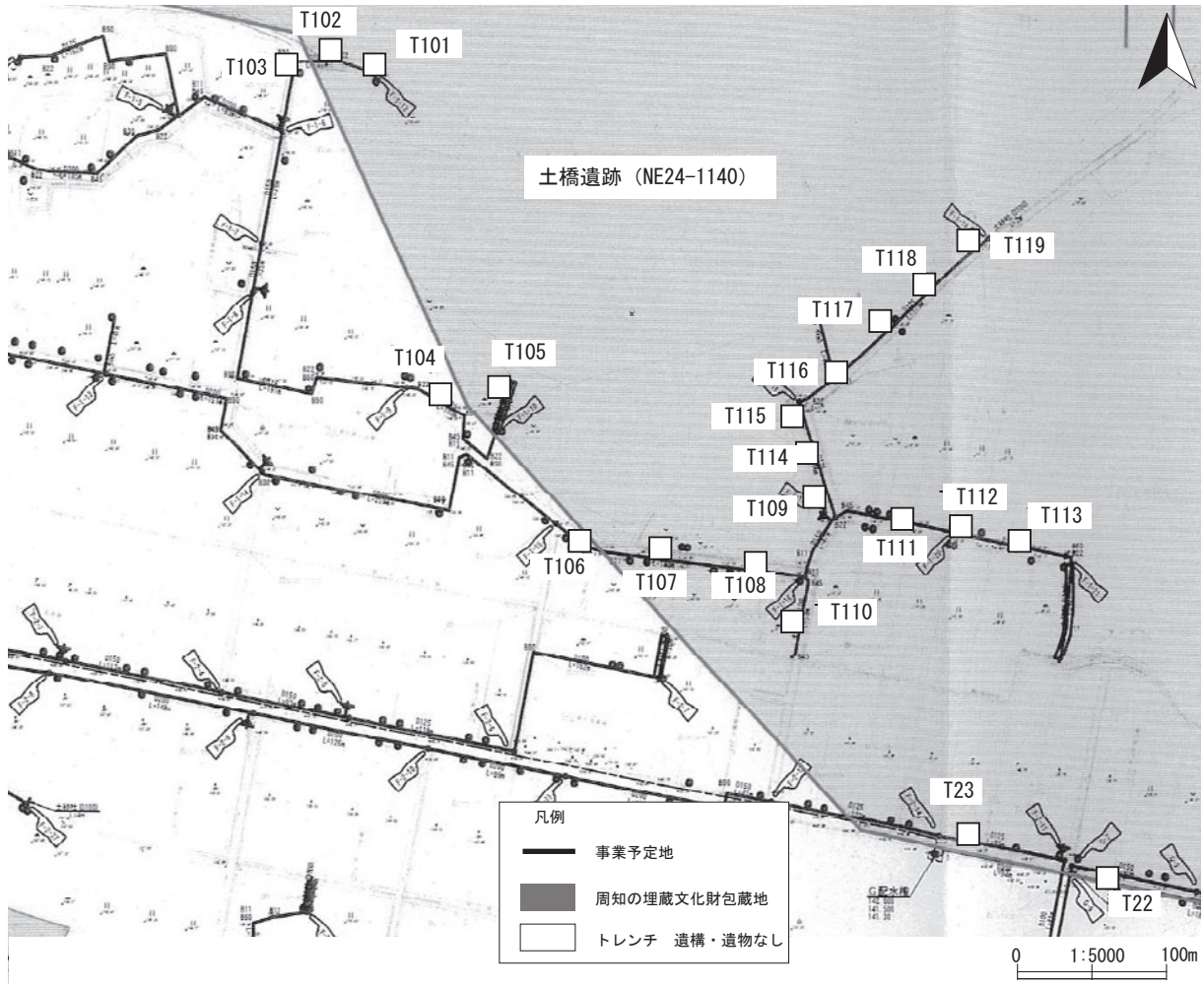
第99図　赤剥東遺跡・土橋遺跡位置図

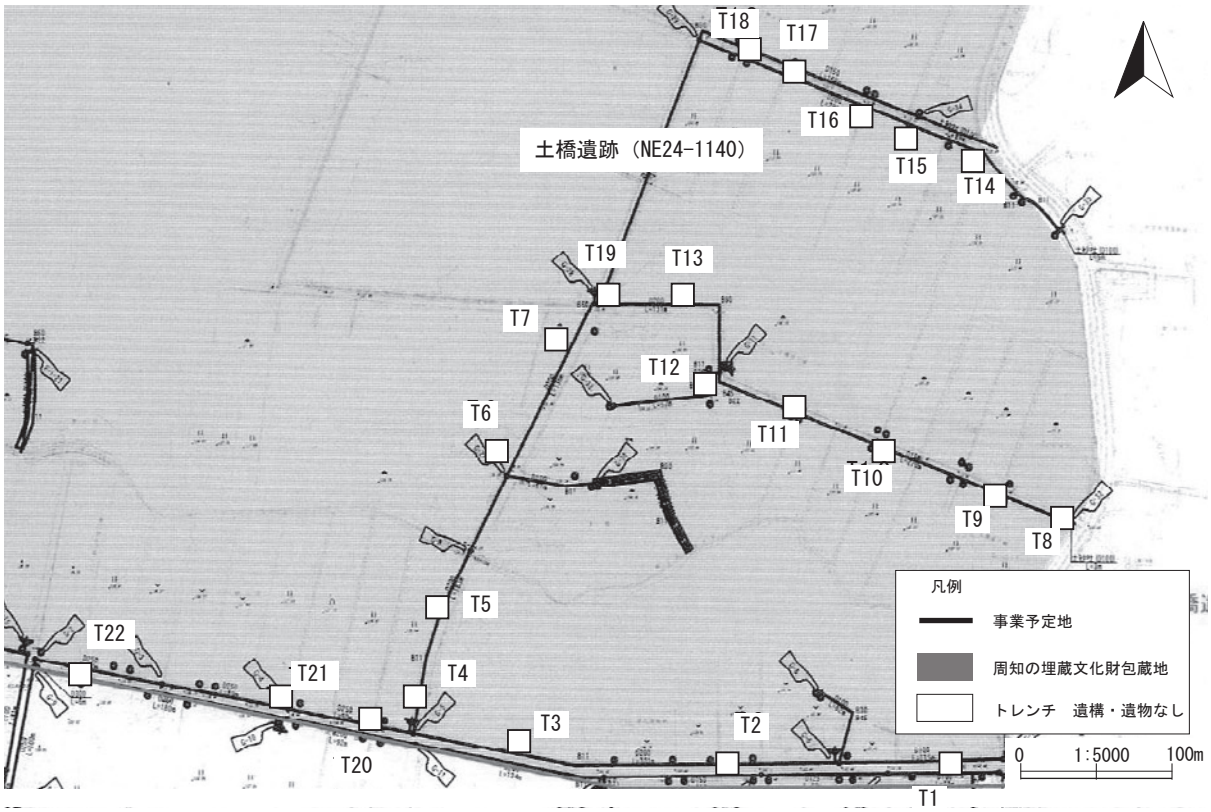
【土橋遺跡及び隣接地】

遺跡の現況は水田で、過去のほ場整備により地形の改変が行われている模様である。トレンチを42箇所設定したが、遺構及び遺物等は確認されなかった。Ｔ８のみ路床材下から旧表土～地山まで自然堆積層の残存を確認したが、その他は自然堆積層が失われていた。　（共に慎重工事）



第100図　赤剥東遺跡及び隣接地調査位置図



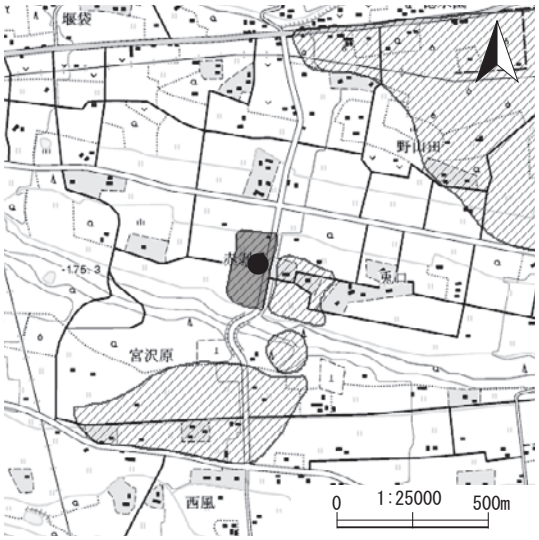


第101図　土橋遺跡及び隣接地調査位置図

36　農地耕作条件改善事業（愛宕地区）

赤剥遺跡（NE23-2308）

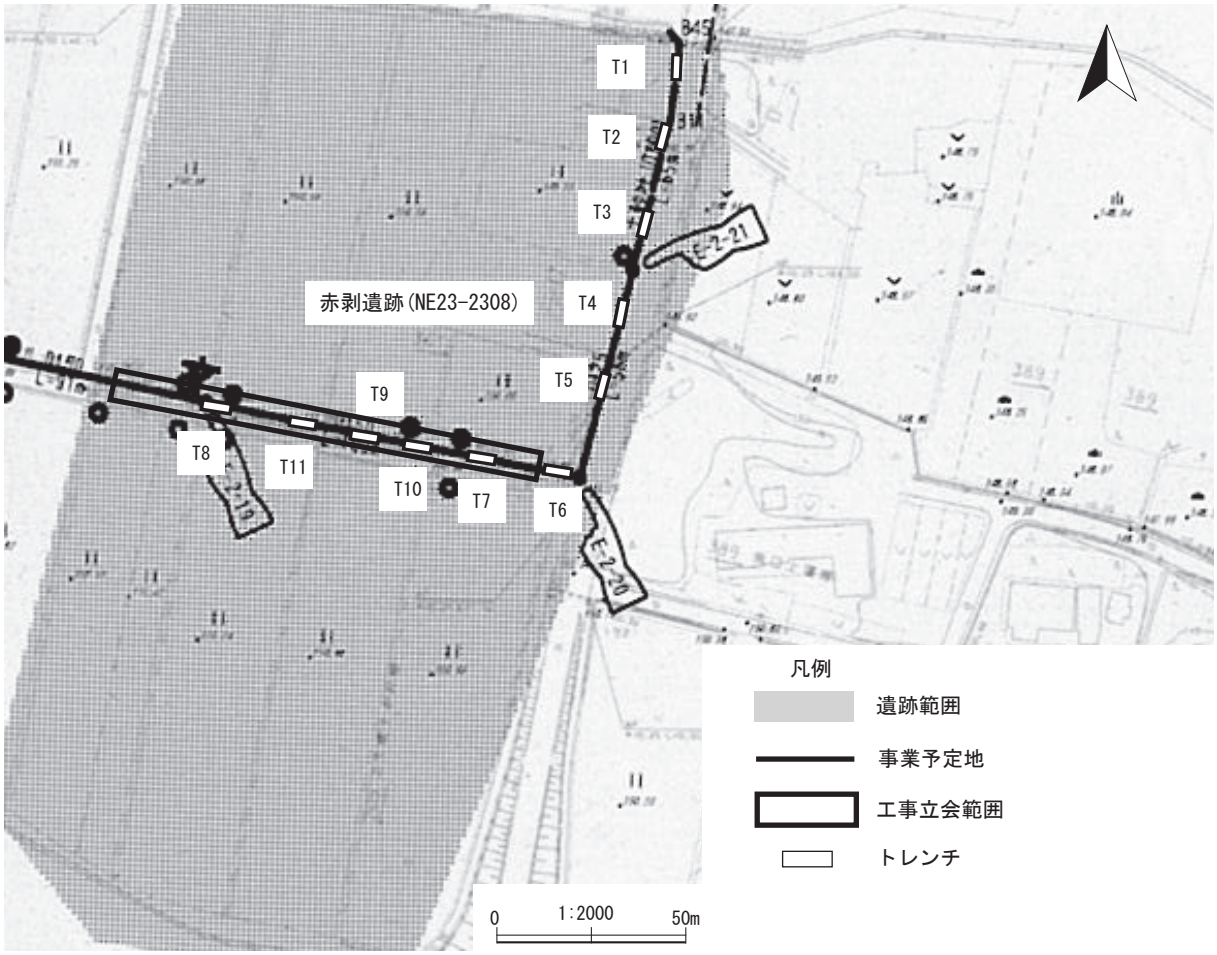
所 在 地：奥州市胆沢若柳字赤剥地内
事 業 者：県南広域振興局農政部農村整備室
調査期日：平成29年10月17日（火）



第102図　赤剥遺跡位置図

本遺跡は奥州市胆沢総合支所の西方向約4.9kmに位置する。胆沢扇状地に広がる段丘群の水沢高位段丘面に立地する。事業地周辺の標高は153m前後である。調査は農地耕作条件改善事業に係り調査を実施したものである。基本土層は4層に区分した。全般的にⅣ層地山上にⅡ層盛土が厚く堆積し、Ⅰ層道路アスファルト・砂礫層が分布する。Ⅲ層旧表土～漸移層（黒褐色土）は南北方向市道沿いで部分的に確認される。本層からは土器片や石器が出土する。トレンチは11本設定した。Ｔ１～５では盛土が厚く、遺構は検出できなかった。Ｔ４Ⅱ層では土器片と石器を採取した。Ｔ６のⅣ層地山は黄褐色土で、Ⅱ層から土器片を採取した。Ｔ７～11ではⅢ層が分布し、Ｔ９では土器片と石器を採取した（遺物包含層）。

以上のことから、南北方向市道交差点付近から東西方向の市道部分には縄文時代後晩期の遺物包含層が広がることが判明した。　（平成29年度当課により工事立会実施）



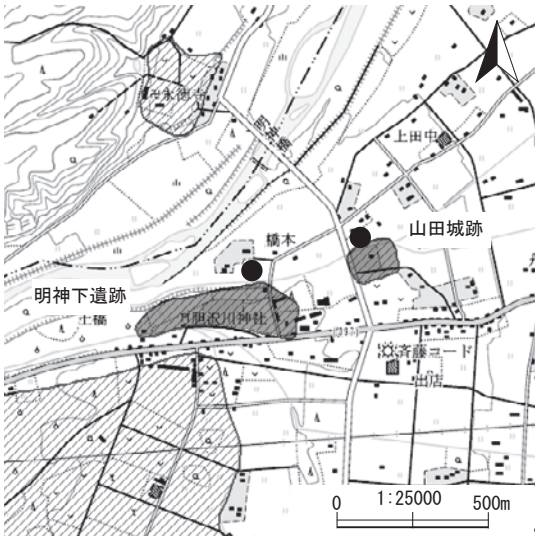
第103図　赤剥遺跡調査位置図

37　経営体育成基盤整備事業（若柳中部地区）

山田城（山田屋敷）跡（NE24-1335）及び隣接地
明神下遺跡（NE24-0188）隣接地

所 在 地：奥州市胆沢若柳字明神下地内
事 業 者：県南広域振興局農政部農村整備室
調査期日：平成29年11月21日（火）～22日（水）

調査対象地は奥州市立若柳中学校から東北東にほぼ0.8㎞、胆沢扇状地の低位段丘面上に位置し、標高は123m前後である。調査地の現況は主に水田及び畑地、山林である。試掘調査は経営体育成基盤整備事業によるほ場整備に係り、山田城（山田屋敷）跡及び隣接地で掘削工事が行われるため、明神下遺跡隣接地とともに実施した。



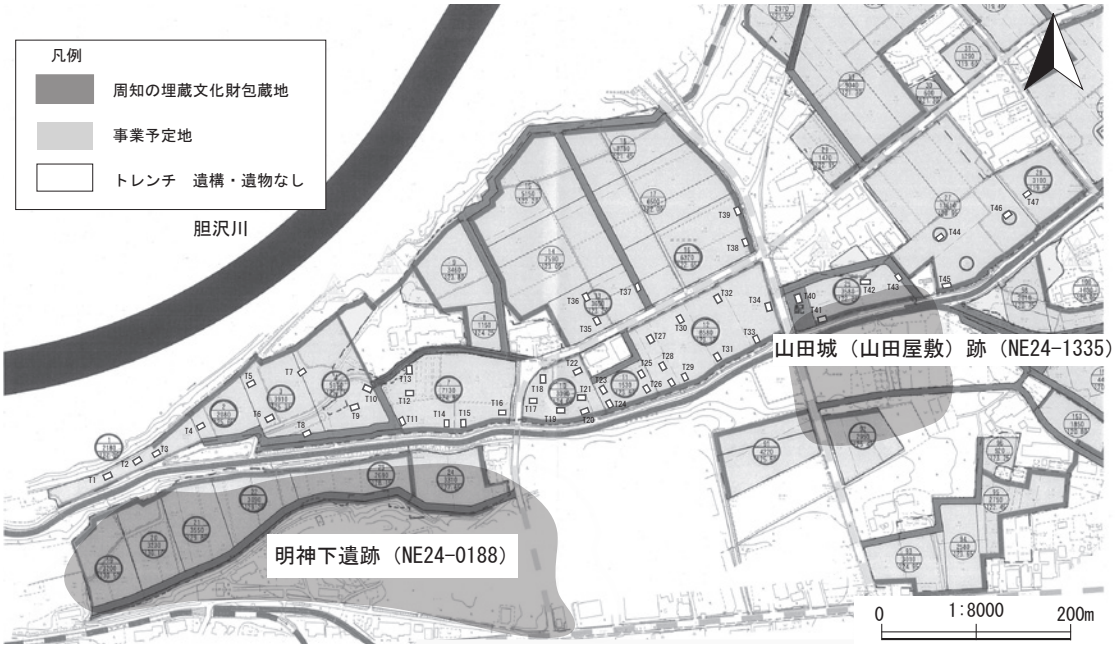
第104図　山田城跡・明神下遺跡位置図

【山田城（山田屋敷）跡及び隣接地】

トレンチを15箇所設定したが、遺構及び遺物は確認されなかった。明神下遺跡隣接地と同様で大きく、耕作土、盛土、地山の３つに土層が分けられる。一部は耕作土直下に地山があり、大きく削平されていると考えられる。Ⅲ層とした褐色砂質土が自然堆積と思われるが、水の多い環境で堆積したと推定される。昭和22年の空中写真から見ても胆沢川の支流の一つが流れていたと考えられる。

【明神下遺跡隣接地】

自然堤防状の高まりを挟んで胆沢川が東に流れている。南側も調査地より約７m標高が高く、東西に延びている。これが明神下遺跡である。トレンチを32箇所設定したが、遺構及び遺物は確認されなかった。大きく削られた部分は耕作土直下に地山が認められた。盛土は水田造成の際のものと思われる。Ⅲ層とした褐色粘土質土が自然堆積と思われるが、水の多い状態で堆積したと推定される。南北両側の高まりがあり間の低地の地山が砂層や河川堆積と思われる砂礫層であり、調査対象地は本来、胆沢川の支流の一つが流れていたと考えられる。（山田城跡：慎重工事、明神下遺跡隣接地：工事着手可）



第105図　山田城跡及び隣接地・明神下遺跡隣接地調査位置図

38　経営体育成基盤整備事業（愛宕地区）

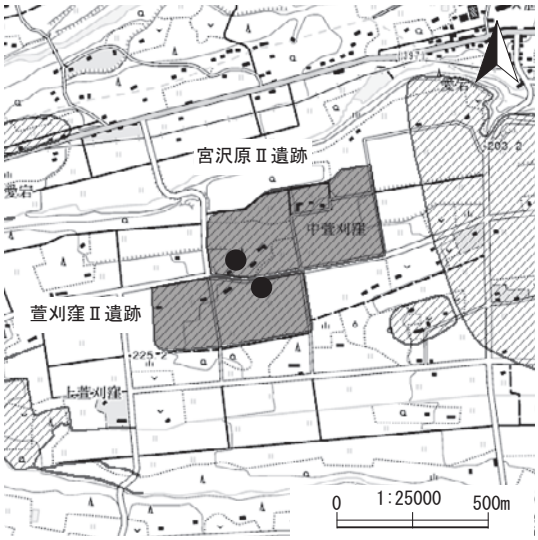
宮沢原（みやざわはら）Ⅱ遺跡（NE22-2316）
萱刈窪（かやかりくぼ）Ⅱ遺跡（NE22-2353）

所 在 地：奥州市胆沢愛宕地内

事 業 者：県南広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成29年10月30日（月）～31日（火）

調査対象地は奥州市役所から西南西へ約14km、胆沢扇状地の中位段丘面に位置し、標高は約200mを測る。同一地形面上で道路を境にして宮沢原Ⅱ遺跡・萱刈窪Ⅱ遺跡が所在する。試掘調査は農地耕作条件改善事業によるほ場への導水管を埋設する工事に係るものである。



第106図　宮沢原Ⅱ遺跡・萱刈窪Ⅱ遺跡位置図

【宮沢原Ⅱ遺跡】

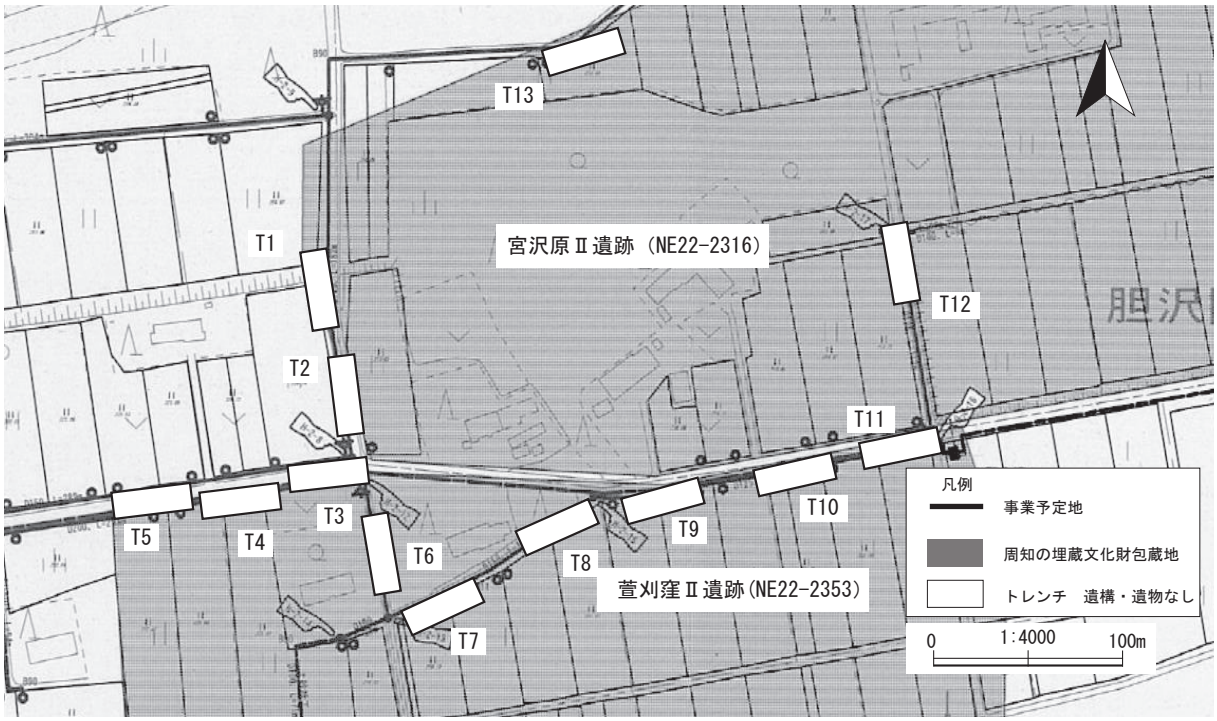
現況は水田であり、緩やかな西高東低の地形を呈する。調査ではトレンチを４箇所（Ｔ１・Ｔ２・Ｔ12・Ｔ13）設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。その結果、いずれのトレンチからも遺構及び遺物等は確認されなかった。過去のほ場整備または道路工事により自然堆積層が完全に失われたと考えられる。

（慎重工事）

【萱刈窪Ⅱ遺跡】

現況は水田である。調査ではトレンチを９箇所（Ｔ３～11）設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。その結果、いずれのトレンチからも遺構及び遺物等は確認されなかった。過去のほ場整備または道路工事により自然堆積層が完全に失われたと考えられる。

（慎重工事）



第107図　宮沢原Ⅱ遺跡・萱刈窪Ⅱ遺跡調査位置図

39　経営体育成基盤整備事業

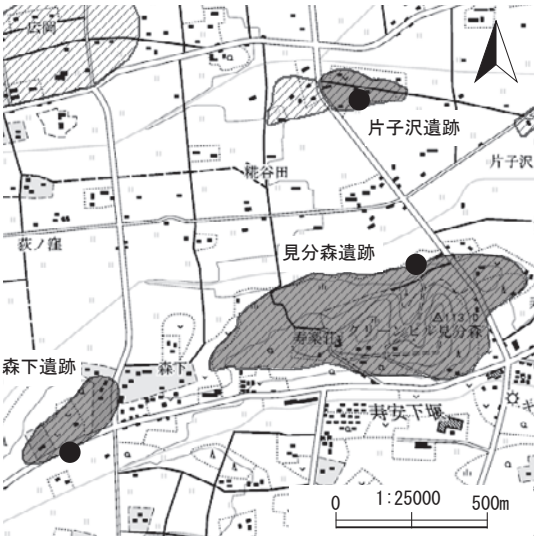
森下遺跡（NE25-2205）及び隣接地
見分森遺跡（NE25-1375）及び隣接地
片子沢遺跡（NE25-1313）

所 在 地：奥州市胆沢南都田地区

事 業 者：県南広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成29年12月12日（火）～13日（水）

調査対象地はＪＲ東日本東北本線水沢駅の西南西約4.3～5.5kmに位置する。試掘調査は経営体育成基盤整備事業によるほ場整備に係るものである。



第108図　森下遺跡ほか位置図

【森下遺跡及び隣接地】

調査対象地の標高は95m前後である。調査地の現況は主に水田で、森下遺跡は胆沢扇状地上に分布する東西に長い丘陵上に立地している。

調査ではトレンチを８箇所設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。

調査の結果、耕作土直下は大きく削平されており、遺構及び遺物は確認されなかった。調査区は遺跡の縁辺でもあり、もともと遺構遺物の密度が薄かった可能性もあるが、過去の水田造成によって遺構や遺物が失われてしまったとも考えられる。

（慎重工事）

【見分森遺跡及び隣接地】

遺跡は胆沢扇状地上に分布する東西に長い丘陵に立地している。調査対象地の標高は80m前後だが、見分森遺跡の中心部は113mほどある。調査地の現況は主に水田である。調査ではトレンチを12箇所設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。

調査の結果、遺構及び遺物は確認されなかった。表土の耕作土の下には粘土質の盛土が見られ、一部盛土が無く黄褐色土の地山認められる場所もある。水田造成により大きく削平されるなど、地形が改変されている。

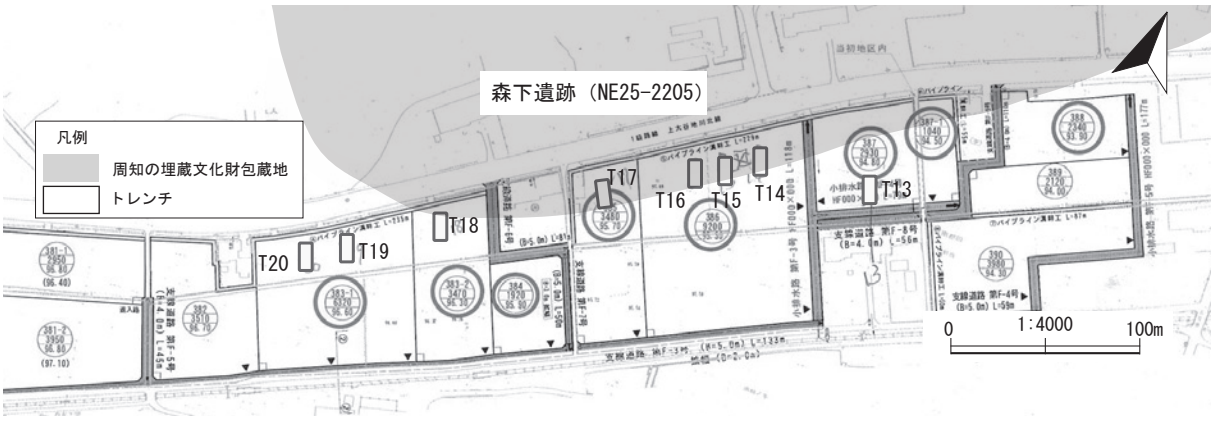
（慎重工事）

【片子沢遺跡】

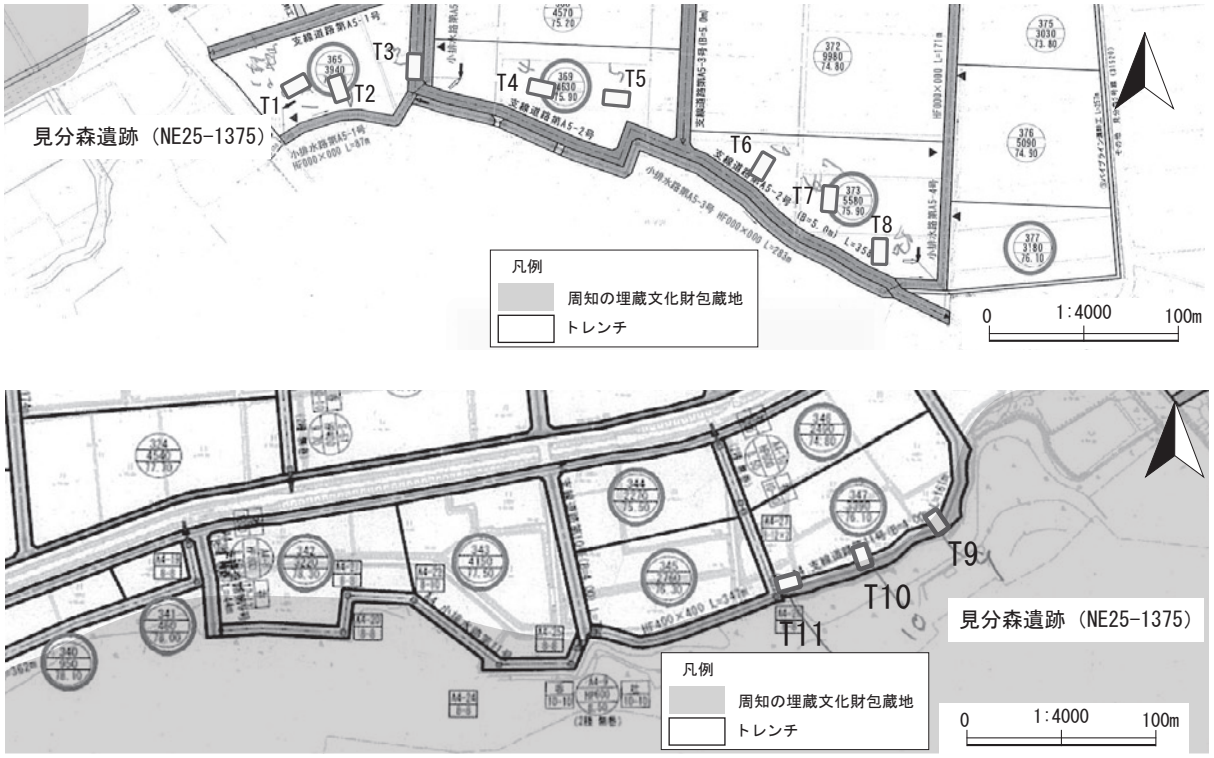
遺跡は胆沢扇状地上に放射状に断続的に分布する長い丘陵に立地している。調査対象地の標高は79m前後である。調査地の現況は水田・畑地・宅地である。西隣には糀谷田遺跡が位置する。道路が遺跡境となっているが、地形は一連のもので本来ひとつの遺跡と考えるべきである。調査ではトレンチを７箇所設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。

調査の結果、遺構及び遺物は確認されなかった。水田耕作土の直下水田造成時の盛土があり、下に黄褐色土の地山が確認された。水田造成により大きく削平されている。

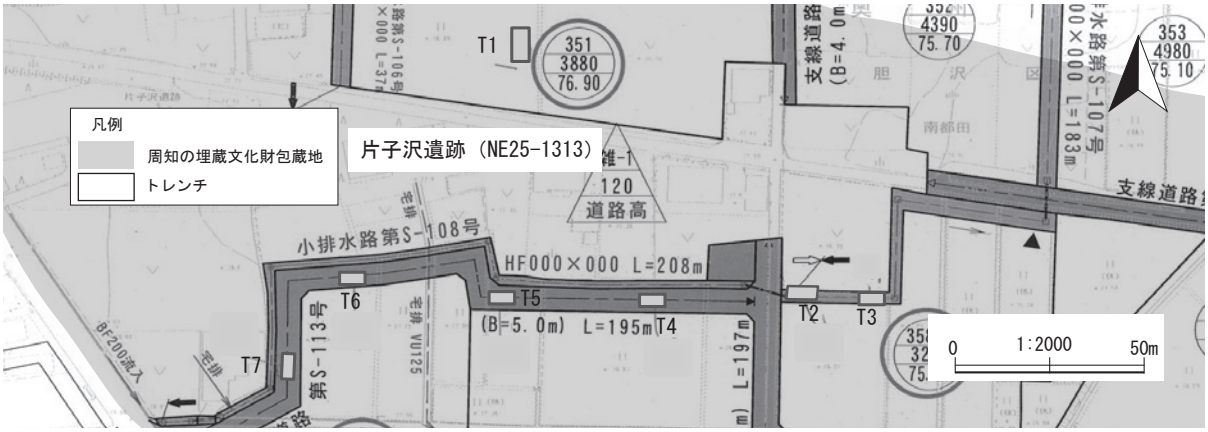
（慎重工事）



第109図　森下遺跡及び隣接地調査位置図



第110図　見分森遺跡及び隣接地調査位置図



第111図　片子沢遺跡調査位置図

40　経営体育成基盤整備事業

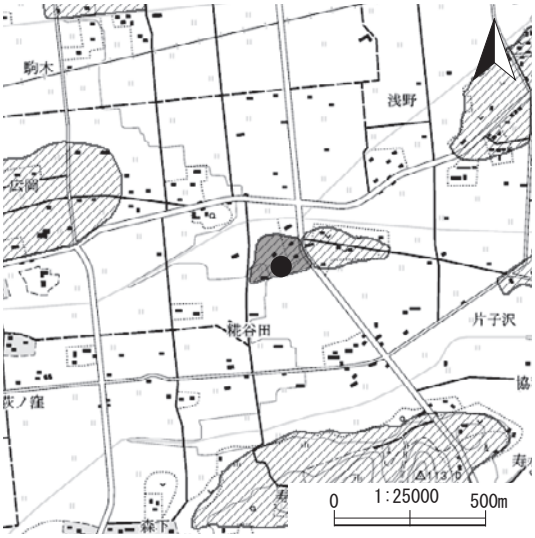
糀谷田遺跡（こうじやたいせき）（NE25-1322）

所 在 地：奥州市胆沢南都田地区

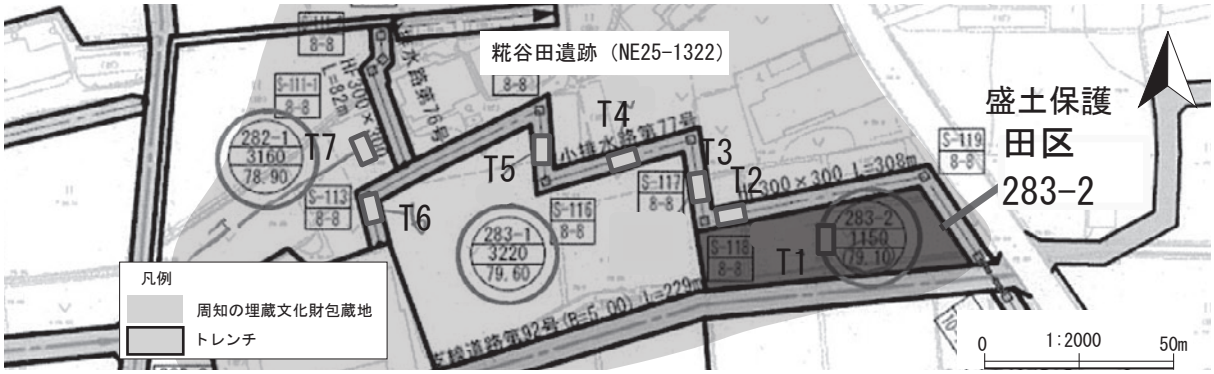
事 業 者：県南広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成29年12月12日（火）～13日（水）

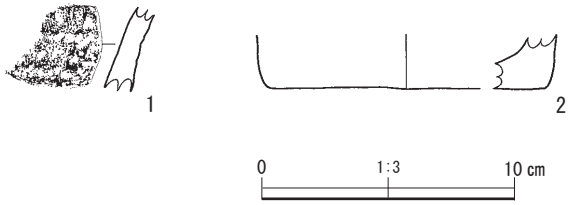
遺跡は胆沢扇状地上に放射状に断続的に分布する長い丘陵に立地している。東隣には片子沢遺跡が位置する。調査対象地はＪＲ東日本東北本線水沢駅の西南西4.2kmに位置する。調査対象地の標高は80m前後である。調査地の現況は水田・畑地・宅地である。道路が遺跡境となっているが、地形は一連のもので本来ひとつの遺跡と推測される。今回の試掘調査は経営体育成基盤整備事業によるほ場整備に係るものである。調査ではトレンチを７箇所設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。調査の結果、縄文時代と推定される土坑及び、縄文土器片が確認された。縄文土器片は撹乱からの出土である。土坑は１基地表面の下22cmで検出された。また、撹乱土から縄文土器片が少量出土した。水田造成により大きく削平されているが、田区№283-2について縄文時代の遺構等が残っていると思われる。（工法変更により盛土保護）



第112図　糀谷田遺跡位置図



第113図　糀谷田遺跡調査位置図



第114図　糀谷田遺跡出土遺物図

写真図版18　糀谷田遺跡出土遺物

第13表　糀谷田遺跡出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	T1土坑	－	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	LR斜
2	T3	－	縄文土器	深鉢	底部	［11.0］	－	－	－	無文

計測値の［　］は推定値、（　）が残存値を表す。

41　経営体育成基盤整備事業

北赤堰遺跡（NE34-1228）及び隣接地

所 在 地：奥州市胆沢小山字北赤堰地内
事 業 者：県南広域振興局農政部農村整備室
調査期日：平成29年12月14日（木）～15日（金）

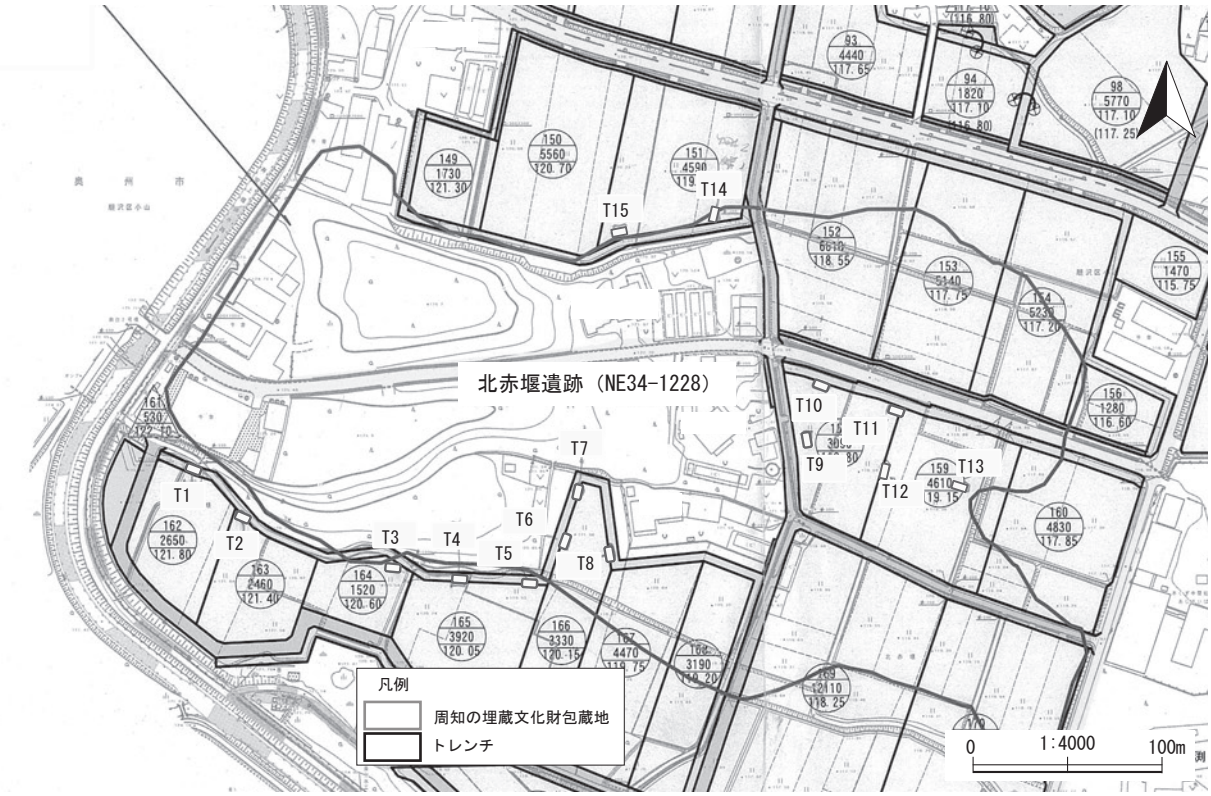
調査対象地は、ＪＲ東日本東北本線水沢駅の南西9.7㎞に位置する。胆沢扇状地の低位段丘面上に位置し、標高は150～160mである。調査地の現況は主に水田、宅地、畑である。遺跡は胆沢扇状地上を東西に流れた胆沢川の支流に、南北が浸食されて残った高まりが主な範囲となっている。遺跡内の高低差が大きく東端より西端が約10m高い。

第115図　北赤堰遺跡位置図

試掘調査は経営体育成基盤整備事業によるほ場整備に係り、周知の埋蔵文化財包蔵地北赤堰遺跡で掘削工事が行われるため、実施されることとなった。

調査ではトレンチを15箇所設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。調査の結果、遺構及び遺物は確認されなかった。南西側からは表土の直下から礫混じりの層が確認された。一部は自然の礫層と考えられたが、一部は現況の水田造成の際意図的に敷かれた可能性がある。東側、北側はやや高かったが大きく削平されており、遺構や遺物は確認できなかった。

（慎重工事）



第116図　北赤堰遺跡及び隣接地調査位置図

42　県単急傾斜地崩壊対策事業

千厩城（茶臼館）跡（OF00-0359）

所 在 地：一関市千厩町館山地内

事 業 者：県南広域振興局土木部千厩土木センター

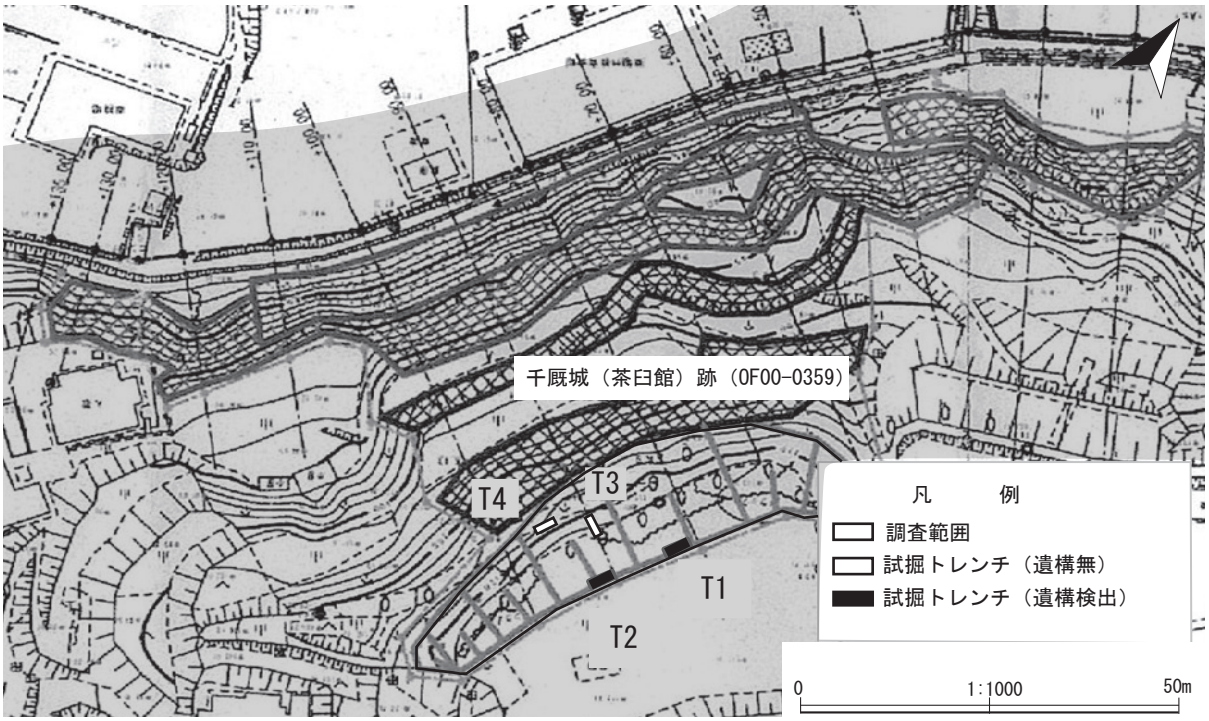
調査期日：平成29年５月19日（金）

千厩城は一関市役所から東へ18kmの位置にある。現市街地を見下ろす標高130m（比高50m）の丘陵地に立地する。現況は、北東側の平坦地に千厩町体育館などの公共施設があり、他は宅地や畑地となっている。城跡の東側は町道や駐車場などにより、地形改変されている区域が多いが、公共施設の西側では、現地形が残されており、城跡頂部（畑地）で、郭（二ノ郭）と思われる平場を確認している。

第117図　千厩城跡位置図

調査区域は、東日本大震災の際にクラックの入った北側急斜面の崩壊対策工事に係り、掘削される範囲となる。４箇所のトレンチを設定した。平坦面に設定したＴ１ではⅡ層上面を検出面とした柱穴状遺構を、Ｔ２においてⅤ層黄褐色土上面を検出面とした柱穴状遺構４基を検出した。また斜面に設定したＴ３ではⅡ層盛土が厚く堆積していることが判明した。この結果、Ⅱ層は比較的新しい時期に、背後の斜面を削り平坦部を広げた痕跡であり、Ｔ１で検出された柱穴状遺構は近現代の遺構と判断した。これらのことから、Ｔ１・２を設定した上位平場には何らかの施設（掘立柱建物跡もしくは柵列など）があった可能性がある。城跡の縄張りはⅢ層旧表土下で確認できるが、調査区域の平場は、現況より狭い帯曲輪に近い形状と考えられる。Ｔ３・４を設定した狭い平場は、Ⅱ層が認められることから、近現代の道路と考えられるが、Ⅲ層下において城跡の痕跡が残る可能性もある。

（平成29年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施）

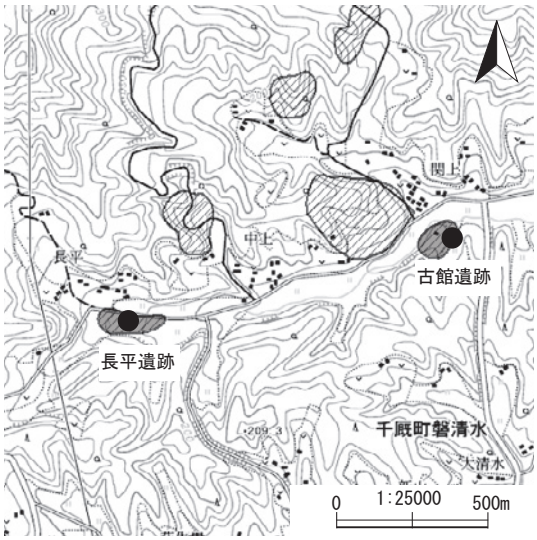


第118図　千厩城跡調査位置図

43　経営体育成基盤整備事業

長平遺跡（NF80-2161）及び隣接地
古館遺跡（NF80-2251）及び隣接地

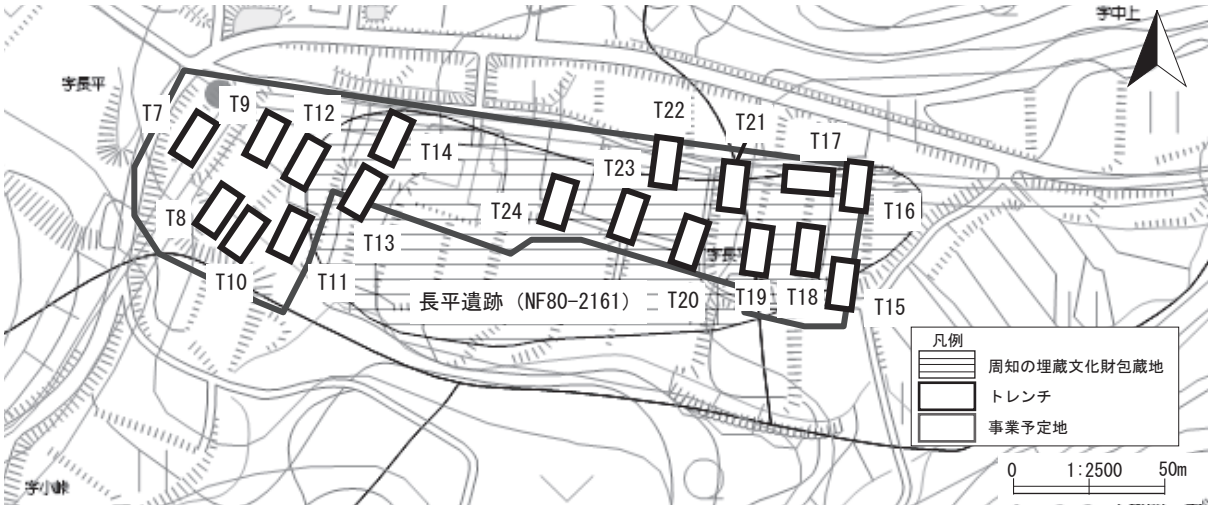
所 在 地：一関市千厩町仏坂地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　一関農村整備センター
調査期日：平成29年11月14日（火）～16日（木）



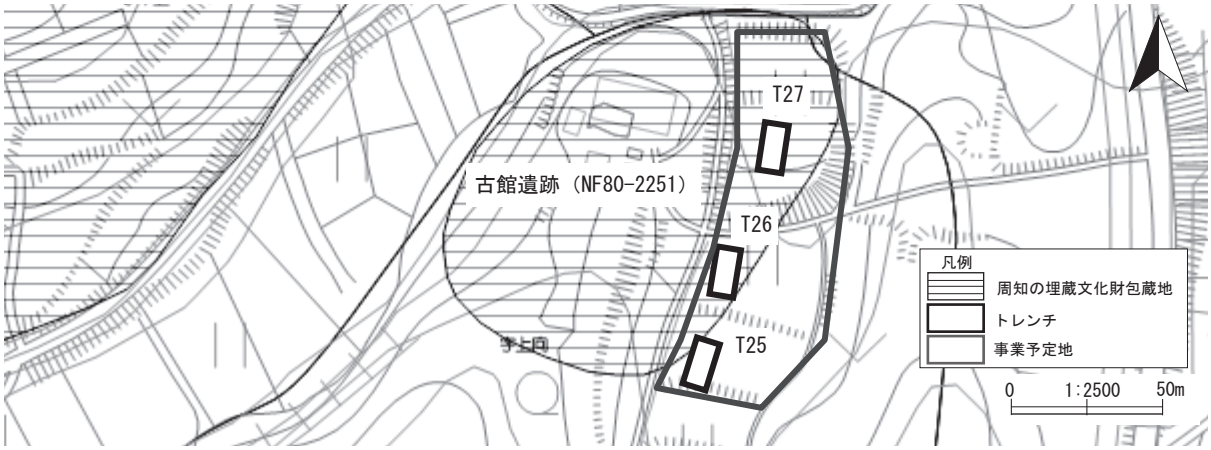
第119図　長平遺跡・古館遺跡位置図

調査対象地は一関市役所から東へ約16～17kmに位置する。試掘調査は経営体育成基盤整備事業によるほ場整備工事に係るものである。現況は水田と畑地で周辺には花崗閃緑岩の巨礫が露出しており、ほ場の隅に集められた巨礫が見られる。標高は約140～180mを測る。長平遺跡及び隣接地ではトレンチを18箇所、古館遺跡及び隣接地ではトレンチを３箇所設定した。その結果、いずれのトレンチからも遺構及び遺物は確認されなかった。Ｔ７～９にかけて上部層以外は自然堆積層が人為的な影響を受けず残存していたが、Ｔ10～24は過去のほ場整備により自然堆積層が削平を受けており、耕作土直下が地山、または小河川が埋没した地形のため砂礫粘土と湧水が確認された。

（共に慎重工事）



第120図　長平遺跡及び隣接地調査位置図



第121図　古館遺跡及び隣接地調査位置図

44　経営体育成基盤整備事業

中島遺跡（NE95-2273）及び隣接地

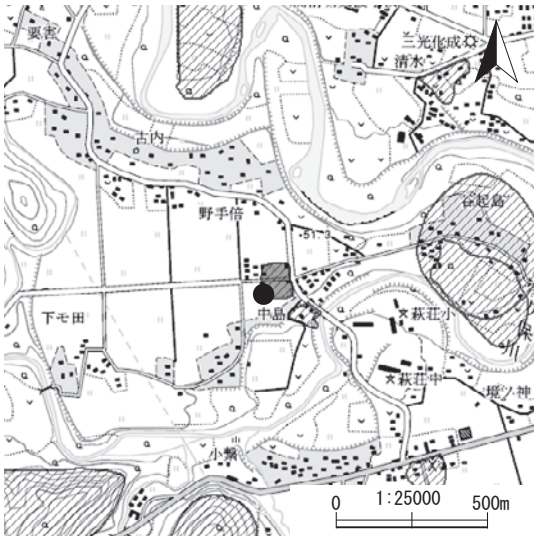
所 在 地：一関市萩荘西黒沢地区
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　一関農村整備センター
調査期日：平成29年11月20日(月)～22日(水)、
　　27日(月)～28日(火)

調査対象地は一関市役所から西南西へ約3.5km、磐井川と久保川に挟まれた河岸段丘面上に位置し、標高は約52～55mを測る。地形は平坦であるが、調査区南北軸中央付近をピークとし、両河川に向かって緩やかな傾斜が見られる。当該遺跡とその周辺の現況は、水田と畑地であり、一部に休耕田が見られる。区画整備されたほ場と平坦な地形から、過去のほ場整備により地形の改変が行われたものと推測される。

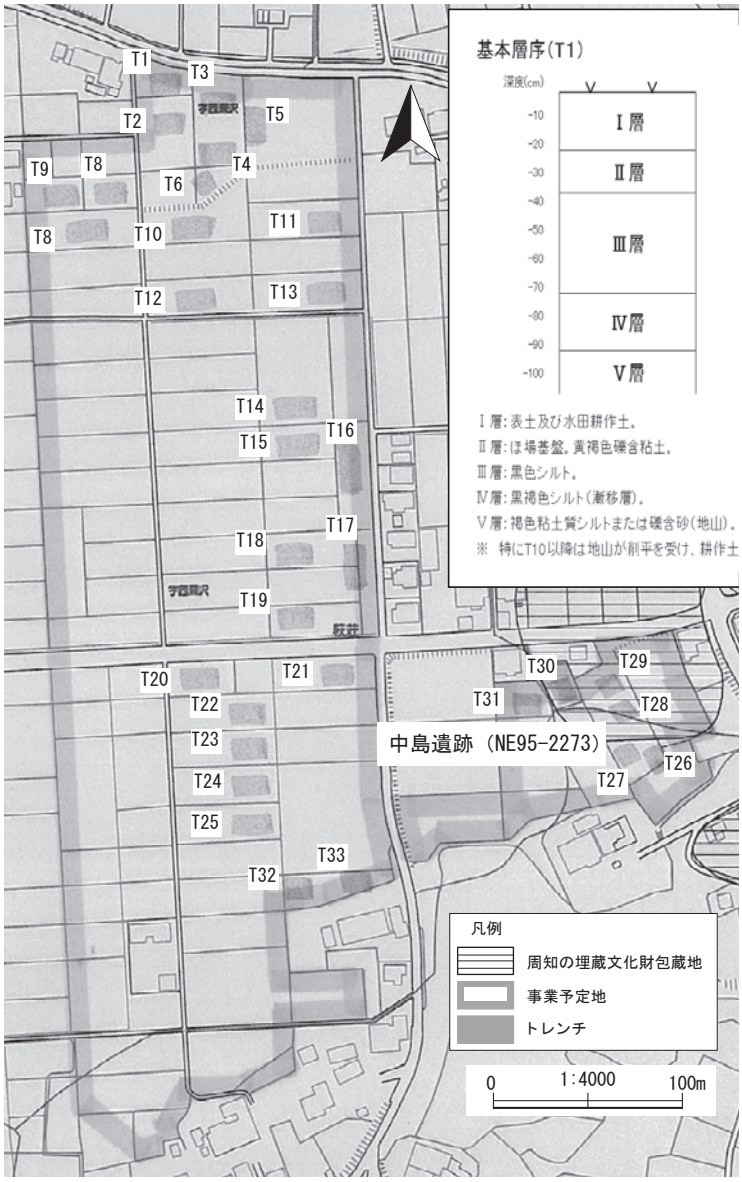
今回の試掘調査は経営体育成基盤整備事業によるほ場整備工事に係るものである。調査では田起こしされている水田を除き、トレンチを33箇所設定し、遺構及び遺物の有無、土層の確認を行った。

その結果、Ｔ７耕作土中から地文のみの縄文土器をわずかに確認したが、その他のトレンチからは遺構・遺物は確認されなかった。Ｔ７の縄文土器は耕作土中かつ客土からの出土であるため、工事による遺跡への影響は無いものと判断する。調査対象地全域において過去のほ場整備や農作業、宅地造成などにより、自然堆積層が失われ、多くのトレンチで耕作土直下が地山であることを確認した。地山は段丘砂礫層または粘土質シルトであり、河川の営力により形成された地形であることを示している。

（慎重工事）



第122図　中島遺跡位置図

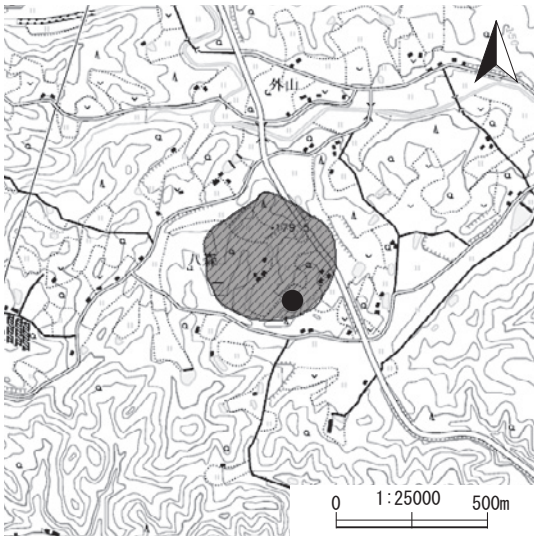


第123図　中島遺跡及び隣接地調査位置図

45　中山間地域総合整備事業

栃倉館跡（とちくらだてあと）（OE03-1358）

所 在 地：一関市萩荘字外山地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　一関農村整備センター
調査期日：平成29年11月29日（水）

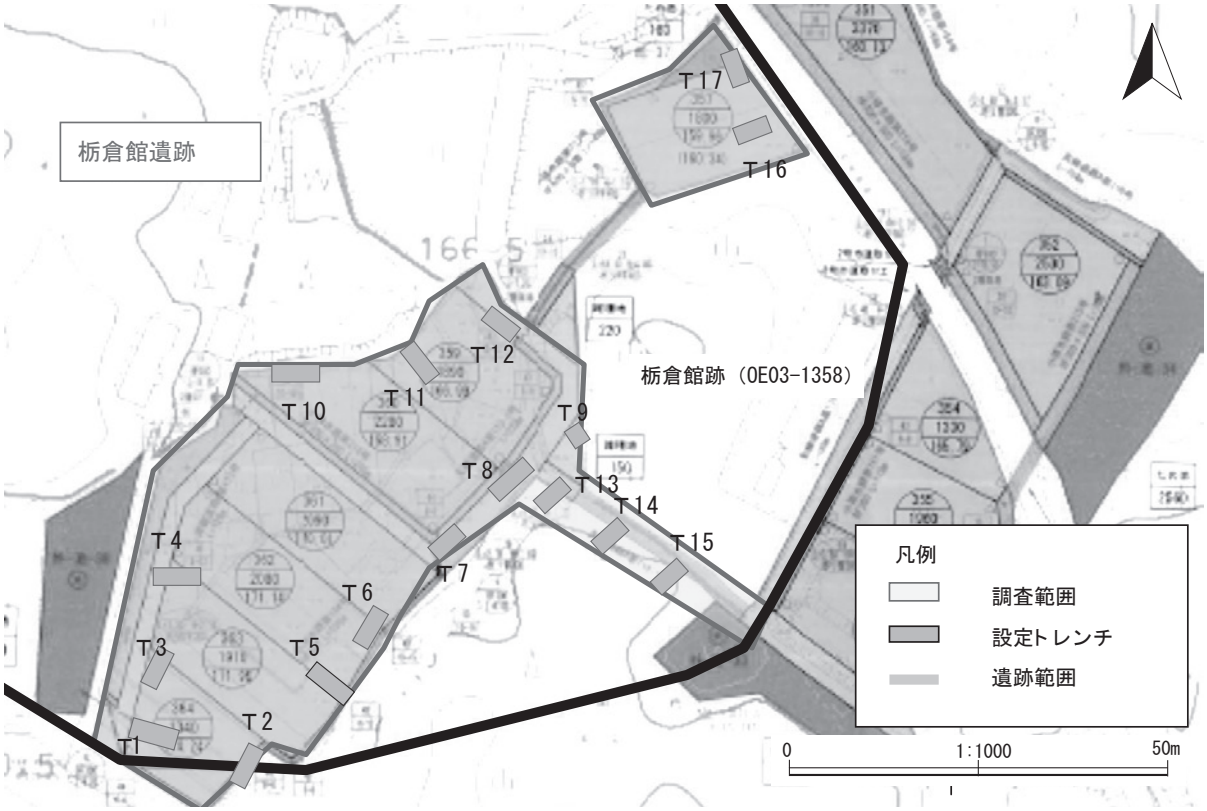


第124図　栃倉館跡位置図

栃倉館跡はＪＲ東日本東北本線一ノ関駅から東に約11km、奥羽山脈から続く中起伏山地及び栃倉川の中位段丘上に位置する中世末の城館跡である。約５km北には、国の名勝・天然記念物である厳美渓が所在する。現地標高は約160～180mで、現況は水田・畑地及び山林となっている。今回の調査地は、丘陵に挟まれた谷底平野に作られた北東向きに緩やかな傾斜をする棚田及び農道である。

事業は傾斜地や狭い農地が多いなど、農業の生産条件が不利な地域の改善を目的とした中山間地域総合整備事業で、調査地に試掘トレンチを17箇所設定し、重機で掘り下げたのち、遺構の有無の確認を行った。調査の結果、当該地の棚田部分は、腐植土及び耕作土直下が地山と考えられ、過去のほ場整備の際に、付近の山を削り谷底平野部をならし、水田を造成していると判断される。水田にアクセスする農道部分に設定したＴ13～15は、暗褐色シルト等の自然堆積層が残存していたが、遺構や遺物は確認できなかった。飛び地の水田に設定したＴ16・17も、水田耕作土の下層は、礫を多量に含む盛土で造成されており、遺構や遺物は確認できなかった。

（慎重工事）



第125図　栃倉館跡調査位置図

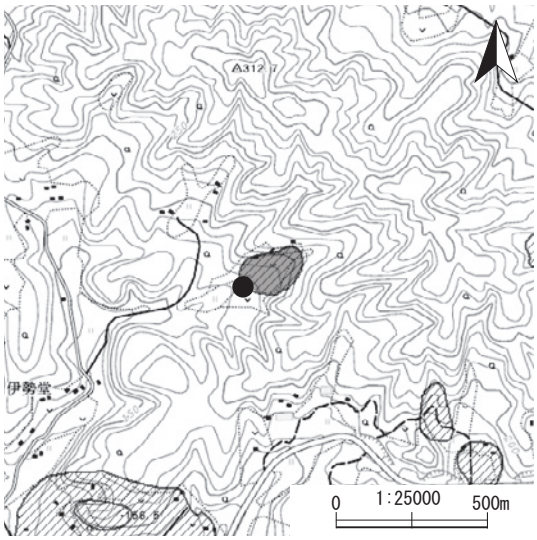
46　中山間地域総合整備事業（霞沢地区）

和田沢遺跡（MF61-0118）及び隣接地

所 在 地：一関市大東町霞沢地内
事 業 者：県南広域振興局農政部
　　一関農村整備センター
調査期日：平成29年10月26日(木)～27日(金)

和田沢遺跡はＪＲ東日本大船渡線摺沢駅から北東約4.8kmの北上高地内の谷底平野と丘陵地裾部に所在する縄文時代の遺跡である。現地標高は約160～175mである。

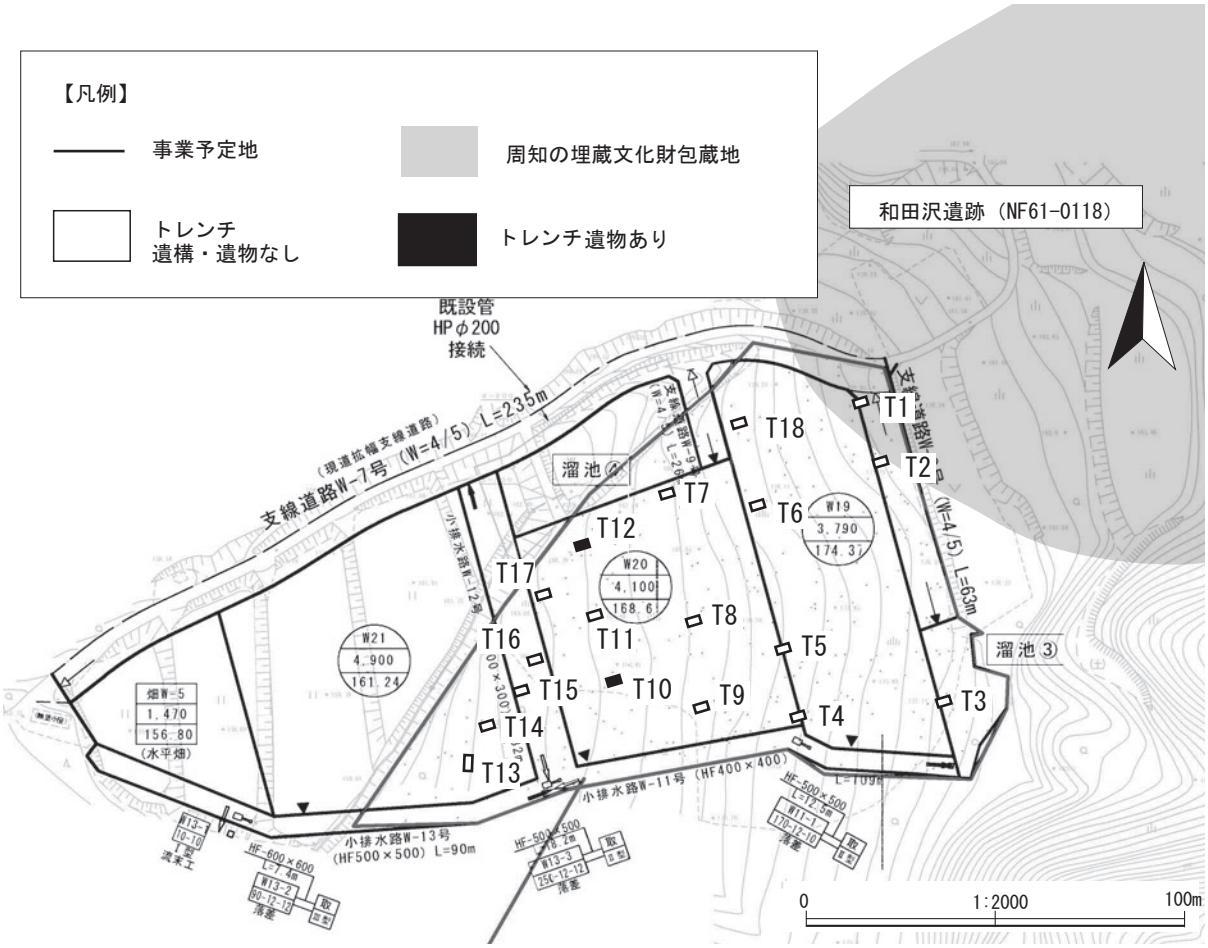
事業はほ場整備に係るもので、試掘トレンチを調査区全体で18箇所設定し、重機により遺構や遺物の有無を確認しながら掘り下げた。



第126図　和田沢遺跡位置図

調査の結果、Ⅴ層褐色土上面で遺構検出を試みたものの、遺構は確認されなかった。旧河道と考えられる箇所で黒褐色の自然堆積層（Ⅳ層）を確認したものの、事業予定地全体で土地の改変（Ⅱ・Ⅲ層）が確認され、旧地形は削平を受け失われたと考える。

また、T10のⅡ層及びT12のⅣ層から縄文土器(地文のみ)が出土したものの、遺跡範囲外であり、いずれも上流からの流れ込みと考える。　　（慎重工事）



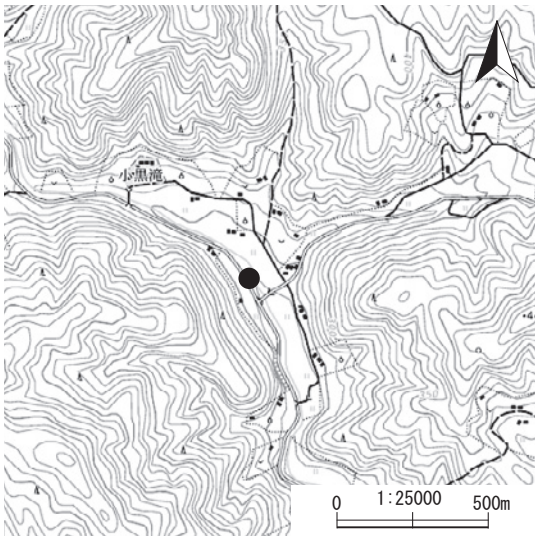
第127図　和田沢遺跡及び隣接地調査位置図

47　県単独凍雪害対策事業

可能性あり１

所 在 地：一関市大東町鳥海字小黒滝地内
事 業 者：県南広域振興局土木部千厩土木センター
調査期日：平成29年11月15日（水）

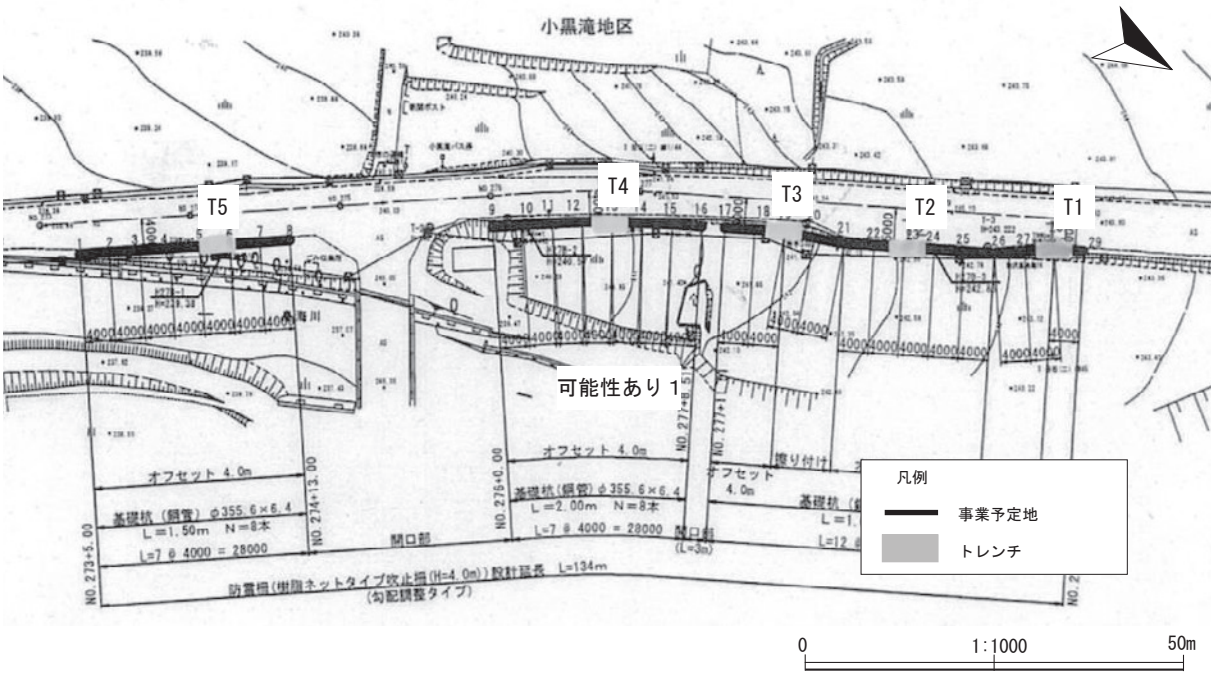
事業地は一関市役所大東支所の北西方向約9.7㎞に位置する。鳥海川右岸の標高239～244ｍの段丘面上に位置する。古生代石炭紀の堆積岩などを基盤として段丘堆積物がのる。事業は県単独凍雪害対策事業に伴い調査を実施したものである。



第128図　可能性あり１位置図

基本土層は４層に区分した。Ｔ１・２を除いて地表面から約１ｍ下位にⅢ層旧表土が堆積する。Ｔ３では本層下部に十和田-中掫火山灰（約6,100年前）の小ブロック（１～３㎝）を介在させる。Ｔ２では地表面下20㎝に層理が発達するⅣ層地山砂礫層が堆積する。トレンチは５本設定した。全体的に右岸山体裾から河川に向う緩斜面を道路工事等で盛土し平坦な地形に改良したと推測される。Ｔ３・４では地表面下120～140㎝下位でⅣ層旧表土が観察される。Ｔ３のⅢ層内で土器１片（縄文時代）が出土した。Ｔ５地形面はＴ１～４の地形面より一段低く、低湿地的な環境で堆積した堆積物と考えられる。調査の結果、遺構は検出されなかったものの、調査範囲内において旧表土内から縄文土器１片が出土した。近隣には周知の埋蔵文化財包蔵地が所在していないため、未周知の埋蔵文化財包蔵地が事業予定地西側の緩斜面から広がると考えられる。

（工事立会）



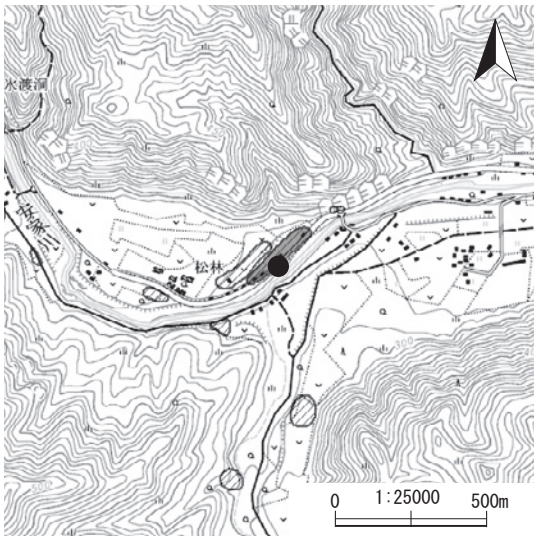
第129図　可能性あり１調査位置図

48　河川等災害関連事業
河川災害復旧等関連緊急事業

松林（まつばやし）Ⅰ遺跡（いちいせき）（KF08-1366）

所 在 地：下閉伊郡岩泉町安家字松林地内
事 業 者：沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター
調査期日：平成29年12月12日(火)～13日(水)

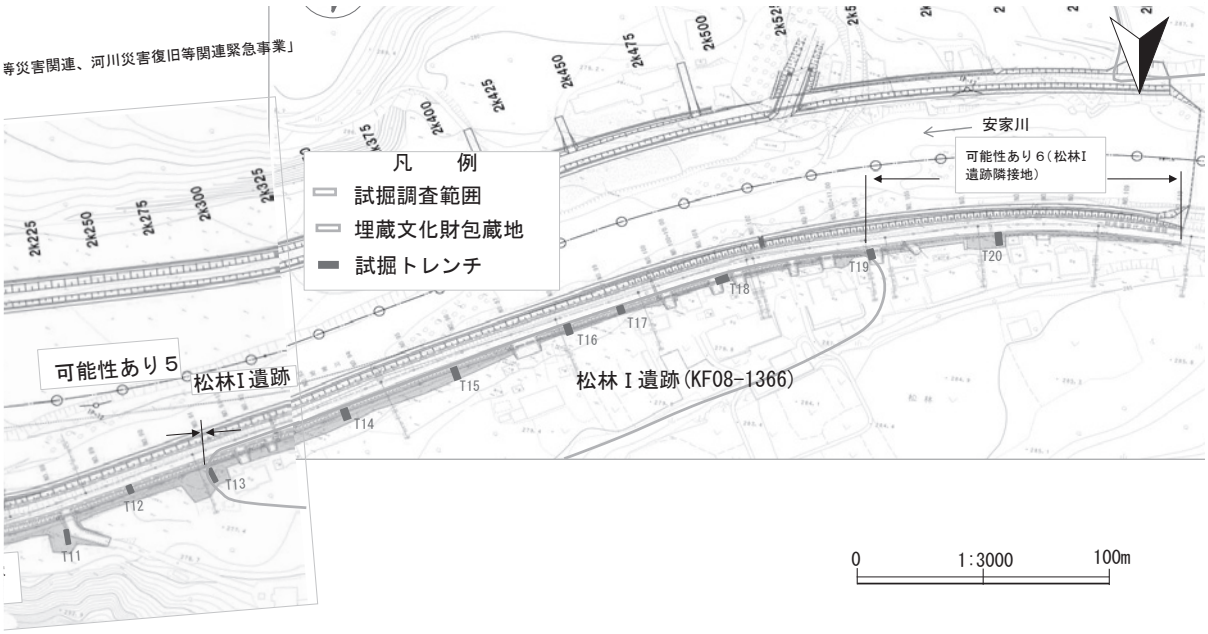
事業予定地は岩泉町役場の北北西方向約17.2㎞に位置する。安家川左岸に分布する段丘面で、標高は277～282mである。調査地周辺には龍泉洞や安家洞をもつ中生代ジュラ紀（約２億～１億4600万年前）石灰岩層が北西南東方向に分布する。現況は宅地、畑地及び原野である。基本土層は６層に区分した。Ⅰb層黒褐色土は全般的に砂質土で、場所により粗粒砂(洪水堆積物、平成28年度台風災害)が堆積している。Ⅰc層は土地改良のために盛土したものとみられ、主に砂礫である。Ⅱ層は旧表土とみられ、中礫（約２～５㎝）が混入する。Ⅳ層地山は粗粒砂～砂礫層である。



第130図　松林Ⅰ遺跡位置図

トレンチは７本設定した（T13～19)。トレンチは重機バケット幅で長さは２～４mである。T18は宅地内で、Ⅰa層砕石下位にⅠb層砂礫層が堆積する。T19ではⅠa層下位にⅠb層真砂土が堆積する。Ⅳ層地山は緑灰色の砂礫層で、T14・15ではオリーブ灰色砂である。調査では遺構は検出されず、遺物も採取できなかった。

（慎重工事）

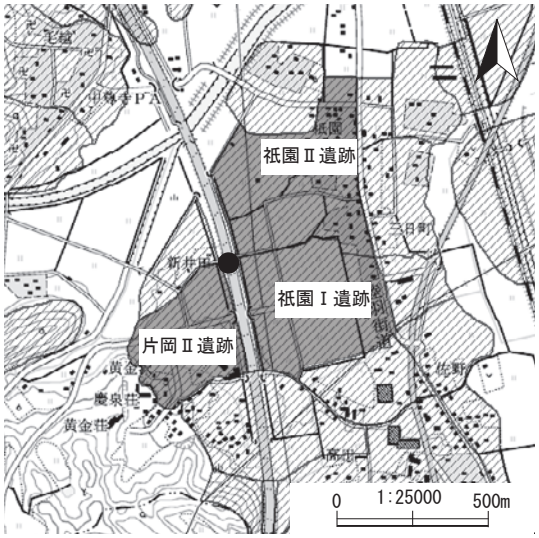


第131図　松林Ⅰ遺跡調査位置図

49　東北自動車道
（仮称）平泉スマートインターチェンジ事業
祇園Ⅰ遺跡（NE86-0006）
祇園Ⅱ遺跡（NE76-2087）
片岡Ⅱ遺跡（NE86-0082）

所 在 地：西磐井郡平泉町平泉字祇園地内
事 業 者：東日本高速道路株式会社
　　東北支社北上管理事務所
調査期日：平成29年４月18日（火）～24日（月）

調査対象地はＪＲ東日本東北本線平泉駅から南南西約1.5㎞地点に位置している。北上川・太田川・小金沢川により形成された段丘上に位置する。現況は水田で標高は25m前後である。



第132図　祇園Ⅰ遺跡ほか位置図

【祇園Ⅰ遺跡】

平成６年に行われた平泉町による発掘調査では、12世紀の掘立柱建物跡や柱穴等が検出されている。調査区を田面と旧地形の特徴から３区分し、42本のトレンチを設定した。Ａ・Ｂ区は旧国道寄り、Ｃ区はＢ区西側の現高速道路側の水田面である。基本層序は４層に区分した。Ａ区ではⅠ層水田耕作土は垂直の酸化鉄クラックがみられる。下部はⅡ層作土盤が塊状に混入することがある。Ⅱ層作土盤は切盛土で、田区により欠くところがあり、その場合Ⅰ層が直接Ⅳ層地山（Ａ区）にのる。Ｂ区では作土盤が厚く、黒褐色を呈する。Ⅲ層は旧耕作土とみられ、部分的にⅡ層下位にみられる。調査の結果、Ａ区では旧緩斜面が南から北へ上がり、ほ場整備の切土が少ない旧微高地部分で柱穴２基が検出され、かわらけ片や陶器片が出土した。Ｔ９では径36㎝円形状で、暗褐色の埋土に意図的に埋設したと考えられる小型のかわらけと遺構周囲で陶器片（常滑？）が数点出土した。Ｔ10の柱穴は径15㎝円形状で炭混じりの暗褐色土で埋められている。Ｃ区では八坂神社がのる微高地の延長部分とみられる旧微高地で土坑１基、柱穴５基を確認した。Ｔ24では暗褐色埋土の径20㎝円形の柱穴を３基検出した。Ｔ25では暗褐色埋土の円形の土坑１基、円形の径22㎝の柱穴１基を、Ｔ26では径20㎝の円形状柱穴を検出した。Ｔ25の柱穴埋土からは磨耗した土器小片と炭化物片が出土した。以上のことから、Ａ区（北側縁辺の農道含む）とＣ区において発掘調査が必要であると判断した。

（平成30年度県埋蔵文化財センターにより発掘調査実施）

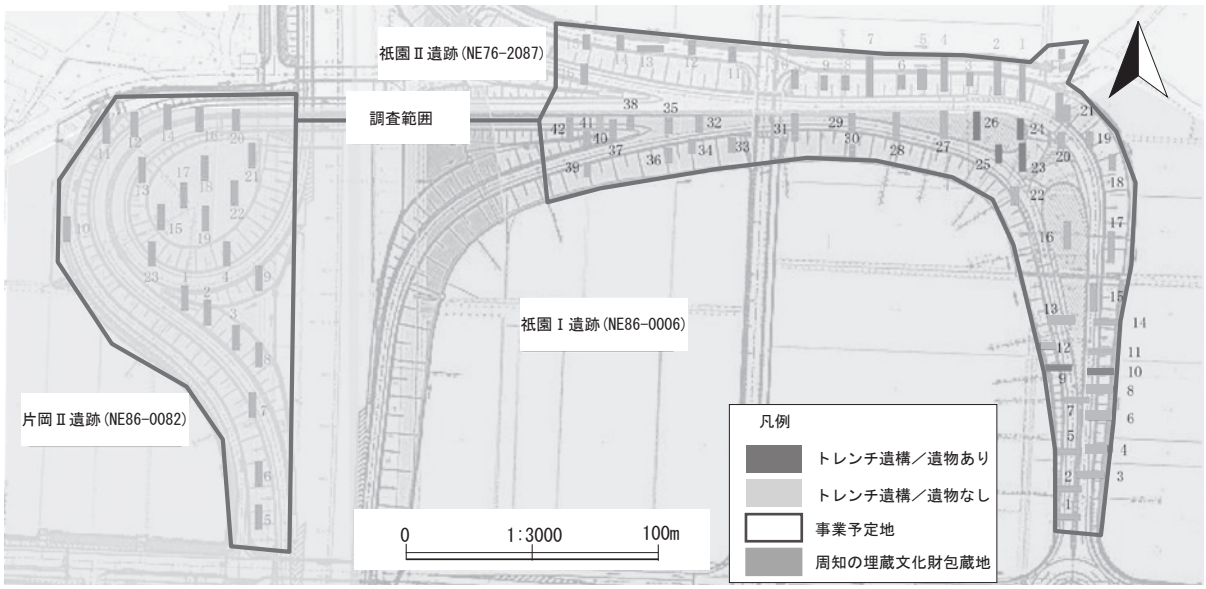
【祇園Ⅱ遺跡】

特別史跡毛越寺の飛地１箇所を含み、平成19年までに３度の調査が行われ、社寺跡等が確認されている。基本層序はⅢ層地山上にⅡ層作土盤、Ⅰ層水田耕作土の順に堆積し、Ⅲ層地山は浅黄色～緑灰色粘土である。トレンチは17本設定した。現水田整備前の地形判読からは、調査区東側の八坂神社がのる微高地が本調査区付近まで続き、遺構・遺物が残存する可能性が考えられたが、流れ込みと思われる土器片がⅡ層作土盤から１点出土したのみであり、遺構は確認されなかった。　（慎重工事）

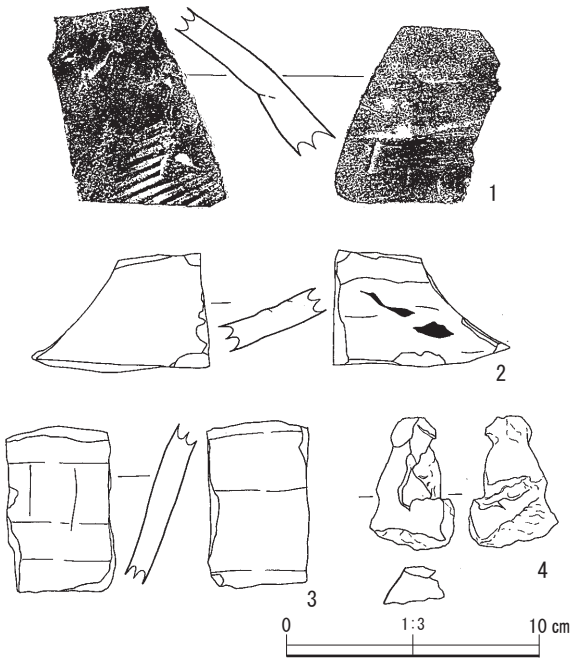
【片岡Ⅱ遺跡】

平成４年に平泉町が発掘調査を実施しており、縄文土器が出土している。基本土層は４層に分類されるが、ほ場整備によってⅢ層である旧耕作土の上に作土盤、そして現在の水田耕作土が造成されている。調査地に試掘トレンチを23本設定した。その結果、Ｔ17とＴ18からは幅約0.6～１ｍを測る、にぶ

い黄褐色土で埋められ蛇行しながら東側にのびる溝状遺構が検出されたが、昭和期の航空写真からほ場整備前の水路であると判断した。その他のトレンチでは、南側から北側に向かって低くなっていく地形を作土盤によって平坦にしている様子が伺えたが、遺構・遺物ともに確認されなかった。(慎重工事)



第133図　祇園Ⅰ遺跡・祇園Ⅱ遺跡・片岡Ⅱ遺跡調査位置図



第134図　祇園Ⅰ遺跡出土遺物図

写真図版19　祇園Ⅰ遺跡出土遺物

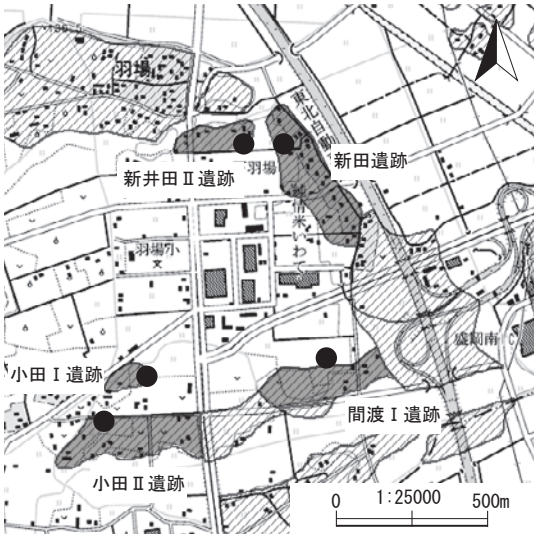
第14表　祇園Ⅰ遺跡出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	T5	1・2層間	陶器	甕	肩部	－	－	－	－	渥美
2	T3	3	陶器	甕	体部	－	－	－	－	常滑
3	T5	2	陶器	甕	体部	－	－	－	－	常滑
4	T3	3	粘土塊			－	－	－	－	土器片付着、焼台か

50　農地耕作条件改善事業　湯沢（２）地区

間渡Ⅰ遺跡（LE26-2098）及び隣接地
小田Ⅰ遺跡（LE36-0000）
小田Ⅱ遺跡（LE36-0020）及び隣接地
新井田Ⅱ遺跡（LE26-2013）
新田遺跡（LE26-2037）及び隣接地

所 在 地：盛岡市湯沢地内ほか
事 業 者：農事組合法人となん
調査期日：平成29年10月31日（火）～11月２日（木）、24日（金）



第135図　間渡Ⅰ遺跡ほか位置図

盛岡市役所の南南西約６～７㎞、洪積世砂礫段丘上に位置し、標高は125～140mで、現況は水田である。事業はほ場整備の一環で区画整理に係るもので、現況は水田である。調査ではいずれも全体的に過去のほ場整備により、削平を受けた様相が窺えた。

【間渡Ⅰ遺跡及び隣接地】

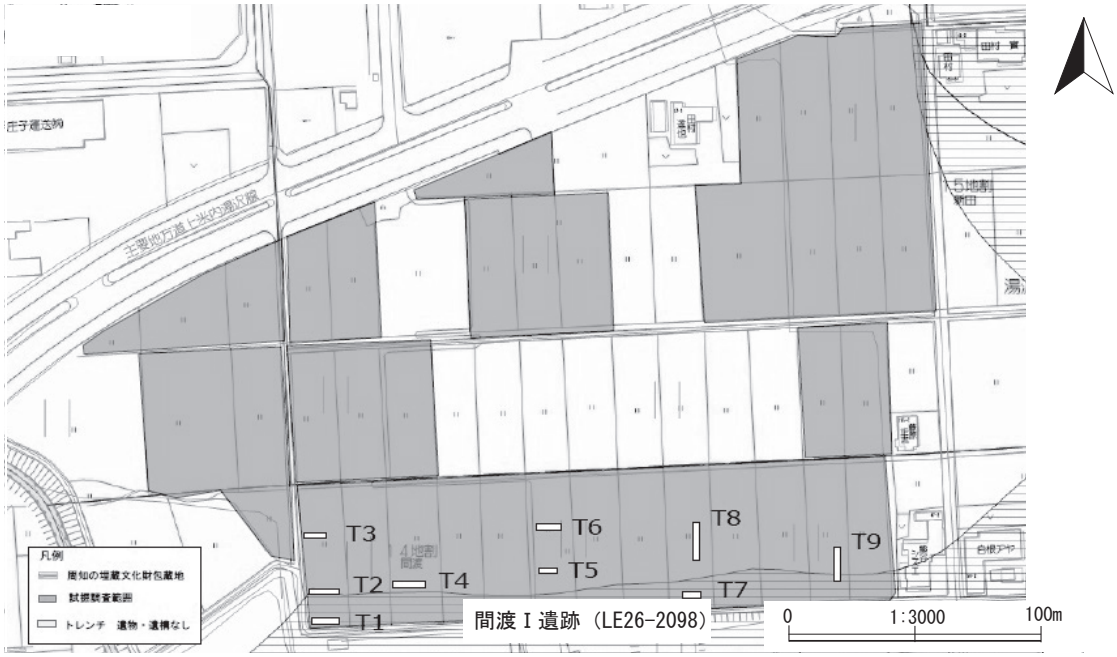
試掘トレンチを９箇所設定した。Ｔ９では、旧表土と思われる黒色土の堆積が見られたが、それ以外の地点では、造成土直下に黄褐色の地山が見られた。遺構・遺物は確認されなかった。

【小田Ⅰ遺跡・小田Ⅱ遺跡及び隣接地】

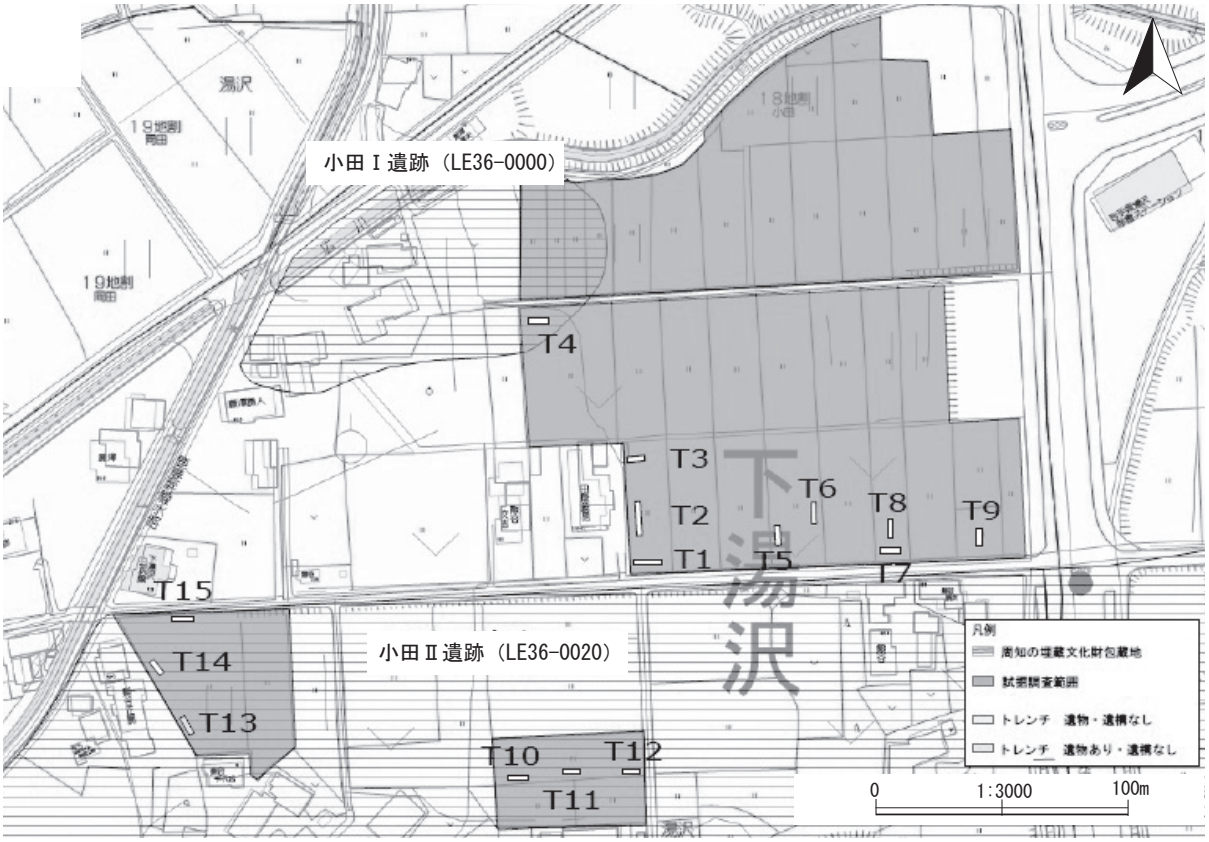
試掘トレンチを15箇所設定した。一部柱穴状の土坑を検出したが、埋土の状況からいずれも近現代のものと判断した。小田Ⅱ遺跡ではＴ13より、埋土に縄文土器片を伴う性格不明の遺構を確認したが、近現代の攪乱と判断した。それ以外の地点では、造成土直下に黄褐色土の地山が見られた。

【新井田Ⅱ遺跡・新田遺跡及び隣接地】

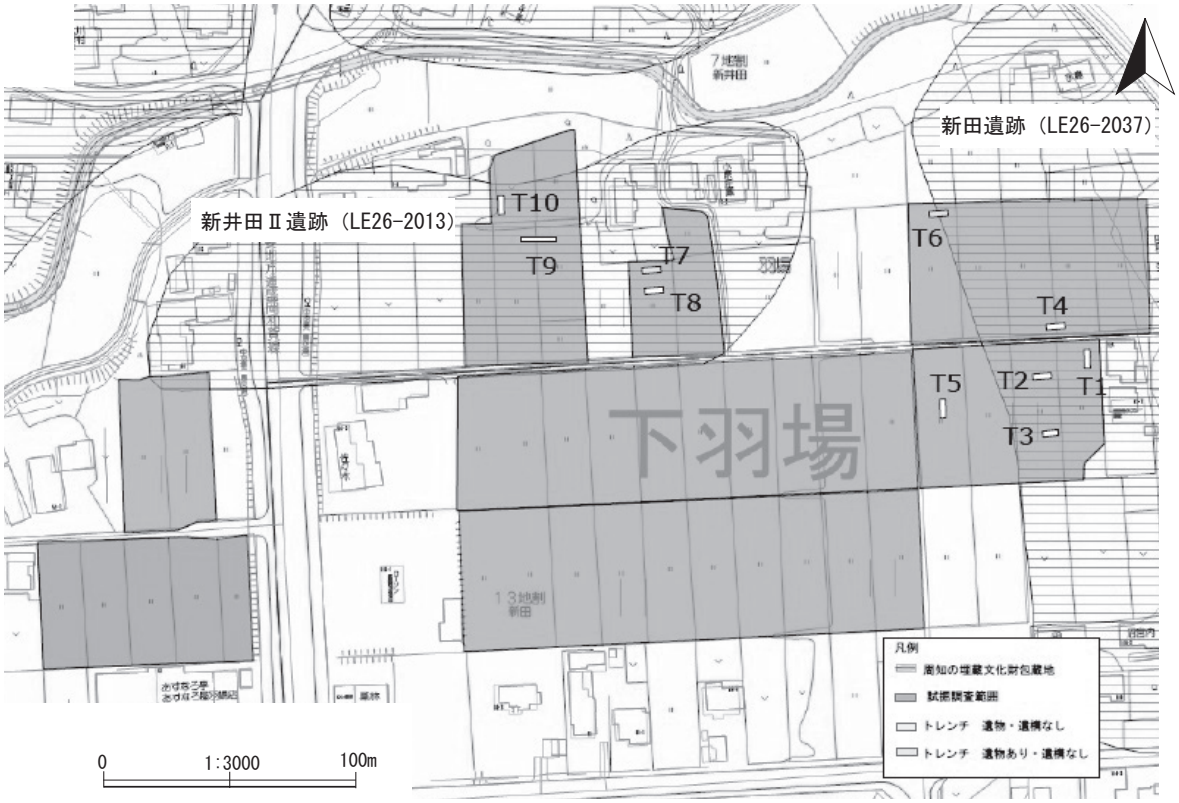
試掘トレンチを10箇所設定した。新田遺跡及び隣接地では、Ｔ６において土器片、新井田Ⅱ遺跡では、Ｔ７において土器片がそれぞれ出土したが、いずれも造成土からの出土であり、摩滅も激しいことから過去のほ場整備により攪乱を受けているものと考えられる。　（いずれも慎重工事）



第136図　間渡Ⅰ遺跡及び隣接地調査位置図



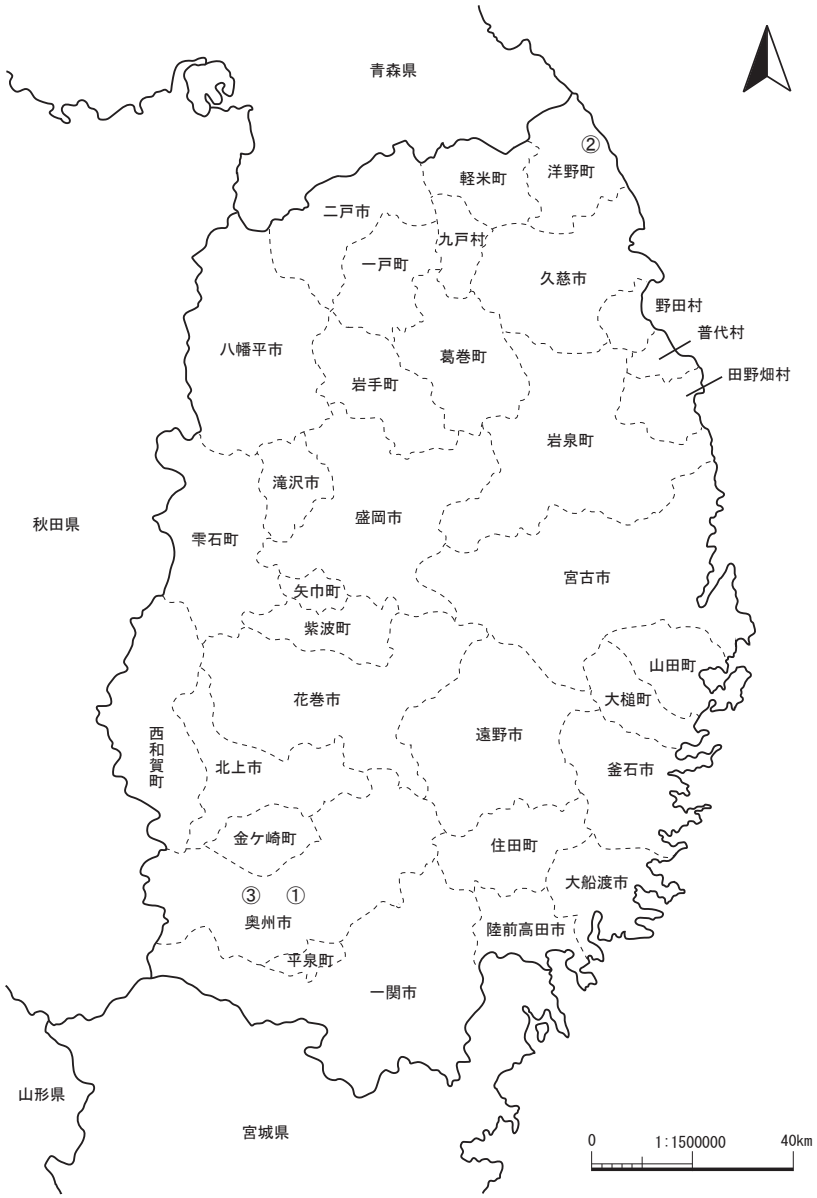
第137図　小田Ⅰ遺跡・小田Ⅱ遺跡及び隣接地調査位置図



第138図　新井田Ⅱ遺跡・新田遺跡及び隣接地調査位置図

Ⅲ　工事立会

① 町屋敷遺跡（奥州市）
② 板橋遺跡（洋野町）
③ 赤剥遺跡（奥州市）



第139図　工事立会位置図

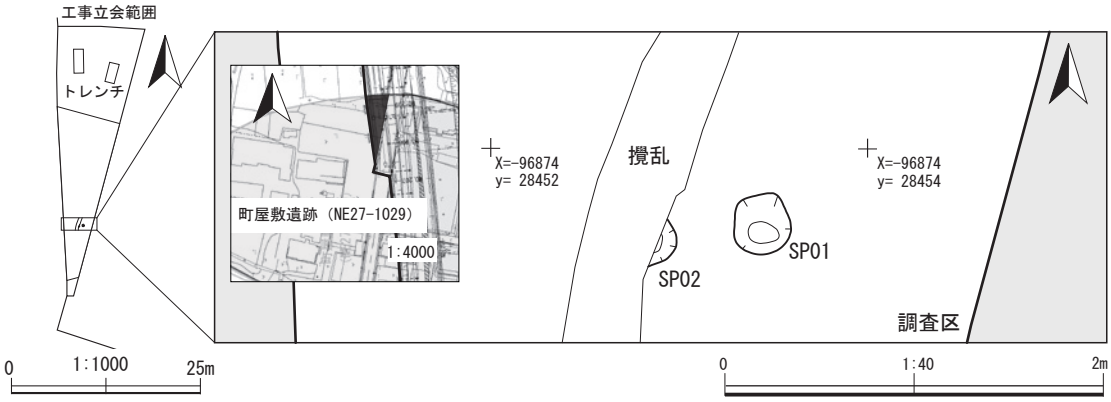
1　一般国道４号水沢東バイパス

町屋敷遺跡（NE27-1029）

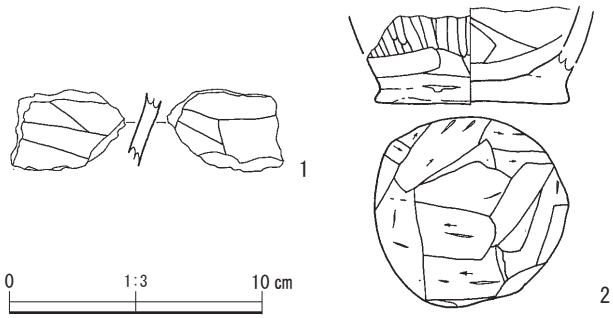
所 在 地：奥州市水沢真城字町屋敷地内
事 業 者：国土交通省東北地方整備局
　　岩手河川国道事務所
調査期日：平成29年８月７日(月)、９日(水)

第140図　町屋敷遺跡位置図

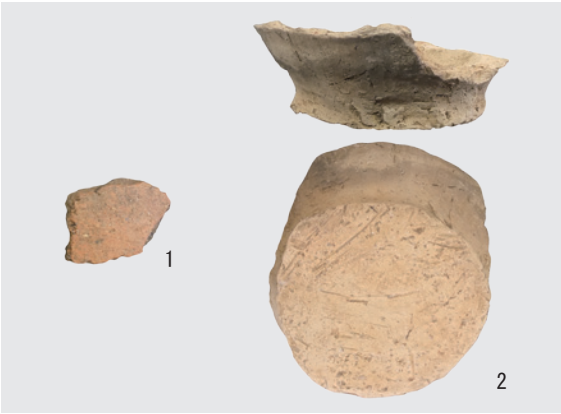
町屋敷遺跡はＪＲ東日本東北本線水沢駅から南東約1.4kmの水沢段丘の東縁辺部に立地する。立会は遺跡の北西端の平坦部での道路整備に係るもので、現地標高は約41ｍである。立会の結果、地表下0.4～0.5ｍで黄褐色の自然堆積層を確認した。同面を遺構検出面とし柱穴を２基検出した。規模はSP01が直径34cm×32cm、深さ16cm、SP02が直径30cm以上、深さ22cmである。SP02は焼土粒が多く混入する。共に出土遺物はなく帰属時期は不明である。遺物は造成土より土師器甕の底部片が出土したものの、検出した柱穴との関係は不明である。



第141図　町屋敷遺跡調査位置図



第142図　町屋敷遺跡出土遺物図



写真図版20　町屋敷遺跡出土遺物

第15表　町屋敷遺跡出土遺物観察表

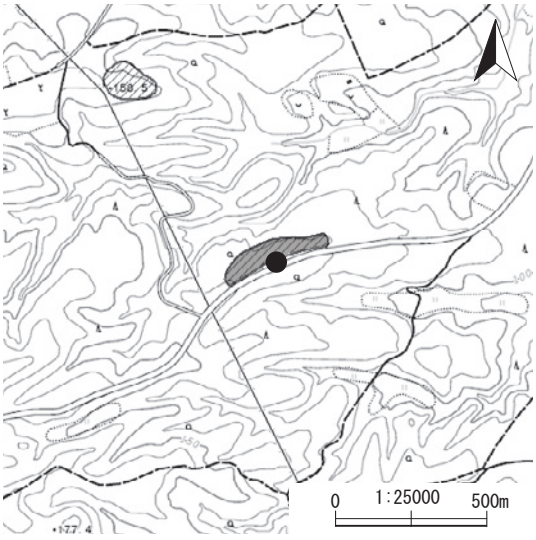
掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1	撹乱	－	土師器	甕	胴部	－	－	－	－	内外面ナデ
2	撹乱	－	土師器	甕	底部	－	－	7.7	－	ミガキ→ナデ、内面ナデ、底面ケズリ、ナデ

２　三陸沿岸道路（洋野階上道路）

板橋遺跡（いたばしいせき）（IF58-1170）（旧可能性あり）

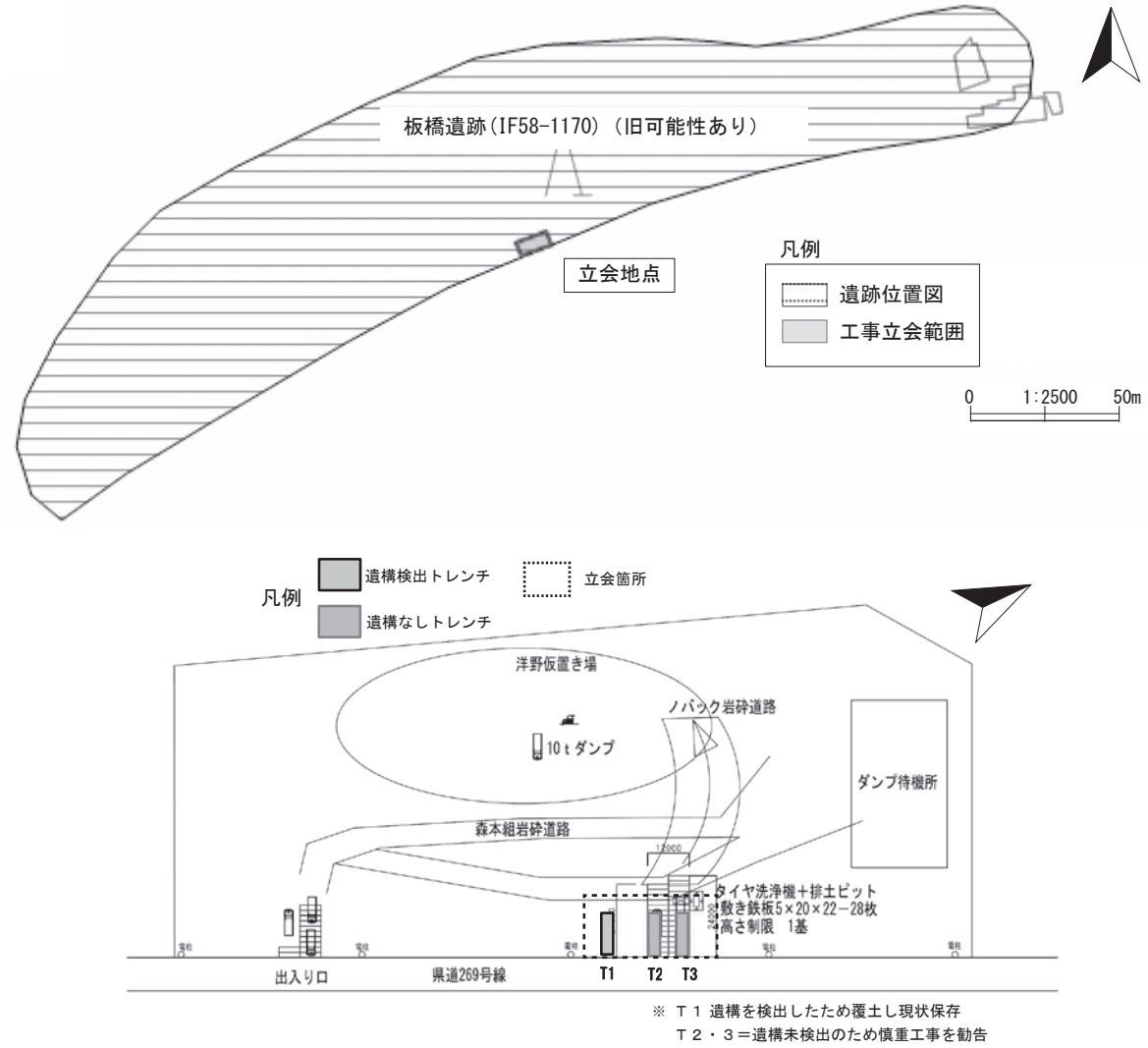
所 在 地：九戸郡洋野町種市第21地割板橋地内
事 業 者：国土交通省東北地方整備局
　　三陸国道事務所
調査期日：平成29年６月６日（月）

事業地は洋野町役場から南西へ約3.2km、開析が進む海岸段丘の段丘面上に位置し、標高は約130mを測る。立会箇所は県道269号線北側の狭小地で、現況は雑木が茂る路肩部分である。今回の立会調査は、県道から土砂仮置場へのトラック出入口設置に伴い掘削工事が行われることから実施された。



第143図　板橋遺跡（旧可能性あり）位置図

立会調査ではＴ１から陥し穴状土坑と考えられるプランが確認された。遺物は出土していない。他のＴ２・Ｔ３では確認されず、トラックの出入口をＴ２・Ｔ３側に設置することと、遺構が確認されたＴ１については、覆土し現状保存することとした。



第144図　板橋遺跡（旧可能性あり）調査位置図

３　農地耕作条件改善事業愛宕地区第２号工事

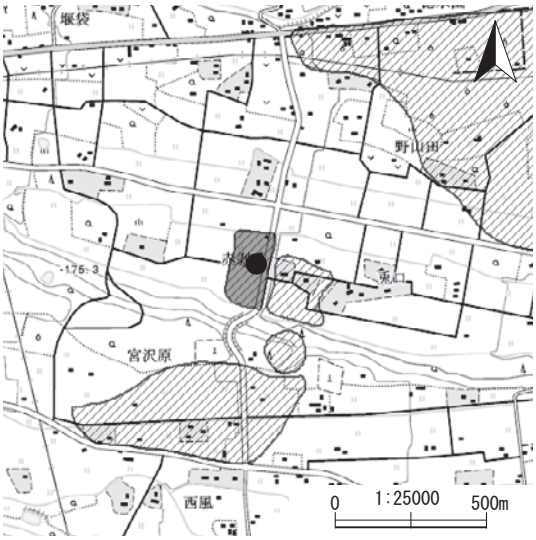
赤剥遺跡（NE23-2308）

所 在 地：奥州市胆沢若柳地内

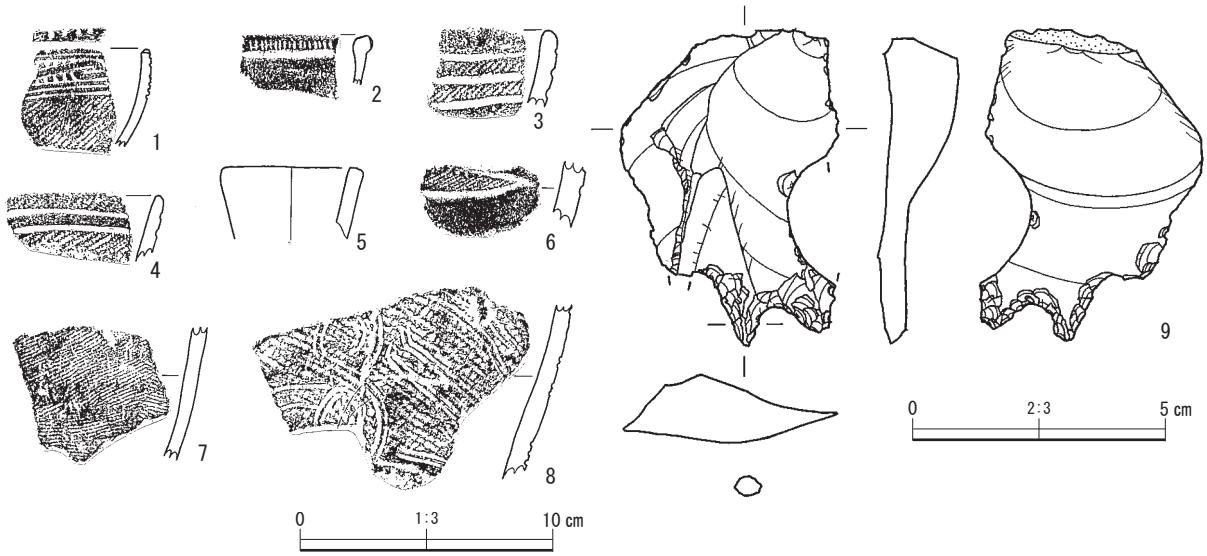
事 業 者：県南広域振興局農政部農村整備室

調査期日：平成30年１月15日（月）

赤剥遺跡は奥州市胆沢総合支所の西方向約4.9㎞に位置する。胆沢扇状地に広がる段丘群の水沢高位段丘面に立地する。標高は約153mで現況は水田及び道路となっている。事業は農地耕作条件改善事業で、試掘調査において土器が出土したため、約24㎡の範囲について立会調査を行った。工事掘削深度の1.15mまで重機で掘り下げ確認を行った結果、Ⅱ・Ⅲ層の盛土から縄文土器片及び石器類が少量出土し、Ⅳ層の黒褐色シルト層から多量の縄文土器片及び石器類が出土した。Ⅳ層は自然堆積であることや明確な遺構のプランは確認できないことから、遺物包含層であると考えられるがＡ地点では遺物は確認できなかった。出土した遺物の量は小コンテナ１箱分で、土器の文様等から縄文時代後晩期と考えられる。本調査区周辺には、遺構が広がっている可能性が高いが、Ⅳ層中で掘削を終了したため、遺物包含層の広がりを記録し、立会調査を終了した。



第145図　赤剥遺跡位置図

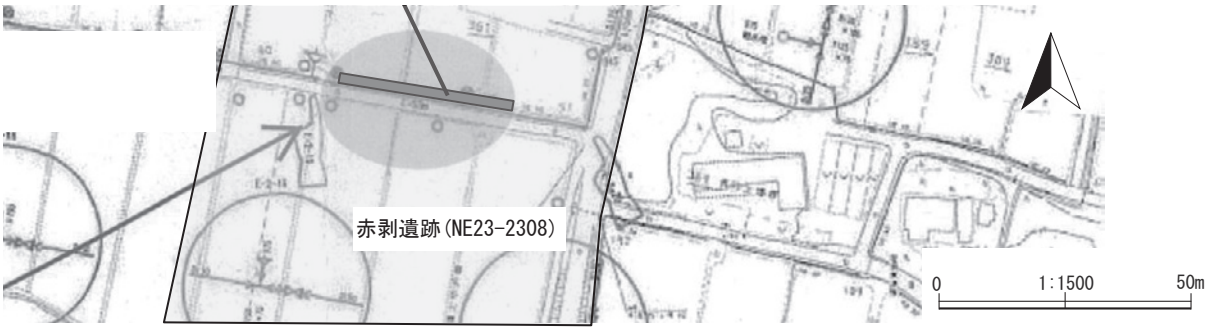


第146図　赤剥遺跡出土遺物図

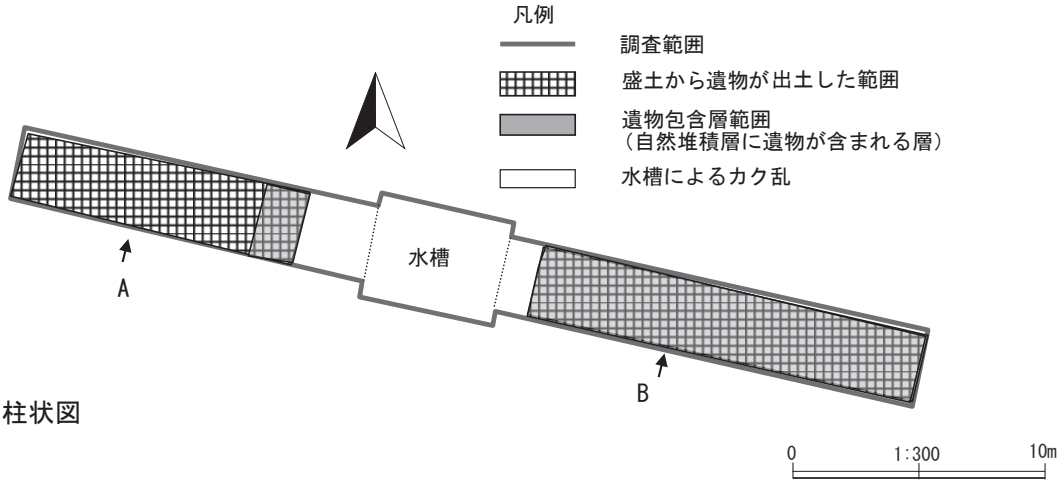
第16表　赤剥遺跡出土遺物観察表

掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
						口径	器高	底部径	重量	
						縦	横	厚さ		
1		Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	－	－	口唇刻み、羊歯状文、沈線文
2		Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	－	－	刻み
3		Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	－	－	LR横、横走沈線
4		Ⅳ	縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	－	－	LR横、横走沈線、磨消
5		Ⅳ	縄文土器	壷	口縁部	［5.6］	－	－	－	無文、器台か
6		Ⅳ	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	LR斜
7		Ⅳ	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	LR縦、沈線（鎖状）
8		Ⅳ	縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	LR横、沈線、磨消
9		Ⅳ	石器	RF		6.2	4.3	1.5	25.84	

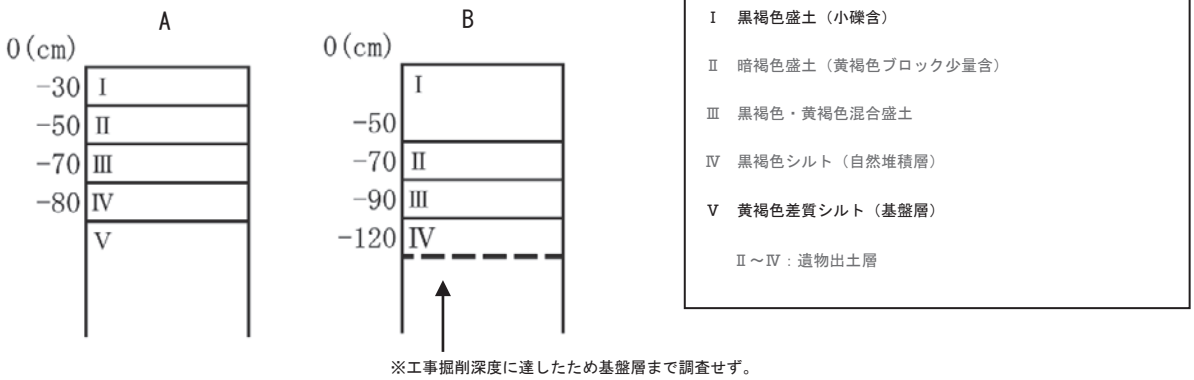
計測値の［　］は推定値、（　）が残存値を表す。



調査区平面図



調査区土層柱状図



※工事掘削深度に達したため基盤層まで調査せず。

第147図　赤剥遺跡調査位置図

写真図版21　赤剥遺跡出土遺物

Ⅳ　調 査 一 覧

第17表　発掘調査一覧表

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	検出遺構	面積
1	平成29年11月27日～12月15日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	花曽根上遺跡（ME74-0114）	北上市和賀町岩崎新田地内	縄文　陥し穴状遺構２基 古代　竪穴建物跡５棟、カマド１基、溝８条、柱穴状土坑33基 時期不詳　竪穴建物跡１棟、土坑２基、性格不明１基	700㎡
2	平成29年12月19日～21日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	上須々孫遺跡（ME63-1286）	北上市和賀町煤孫第３地割地内	縄文　フラスコ状土坑２基	29㎡

市町村支援

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	検出遺構	面積
3	平成29年7月19日～26日	個人住宅新築工事	野田村教育委員会	野田竪穴（中平）遺跡（JG60-0258）	野田村	竪穴建物跡１棟、焼土１箇所、柱穴１個	70㎡
4	平成29年12月19日～20日	個人住宅新築工事	野田村教育委員会	野田竪穴（中平）遺跡（JG60-0258）	野田村	竪穴建物跡６棟、焼土２箇所、土坑１基、柱穴５個	220㎡

※市町村支援の発掘調査報告書は市町村教育委員会が刊行予定

第18表　試掘調査一覧表（１）

※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果	記載No.
1	平成29年6月20日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	貝鳥貝塚（OE57-0136）隣接地	一関市花泉町夏川地区ほか	工事着手可	
2	平成29年4月10日～13日	北上川中流部緊急治水対策事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	北条館跡（LE77-0164）及び隣接地	紫波郡紫波町北日詰字城内地内	発掘調査	1
3				北日詰城内Ⅰ遺跡（LE77-0194）及び隣接地			
4				南日詰大銀Ⅱ遺跡（LE77-1104）			
5	平成29年4月18日～24日	東北自動車道（仮称）平泉スマートインターチェンジ事業	東日本高速道路株式会社東北支社北上管理事務所	祇園Ⅰ遺跡（NE86-0006）	西磐井郡平泉町平泉字祇園地内	発掘調査	49
6				祇園Ⅱ遺跡（NE76-2087）		慎重工事	
7				片岡Ⅱ遺跡（NE86-0082）		慎重工事	
8	平成29年4月25日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	佐々木館（稲荷館）跡（IE99-1237）	二戸市米沢字家ノ上地内	慎重工事	14
9	平成29年4月28日	三陸沿岸道路（普代道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり（普代川大橋工事用道路）	下閉伊郡普代村第11地割地内	工事着手可	
10	平成29年5月1日～2日、8日	北上翔南高等学校草地復旧工事	県教育委員会事務局教育企画室	高前壇Ⅱ遺跡（ME75-1278）及び隣接地	北上市相去町高前壇地内	慎重工事	23
11	平成29年5月10日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	辺地沢Ⅰ遺跡（MG32-0359）	上閉伊郡大槌町大槌地内	慎重工事	11
12	平成29年5月12日	地域連携道路整備事業一般国道396号上宮守地区道路改築工事	県南広域振興局土木部遠野土木センター	可能性あり3	遠野市宮守町上宮守地内	工事着手可	
13	平成29年5月16日	三陸沿岸道路（唐桑高田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	水上Ⅱ遺跡（NF77-1050）隣接地	陸前高田市気仙町地内	工事着手可	
14	平成29年5月19日	県単急傾斜地崩壊対策事業	県南広域振興局土木部千厩土木センター	千厩城跡（OF00-0359）	一関市千厩町館山地内	発掘調査	42
15	平成29年5月24日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	荒川砂子渡遺跡（MG92-2055）	釜石市唐丹町上荒川地内	慎重工事	12
16	平成29年5月31日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり１	九戸郡洋野町種市字角ノ浜地内	工事着手可	
17	平成29年5月31日	一般国道45号復興（大槌町吉里吉里地区）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	新館跡（MG33-0348）	上閉伊郡大槌町吉里吉里地内	慎重工事	10
18	平成29年6月8日	三陸沿岸道路（野田久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	芦ケ沢Ⅱ遺跡（JF49-1304）及び隣接地	久慈市長内町第17地割地内	慎重工事	7
19	平成29年6月27日～28日	地域連携道路整備事業一般国道396号上宮守地区道路改築工事	県南広域振興局土木部遠野土木センター	楡ノ木遺跡（MF32-0099）隣接地	遠野市宮守町上宮守地内	工事着手可	
20	平成29年7月6日～7日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	鹿棲浜Ⅰ遺跡（IF58-1399）隣接地	九戸郡洋野町種市第15地割地内	発掘調査	4

第19表　試掘調査一覧表（２）

※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果	記載No.
21	平成29年7月10日	三陸沿岸道路（普代久慈道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり11	九戸郡野田村米田地内	工事着手可	
22	平成29年7月18日	農地整備事業（経営体育成型）	盛岡広域振興局農政部農村整備室	八幡館遺跡（KE57-1101）隣接地	盛岡市芋田武道地内	工事着手可	
23	平成29年7月19日	福岡工業高等学校管理教室棟改築工事	教育委員会事務局教育企画室	森合遺跡（JE09-1216）隣接地	二戸市石切所火行塚地内	工事着手可	
24	平成29年7月24日～27日	主要地方道大船渡綾里三陸線赤崎地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター	可能性あり5・7	大船渡市赤崎地内	工事着手可	
25	平成29年7月25日	三陸沿岸道路（田野畑道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	浜岩泉Ⅵ遺跡（KG33-1030）及び隣接地	下閉伊郡田野畑村浜岩泉地内	慎重工事	8
26	平成29年7月31日	中山間地域総合整備事業	盛岡広域振興局農政部農村整備室	はたふく遺跡（LE51-0358）及び隣接地	岩手郡雫石町大村地内	慎重工事	21
27				大谷地遺跡（LE42-2063）及び隣接地		慎重工事	
28	平成29年8月1日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	千徳城遺跡群（LG33-0197）	宮古市千徳地内	慎重工事	9
29	平成29年8月3日	防災安全（交通安全）事業大川目地区	県北広域振興局土木部	外里遺跡（JF38-0255）及び隣接地	久慈市大川目町地内	慎重工事	13
30	平成29年8月3日～4日	主要地方道大船渡広田陸前高田線船河原地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター	可能性あり②	大船渡市末崎町字中野地内	工事着手可	
31				可能性あり③		工事着手可	
32	平成29年8月28日～9月1日	産業廃棄物処理施設整備事業	環境生活部廃棄物特別対策室	椛沢Ⅱ遺跡（KE04-2323）（旧可能性あり）	八幡平市平舘地区	発掘調査	19
33	平成29年8月29日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり３（残地）	久慈市侍浜町本町第９地割地内	工事着手可	
34	平成29年9月5日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり22北	九戸郡洋野町種市第14地割北玉川地内	工事着手可	
35	平成29年9月7日～8日	経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	花曽根上遺跡（ME74-0114）	北上市和賀町岩崎新田10地割地内	発掘調査	24
36	平成29年9月8日	経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	新田遺跡（ME74-0164）	北上市和賀町岩崎新田７地割地内	慎重工事	25
37	平成29年9月11日～12日	経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	梅ノ木台地Ⅱ遺跡（ME64-2112）及び隣接地	北上市和賀町煤孫地内	慎重工事	26
38				兵庫館跡（ME64-2101）及び隣接地		慎重工事	
39				上反町遺跡（ME64-2014）及び隣接地		慎重工事	31
40	平成29年9月11日～14日	経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	法量野Ⅰ遺跡（ME63-2313）及び隣接地	北上市和賀町煤孫地内	慎重工事	28
41				法量野Ⅱ遺跡（ME63-2351）及び隣接地		慎重工事	
42				望野Ⅱ遺跡（ME73-0236）及び隣接地		慎重工事	27
43	平成29年9月12日～13日	経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	下須々孫館跡（ME64-2001）	北上市和賀町煤孫地内	慎重工事	29
44				煤孫遺跡（ME63-2318）		慎重工事	
45				旭ケ丘遺跡（ME73-0352）及び隣接地		慎重工事	30
46	平成29年9月14日～15日	経営体育成基盤整備事業（和賀中部岩崎地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	上須々孫遺跡（ME63-1286）	北上市和賀町煤孫地内	発掘調査	32
47	平成29年9月20日	一般国道45号復興（大槌町吉里吉里地区）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	新館跡（MG33-0348）	上閉伊郡大槌町吉里吉里地内	慎重工事	10
48	平成29年9月27日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	木戸場遺跡（JG00-0135）隣接地	久慈市侍浜町本町第９地割地内	工事着手可	
49	平成29年10月16日～18日	農地耕作条件改善事業（愛宕地区）	県南広域振興局農政部農村整備室	赤剥東遺跡（NE24-1090）及び隣接地	奥州市胆沢愛宕地内	慎重工事	35
50				土橋遺跡（NE24-1140）及び隣接地		慎重工事	
51	平成29年10月17日	農地耕作条件改善事業（愛宕地区）	県南広域振興局農政部農村整備室	赤剥遺跡（NE23-2308）	奥州市胆沢若柳字赤剥地内	工事立会	36
52	平成29年10月26日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	可能性あり7	一関市滝沢地内	工事着手可	
53				可能性あり8	一関市滝沢地内	工事着手可	
54	平成29年10月31日～11月2日、24日	農地耕作条件改善事業湯沢(2)地区	農事組合法人となん	間渡Ⅰ遺跡（LE26-2098）及び隣接地	盛岡市湯沢地内ほか	慎重工事	50
55				小田Ⅰ遺跡（LE36-0000）		慎重工事	
56				小田Ⅱ遺跡（LE36-0020）及び隣接地		慎重工事	
57				新井田Ⅱ遺跡（LE26-2013）		慎重工事	
58				新田遺跡（LE26-2037）及び隣接地		慎重工事	
59	平成29年10月24日～25日、30日～11月2日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室	土橋遺跡（NE24-1140）隣接地	奥州市胆沢若柳中部地区	工事着手可	
60				十文字遺跡（NE24-2300）隣接地		工事着手可	

第20表　試掘調査一覧表（３）

※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果	記載No.
61	平成29年10月25日～31日	中山間地域総合整備事業（霞沢地区）	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	可能性あり⑥	一関市大東町霞沢地内	工事着手可	
62				可能性あり⑧		工事着手可	
63				可能性あり⑩		工事着手可	
64				可能性あり⑫		工事着手可	
65				和田沢遺跡（NF61-0118）及び隣接地		慎重工事	46
66	平成29年10月30日～31日	経営体育成基盤整備事業（愛宕地区）	県南広域振興局農政部農村整備室	宮沢原Ⅱ遺跡（NE22-2316）	奥州市胆沢愛宕地内	慎重工事	38
67				萱刈窪Ⅱ遺跡（NE22-2353）		慎重工事	
68	平成29年11月2日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	可能性あり1	二戸郡一戸町東奥中山地内	工事着手可	
69				可能性あり2		工事着手可	
70	平成29年11月6日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	サンニヤⅢ遺跡（IF48-2250）隣接地	九戸郡洋野町種市第25地割地内	工事着手可	
71	平成29年11月7日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり22南	九戸郡洋野町種市第14地割北玉川地内	工事着手可	
72	平成29年11月7日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	辺地沢Ⅰ遺跡（MG32-0359）	上閉伊郡大槌町大槌地内	慎重工事	11
73	平成29年11月6日～8日	経営体育成基盤整備事業（万丁目地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	万丁目遺跡（ME25-2242）及び隣接地	花巻市南万丁目地内	発掘調査	33
74	平成29年11月7日～8日	経営体育成基盤整備事業（万丁目地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	種市遺跡（ME25-2257）及び隣接地	花巻市南万丁目地内	慎重工事	34
75	平成29年11月7日～8日	経営体育成基盤整備事業（万丁目地区）	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	南万丁目Ⅱ遺跡（ME25-2207）及び隣接地	花巻市南万丁目地内	慎重工事	
76				南万丁目Ⅲ遺跡（ME25-2350）隣接地		工事着手可	
77	平成29年11月14日	農業水利施設保全合理化事業東稲第２地区	県南広域振興局農政部農村整備室長	可能性あり2	西磐井郡平泉町長島地内	工事着手可	
78	平成29年11月13日～17日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	可能性あり4	一関市滝沢地内	工事着手可	
79				可能性あり5		工事着手可	
80				可能性あり6		工事着手可	
81				可能性あり7		工事着手可	
82				可能性あり9		工事着手可	
83				可能性あり10		工事着手可	
84				可能性あり11		工事着手可	
85	平成29年11月14日～16日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	可能性あり1	一関市千厩町仏坂地内	工事着手可	
86				可能性あり2		工事着手可	
87				長平遺跡（NF80-2161）及び隣接地		慎重工事	43
88				古館遺跡（NF80-2251）及び隣接地		慎重工事	
89	平成29年11月15日	県単独凍雪害対策事業	県南広域振興局土木部千厩土木センター	可能性あり1	一関市大東町鳥海字小黒滝地内	工事立会	47
90	平成29年11月20日～22日、27日～28日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	中島遺跡（NE95-2273）及び隣接地	一関市萩荘西黒沢地区	慎重工事	44
91				可能性あり1		工事着手可	
92				可能性あり4		工事着手可	
93	平成29年11月21日～22日	経営体育成基盤整備事業（若柳中部地区）	県南広域振興局農政部農村整備室	山田城跡（NE24-1335）及び隣接地	奥州市胆沢若柳字明神下地内	慎重工事	37
94				明神下遺跡（NE24-0188）隣接地		工事着手可	
95	平成29年11月27日～28日	農地整備事業（経営体育成型）	盛岡広域振興局農政部農村整備室	八幡館跡（KE57-1101）及び隣接地	盛岡市玉山武道地内	発掘調査	22
96	平成29年11月29日	中山間地域総合整備事業	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	栃倉館跡（OE03-1358）	一関市萩荘字外山地内	慎重工事	45
97	平成30年11月30日	災害関連緊急砂防事業大平の沢	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	立臼Ⅰ遺跡（KF08-2036）隣接地	下閉伊郡岩泉町安家字松ケ沢地内	工事着手可	
98	平成29年12月5日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	椛ノ木Ⅲ遺跡（JE89-1340）及び隣接地	二戸郡一戸町宇別字椛ノ木地内	慎重工事	18
99	平成29年11月16日、12月7日 平成30年１月24日	畑地帯総合整備事業（担い手育成型）	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	火行塚遺跡（JE09-1212）	二戸市石切所字火行塚地内	工事立会	16
100				佐々木館跡（IE99-1237）	二戸市米沢字家ノ上地内・上平地内	慎重工事	14
101				上平Ⅲ遺跡（IE99-2218）		慎重工事	15
102				段ノ越遺跡（IE70-2074）及び隣接地	二戸市金田一字段ノ越地内	慎重工事	17
103	平成29年12月12日～13日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室	森下遺跡（NE25-2205）及び隣接地	奥州市胆沢南都田地区	慎重工事	39
104				見分森遺跡（NE25-1375）及び隣接地		慎重工事	
105				椛谷田遺跡（NE25-1322）		工法協議により盛土保護	40
106				片子沢遺跡（NE25-1313）		慎重工事	39

第21表　試掘調査一覧表（４）

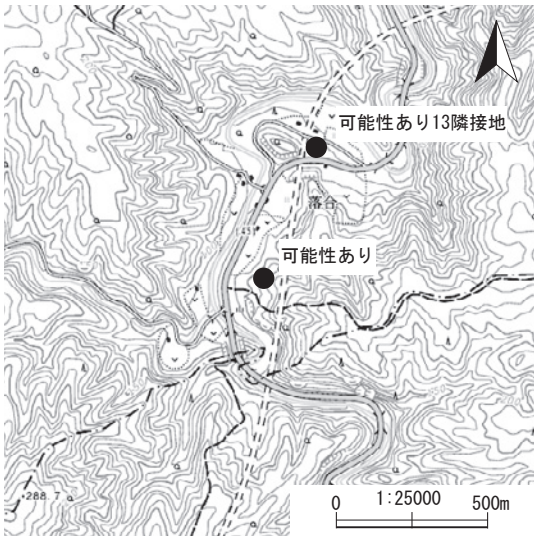
※アミフセはⅡ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果	記載No.
107	平成29年12月12日～13日	河川等災害関連事業、河川災害復旧等関連緊急事業	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	松林Ⅰ遺跡（KF08-1366）	下閉伊郡岩泉町安家字松林地内	慎重工事	48
108				可能性あり１		工事着手可	
109				可能性あり２		工事着手可	
110				可能性あり３		工事着手可	
111				可能性あり４（松林洞穴Ⅰ遺跡（KF08-1358）・松林洞穴Ⅱ遺跡（KF08-1357）隣接地）		工事着手可	
112				可能性あり５（松林Ⅰ遺跡（KF08-1366）隣接地）		工事着手可	
113				可能性あり６（松林Ⅰ遺跡（KF08-1366）隣接地）		工事着手可	
114	平成29年12月14日～15日	経営体育成基盤整備事業	県南広域振興局農政部農村整備室	北赤堰遺跡（NE34-1228）及び隣接地	奥州市胆沢小山字北赤堰地内	慎重工事	41
115	平成29年12月22日	東北横断自動車道釜石秋田線（遠野道路）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	平野原Ⅱ遺跡（MF76-0028）	遠野市上郷町平野原第２地割地内	慎重工事	3
116	平成30年1月16日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	伝吉Ⅰ遺跡（IF37-2396）	九戸郡洋野町種市第44地割地内	慎重工事	6
117	平成30年1月17日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	サンニヤⅢ遺跡（IF48-2250）隣接地	九戸郡洋野町種市第25地割地内	工事着手可	
118	平成30年1月25日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	大沢１遺跡（MG71-2209）隣接地	釜石市甲子町第13地割地内	工事着手可	
119	平成30年1月31日	紫波地区交差点改良事業（城山入口）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	可能性あり１・２	紫波郡紫波町二日町地内	工事着手可	
120	平成30年2月6日	地域連携道路整備事業	県南広域振興局土木部花巻土木センター	石名畑遺跡（ME46-1326）隣接地	北上市更木地内	工事着手可	
121	平成30年2月6日	三陸沿岸道路（宮古田老道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	千徳城遺跡群（LG33-0197）	宮古市千徳地内	慎重工事	9
122	平成30年2月14日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	板橋Ⅱ遺跡（IF58-0234）（旧可能性あり14）	九戸郡洋野町種市第21地割地内	発掘調査	5
123	平成30年2月28日	警察施設整備事業（盛岡西警察署滝沢交番新築工事）	県警本部警務部会計課	葉の木沢Ⅰ遺跡（KE86-0278）	滝沢市葉の木沢山505-1	慎重工事	20
124	平成30年3月5日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり47南	九戸郡洋野町中野第６地割地内	工事着手可	
125	平成30年3月9日	三陸沿岸道路（尾肝要普代道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり13隣接地	下閉伊郡普代村柏木平地内	工事着手可	
126	平成30年3月15日	北日詰交差点改良事業（南日詰地区）	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	北日詰東ノ坊Ⅲ遺跡（LE77-0078）	紫波郡紫波町北日詰地内	慎重工事	2
127				北日詰東ノ坊Ⅱ遺跡（LE77-0069）	紫波郡紫波町北日詰地内	慎重工事	

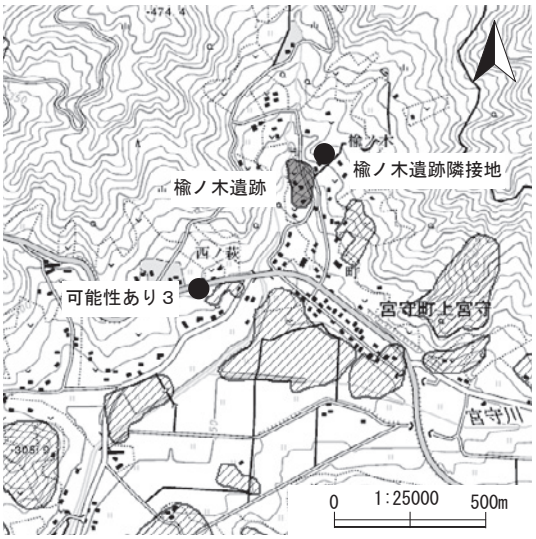
市町村支援

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果	記載No.
128	平成29年6月19日～21日	災害公営住宅整備	岩泉町教育委員会	谷内遺跡（KF47-2364）	下閉伊郡岩泉町穴沢字道の下10-1・袰綿字浦場64-1	発掘調査	
129				袰綿遺跡（KF58-1130）		慎重工事	
130	平成29年6月22日	㈱田野畑牧場 乾乳牛舎新築	田野畑村教育委員会	大芦Ⅰ遺跡（JF18-0137）	下閉伊郡田野畑村大芦52 地内	慎重工事	
131	平成29年7月4日	個人住宅建設工事	野田村教育委員会	野田竪穴（中平）遺跡（JG60-0258）	九戸郡野田村大字野田22-134-1	発掘調査	
132	平成29年7月31日	個人住宅新築工事	田野畑村教育委員会	西和野Ⅲ遺跡（KG23-2011）	下閉伊郡田野畑村和野322-3	慎重工事	
133	平成29年10月11日～13日	災害公営住宅整備事業	岩泉町教育委員会	石名畑遺跡（KF47-2331）	下閉伊郡岩泉町門字上平10-5	慎重工事	
134				森の越遺跡（KG50-1375）	下閉伊郡岩泉町字岩泉三本松43-1ほか	発掘調査	
135	平成29年10月24日	個人住宅建設工事	野田村教育委員会	野田竪穴（中平）遺跡（JG60-0258）	九戸郡野田村大字野田22-141-13	慎重工事	
136	平成29年11月16日	災害公営住宅整備事業等	岩泉町教育委員会	森の越遺跡（KG50-1375）	下閉伊郡岩泉町岩泉字三本松26番地1	発掘調査	
137	平成29年11月16日～17日	災害公営住宅整備事業等	野田村教育委員会	森の越遺跡（KG50-1375）	下閉伊郡岩泉町岩泉字三本松26番地1ほか	慎重工事	
138	平成29年11月29日	㈲野田衛生社事務所等新築工事	野田村教育委員会	野田竪穴（中平）遺跡（JG60-0258）	九戸郡野田村大字野田22-127-2地内	慎重工事	
139	平成29年12月7日～8日	個人住宅建設工事ほか	野田村教育委員会	野田竪穴（中平）遺跡（JG60-0258）	九戸郡野田村大字野田22-131-3	発掘調査	
140	平成29年12月11日～13日	洋野町太陽光発電所建設工事	洋野町教育委員会	松ヶ沢Ⅱ遺跡（IF67-2265）	九戸郡洋野町種市第74地割字松ヶ沢137-1ほか	慎重工事	

1. 貝島貝塚隣接地

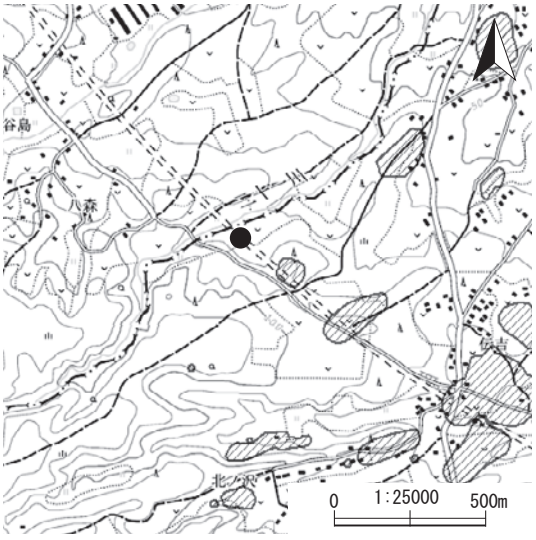


9・125. 可能性あり・可能性あり13隣接地

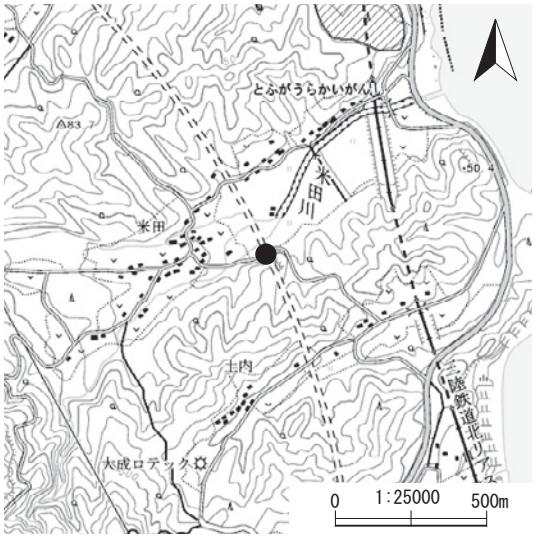


12・19. 可能性あり3・楡ノ木遺跡隣接地

13. 水上Ⅱ遺跡隣接地



16. 可能性あり１



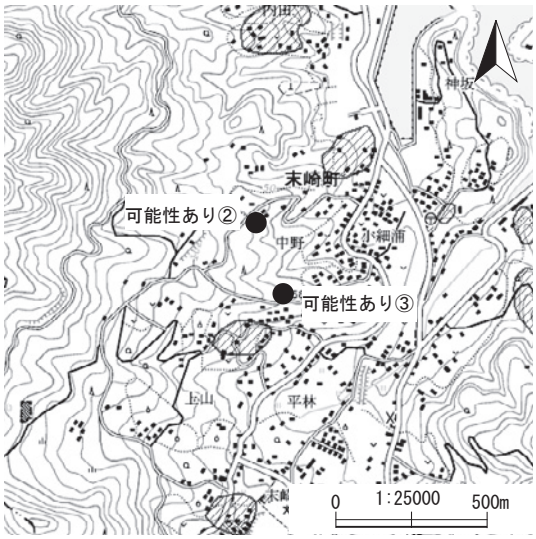
21. 可能性あり11

第148図　試掘調査位置図一覧（１）

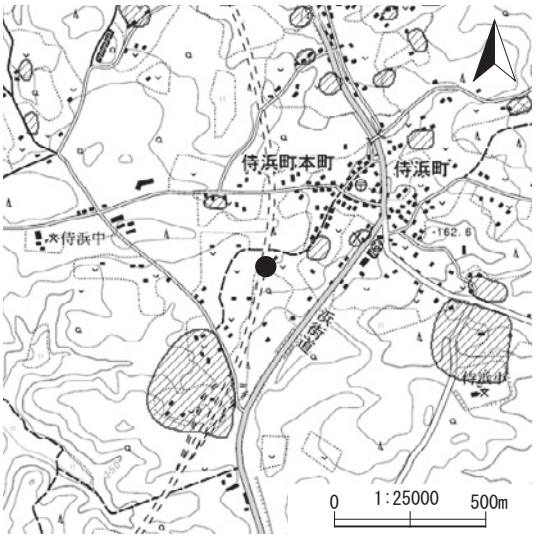
22. 八幡館遺跡隣接地

23. 森合遺跡隣接地

24. 可能性あり５・７



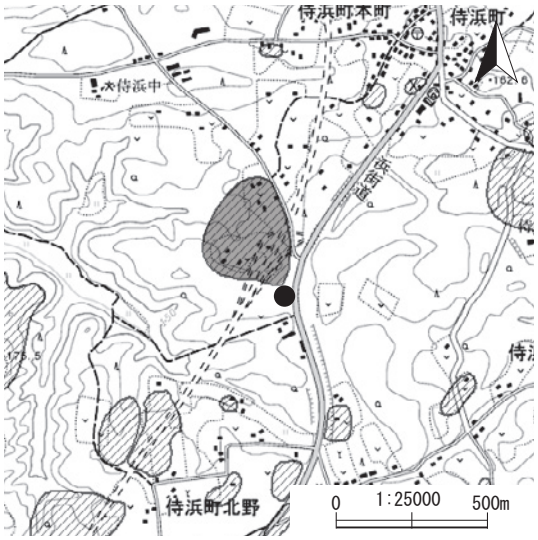
30・31. 可能性あり②・③



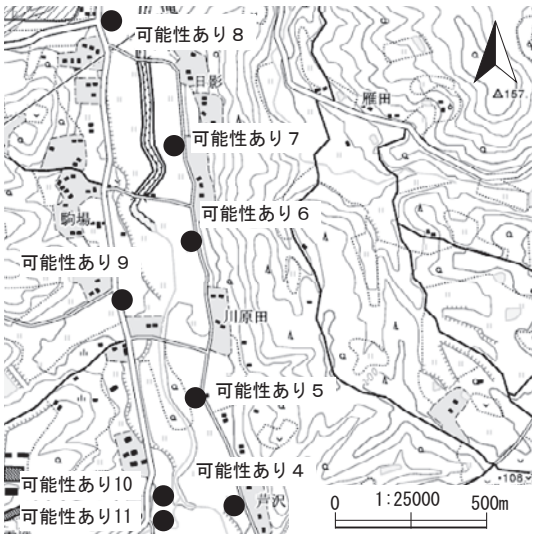
33. 可能性あり３

34・71. 可能性あり22

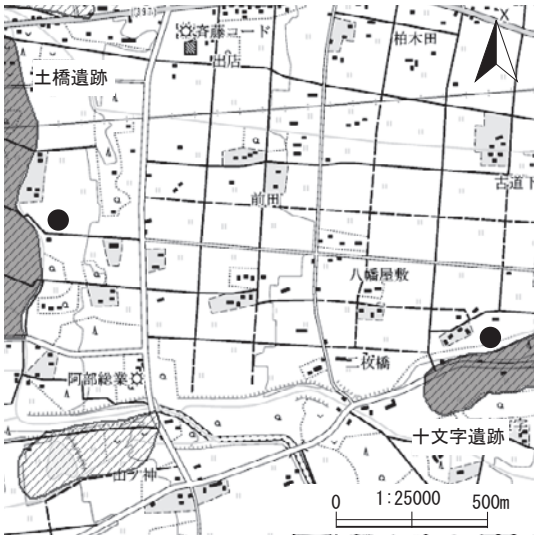
第149図　試掘調査位置図一覧（２）



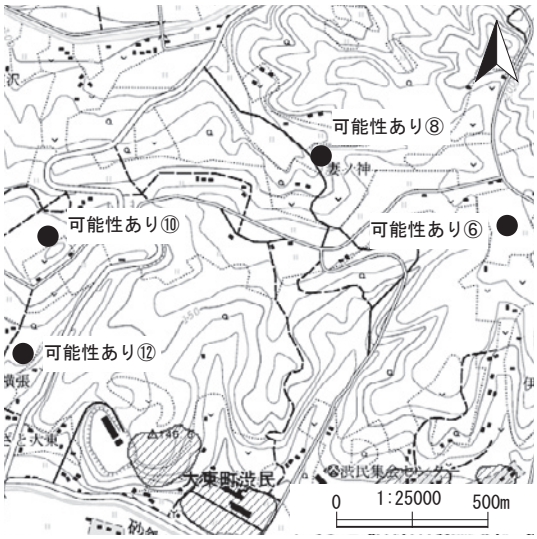
48. 木戸場遺跡隣接地



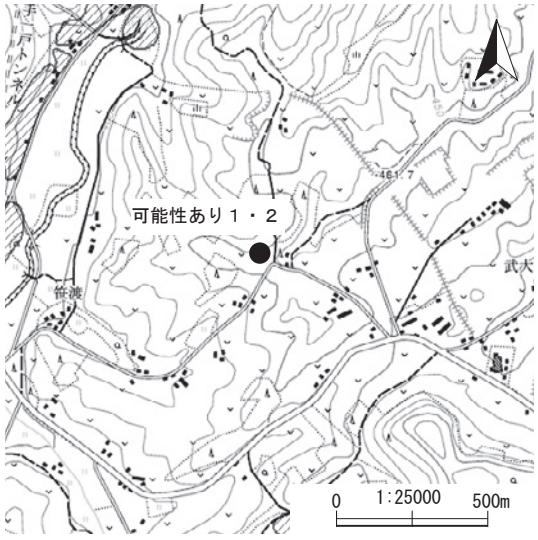
52・53・78～84. 可能性あり４～11



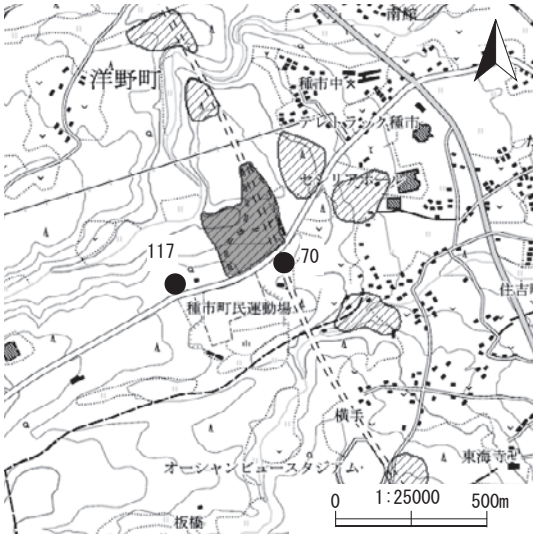
59・60. 土橋遺跡・十文字遺跡隣接地



61～64. 可能性あり⑥・⑧・⑩・⑫



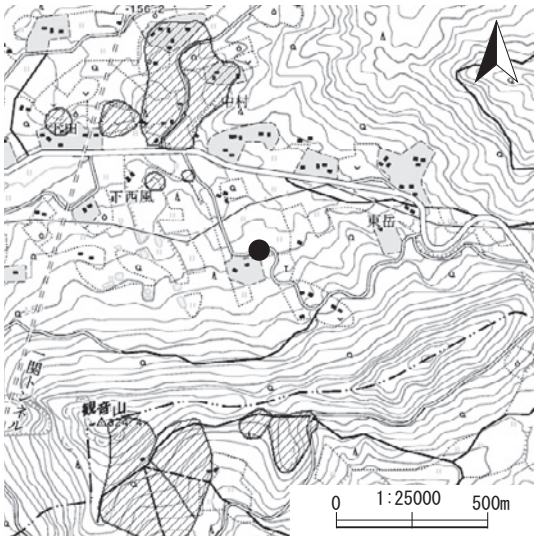
68・69. 可能性あり１・２



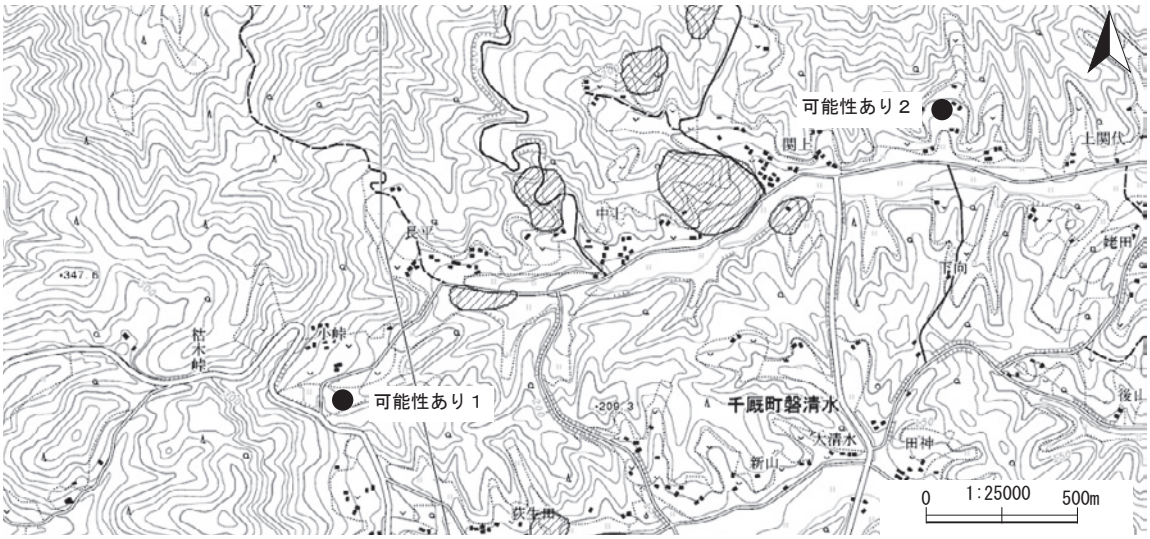
70・117. サンニヤⅢ遺跡隣接地

第150図　試掘調査位置図一覧（３）

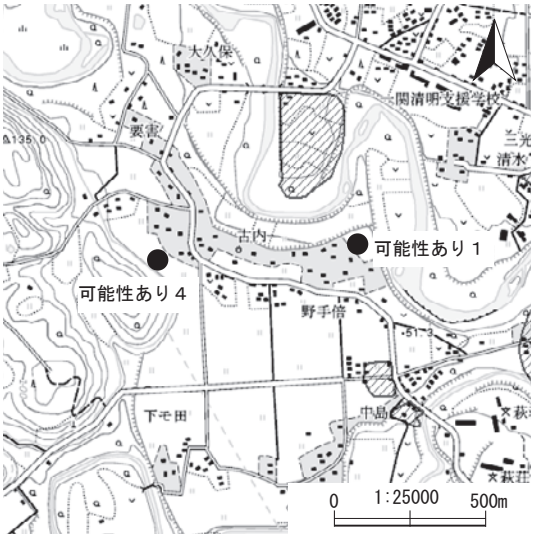
76. 南万丁目Ⅲ遺跡隣接地



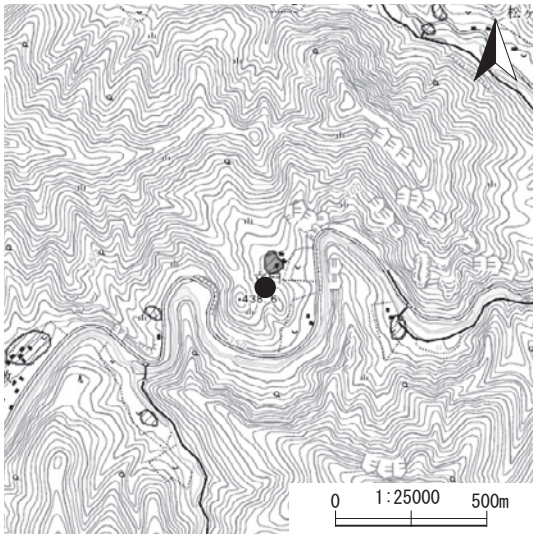
77. 可能性あり２



85・86. 可能性あり１・２

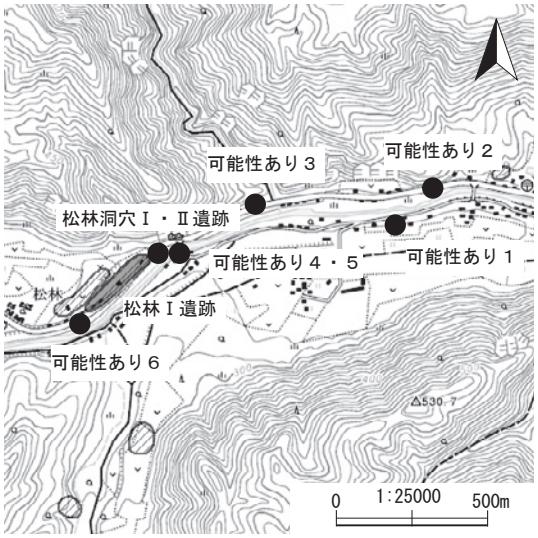


91・92. 可能性あり１・４

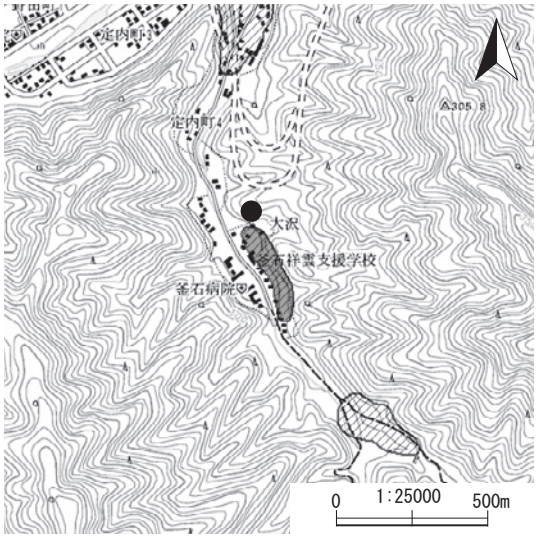


97. 立臼Ⅰ遺跡隣接地

第151図　試掘調査位置図一覧（４）



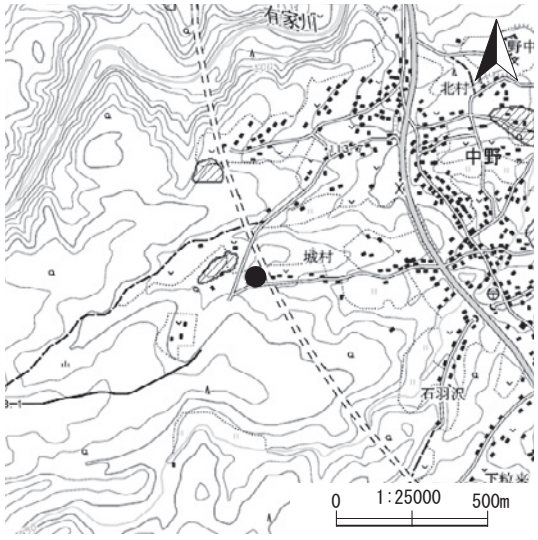
108～113. 可能性あり１～６



118. 大沢１遺跡隣接地

119. 可能性あり１・２

120. 石名畑遺跡隣接地



124. 可能性あり47南

第152図　試掘調査位置図一覧（５）

第22表　工事立会一覧表（１）

※アミフセはⅢ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果	記載No.
1	平成29年4月19日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	小白浜遺跡（MG92-0133）	釜石市唐丹町字小白浜地内	影響なし	
2	平成29年4月20日	館地区急傾斜地崩壊対策工事	沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター	館跡（NF56-1384）	陸前高田市竹駒町字館地区	影響なし	
3	平成29年4月24日	一般国道340号小国地区道路災害復旧（28災116号）工事	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	道又遺跡（LF88-2164）	宮古市小国地内	影響なし	
4	平成29年4月24日	一般国道340号舘橋地区道路災害復旧（28災320号）工事	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	和井内西遺跡（LF18-1335）	宮古市舘橋地内	影響なし	
5	平成29年5月25日	復旧治山事業上平地区復旧治山工事	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター林務室	田岡Ⅲ遺跡（JF50-0171）	二戸郡一戸町小鳥谷字上平地内	影響なし	
6	平成29年5月26日	三陸沿岸道路（田野畑道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	浜岩泉Ⅴ遺跡（KG33-2003）	下閉伊郡田野畑村浜岩泉地内	影響なし	
7	平成29年6月6日	三陸沿岸道路（洋野階上道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	板橋遺跡（IF58-1170）（旧可能性あり）	九戸郡洋野町種市第21地割板橋地内	陥し穴状遺構盛土保護	2
8	平成29年6月9日	盛岡地方合同庁舎（16）建築その他改修工事	国土交通省東北地方整備局営繕部	盛岡城外曲輪遺跡（LE16-　　）	盛岡市内丸7-25	影響なし	
9	平成29年6月28日	皆伐（立木販売）	三陸北部森林管理署	南大畑Ⅰ遺跡（KG44-2113）	下閉伊郡岩泉町小本字大牛内国有林578と林小班	影響なし	
10	平成29年7月19日	山田線（宮古・釜石間）鉄道復旧	東日本旅客鉄道株式会社東北工事事務所	吉里吉里Ⅲ遺跡（MG33-0346）前川善兵衛歴代の墓遺跡（MG33-0365）	上閉伊郡大槌町吉里吉里二丁目、四丁目上閉伊郡大槌町吉里吉里二丁目	影響なし	
11	平成29年8月1日	盛岡地方合同庁舎（16）建築その他改修工事	国土交通省東北地方整備局営繕部	盛岡城外曲輪遺跡（LE16-　　）	盛岡市内丸7-25	影響なし	
12	平成29年8月1日	一関工業高等学校受水槽改修工事	県教育委員会事務局教育企画室	釜淵遺跡（NE96-2022）	一関市萩荘	影響なし	
13	平成29年8月7日、9日	一般国道４号水沢東バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	町屋敷遺跡（NE27-1029）	奥州市水沢真城字町屋敷地内	柱穴２基	1
14	平成29年8月9日	岩手県二戸病院医師公舎（20号棟）新築工事	岩手県医療局経営管理課	堀野遺跡群（IF90-0000）	二戸市堀野字長瀬8-3、8-2の一部	影響なし	
15	平成29年8月23日	岩手県立胆沢病院ヘリポート整備（建築）工事	岩手県医療局経営管理課	龍ケ馬場遺跡（NE26-1254）	奥州市水沢字龍ケ馬場61番地地内	影響なし	
16	平成29年8月24日	山田線（宮古・釜石間）鉄道復旧	東日本旅客鉄道株式会社東北工事事務所	泉沢屋敷遺跡（MG52-0239）	釜石市鵜住居第25地割	影響なし	
17	平成29年9月8日	一関地区事故対策事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	西光寺裏遺跡（NE96-2056）	一関市萩荘中町地内	影響なし	
18	平成29年10月3日	三陸沿岸道路（釜石山田道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	田屋遺跡（MG23-1373）	上閉伊郡大槌町吉里々々地内	影響なし	
19	平成29年10月4日	道路環境改善事業	県南広域振興局土木部花巻土木センター	塚の森Ⅰ遺跡（ME07-0038）	花巻市石鳥谷町関口地内	影響なし	
20	平成29年11月6日～7日	北上川中流部緊急治水対策事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	北日詰城内Ⅰ遺跡（LE77-0194）	紫波郡紫波町北日詰字城内地内	影響なし	

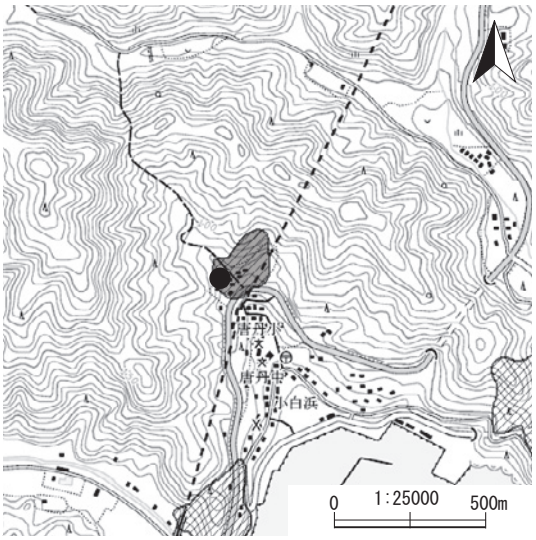
第23表　工事立会一覧表（２）

※アミフセはⅢ章で記載したもの

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果	記載No.
21	平成29年11月14日	葡萄沢(2)地区予防治山工事	県南広域振興局農政部花巻農林振興センター	サヅカ長根遺跡（LE99-1341）	花巻市大迫町大迫葡萄沢地内	影響なし	
22	平成29年11月15日	一級河川荒川筋駒形本宮橋下地区ほか河川災害復旧	県南広域振興局土木部遠野土木センター	根岸Ⅱ遺跡（MF15-2038）	遠野市附馬牛町上附馬牛字根岸地内	影響なし	
23	平成29年11月21日	集落基盤整備事業（地域用水型）太田堰地区第７号ほか１工事	盛岡広域振興局農政部農村整備室	細田遺跡（LE15-0188）	盛岡市上太田地内	影響なし	
24	平成29年12月1日	農村地域防災減災事業丹藤地区第１号工事	盛岡広域振興局農政部農村整備室	丹藤滝遺跡（KE28-2009）	岩手郡岩手町大字川口地内	影響なし	
25	平成29年12月8日	漁港災害復旧事業広田漁港海岸災害復旧（23災県第522号防潮堤その４）工事	沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センター	中沢浜貝塚（NF88-1298）	陸前高田市広田町字中沢地内	影響なし	
26	平成29年12月14日	防災安全事業一般県道平泉停車場中尊寺線志羅山地区電線共同溝整備（４工区）	県南広域振興局土木部一関土木センター	柳之御所遺跡（NE76-0190） 高館（衣河館）跡（NE76-0055）	西磐井郡平泉町平泉字志羅山地内	影響なし	
27	平成29年12月21日	道路環境改善事業（無電柱化）志羅山地区電線共同溝整備事業	県南広域振興局土木部一関土木センター	無量光院跡（NE76-1007）	西磐井郡平泉町平泉字花立地内	影響なし	
28	平成30年1月15日	農地耕作条件改善事業愛宕地区第2号工事	県南広域振興局農政部農村整備室	赤剥遺跡（NE23-2308）	奥州市胆沢若柳地内	遺物包含層１箇所	3
29	平成30年2月5日	災害復旧事業	県南広域振興局土木部一関土木センター	杉山古墳（OE59-2150）	一関市花泉町永井字杉山地内	影響なし	
30	平成30年2月14日	経営体育成基盤整備事業和賀中部岩崎地区用水パイプライン工事	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	上須々孫遺跡（ME63-1286）	北上市和賀町煤孫	影響なし	
31	平成30年2月16日	災害関連緊急砂防事業三田貝の沢(11) 筋　下三田貝地区砂防堰堤事業	沿岸広域振興局岩泉土木センター	根岸Ⅰ遺跡（KF46-2244）	下閉伊郡岩泉町門字下三田貝地内	影響なし	
32	平成30年2月26日	二級河川鵜住居川筋鞭牛大橋上下地区河川災害復旧（28災122号）工事	沿岸広域振興局土木部	太田林遺跡（MG30-2102）	釜石市橋野町第38地割41-3地先	影響なし	
33	平成30年3月8日	岩手山麓農業水利事業　導水路建設工事	東北農政局岩手山麓農業水利事業所	野沢Ⅰ遺跡（KE76-1377） 野沢Ⅴ遺跡（KE76-1387）	滝沢市野沢62-137	影響なし	
34	平成30年3月19日	主要地方道重茂半島線熊の平～堀内地区地域連携道路整備事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	熊の平遺跡（LG45-2099）及び隣接地	宮古市音部第７地割地内	影響なし	
35	平成30年3月20日	三陸沿岸道路（吉浜釜石道路）	国土交通省東北地方整備局南三陸国道事務所	大沢１遺跡（MG71-2209）	釜石市定内町四丁目地内	影響なし	

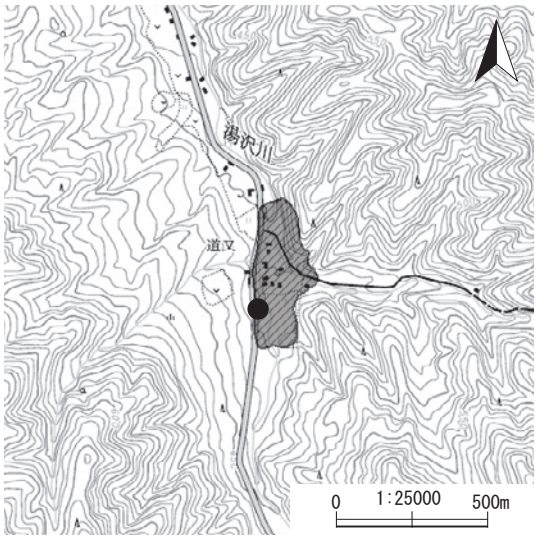
市町村支援

No.	調査期日	事業名	事業者	遺跡名	所在地	結果	記載No.
36	平成29年5月9日	田野畑村真木沢公民館敷地周囲擁壁・排水施設整備工事	田野畑村教育委員会	真木沢Ⅳ遺跡（KG43-1147）	下閉伊郡田野畑村真木沢第136番地	影響なし	
37	平成29年6月21日	田野畑村村道大芦浜岩泉線側溝設置工事	田野畑村教育委員会	浜岩泉Ⅱ遺跡（KG43-0016）	下閉伊郡田野畑村浜岩泉地内	影響なし	
38	平成29年6月21日	田野畑村村道菅窪線水路改修工事（水路・舗装）	田野畑村教育委員会	菅窪遺跡（KG22-2354）	下閉伊郡田野畑村菅窪寝牛山地内	影響なし	

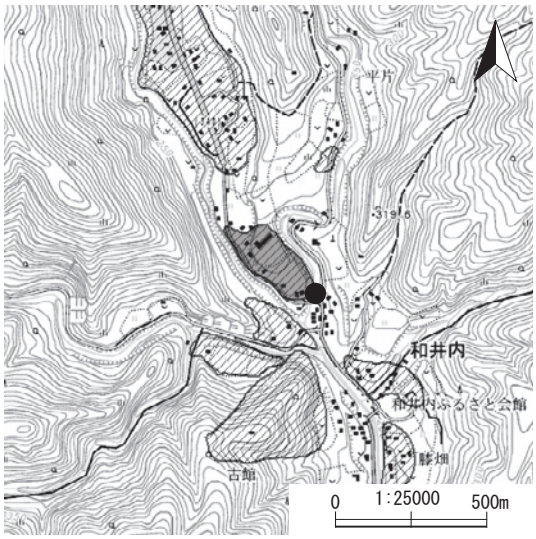


1．小白浜遺跡

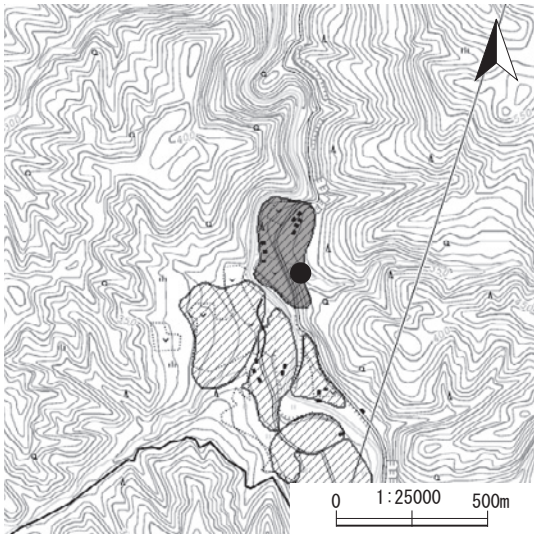
2．館跡



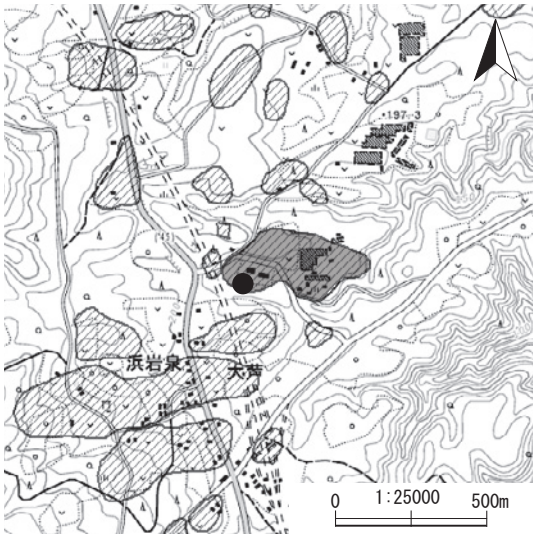
3．道又遺跡



4．和井内西遺跡

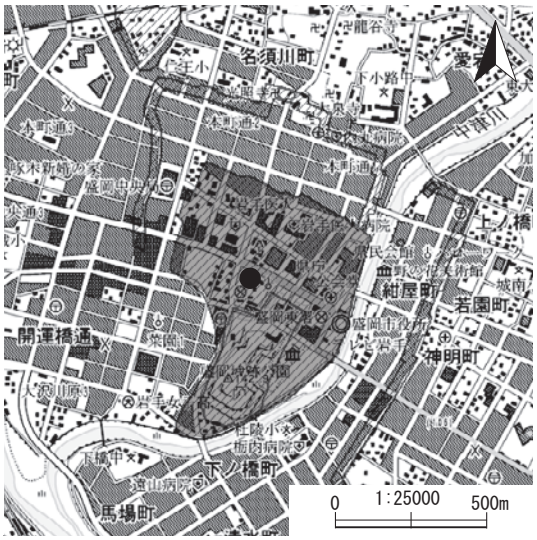


5．田岡Ⅲ遺跡

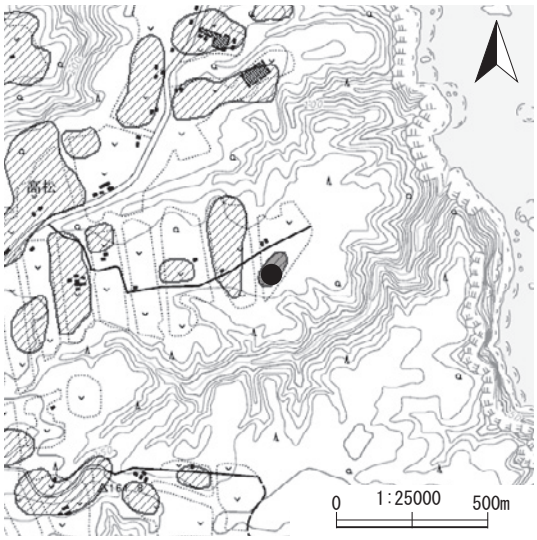


6．浜岩泉Ⅴ遺跡

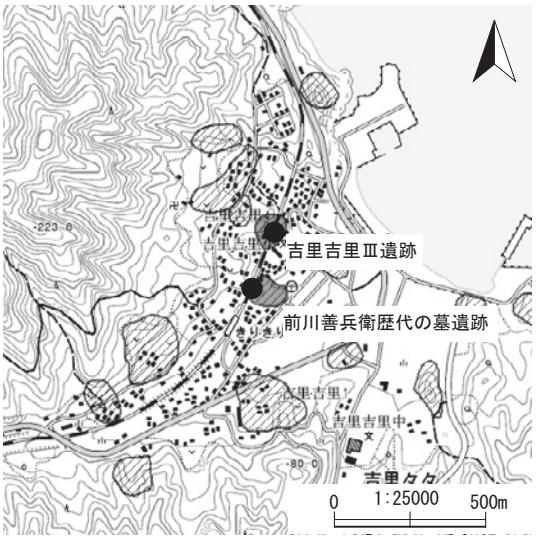
第153図　工事立会位置図一覧（１）



8・11. 盛岡城外曲輪遺跡



9. 南大畑Ⅰ遺跡



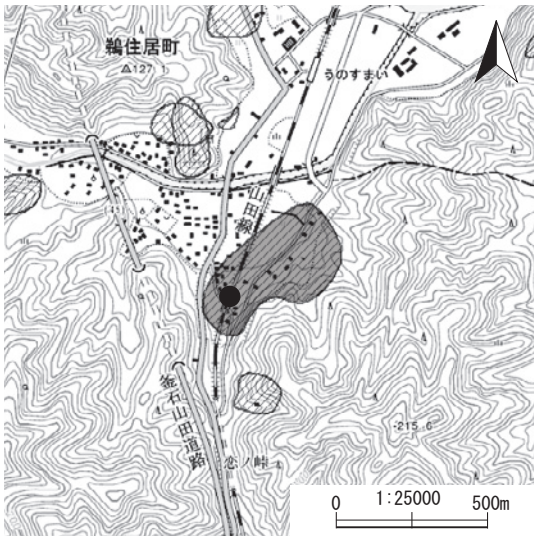
10. 吉里吉里Ⅲ遺跡・前川善兵衛歴代の墓遺跡

12. 釜淵遺跡

14. 堀野遺跡群

15. 龍ケ馬場遺跡

第154図　工事立会位置図一覧（２）



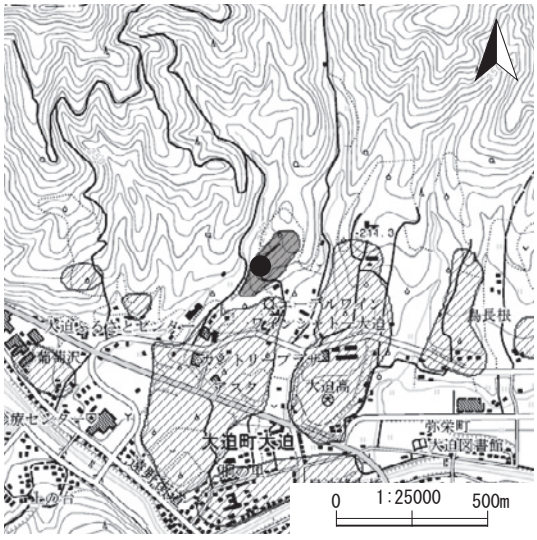
16. 泉沢屋敷遺跡

17. 西光寺裏遺跡

18. 田屋遺跡

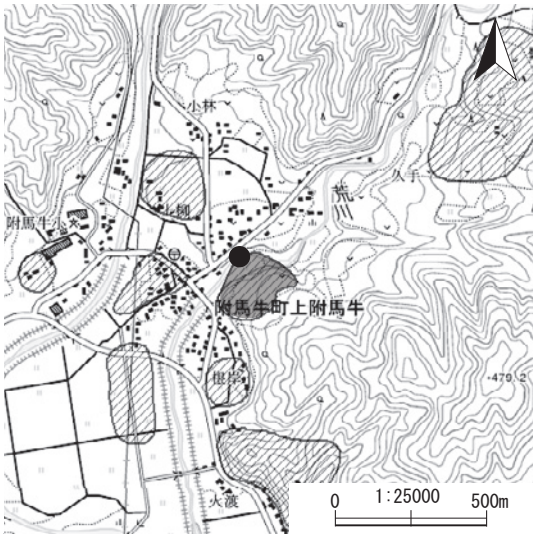
19. 塚の森Ⅰ遺跡

20. 北日詰城内Ⅰ遺跡

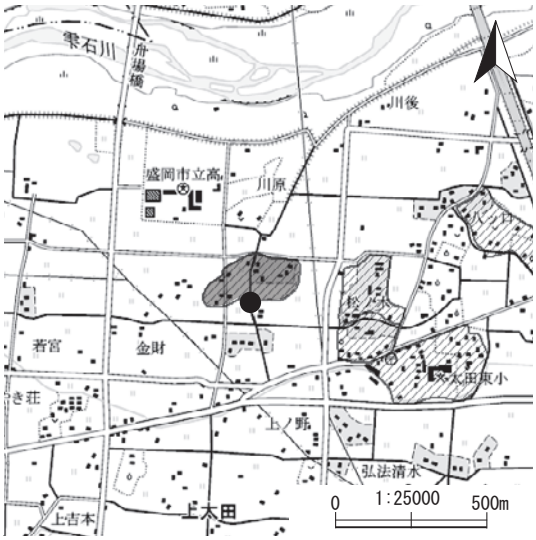


21. サヅカ長根遺跡

第155図　工事立会位置図一覧（３）

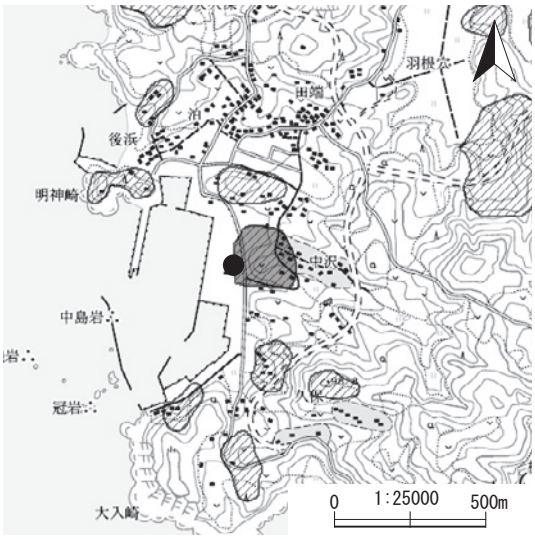


22. 根岸Ⅱ遺跡

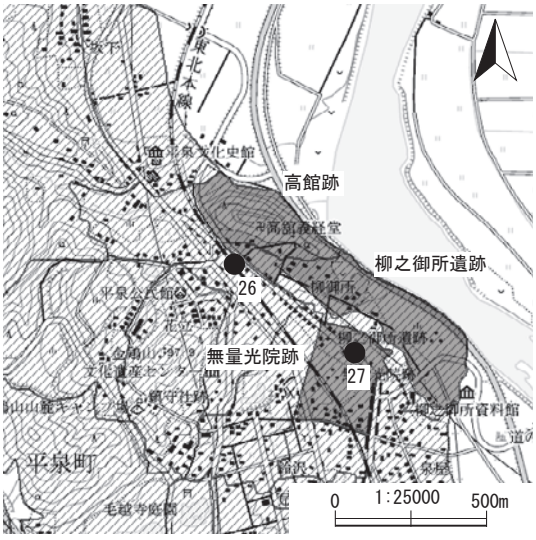


23. 細田遺跡

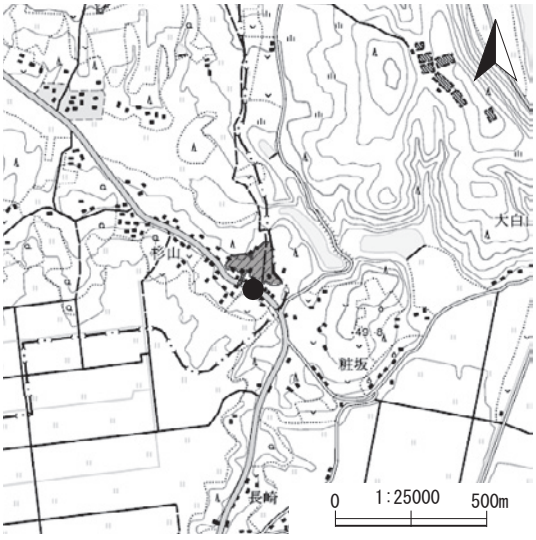
24. 丹藤滝遺跡



25. 中沢浜貝塚

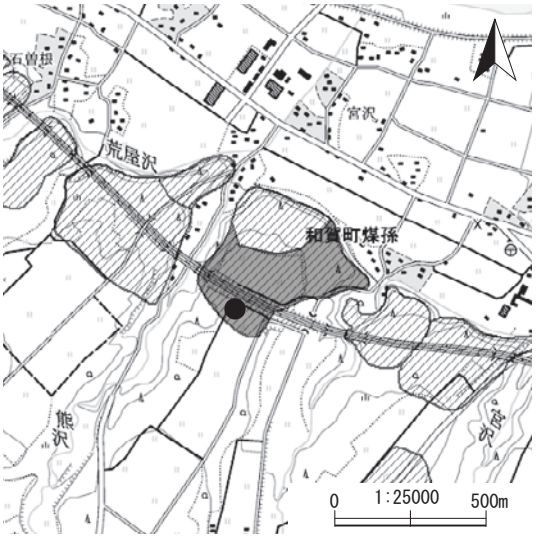


26・27. 柳之御所遺跡・高館跡・無量光院跡

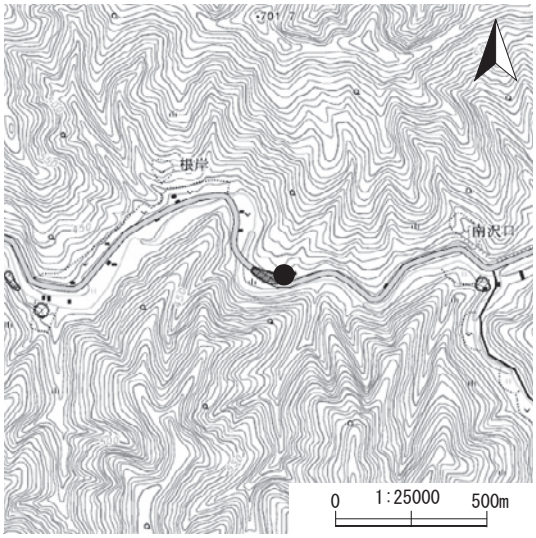


29. 杉山古墳

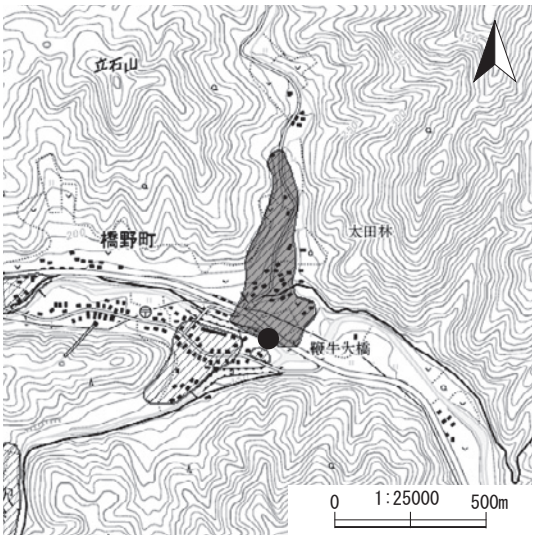
第156図　工事立会位置図一覧（４）



30. 上須々孫遺跡

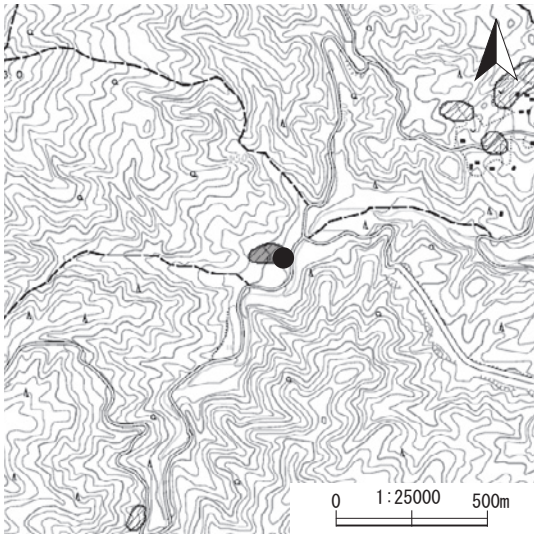


31. 根岸Ⅰ遺跡

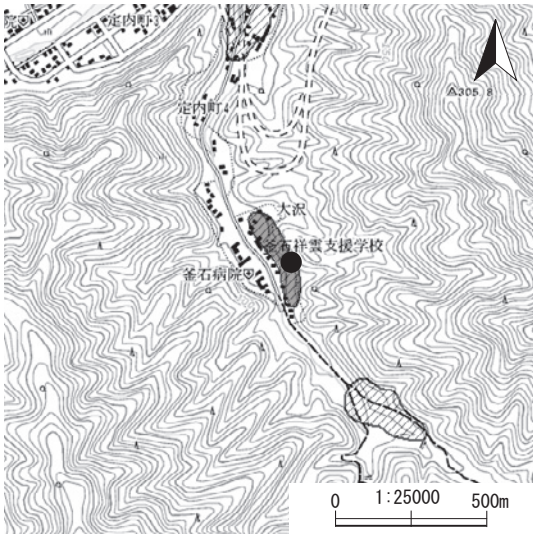


32. 太田林遺跡

33. 野沢Ⅰ遺跡・野沢Ⅴ遺跡



34. 熊の平遺跡



35. 大沢１遺跡

第157図　工事立会位置図一覧（５）

第24表　分布調査一覧表（１）

No.	調査日	事業名	事業者	遺跡名	時代	遺構／遺物	種別	所　在　地	結果
1	平成29年5月10日	地すべり防止事業田面野木地区	盛岡広域振興局林務部	可能性あり				盛岡市猪去田面野木地区	工事着手可
2	平成29年5月11日	農地整備事業（経営体育成型）下大桑地区、厳美・滝原ひがし地区、川台地区、上奥玉地区	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	下川台遺跡（OE05-0177）	縄文		散布地	（下大桑地区）一関市萩荘地内	試掘調査
3				羽根橋Ⅰ遺跡（OE05-0171）	縄文		散布地		試掘調査
4				羽根橋Ⅱ遺跡（OE05-0079）	縄文		散布地		試掘調査
5				藤走遺跡（OE05-0046）	縄文		散布地		試掘調査
6				山田遺跡（NE95-2076）	旧石器		散布地		試掘調査
7				可能性あり					試掘調査
8				小姓館跡（OE05-0147）	中世末		城館跡		慎重工事
9	平成29年5月10日			上の台遺跡（NE94-0252）隣接地				（厳美・滝原ひがし地区）一関市厳美地内	工事着手可
10				上川台遺跡（OE15-0068）	縄文		散布地	（川台地区）一関市萩荘地内	慎重工事
11				刈又Ⅱ遺跡（OE15-0274）隣接地					工事着手可
12				萱刈場Ⅱ遺跡（NF92-0200）	縄文		散布地	（上奥玉地区）一関市千厩町奥玉地区	慎重工事
13				萱刈場Ⅰ遺跡隣接地（NF82-2282）					工事着手可
14				殿金沢館跡（NF92-0138）隣接地					工事着手可
15	平成29年5月12日	一般国道396号上宮守地区道路改築事業	県南広域振興局土木部遠野土木センター	楡ノ木遺跡（MF32-0099）隣接地				遠野市宮守町上宮守地内	試掘調査
16	平成29年5月12日			下村遺跡（MF32-2021）隣接地				遠野市宮守町上宮守地内	工事着手可
17	平成29年5月16日	一級河川木賊川筋穴口地区遊水地整備工事	盛岡広域振興局土木部	可能性あり				盛岡市下厨川字穴口ほか	工事着手可
18	平成29年5月17日	三陸沿岸道路（久慈北道路）	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所	可能性あり				久慈市夏井町鳥谷第４地割地内	工事着手可
19	平成29年5月23日	皆伐（立木販売）・間伐（製品生産請負）	東北森林管理局岩手南部森林管理署	丸森館跡（NE42-1158）	中世		城館跡	奥州市衣川二又岳国有林42林班い・ろ小班	慎重工事
20				横沢原遺跡（NE22-2267）	縄文		散布地	奥州市胆沢若柳東前川山国有林51林班た２・た３小班	工事立会
21				大清水上遺跡（NE22-2277）	縄文・弥生		集落跡	奥州市胆沢若柳東前川山国有林51林班た４小班	工事立会
22	平成29年6月2日	岩手県立二戸病院医師公舎（15・20号棟）新築工事	医療局経営管理課	堀野遺跡群（IF90-0000）	縄文・古墳・古代		集落跡・祭祀跡・古墳	二戸市堀野字長瀬８－３、８－２の一部	工事立会

第25表　分布調査一覧表（２）

No.	調査日	事業名	事業者	遺跡名	時代	遺構／遺物	種別	所　在　地	結果
23	平成29年6月8日	道路環境整備事業永沢地区	県南広域振興局土木部	清水遺跡（NE05-0196）	弥生		散布地	胆沢郡金ケ崎町永栄地区	工事立会
24				春慶遺跡（NE05-1134）	縄文		散布地		工事立会
25				関田遺跡（NE05-1077）	中世		経塚		試掘調査
26				横沢遺跡（NE05-2004）	縄文		散布地		試掘調査
27				可能性あり					工事着手可
28	平成29年6月14日	水利施設整備事業（農地集積促進型）手代森地区	盛岡広域振興局農政部農村整備室	可能性あり				盛岡市手代森地内	工事着手可
29	平成29年6月14日	広域河川改修事業	沿岸広域振興局土木部宮古土木センター	松山館跡（LG33-2086）	古代・中世		城館跡	宮古市花輪地内ほか	慎重工事
30				下折壁Ⅱ遺跡（LG42-1395）	中世		城館跡	宮古市花輪地内ほか	慎重工事
31	平成29年6月20日～21日	皆伐（立木販売）	東北森林管理局盛岡森林管理署	芦田内Ⅳ遺跡（KE28-1125）	縄文・弥生・古代		散布地	岩手郡岩手町1019ち林小班地内ほか	再協議
32				芦田内Ⅶ遺跡（KE28-1250）隣接地					工事着手可
33				芦田内Ⅵ遺跡（KE28-1168）	縄文・弥生		集落跡		再協議
34				内の沢遺跡（KE17-2363）	不明		散布地		工事立会
35				子抱遺跡（KE28-0082）	縄文		散布地		慎重工事
36				子抱館跡（KE28-0073）	中世		城館跡		慎重工事
37				岩洞湖K遺跡（KF71-0136）	縄文		遺物散布地		慎重工事
38				岩洞湖J遺跡（KF61-2114）	縄文		遺物散布地		慎重工事
39				柳沢Ⅱ遺跡（KE65-2052）	縄文		散布地		慎重工事
40	平成29年6月23日	葡萄沢(2)地区予防治山事業	県南広域振興局農政部花巻農林振興センター	サヅ長根遺跡（LE99-1341）	縄文		散布地	花巻市大迫町大迫葡萄沢地内	試掘調査
41	平成29年6月28日	防災安全（交通安全）事業大川目地区	県北広域振興局土木部	外里遺跡（JF38-0255）	縄文		集落跡	久慈市大川目町地内	試掘調査
42				可能性あり					
43	平成29年6月29日	畑地帯総合整備事業東奥中山中央地区	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	可能性あり１				二戸郡一戸町西田子地内	試掘調査
44				可能性あり２					試掘調査
45				可能性あり３					工事着手可
46	平成29年6月29日	畑地帯総合整備事業奥中山中央地区	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	可能性あり				二戸郡一戸町西田子地内	工事着手可

第26表　分布調査一覧表（３）

※アミフセは遺物実測図を載せたもの

No.	調査日	事業名	事業者	遺跡名	時代	遺構／遺物	種別	所　在　地	結果
47	平成29年6月29日	畑地帯総合整備事業男神・米沢・湯田地区	県北広域振興局農政部二戸農林振興センター農村整備室	上里遺跡群（JE09-1273）	縄文・中世		集落跡・城館跡	二戸市石切所地内	試掘調査
48				可能性あり					工事着手可
49				横長根遺跡（JE09-1126）隣接地					工事着手可
50				可能性あり					工事着手可
51				火行塚遺跡（JE09-1212）	縄文・弥生・古代		集落跡		試掘調査
52				上平Ⅲ遺跡（IE99-2218）	縄文・古代		散布地		試掘調査
53	平成29年7月18日	地域連携道路整備事業一般国道396号内楽木峠地区	県南広域振興局土木部遠野土木センター	下栃遺跡（MF31-1231）近接地				遠野市宮守町内楽木峠地内	工事着手可
54				可能性あり					工事着手可
55				可能性あり１					試掘調査
56				可能性あり２					試掘調査
57				可能性あり３					工事着手可
58	平成29年７月11日～13日	経営体育成基盤整備事業梁川西部地区	県南広域振興局農政部農村整備室	可能性あり１				奥州市江刺梁川	試掘調査
59				可能性あり２				奥州市江刺梁川	試掘調査
60	平成29年8月15日	二級河川小本川筋小船地区河川災害復旧助成（護岸工）工事	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	可能性あり				下閉伊郡岩泉町小船地内	工事着手可
61	平成29年8月15日	災害関連緊急砂防事業釜津田沢地区	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	可能性あり				下閉伊郡岩泉町釜津田字沢口地内	工事着手可
62	平成29年8月2日	県単独凍雪害対策事業	県南広域振興局土木部千厩土木センター	可能性あり１				一関市大東町鳥海字市ノ通地内	試掘調査
63				可能性あり２					工事着手可
64	平成29年8月7日	農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業）経営体育成型	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	可能性あり１				花巻市高松地内	試掘調査
65				可能性あり２					試掘調査
66				中遺跡（ME37-0195）	古代		散布地		試掘調査
67				明戸Ⅰ遺跡（ME37-1163）隣接地					試掘調査
68				明戸Ⅱ遺跡（ME37-1183）	縄文・古代		集落跡		試掘調査
69	平成29年8月7日、10日	農業競争力強化基盤整備事業（農地整備事業）経営体育成型	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	柴林遺跡（ME24-0098）	縄文		集落跡	花巻市太田地区	試掘調査
70				可能性あり１					試掘調査
71				可能性あり２		土器石器		花巻市太田地区	試掘調査
72				沼田遺跡（ME24-2102）	縄文		散布地	花巻市太田地区	試掘調査
73				沼田Ⅱ遺跡（ME24-2110）	縄文				試掘調査
74				山口Ⅰ遺跡（ME24-2022）隣接地					試掘調査

第27表　分布調査一覧表（４）

※アミフセは遺物実測図を載せたもの

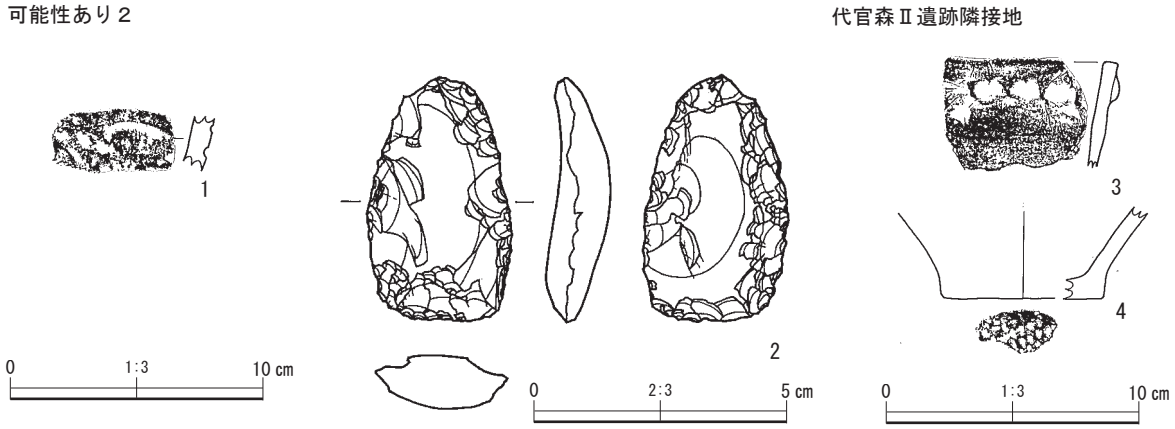
No.	調査日	事業名	事業者	遺跡名	時代	遺構／遺物	種別	所　在　地	結果
75	平成29年8月16日	農業農村整備事業下前地区	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	可能性あり１				和賀郡西和賀町下前地区	試掘調査
76				可能性あり２					試掘調査
77				可能性あり３					試掘調査
78				代官森Ⅰ遺跡（ME73-1114）	縄文		散布地	北上市和賀町煤孫地区	試掘調査
79				代官森Ⅱ遺跡（ME73-1059）隣接地		土器		北上市和賀町煤孫地区	試掘調査
80				可能性あり				北上市和賀町煤孫地区	試掘調査
81	平成29年9月12日	土木事業により発生する残土置場	県北広域振興局土木部	可能性あり				久慈市侍浜町向町第８地割内	試掘調査
82	平成29年9月19日	森林管理道渋梨一ノ渡線（一ノ渡工区）開設工事	沿岸広域振興局農林部	可能性あり				上閉伊郡大槌町小鎚地内	工事着手可
83	平成29年9月20日	一般国道107号梁川～口内地区地域連携道路整備事業	県南広域振興局土木部	可能性あり				奥州市江刺梁川字札押地内	工事着手可
84	平成29年9月22日	一級河川小鳥瀬川災害復旧助成事業	県南広域振興局土木部遠野土木センター	栃内鐘突堂（MF36-1143）遺跡隣接地				遠野市土淵町久保地内	工事着手可
85				可能性あり					工事着手可
86				林崎遺跡（MF36-0209）隣接地					工事着手可
87	平成29年9月26日、10月11日	河川等災害関連事業、河川災害復旧等関連緊急事業	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	可能性あり１				下閉伊郡岩泉町字安家字松林地内	試掘調査
88				松林Ⅲ遺跡（KF08-1394）	縄文		散布地		工事立会
89				可能性あり２					試掘調査
90				可能性あり３					試掘調査
91				可能性あり４					試掘調査
92				可能性あり５					試掘調査
93				松林Ⅰ遺跡（KF08-1366）	縄文		散布地		試掘調査
94				可能性あり６					試掘調査
95	平成29年9月28日	北日詰交差点改良事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	北日詰東ノ坊Ⅲ遺跡（LE77-0078）	古代～中世		散布地	紫波郡紫波町南日詰～北日詰地内	試掘調査
96				北日詰東ノ坊Ⅱ遺跡（LE77-0069）	古代		散布地		試掘調査
97				北日詰東ノ坊Ⅱ遺跡（LE77-0069）隣接地					試掘調査
98				北日詰東ノ坊Ⅱ遺跡（LE77-0069）	古代		散布地		慎重工事
99	平成29年10月4日	火山砂防事業スキー場南沢地区、外水沢地区	盛岡広域振興局土木部岩手土木センター	可能性あり				八幡平市平笠地内	工事着手可

第28表　分布調査一覧表（５）

No.	調査日	事業名	事業者	遺跡名	時代	遺構／遺物	種別	所　在　地	結果
100	平成29年10月5日	一般県道衣川水沢線奥州スマートインターチェンジ地区地域連携道路整備事業	県南広域振興局土木部	可能性あり１				奥州市水沢	工事着手可
101				可能性あり２					工事着手可
102				福原遺跡（NE26-0175）隣接地					工事着手可
103				可能性あり３					工事着手可
104				可能性あり４					工事着手可
105				可能性あり５					工事着手可
106				峠遺跡（NE35-0198）隣接地					工事着手可
107				可能性あり６					工事着手可
108				可能性あり７					工事着手可
109	平成29年10月10日	経営体育成基盤整備事業太田・下巾地区	県南広域振興局農政部北上農村整備センター	可能性あり				和賀郡西和賀町沢内字太田地内	工事着手可
110	平成29年10月25日	楢原山地区予防治山工事	県南広域振興局林務部	可能性あり				奥州市衣川楢原山地内	工事着手可
111	平成29年11月9日	一般国道４号水沢東バイパス事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	水の口遺跡（NE27-2053）	平安		散布地	奥州市水沢真城～水沢区姉体	試掘調査
112				畑田荒谷遺跡（NE37-0012）	平安		散布地		試掘調査
113				舘（中野館）跡（NE37-0010）	古代・平安・中世		集落跡		試掘調査
114				上林下遺跡（NE36-0320）	古代		散布地		慎重工事
115				中林下遺跡（NE36-0247）	平安		集落跡		慎重工事
116	平成29年11月22日	農村地域防災減災事業北照井堰地区	県南広域振興局農政部一関農村整備センター	可能性あり１				西磐井郡平泉町平泉字西風～高田前地内	工事着手可
117				鳥屋崎館跡（NE85-0327）	中・近世		城館跡		試掘調査
118				可能性あり２					工事着手可
119				片岡Ⅱ遺跡（NE86-0082）	縄文		散布地		慎重工事
120				片岡Ⅰ遺跡（NE86-0055）	縄文・中近世		散布地・城館跡		工事立会
121				高田遺跡（NE86-0069）	縄文		散布地		慎重工事
122				新城館跡（NE86-1006）	中・近世		城館跡		再協議
123				宿遺跡（NE86-1112）	平安		散布地		慎重工事
124	平成29年12月4日	岩館地区歩道整備事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所	可能性あり				二戸郡一戸町岩館字川又～岩館字子守地内	工事着手可
125	平成29年12月8日	農業競争力強化基盤整備事業金成地区	沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター農村整備室	可能性あり				陸前高田市横田町地内	工事着手可
126	平成29年12月13日	河川等災害関連事業、河川災害復旧等関連緊急事業（安家川）	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	可能性あり				下閉伊郡岩泉町字安家地内	工事着手可
127	平成30年1月19日	地域連携道路整備事業一般国道396号上宮守地区道路改築工事	県南広域振興局土木部遠野土木センター	可能性あり				遠野市宮守町下宮守17地割地内	工事着手可
128	平成30年1月22日～23日	林道整備事業森林管理道平野原線	県南広域振興局農政部遠野農林振興センター	可能性あり				遠野市上郷町平倉平野原地内	工事着手可

第29表　分布調査一覧表（６）

No.	調査日	事業名	事業者	遺跡名	時代	遺構／遺物	種別	所　在　地	結果
129	平成30年2月21日～22日	河川等災害復旧助成事業	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	野白遺跡（KF59-2247）	縄文		散布地	下閉伊郡岩泉町二升石地内	工事立会
130	平成30年2月21日～22日	河川等災害復旧事業	沿岸広域振興局土木部岩泉土木センター	穴沢館遺跡（KF58-0060）隣接地				下閉伊郡岩泉町袈綿地内	工事着手可
131				袈綿遺跡（KF58-1130）隣接地					工事着手可
132				袈綿Ⅱ遺跡（KF58-0192）隣接地					工事着手可
133				小田Ⅰ遺跡（KF58-2231）隣接地					工事着手可
134				一ツ苗代Ⅰ遺跡（KF58-2227）隣接地					工事着手可
135				田畑Ⅰ遺跡（KF58-2117）隣接地					工事着手可
136				田畑Ⅱ遺跡（KF58-2114）隣接地					工事着手可
137	平成30年3月19日	基幹河川改修事業	県南広域振興局土木部一関土木センター	可能性あり				一関市花泉町油島地内	工事着手可



第158図　分布調査採集遺物図

第30表　分布調査採集遺物観察表

表No.	遺跡名	掲載番号	出土地点	層位	種別	器種	部位	計測値（cm・g）				特　　徴
								口径	器高	底部径	重量	
								縦	横	厚さ		
71	可能性あり２	1	表採		縄文土器	深鉢	胴部	－	－	－	－	沈線
71	可能性あり２	2	表採		石器	掻器		4.8	2.6	1	16.88	横長剥片
79	代官森Ⅱ遺跡隣接地	3	表採		縄文土器	深鉢	口縁部	－	－	－	－	貼付文（つまみ状凹凸）
79	代官森Ⅱ遺跡隣接地	4	表採		縄文土器	深鉢	底部	－	－	［6.2］	－	網代

計測値の［　］は推定値、（　）が残存値を表す。

写真図版22　分布調査採集遺物

報 告 書 抄 録

ふ り が な	いわてけんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書 名	岩手県内遺跡発掘調査報告書
副 書 名	平成29年度
シ リ ー ズ 名	岩手県文化財調査報告書
シ リ ー ズ 番 号	第156集
編 集 者 名	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課
編 集 機 関	岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課
所 在 地	〒020－8570　岩手県盛岡市内丸10－１　TEL 019－629－6180
発 行 年 月 日	平成31年３月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 （㎡）	調査 原因
		市町村	遺跡番号					
花曽根上遺跡（はなぞねうえいせき）	北上市和賀町岩崎新田地内（きかたみしわがちょういわさきしんでんちない）	032069	ME74-0114	39度 16分 17秒	141度 2分 1秒	20171127～1215	700	記録保存 調査
上須々孫遺跡（かみすすまごいせき）	北上市和賀町煤孫地内（きかたみしわがちょうすすまごちない）	032069	ME63-1286	39度 17分 2秒	141度 0分 2秒	20171219～1221	29	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
花曽根上遺跡（はなぞねうえいせき）	集落跡	縄文、平安	縄文 陥し穴状遺構2 古代 竪穴建物跡5、カマド1、溝8、柱穴状土坑33 時期不詳 竪穴建物跡1、土坑2、性格不明遺構１	土師器、須恵器、鉄滓	
上須々孫遺跡（かみすすまごいせき）	集落跡	縄文	フラスコ状土坑2	縄文土器、石器	

岩手県文化財調査報告書　第156集
岩手県内遺跡発掘調査報告書
（平成29年度）

発行日　平成31年３月26日
発　行　岩手県教育委員会
〒020－8570　岩手県盛岡市内丸10－1
編　集　岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課
印　刷　小松総合印刷（株）
〒020－0827　岩手県盛岡市鉈屋町15－4

©岩手県教育委員会　2019

Iwate Board of Education 2019